

福祉健康科学部

シラバス

令和7年度

教養教育科目

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
		基礎ゼミ(理学療法コース) (Introduction to academic literacy) *大分を創る科目(Oita Development Course)							対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	2	1年	福祉健康科学部	前期	月1	日本語	英語	オムニバス								
担当教員	氏名 徳丸治(代表), 河上敬介, 朝井政治, 片岡晶志, 紀 瑞成, 阿南雅也, 菅田陽怜, 萬井太規, 安藤敬子, 大塚章太郎, 田中健一朗 E-mail ostokuma 内線 7972															
授業の概要	本講義では、特定のテーマに関して調査し、グループ内で討論することで皆の考えをまとめ、それを分かり易いメディアを介して発表する。また、発表においては意見交換を行うとともに、何がどこまで分かっており、どこからわかっていないかを明らかにする。この一連の過程を体験しながら大学における学習法を学ぶ。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 図書館や大学設備を利用して情報を収集し、その情報を分析・活用できる。																
目標2 取り組むべき課題を解決するための適切な手段を選択し、仲間と協調・協働して課題解決に取組むことができる。																
目標3 自分の考えを相手に分かり易く説明・提案するとともに、広い視野を持って建設的な議論ができる。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									3	3	3	1				
授業の内容																
1 授業ガイダンス: 受動的授業と能動的授業、班分け(河上)																
2 情報収集方法と情報管理(朝井)																
3 図書館の活用方法、(田中)																
4 授業の受け方・プレゼンテーションの仕方(片岡)																
5 論文の読み方とレポートの書き方(徳丸)																
6 トピックス1: 健康管理(安藤)																
7 トピックス1: 基礎医学の世界(紀)																
8 トピックス2: 運動器リハビリテーションへの招待(阿南)																
9 トピックス3: 神経リハビリテーションへの招待(菅田)																
10 トピックス4: 発達リハビリテーションへの招待(萬井)																
11 トピックス5: 予防理学療法への招待(大塚)																
12 グループ討議1: テーマの決定																
13 グループ討議2: テーマに沿った情報収集と整理																
14 グループ討議3: 最終発表準備																
15 学習成果発表会(全教員)																
ラーニング オブ オブ オブ	A:知識の定着・確認		情報収集、問題点の抽出、解決方法の選択、発表、議論を受講者全員又は小グループで実施する。					工 夫 の 他 の	映像(スライド)等を示してイメージを持たせる。 学生が一連の学習思考過程を理解できるよう、小グループにて適宜指導する。							
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		大学や学部のHPを用いて、次回の講義を担当する教員がこれからどのような専門科目の講義や実習を担当するのか、その科目でどのようなことを学ぶ事になるのか、予め調べておくこと(30h)。													
	事後学修		本学研究者総覧や医中誌、PubMedなどによって、講義を担当した教員の専門分野における研究活動について調べ、講義の内容との関連を確認すること(30h)。													
	想定時間合計		60													
教科書	指定しない。															
参考書	佐藤 望他『アカデミック・スキルズ(第3版)-大学生のための知的技法入門』(慶應義塾大学出版会, 2020) ISBN 978-4766426564 市古 みどり他『資料検索入門 レポート・論文を書くために』(慶應義塾大学出版会, 2014) ISBN 978-4766420517															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		グループ学習への積極的参加	50%									
	発表内容	50%										
注意事項	受講教室が図書館、情報基盤センターの場合がある。1回目の授業時に指示する。											
備考	なし											
リンク	理学療法コースHP（教員の専門分野等について、予め知っておくこと） URL https://www.fwhs.oita-u.ac.jp/course/rigaku/											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士，医師，看護師，保健師											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
		基礎ゼミ(社会福祉実践コース) (Basic seminar) *大分を創る科目(Oita Development Course)							対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
必修	2	1年	福祉健康科学部	前期	月1	日本語			複数(共同)、オムニバス							
担当教員	氏名 社会福祉実践コース教員 八木直樹(代表) E-mail n-yagi@oita-u.ac.jp 内線 7976															
授業の概要	高校生活と比べ、大学生活はかなり変化する。新入生が新しく始まる大学生活や、大学での自由度の高い学習方法に無理なく適応できるよう、学習に必要な基礎的な情報を獲得することが本授業の目的である。具体的には、履修方法、取得できる資格、レポートの書き方等について学習する。また、これから4年間を通して学んでいく、社会福祉とは何か、を体系的に理解してほしい。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	講義履修の方法と学習の仕方を身につけ実施できる。															
目標2	社会福祉実践コースでの自分の4年間の見通しを述べるができる。															
目標3	社会福祉に関する話題に興味・関心を持ち、社会福祉を体系的に説明できる。															
目標4	適切な文献を選び情報を収集し、基本的な文章表現力を身に付け、課題に対応したレポートを書くことができる。															
目標5	グループディスカッションに際し、自分の考えを他者に分かりやすく説明できる。															
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							2	2	2					4		
授業の内容																
1	履修の手引き															
2	学生生活全般の指導、学内案内															
3	社会福祉士と履修カリキュラム															
4	精神保健福祉士と履修カリキュラム															
5	こども家庭ソーシャルワーカー															
6	レポートの書き方															
7	文献の探し方															
8	実習とボランティア															
9	就職・進路															
10	社会福祉とソーシャルワーク															
11	社会福祉制度															
12	グループディスカッション1: テーマの選定と討議															
13	グループディスカッション2: 発表資料の作成															
14	グループディスカッション3: 発表会 第一グループ															
15	グループディスカッション4: 発表会 第二グループ															
ラーニング チェック ポイント グループ	A:知識の定着・確認	グループディスカッションとプレゼンテーション				工 夫 そ の 他 の	なし。									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	新聞やニュース番組等を通じて、政治・経済・社会情勢・政策の動向と福祉の諸問題との関係について、日頃から情報を収集する(5h)。 事前配布資料を用いて予習する(5h)。 授業で説明する資格について、インターネットを用いて事前に調べる(5h)。														
	事後学修	授業中に配布された資料、紹介された文献などを用いて復習する(20h)。 授業中に与えられた課題について調べる(10h)。														
	想定時間合計	45														
教科書	教科書は指定しない。適宜資料を配布する。															
参考書	川村匡由・川村岳人『改訂 福祉系学生のためのレポートと卒論の書き方』中央法規出版、2005年、ISBN9784805825723															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		レポート	80%									
	授業中に指示された課題	20%										
注意事項	やむを得ず欠席する場合は、当日の担当教員に連絡すること。											
備考	なし。											
リンク												
	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
	基礎ゼミ(心理学コース) (Basic seminar) *大分を創る科目(Oita Development Course)						対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
必修	2	1年	福祉健康科学部	前期	月1	日本語		オムニバス						
担当教員	氏名 河野 伸子/池永 恵美 E-mail n-kawano@oita-u.ac.jp/m-ikenaga@oita-u.ac.jp 内線 7612/6107													
授業の概要	新入生が、新しく始まる大学生活や、大学での自由度の高い学習方法に無理なく適応できるよう、物理的・精神的にサポートすることを目的とする。またそのために、同級生間の結びつきを深め、お互いの今後の協力的な関係作り役に立つよう、意識的なコミュニケーション力改善の機会やグループワークを積極的に取り入れる。													
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	
目標1	大学での学習に必要な最低限の実用的知識を説明できる。													
目標2	意見交換を通じて、多様な考え方に気づき、他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を相手に分かりやすく説明・提案できる。													
目標3	グループワークを通して、協調・協働して計画を作成し、問題解決を図ることができる。													
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)							5	5						
授業の内容														
1	大学生活について													
2	エンカウターのワーク1(心理劇1)													
3	エンカウターのワーク2(心理劇2)													
4	エンカウターのワーク3(心理劇3)													
5	大学構内の施設利用方法(保健管理センター、びあROOMなど)													
6	大学図書館の利用方法													
7	アーリーエクスポージャーの振り返り													
8	健康管理													
9	エンカウターのワーク4(価値観を知る)													
10	エンカウターのワーク5(コミュニケーション)													
11	エンカウターのワーク6(リーダーシップ)													
12	発想法のワーク1(KJ法1:練習)													
13	発想法のワーク2(KJ法2:主題決定とアイデア集め)													
14	発想法のワーク3(KJ法3:アイデアのグルーピング化と構造化)													
15	発想法のワーク4(KJ法4:作図と発表会)													
ラック ニ テ イ グ ブ	A:知識の定着・確認	グループワークを取り入れ、体験的理解を深める。					工 夫 そ の 他 の							
	B:意見の表現・交換	KJ法による作図をし、学習成果物を作成する。												
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	今回のテーマとなる事柄について、インターネット等を通じて調べ学習をしておく(15h)												
	事後学修	KJ法の課題(30h)												
	想定時間合計	45												
教科書	適宜、資料を配布する。													
参考書	適宜、資料を配布する。													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		授業（特にグループワーク）への参加状況	60%									
	毎回のレポート	40%										
注意事項	出席が全講義回数の3分の2未満であれば単位を認めない。											
備考	グループで作成したKJ法の図は，オープンキャンパスの時に，資料として展示する。											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務経験	河野 伸子（公認心理師，臨床心理士），池永 恵美（公認心理師，臨床心理士）											
実務経験を いかした教 育内容	臨床経験を生かしたエンカウンターワークを取り入れる。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
		医療倫理 (Medical Ethics)						対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択(理学療法コースは必修)	2	1年	福祉健康科学部	前期	他	日本語		単独							
担当教員	氏名 平野 互(非常勤講師) E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120														
授業の概要	人々に適切な医療・福祉サービスを提供して自立を支え、尊厳を守るためには、専門職としての倫理的な態度と判断力を身につける必要がある。そのために、まず医療倫理・生命倫理の基本原則と倫理的意思決定の基本を学ぶ。さらに、社会や臨床実践の場において、対象者の権利を保護・促進し、倫理的な判断を的確に行うことができるよう、事例演習を通じて、医療・福祉における倫理的課題の分析と解決の方法を学ぶ。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	Bioethics(生命倫理)と医療倫理に関する基本原則が説明できる。														
目標2	リハビリテーション専門職者としての責任と倫理的態度について説明できる。														
目標3	医療福祉における患者・利用者の権利を説明できる。														
目標4	医療福祉領域で直面する種々の倫理的課題を発見できる。														
目標5	倫理的課題の解決のための方法を応用できる。														
目標6	研究倫理の基本的なルールを述べることができる。														
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							3		2	5					
授業の内容															
1	. 医療倫理の基本概念 1. Bioethics ; 生命倫理の展開と課題														
2	. 医療倫理の基本概念 2. 倫理原則と「臨床倫理」の方法														
3	. 医療倫理の基本概念 3. 研究の倫理														
4	. 医療職の責任と義務 1. 医療職の「責任」と「ケアの倫理」														
5	. 医療職の責任と義務 2. 医療事故発生のメカニズム														
6	. 医療職の責任と義務 3. 「安全配慮義務」と事故対応責任														
7	. 患者の権利 1. 患者の「権利」とは何か														
8	. 患者の権利 2. 自己決定権 パターナリズムとインフォームド・コンセント														
9	. 患者の権利 3. プライバシー権と個人情報保護法														
10	. 出生と障がいに関わる倫理と人権 1. 生命の誕生、生殖補助医療にかかわる倫理														
11	. 出生と障がいに関わる倫理と人権 2. 「出生前診断」とその倫理的課題														
12	. 出生と障がいに関わる倫理と人権 3. 障がいのある人の尊厳と人権														
13	. End of life に関わる倫理と人権 1. 終末期医療と「尊厳死」														
14	. End of life に関わる倫理と人権 2. 自己決定と「安楽死」														
15	. まとめ 倫理と人権														
ラ イ ク ニ テ ィ ン グ ブ	A:知識の定着・確認	事例演習、小レポート													工 夫 の 他 の
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修	社会で起きている人権や倫理に関する問題について、関心を持って調べる。(3h)													
	事後学修	小レポートでのポイント整理と復習(2h) 最終レポートのための課題分析・資料収集と文書作成(10h)													
	想定時間合計	15													
教科書	教科書は指定しない。 講義時に資料を配布し、必要に応じて参考資料を提示する。														
参考書	参考書は指定しない。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		小レポート	30%									
	最終レポート	70%										
注意事項												
備考	集中講義のため、時間外学修時間は上記に設定する。											
リンク												
	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
AH16Z001	英語 (English)					外国語科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態				
必修	1	1	福祉健康科学部	前期	金4	日本語	英語	単独				
担当教員	氏名 O'CONNOR Tomás E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120・6125											
授業の概要	Students will improve their ability to read, comprehend, and discuss college-level and academic materials appropriate to their areas of specialization, and expand their vocabulary. Students will be expected to take charge of teaching elements of the content. To the extent possible, students will be encouraged and given the opportunity to how class time can best be used to achieve their own individual educational goals, and attain targets, independent of the purely linguistic.											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1	Understanding content appropriate to students' chosen fields											
目標2	Improve college-level reading ability											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)						5	5					
授業の内容												
1	Lesson 1 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
2	Lesson 2 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
3	Lesson 3 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
4	Lesson 4 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
5	Lesson 5 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
6	Lesson 6 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
7	Lesson 7 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
8	Lesson 8 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
9	Lesson 9 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
10	Lesson 10 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
11	Lesson 11 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
12	Lesson 12 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
13	Lesson 13 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
14	Lesson 14 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
15	Lesson 15 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	In addition to all the above, students will be given the option of project work in a non-determinate actualization.					工 夫 そ の 他 の	Students motivated to undertake self-directed study will be given the opportunity to do so.				
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	Students must practice reading, researching, and learning vocabulary in preparation for class. 12 hours										
	事後学修	Students are expected to regularly review new concepts and terminology. 12 hours										
	想定時間合計	24										
教科書	Live Well! Topics about Health for University Students, Adam Murray (Kinseido, 2025) ISBN:9784764742260 ¥2300											
参考書	なし											

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
	Preparation, Homework, Class Contribution and Participation	30%											
	Mid-term Assessment	35%											
	Final Assessment	35%											
注意事項													
備考	なし												
リンク													
	URL												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
AH16Z001	英語 (English)					外国語科目	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	1	1	福祉健康科学部	前期	火3	日本語	英語	単独					
担当教員	氏名 O'CONNOR Tomás E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120・6125												
授業の概要	Students will improve their ability to read, comprehend, and discuss college-level and academic materials appropriate to their areas of specialization, and expand their vocabulary. Students will be expected to take charge of teaching elements of the content. To the extent possible, students will be encouraged and given the opportunity to how class time can best be used to achieve their own individual educational goals, and attain targets, independent of the purely linguistic.												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	Understanding content appropriate to students' chosen fields												
目標2	Improve college-level reading ability												
目標3													
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							5	5					
授業の内容													
1	Lesson 1 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics												
2	Lesson 2 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics												
3	Lesson 3 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics												
4	Lesson 4 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics												
5	Lesson 5 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics												
6	Lesson 6 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics												
7	Lesson 7 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics												
8	Lesson 8 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics												
9	Lesson 9 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics												
10	Lesson 10 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics												
11	Lesson 11 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics												
12	Lesson 12 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics												
13	Lesson 13 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics												
14	Lesson 14 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics												
15	Lesson 15 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics												
ラ ア ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認		In addition to all the above, students will be given the option of project work in a non-determinate actualization.				工 夫 そ の 他 の	Students motivated to undertake self-directed study will be given the opportunity to do so.					
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	Students must practice reading, researching, and learning vocabulary in preparation for class. 12 hours											
	事後学修	Students are expected to regularly review new concepts and terminology. 12 hours											
	想定時間合計	24											
教科書	Live Well! Topics about Health for University Students, Adam Murray (Kinseido, 2025) ISBN:9784764742260 ¥2300												
参考書	なし												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
	Preparation, Homework, Class Contribution and Participation	30%											
	Mid-term Assessment	35%											
	Final Assessment	35%											
注意事項													
備考	なし												
リンク													
	URL												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
AH16Z002	英語 (English)					外国語科目						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態				
必修	1	1	福祉健康科学部	後期	金4	英語	日本語	単独				
担当教員	氏名 COLLINS, John B. / コリンズ ジョン B. E-mail john.buchanan.collins@gmail.com 内線											
授業の概要	The main purpose of this course is to begin developing students' academic English proficiency. As such, the vocabulary in the course focuses on the Academic Word List (AWL), which, over 10 units, is studied in the context of a series of fundamental academic listening, speaking, and reading skills.											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1	Students can understand simple spoken and written academic English.											
目標2	Students can work collaboratively in groups to identify, discuss, and solve problems.											
目標3	Students can apply English speaking, listening, writing, and note-taking skills.											
目標4	Students can expand their English language knowledge through self-assessment and study.											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)						2	6	1			1	
授業の内容												
1	Week 1: Notetaking											
2	Week 2: Participating in a Group Discussion											
3	Week 3: Categorizing Names and Dates											
4	Week 4: Asking for and Giving Examples											
5	Week 5: Understanding Ordinal Numbers and Percentages											
6	Week 6: Using Statistics in a Short Speech											
7	Week 7: Midterm Review Activity											
8	Week 8: Creating a Timeline											
9	Week 9: Sequence Words and Phrases											
10	Week 10: Annotating Lecture Notes											
11	Week 11: Asking for Clarification											
12	Week 12: Recognizing Language that Signals a Definition											
13	Week 13: Organizing a Short Presentation											
14	Week 14: Listening for Specific Information											
15	Week 15: Giving Advice and Making Recommendations											
ラーニング	A:知識の定着・確認	Students will gain a new perspective on the English language, and what constitutes academic English, in their engagement with academic English through group discussion and the acquisition and application of listening, speaking, and reading skills.					工夫	Students will preview each unit before class. In class, they will study the vocabulary and skills in the textbook and receive feedback on practice example				
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	Students will preview each unit before attending class (0.5h).										
	事後学修	Students will review material covered in class as well as learning new vocabulary and skills in the online homework on Moodle (1h)										
	想定時間合計	23										
教科書	Textbook: Inside Listening and Speaking 1, Kristin Sherman (著), OXFORD出版社, ISBN 9780194719131											
参考書	Additional materials will be provided on the class Moodle site. Students must check it regularly											

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	Midterm Review Activity	30%										
	Final Review Activity	30%										
	Homework	40%										
注意事項	It is the students' responsibility to regularly check Moodle for schedule, homework, and assessment information.											
備考												
リンク												
	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
AH16Z002	英語 (English)					外国語科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態				
必修	1	1	福祉健康科学部	後期	金5	日本語	英語	単独				
担当教員	氏名 O'CONNOR Tomás E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120・6125											
授業の概要	By reading articles, excerpts, and texts from a variety of fields and in a variety of styles, students will further develop their reading skills, and work towards the goal of being able to read in a variety of genres and styles. Students will also practice sharing the ideas they have read, and leading discussions based on reading passages. Students will be expected to take charge of teaching elements of the content. Participants will be encouraged and given the opportunity to how class time can best be used to achieve their own individual educational goals, and attain targets, independent of the purely											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1	Enhance the ability to read comfortably in a variety of genres at college level.											
目標2	Practice explaining reading content.											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)						3	7					
授業の内容												
1	Unit 1 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
2	Unit 2 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
3	Unit 3 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
4	Unit 4 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
5	Unit 5 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
6	Unit 6 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
7	Unit 7 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
8	Unit 8 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
9	Unit 9 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
10	Unit 10 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
11	Unit 11 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
12	Unit 12 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
13	Unit 13 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
14	Unit 14 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
15	Unit 15 Textbook work/Group readings and discussions/supplementary topics											
ラ ア ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	In addition to all the above, students will be given the option of opting to engage in project work in a non-determinate actualization.					工 夫 そ の 他 の	Students motivated to undertake self-directed study will be given the opportunity to do so.				
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	Students must prepare for discussions, presentations, and textbook work outside of class, 12 hours										
	事後学修	Students must regularly review concepts, patterns, and vocabulary, 12 hours										
	想定時間合計	24										
教科書	Speaking of Intercultural Communication, Peter Vincent (NAN ' UN-DO, 2022) ISBN:9784523178408 ¥ 2200											
参考書	なし											

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
	Preparation, Homework, Class Contribution and Participation	30%											
	Mid-term Assessment	35%											
	Final Assessment	35%											
注意事項	なし												
備考													
リンク													
	URL												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
AH16Z002	英語 (English)					外国語科目							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	1	1	福祉健康科学部	後期	水4	英語	日本語	単独					
担当教員	氏名 Shirley, Gerald E-mail shirley@oita-nhs.ac.jp 内線												
授業の概要	The aims of this class are for students to improve their communication skills in English. A wide variety of relevant and meaningful speaking and listening activities will be used in class to maximize student interaction. This is a learner-centered class rather than a teacher-centered class, so students should be aware that they will be expected to participate actively in every class.												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	Improve listening and pronunciation skills.												
目標2	Further develop fluency as speakers.												
目標3													
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							10						
授業の内容													
1	Orientation												
2	Communication Topic 1												
3	Communication Topic 2												
4	Communication Topic 3												
5	Communication Topic 4												
6	Communication Topic 5												
7	Communication Topic 6												
8	Communication Topic 7												
9	Communication Topic 8												
10	Communication Topic 9												
11	Communication Topic 10												
12	Communication Topic 11												
13	Communication Topic 12												
14	Communication Topic 13												
15	Review												
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	In addition to all the above, students will be given the option of engaging in group project work in accordance with their individual learning needs.	工 夫 そ の 他 の	Students motivated to undertake self-directed study will be given the opportunity to do so.									
B:意見の表現・交換													
C:応用志向													
D:知識の活用・創造													
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修	Students must prepare for each week's speaking and listening exercises, 1 hour											
	事後学修	Students must regularly review concepts, patterns, and vocabulary, 1 hour											
	想定時間合計	23											
教科書	To be provided												
参考書	なし												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	Preparation, Class participation	50%										
	Quiz 1	50%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
AH16Z003	英語 (English)					外国語科目	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	1	2	福祉健康科学部	前期	月1	英語	日本語	単独					
担当教員	氏名 COLLINS, John B. / コリンズ ジョン B. E-mail john.buchanan.collins@gmail.com 内線												
授業の概要	Students will consolidate their limited but core range of foundational structures and language functions through a four skills approach that focuses on developing students' ability to communicate in English. Each week of study will follow a similar format vocabulary, language practice, listening, reading, writing, and speaking skills carefully staged to move from controlled to less controlled activities. Personalization activities encourage students to bring their own ideas and opinions to every skill.												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	Students can understand spoken and written general English.												
目標2	Students can apply English speaking, listening, and reading skills.												
目標3	Students can expand their English language knowledge through self-assessment and study.												
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							3	6				1	
授業の内容													
1	Week 1: Agreeing/Disagreeing with Others, Describing Activities and Plans												
2	Week 2: Understanding and Giving Opinions, Using ing and ed adjectives												
3	Week 2: Talking about personal experience using the Present Perfect												
4	Week 4: Review Activity 1												
5	Week 5: Describing Places, Using Superlative Adjectives												
6	Week 6: Describing Special Cultural Events, Using Clauses with before, after, and when												
7	Week 7: Making Suggestions and Talking about Obligations, Using should and have to												
8	Week 8: Review Activity 2												
9	Week 9: Making Complaints, Using too, enough, many, much												
10	Week 10: Describing Preferences, Using Relative Clauses for Description												
11	Week 11: Narrating Past Events, Using the Past Continuous												
12	Week 12: Review Activity 3												
13	Week 13: Talking about Past Habits, Using used to												
14	Week 14: Making Speculations, Using the zero conditional, first conditional, and if clauses with may or might												
15	Week 15: Talking about Future Plans, Using Modals for Possibility, Speculation and Deduction												
ラーニング	A:知識の定着・確認	Material is carefully staged to move from controlled to less controlled activities. Furthermore, personalization activities encourage students to bring their own ideas and opinions to every skill.				工夫	Students will preview each unit before attending class, study textbook skills, and receive feedback on practice examples. HW consists of applying the knowledge from class to more practice on Moodle.						
	B:意見の表現・交換												
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	Students will preview each unit before attending class (0.5h).											
	事後学修	Students will apply the skills they have learned to further practice examples on Moodle (1h).											
	想定時間合計	23											
教科書	Textbook: Smart Choice 2, OXFORD出版社, ISBN: 9780194061148												
参考書	Additional materials will be provided on the class Moodle site. Students must check it regularly.												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	Review Activity 1	15%										
	Review Activity 2	15%										
	Review Activity 3	15%										
	Review Activity 4	15%										
	Homework	40%										
<p>注意事項 It is the students' responsibility to regularly check Moodle for schedule, homework, and assessment information.</p>												
備考												
リンク												
URL												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式			
AH16Z003		英語 (English)					外国語科目	対面			
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態			
必修	1	2	福祉健康科学部	前期	月2	英語	日本語	単独			
担当教員	氏名 COLLINS, John B. / コリンズ ジョン B. E-mail john.buchanan.collins@gmail.com 内線										
授業の概要	Students will consolidate their limited but core range of foundational structures and language functions through a four skills approach that focuses on developing students' ability to communicate in English. Each week of study will follow a similar format vocabulary, language practice, listening, reading, writing, and speaking skills carefully staged to move from controlled to less controlled activities. Personalization activities encourage students to bring their own ideas and opinions to every skill.										
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7				
目標1	Students can understand spoken and written general English.										
目標2	Students can apply English speaking, listening, and reading skills.										
目標3	Students can expand their English language knowledge through self-assessment and study.										
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											
各DPへの関連度(計10)						3	6				1
授業の内容											
1	Week 1: Agreeing/Disagreeing with Others, Describing Activities and Plans										
2	Week 2: Understanding and Giving Opinions, Using ing and ed adjectives										
3	Week 2: Talking about personal experience using the Present Perfect										
4	Week 4: Review Activity 1										
5	Week 5: Describing Places, Using Superlative Adjectives										
6	Week 6: Describing Special Cultural Events, Using Clauses with before, after, and when										
7	Week 7: Making Suggestions and Talking about Obligations, Using should and have to										
8	Week 8: Review Activity 2										
9	Week 9: Making Complaints, Using too, enough, many, much										
10	Week 10: Describing Preferences, Using Relative Clauses for Description										
11	Week 11: Narrating Past Events, Using the Past Continuous										
12	Week 12: Review Activity 3										
13	Week 13: Talking about Past Habits, Using used to										
14	Week 14: Making Speculations, Using the zero conditional, first conditional, and if clauses with may or might										
15	Week 15: Talking about Future Plans, Using Modals for Possibility, Speculation and Deduction										
ラーニング	A:知識の定着・確認	Material is carefully staged to move from controlled to less controlled activities. Furthermore, personalization activities encourage students to bring their own ideas and opinions to every skill.				工夫	Students will preview each unit before attending class, study textbook skills, and receive feedback on practice examples. HW consists of applying the knowledge from class to more practice on Moodle.				
	B:意見の表現・交換										
	C:応用志向										
	D:知識の活用・創造										
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	Students will preview each unit before attending class (0.5h).									
	事後学修	Students will apply the skills they have learned to further practice examples on Moodle (1h).									
	想定時間合計	23									
教科書	Textbook: Smart Choice 2, OXFORD出版社, ISBN: 9780194061148										
参考書	Additional materials will be provided on the class Moodle site. Students must check it regularly.										

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	Review Activity 1	15%										
	Review Activity 2	15%										
	Review Activity 3	15%										
	Review Activity 4	15%										
	Homework	40%										
注意事項 It is the students' responsibility to regularly check Moodle for schedule, homework, and assessment information.												
備考												
リンク												
	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
AH16Z004	英語 (English)					外国語科目							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	1	2	福祉健康科学部	後期	金3	英語	日本語	単独					
担当教員	氏名 COLLINS, John B. / コリンズ ジョン B E-mail john.buchanan.collins@gmail.com 内線												
授業の概要	The main purpose of this course is to develop students' academic reading and writing proficiency. As such, the vocabulary in the course focuses on the Academic Word List (AWL), which, over 10 units, is studied in the context of a series of fundamental academic reading and writing skills.												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	
目標1	Students can understand a range of simple written academic English texts.												
目標2	Students can work collaboratively in groups to identify, discuss, and solve problems.												
目標3	Students can apply English reading and writing skills.												
目標4	Students can expand their English language knowledge through self-assessment and study.												
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						2	6	1			1		
授業の内容													
1	Week 1: Descriptive Language												
2	Week 2: Basic Paragraph Structure												
3	Week 3: Problem-Solution Organization												
4	Week 4: Asking for and Giving Advice												
5	Week 5: Main Ideas and Details												
6	Week 6: Summarizing												
7	Week 7: Midterm Review Activity												
8	Week 8: Analyzing Test Questions and Responses												
9	Week 9: Selecting Relevant Information												
10	Week 10: Comparisons												
11	Week 11: Sentence Variety												
12	Week 12: Analyzing Audience												
13	Week 13: Organizing Information												
14	Week 14: Describing a Process												
15	Week 15: Academic Language												
ラーニング オブ グ	A:知識の定着・確認	Students will gain a new perspective on the English language, and what constitutes academic English, in their engagement with academic English through group discussion and the acquisition and application of listening, speaking, and reading skills.					工 夫 そ の 他 の	Students will preview units before class. In class, they will study textbook vocabulary and skills, and practice with examples. Homework and self-study of similar material will reinforce the vocabulary studied in class.					
	B:意見の表現・交換												
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	Students will preview each unit before attending class (0.5h).											
	事後学修	Students will review material covered in class as well as learning new vocabulary and skills in the online homework on Moodle (1h).											
	想定時間合計	23											
教科書	Textbook: Inside Writing, Arline Burgmeier Walton Burns, Kate Adams (著), OXFORD出版社, ISBN 9780194601160												
参考書	Additional materials will be provided on the class Moodle site. Students must check it regularly.												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	Midterm Review Activity	25%										
	Final Review Activity	25%										
	Homework	40%										
	Participation	10%										
注意事項	It is the students' responsibility to regularly check Moodle for schedule, homework, and assessment information.											
備考												
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式
AH16Z004		英語 (English)					外国語科目	対面
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
必修	1	2	福祉健康科学部	後期	金4	日本語	英語	単独
担当教員	氏名 O'CONNOR Tomás E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120・6125							
授業の概要	Professional communication requires that students be proficient in listening, pronunciation, and understand cultural background. Students will expand their communication abilities by engaging in a combination of activities to enhance integration of language and communication skills. These activities will include listening, speaking and discussion activities, and study of the relationship between language and culture.							
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7
目標1	Improve listening and pronunciation skills							
目標2	Further develop fluency as speakers							
目標3	Deepen understanding of the cultural aspects of language							
目標4								
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
各DPへの関連度(計10)							3	7
授業の内容								
1	Course Overview							
2	Listening and Shadowing							
3	Chapter 1							
4	Chapter 2							
5	Chapter 3							
6	Chapter 4							
7	Chapter 5							
8	Chapter 6							
9	Chapter 7							
10	Chapter 8							
11	Chapter 9							
12	Chapter 10							
13	Chapter 11							
14	Chapter 12							
15	Review							
ラーニング	A:知識の定着・確認	In addition to all the above, students will be given the opportunity to opt for project work in a unique and non-determinate actualization in accordance with and with due consideration of individual needs.				工夫	Students motivated to undertake self-directed study will be given the opportunity to do so.	
	B:意見の表現・交換					その他		
	C:応用志向							
	D:知識の活用・創造							
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	Students must memorize new vocabulary and prepare for each week's listening exercises. Students must also carry out independent listening activities and prepare to discuss them in class. (12 hours)						
	事後学修	Review vocabulary and concepts. Integrate the lesson's new vocabulary with learned vocabulary. Review story concepts and events. (12 hours)						
	想定時間合計	24						
教科書	World Wide English on DVD Volume 2, Akira Morita (Seibido, 2016) ISBN:9784791947928 ¥2750							
参考書	なし							

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
	Preparation, Homework, Class Contribution and Participation	30%											
	Mid-term Assessment	35%											
	Final Assessment	35%											
注意事項													
備考	なし												
リンク													
	URL												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
AH16Z004	英語 (English)					外国語科目							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	1	1	福祉健康科学部	後期	水3	英語	日本語	単独					
担当教員	氏名 Shirley, Gerald E-mail shirley@oita-nhs.ac.jp 内線												
授業の概要	The aims of this class are for students to improve their communication skills in English. A wide variety of relevant and meaningful speaking and listening activities will be used in class to maximize student interaction. This is a learner-centered class rather than a teacher-centered class, so students should be aware that they will be expected to participate actively in every class.												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	Improve listening and pronunciation skills.												
目標2	Further develop fluency as speakers.												
目標3													
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)								10					
授業の内容													
1	Orientation												
2	Textbook Work												
3	Textbook Work												
4	Textbook Work												
5	Textbook Work												
6	Textbook Work												
7	Textbook Work												
8	Textbook Work												
9	Textbook Work												
10	Textbook Work												
11	Textbook Work												
12	Textbook Work												
13	Textbook Work												
14	Textbook Work												
15	Review												
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	In addition to all the above, students will be given the option of engaging in group project work in accordance with their individual learning needs.	工 夫 そ の 他 の	Students motivated to undertake self-directed study will be given the opportunity to do so.									
B:意見の表現・交換													
C:応用志向													
D:知識の活用・創造													
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	Students must prepare for each week's speaking and listening exercises, 1 hour											
	事後学修	Students must regularly review concepts, patterns, and vocabulary, 1 hour											
	想定時間合計	23											
教科書	New Time to Communicate Eric Bray,NAN'UN-DO,(9th edition) March 1, 2022 ISBN: 9784523177913												
参考書	なし												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	Preparation and Class Participation	50%										
	Quiz 1	50%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											

共通基礎科目

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H010A102		福祉健康科学概論 (Principles of Welfare and Health Sciences)							対面(含 オンデマンド型)						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	1	1	福祉健康科学部	前期	他	日本語			単独						
担当教員	氏名 中山慎吾														
	E-mail nakayama-shingo@oita-u.ac.jp 内線 7518														
授業の概要	「福祉健康科学」は、本学部設置時に新しく創設した学問であり、「医療と心理、福祉を融合」した新しい学問領域である。本科目では、地域包括ケアシステムを実践する「領域横断型」の専門職のリーダーとなりうる「生活支援の専門職者」を養成するための最初のステップとして、要支援者の多彩な課題に対応できる社会福祉分野、リハビリテーション分野及び心理分野の専門性を担保したうえで、「生活を包括的に支援する視点」、「自立した生活」の再構築に向けた支援者のあり方と必要性について解説する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 「体の健康」「心の健康」「社会とのつながり」について説明できる。															
目標2 現在の地域、社会のもつ問題点を説明できる。															
目標3 「健康で自立した生活」を送るために必要な支援を説明できる。															
目標4 それぞれの専門職の立場で「福祉健康科学」の意義、実践するための方法を説明できる。															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
							各DPへの関連度(計10)		7	3					
授業の内容															
1	「福祉健康科学」とは? 「健康」とは?														
2	福祉健康科学に基づく支援 リハビリテーション専門職														
3	福祉健康科学に基づく支援 心理専門職														
4	福祉健康科学に基づく支援 福祉専門職														
5	「体の健康」と専門職者としての支援														
6	「心の健康」と専門職者としての支援														
7	「社会とのつながり」と専門職者としての支援														
8	まとめ 生活を包括的に支える視点 地域・社会の課題														
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業時間中に授業内容を振り返り、まとめと感想を記録してもらう予定です。				工 夫 そ の 他 の									
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	授業に関連する新聞記事等を参照し、参考書等をもとに予習する(5時間)。													
	事後学修	参考書や配付資料等をもとに復習する(8時間)。レポート等の課題に取り組む(10時間)。													
	想定時間合計	23													
教科書	教科書は指定しません。授業中に配布するプリント等を使用します。														
参考書	授業中に随時紹介します。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	授業中の課題（振り返り記録等）	60%										
	レポート等の課題	40%										
	授業を3分の1以上欠席した場合は、最終評価を行わない予定です。											
注意事項	1 限目はオンデマンドで行う可能性があります。掲示やMoodleの本科目の欄等で確認してください。											
備考	【地域創生教育科目】											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H010A201		地域包括ケア概論 (Principles of the Community-based Integrated Care)							対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
必修	1	1	福祉健康科学部	前期	火1	日本語			単独							
担当教員	氏名 中山 慎吾 E-mail nakayama-shingo@oita-u.ac.jp 内線 7518															
授業の概要	住み慣れた地域での自立生活を包括的に支援する「地域包括ケアシステム」の枠組みと専門職としての実践のあり方を理解することを目的とする。地域包括ケアの概念や関連する制度、地域包括ケアにおける多職種連携、地域包括ケアの実際について学修する。医療と福祉の連携に着目しつつ、地域包括ケアにおいてそれぞれの専門性をどう発揮するかを考える授業を行う。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	地域での自立した生活を包括的に支援する「地域包括ケア」の概念や関連する制度について説明できる。															
目標2	地域包括ケアにおける多職種連携と住民参加のあり方について説明できる。															
目標3	地域包括ケアでの医療専門職、心理専門職、社会福祉専門職それぞれの役割を説明できる。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							5	3	2							
授業の内容																
1	地域包括ケアの概念															
2	地域包括ケアと介護サービス(地域包括支援センター含む)															
3	地域包括ケアと介護サービス(認知症ケア含む)															
4	地域包括ケアと障害者自立支援(難病患者支援含む)															
5	地域包括ケアと在宅医療・地域保健(医療圏・地域包括ケアシステムを含む)															
6	地域包括ケアと医療(がん患者支援含む)															
7	地域包括ケアと地域共生社会															
8	地域包括ケアと社会福祉協議会, 住民参加															
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
ラーニング エッセンス グループ	A:知識の定着・確認	毎回の授業の最後の数分間において、授業内容を振り返りまとめと感想を記録。グループでの意見交換				工 夫 そ の 他 の	ビデオの活用。									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	参考書や配付資料等をもとに予習する(5時間)。														
	事後学修	参考書や配付資料等をもとに復習する(5時間)。レポート等の課題に取り組む(8時間)。														
	想定時間合計	23														
教科書	教科書は指定しません。授業中に配布するプリント等を使用します。															
参考書	隅田好美、藤井博志、黒田研二(編著)『よくわかる地域包括ケア』ミネルヴァ書房、2018年、ISBN9784623082933。 東京大学高齢社会総合研究機構(編)『地域包括ケアのすすめ』東京大学出版会、2014年、ISBN9784130604109。															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		授業中の課題（振り返り記録等）	50%									
	レポート等の課題	50%										
	合計得点60点以上を単位取得の条件とします。出席が回数が3分の2以上でない場合は、成績評価の対象としません。											
注意事項												
備考	授業の内容等は進行状況に応じて若干の変更がありえます。											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H010A107		リハビリテーション概論 (Principle of Rehabilitation)							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	1	1年	福祉健康科学部	前期	金3	日本語			単独						
担当教員	氏名 朝井政治														
	E-mail ma-asai@oita-u.ac.jp 内線 7551														
授業の概要	「リハビリテーション」の概念、関係職種、対象者、内容等について解説する。 これらをふまえた上で、各職種の専門性と他の職種との連携、現在の課題と対策等について、講義、ならびに討議を行う。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 「リハビリテーション」の定義、歴史について説明できる															
目標2 関連職種の役割を説明できる															
目標3 リハビリテーション分野の連携について説明できる															
目標4 現在の課題と対策について、自分の考えを述べる事ができる															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									3	2	2	1	2		
授業の内容															
1 リハビリテーションの理念と目的、各種制度															
2 リハビリテーションにかかわる専門職の役割と連携															
3 リスクマネジメント・情報管理															
4 福祉用具について															
5 情報収集とアセスメント															
6 ICFについて：定義、評価方法の解説、演習															
7 日常生活評価について：機能的自立度評価法															
8 リハビリテーションの実際															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
ラーニング	A:知識の定着・確認		グループディスカッションをとおして、様々な意見をまとめ、発表する。			工 夫 そ の 他 の	具体的な事例を提示する								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		自分の目指す職業の業務、活躍する分野などについて確認しておくこと(1.5時間×8回)												
	事後学修		講義内容の復習、グループディスカッションや課題への取り組み(1.5時間×8回)												
	想定時間合計		23												
教科書	天満和人ら 編集、セラピストのための概説リハビリテーション(第2版) 文光堂、2018 ISBN 9784830645648														
参考書	馬場元毅 著、絵で見る 脳と神経(第4版) 医学書院、2017 ISBN 9784260027830														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	課題レポート・学修成果物	30%										
	グループ討議への参加状況	10%										
	筆記試験（または最終課題）	60%										
注意事項	全開講回数の2/3以上の出席がない場合には、評価の対象から除外する。											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	理学療法士											
実務経験を いかした教 育内容	リハビリテーション分野での業務経験を活かし模擬症例にて、事例を通じた討議を行う											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H010A101	アーリー・エクスポージャー (Early Exposure) *大分を創る科目(Oita Development Course)						対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	1	1	福祉健康科学部	前期	水3,水4,水5	日本語		複数(共同)					
担当教員	氏名 全教員 E-mail (代表) ma-asai@oita-u.ac.jp (朝井政治) 内線 (代表) 7551												
授業の概要	入学後の間もない時期に、リハビリテーション専門職、福祉専門職、心理専門職が現場でどのように働いているかということ、患者や利用者ではない立場で見学する。それにより、将来、各専門職となる覚悟と関心を早期に高め、その後の学習へ動機づけ、能動的・問題解決的な自己学習態度を身につけることを目的とする。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	人間として未成熟な自分を自覚する。												
目標2	将来の専門職として無力な現在の自分を理解する。												
目標3	当事者の立場で物事を考える姿勢を育む。												
目標4	専門的な学問に真摯に向き合うことの動機づけを行う。												
目標5	能動的・問題解決的な自己学習態度を身につける。												
目標6	専門職となるための覚悟を高める。												
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							1	1	1	2	2	3	
授業の内容													
1	事前オリエンテーション												
2	医療施設紹介・各種専門職の業務紹介：医学部附属病院												
3	施設・見学実習：1) 社会福祉法人 太陽の家、2) 大分県社会福祉介護研修センター												
4	個別体験実習施設の施設・業務紹介												
5	報告会：グループディスカッション・グループ発表(体験や学びの共有)												
6	レポート作成：実習体験レポート 課題レポート												
7	(新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては内容が大幅に変更になる可能性があります)												
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
ラ	A:知識の定着・確認	体験実習、見学実習。					工 夫 そ の 他 の	学生が主体的に個別実習の準備を行い、実習に臨めるよう、実習施設ごとの担当教員がサポートする体制で行う。全体オリエンテーションの実施。					
イ	B:意見の表現・交換	グループワーク、全体発表(プレゼンテーション)により、意見交換をしながら学びを共有する。											
エ	C:応用志向	課題レポートにより自己の省察を行い、自己の課題や学習目標を考える											
グ	D:知識の活用・創造												
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	実習施設や保健福祉制度に関する事前学習(10h)											
	事後学修	実習体験レポート(7h) 課題レポート(6h)											
	想定時間合計	23											
教科書	教科書を指定しない。適宜資料を配布します。												
参考書	参考書を指定しない。												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	各実習への取り組み（事前オリエンテーション・最終報告会含む）	20%											
	実習体験レポート	40%											
	課題レポート	40%											
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 施設見学や実習にふさわしい服装で参加し、各施設では実習先の指導者に従うこと。 自己の体調管理に努めること。体調不良は早めに申し出ること。 正当な理由なく欠席した場合には単位取得が認められないことがある。 												
備考	実習の詳細については、オリエンテーションで説明する。 【地域創生教育科目】 新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては内容が大幅に変更になる可能性があります。												
リンク	URL												
担当教員の 実務経験の 有無													
教員の 実務 経験	医師、理学療法士、公認心理師・臨床心理士、社会福祉士、看護師												
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無													
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	介護福祉士、ケアマネージャー など												
実務経験を いかした 育内容	病院の施設見学において、病院の機能や役割を踏まえた説明を実施する。個別体験実習で各専門職の特徴を踏まえたリアリティのある説明ができる。												

共通発展科目

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H010A103		看護学概説 (Outline of Nursing and Nursing Practice) *大分を創る科目(Oita Development Course)							対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	2	1	福祉健康科学部	前期	月4	日本語	英語	単独								
担当教員	氏名 安藤敬子 E-mail takako-ando@oita-u.ac.jp 内線 8001															
授業の概要	本科目では、保健・医療・福祉の連携のなかで協働する看護専門職がどのような機能や役割があるのかを理解する。看護とは何か、看護の歴史の変遷、看護における対象理解、看護の基盤となる考え方を理解する。また、看護技術の実践を通して看護について理解を深める。さらに、保健・医療・福祉の専門職としての自己の専門性、専門分野の役割や機能について考える機会とする。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 看護の歴史の変遷、役割と機能について説明できる																
目標2 看護の捉える健康について説明できる																
目標3 看護の基盤となる考え方について説明できる																
目標4 看護における対象理解について説明できる																
目標5 保健・医療・福祉の連携において、自己の専門分野の役割や機能について説明できる																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									8	2						
授業の内容																
1 コースオリエンテーション																
2 看護とは(講義)																
3 看護の役割と機能(講義)																
4 看護の捉える健康とは(講義)																
5 看護活動の実際(講義)																
6 看護における倫理(講義)																
7 看護の対象理解(講義)																
8 看護の基盤となる考え方(講義)																
9 ケアリングについて(グループワーク)																
10 多職種連携について考える(グループワーク)																
11 多職種連携について考える(全体ディスカッション)																
12 看護実践の方法(触れるケア)(看護技術の体験)																
13 看護実践の方法(感染予防)(看護技術の体験)																
14 看護実践の方法(フィジカルレイザミネーション)(看護技術の体験)																
15 まとめ																
ラーニング チェック ポイント グループ	A:知識の定着・確認		対面での講義・グループワーク・ディスカッションを実施する。授業終了後、学習目標達成に関する振り返りを提出する。				工夫 その 他の	動画等の視聴覚教材を活用することで、具体的な理解を進める								
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		グループでの課題に対する事前検討(15h)													
	事後学修		授業内容を踏まえた振り返りと課題検討・調べ学習(30h)													
	想定時間合計		45													
教科書	必要時、講義内に配布する。															
参考書	必要時提示する。															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		講義後のリアクション内容	30%									
	学期末試験	70%										
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の出席はリアクションの提出によって確認する。 ・各回のリアクション提出，資料配布、授業に関する連絡はMoodleを活用する。各自が自覚して情報を確認をすること。 											
備考	【地域創生教育科目】											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	看護師・保健師											
実務経験を いかした教 育内容	看護師・保健師として総合病院での臨床経験、地域看護（産業）の実務経験があり、それらの経験を活かしてより実践的な内容を伝える。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H010A104		人体の構造と機能及び疾病 (Anatomy and pathophysiology)							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	2	1	福祉健康科学部	前期	月3	日本語			オムニバス						
担当教員	氏名 片岡晶志、紀瑞成、後藤孔郎														
	E-mail mkataoka@oita-u.ac.jp 内線 7457														
授業の概要	疾患を学ぶためには、まず正常を理解する必要がある。すなわち正常解剖、生理機能の理解が必須である。これらを理解した上で、病態生理を学ぶ。病態生理とは、「なぜこの病気が起きているのか」「この疾患の原因はどういったメカニズムでおこっているのか」である。病態生理を理解すれば、疾患にともなう合併症や症状の説明が容易となるし、忘れることもない。ぜひこの授業では、正常解剖と病態生理を理解してほしい。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	人体の形態と構造について、説明できる。														
目標2	人体が生命を維持する機序を説明できる。														
目標3	代表的な健康障害について、病態生理を説明できる。														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							4	2	2	2					
授業の内容															
1	体の階層性を見てみよう(細胞・組織・器官・器官系)(紀)														
2	胸腔内臓器の形態学的特徴(紀)														
3	腹腔内臓器の形態学的特徴(紀)														
4	骨盤腔内臓器の形態学的特徴(紀)														
5	脳と脊髄の形態学的特徴(紀)														
6	機能解剖と疾病(片岡)														
7	機能解剖と疾病(片岡)														
8	機能解剖と疾病(片岡)														
9	機能解剖と疾病(片岡)														
10	機能解剖と疾病(片岡)														
11	炎症その他の病態について(後藤)														
12	身近な感染症学(後藤)														
13	身近な感染症学(後藤)														
14	腫瘍学(後藤)														
15	腫瘍学(後藤)														
ラーニングオブ	A:知識の定着・確認	症例供覧時の討論				工 夫 そ の 他 の	配布プリント								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	予習(15h)													
	事後学修	復習(30h)													
	想定時間合計	45													
教科書	なし 配布するデータで学修														
参考書	標準整形外科学(第15版)井樋栄二他 編集 医学書院 2023年 新臨床内科学[デスク判]第10版 ISBN978-4-260-03806-5 [ポケット判]第10版 医学書院 2020年 ISBN978-4-260-03807-2、内科学(第11版)2017年 ISBN978-4-254-32271-2 朝倉書店、「病気が見える」シリーズ 2016-2021年、MEDICMEDIA														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		期末テスト(小テスト含む)	100%									
注意事項	講義に使うスライドや資料は実際の症例を用いている場合がある。不用意に写真にとったり複写をして、配布したり、ネットにあげることなどが決まてないようにして下さい。											
備考	小テストを行う。それぞれの教員が5回行うが、2回以上欠席で期末試験の受験資格なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医師として診療(片岡、後藤)。解剖教員として人体解剖実習(紀)。											
実務経験を いかした教 育内容	実臨床で経験した症例を提示する。また解剖教員としての人体解剖学、組織学、発生学の実習、講義に携わっており、実践に基づいた人体構造の知識を講義する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H010A108		リハビリテーション医学 (Rehabilitation Medicine)							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	2	1年	福祉健康科学部	後期	火5	日本語			単独						
担当教員	氏名 片岡晶志 E-mail mkataoka@oita-u.ac.jp 内線 7457(片岡)														
授業の概要	講義は基礎から臨床まで幅広く講義をおこなう。リハビリテーション治療の対象となりやすい疾患の病態生理、治療法および患者へのリハビリテーション的アプローチの方法を理解する。さらに対象者が家庭復帰・社会復帰を目的とするにあたり、その支援のあり方、社会的資源の活用について学習する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 疾病の病態生理を説明できる。															
目標2 治療法を説明できる。															
目標3 機能障がいとこれに基づく能力障がいや社会的不利を説明できる。															
目標4 障がいに対する医学的リハビリテーションについて説明できる。															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									2	2	2	2	2		
授業の内容															
1 リハビリテーションとは何か? 障害とはなにか?															
2 上肢の疾患															
3 下肢の疾患															
4 脊椎疾患															
5 脊髄損傷															
6 切断・義足															
7 ロコモ・フレイル・サルコペニア															
8 感染症															
9 感染症															
10 内部障害															
11 脳機能解剖															
12 脳血管障害															
13 高次脳機能障害															
14 高次脳機能障害															
15 急性期・回復期・生活期のリハビリテーション															
ラーニングチェックシート	A:知識の定着・確認		小テストを実施します			工夫その他の	スライドを用いて臨床症例を供覧します								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修														
	事後学修		事後学修(45h)												
	想定時間合計														
教科書	配布資料を中心に授業を進める														
参考書	新臨床内科学[デスク判]第10版ISBN978-4-260-03806-5[ポケット判]第10版 医学書院2020年 ISBN978-4-260-03807-2、内科学(第11版)ISBN978-4-254-32271-2 朝倉書店 2017年、標準整形外科学(第15版)井樋栄二他 編集 医学書院 2023年、2017年 脳血管障害のリハビリテーション医学・医療テキスト(第一版) 日本リハビリテーション医学教育推進機構監修 久保俊一、安保雅博総編集 医学書院ISBN978-4-260-04635-0 2021年														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		試験(小テスト含む)	100%									
注意事項	レポートは必ず提出してください。											
備考	【地域創生教育科目】											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	現在も臨床に携わっている											
実務経験を いかした教 育内容	実臨床をもとに、テキストに書かれていない重要な点まで触れる。また臨床症例を提示することで、学生に学修の必要性を納得させる											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H010A205		健康科学 (Health Science)							対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
必修	2	2年	福祉健康科学部	前学期	火2	日本語	英語		オムニバス							
担当教員	氏名 徳丸治、朝井政治、金子聡(非常勤)、新地浩一(非常勤) E-mail ostokuma@oita-u.ac.jp, ma-asai@oita-u.ac.jp 内線 7972、7551															
授業の概要	本講では健康維持、疾病予防に係る幅広い分野を学修する。 前半は、環境を整え、傷病を予防し、健康の増進を図る事を目的とする公衆衛生学の基礎を概説する。特別講義として、学外の専門家を招いて国際公衆衛生の最先端の活動についても教授する。 後半は、高齢者の身体・精神機能の特徴、高齢者の機能評価、具体的な健康維持と介護予防の取り組みについての講義を行う。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	公衆衛生学を学ぶ目的が理解できる															
目標2	主要な保健統計を説明できる															
目標3	主要な疫学指標について説明できる															
目標4	我が国の公衆衛生上の諸問題(母子保健, 学校保健, 環境保健, 産業保健)について説明できる															
目標5	国際保健の現状と課題について説明できる															
目標6	加齢によって生じる身体・精神機能の変化について説明できる															
目標7	高齢者の身体・精神機能の評価と介入について説明できる															
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							3	2	2	1	1	1				
授業の内容																
1	公衆衛生学概論(徳丸)															
2	保健統計(徳丸)															
3	疫学(徳丸)															
4	母子保健・学校保健(徳丸)															
5	環境保健・産業保健(徳丸)															
6	特別講義: 国際感染症予防(長崎大学熱帯医学研究所副所長・大分大学客員教授 金子聡)															
7	特別講義: 国際保健-国際緊急援助隊の経験と佐賀大学での取り組み-(佐賀大学医学部名誉教授・大分大学客員教授 新地浩一)															
8	社会保障制度、介護保険制度(朝井)															
9	加齢に伴う身体・精神機能の変化(朝井)															
10	高齢者に多く見られる疾病(朝井)															
11	フレイル、サルコペニアと栄養(朝井)															
12	各種検査結果のアセスメント(朝井)															
13	高齢者の身体機能・精神機能の評価(朝井)															
14	高齢者に対するリハビリテーション介入1: 疾病予防(朝井)															
15	高齢者に対するリハビリテーション介入2: 介護予防(朝井)															
ラーニング	A:知識の定着・確認	実際の事例や介護予防事業をテーマとした学生間の討議を通じて、建設的な思考過程を身につける。				工 夫 そ の 他 の										
	B:意見の表現・交換	適宜小テストを実施する。														
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	講義の予習(15回の講義×1.5時間)														
	事後学修	講義の復習(15回の講義×1.5時間)														
	想定時間合計	45														
教科書	鈴木庄亮監修 シンプル公衆衛生学2025 南江堂(東京, 2025年3月刊行予定, 税込3,000円程度) ISBN: 9784524218745															
参考書	国民衛生の動向 2024/2025(「厚生指標」8月増刊) 公正労働統計協会(東京, 2024) 雑誌コード03854-08(税込2,970円)															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		試験	100%									
注意事項	課題未提出の場合は、単位の取得を認めない											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医師、理学療法士											
実務経験を いかした教 育内容	実際の事例や介護予防事業を基に講義を進める											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H020P702	精神疾患とその治療 (Mental Illness and Its Treatment II)						オンライン(同時双方向型)						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	3年	福祉健康科学部	後期	水4	日本語		単独					
担当教員	氏名 堤 隆 E-mail tsutsumi@oita-u.ac.jp 内線 7477												
授業の概要	精神医学では、心の病気の成因や症状、治療に関する内容を学ぶ。 本講では、精神疾患別の症状・治療法をみていくことにする。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	精神医学の各論を述べるができる												
目標2	精神障害の様々な治療法について述べるができる												
目標3	精神医療の実状やチーム医療について述べるができる												
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							10						
授業の内容													
1	神経症性障害												
2	ストレス関連障害および身体表現性障害												
3	摂食障害												
4	睡眠障害												
5	パーソナリティ障害												
6	精神遅滞												
7	心理的発達の障害												
8	小児期および青年期の精神障害												
9	精神科薬物療法												
10	精神療法												
11	精神科リハビリテーション												
12	身体療法、環境・社会療法												
13	精神科医療機関の治療構造および専門病棟												
14	精神科治療における人権擁護、連携の重要性												
15	まとめ												
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	学修成果物の作成				工 夫	そ の 他 の						
	B:意見の表現・交換												
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	テキストを事前に読んでおく(23h)											
	事後学修	教材を用いて復習する(23h)											
	想定時間合計	46											
教科書	教科書を指定しない												
参考書	尾崎紀夫 標準精神医学 第9版 (医学書院)2024 ISBN: 978-4-260-05334-1、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟.最新・精神保健福祉士養成講座2「現代の精神保健の課題と支援」(中央法規)2021 ISBN: 978-4-8058-8253-5												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	学修成果物	70%										
	総合的に評価する	30%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H020S103		現代社会と福祉 (Contemporary Society Welfare)							対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
全コース必修	2	1	福祉健康科学部	前期	木1	日本語			単独							
担当教員	氏名 志賀 信夫															
	E-mail nobu-shiga@oita-u.ac.jp 内線 7727															
授業の概要	<p>本講義の目的は、社会福祉の思想・哲学・理論・歴史について学ぶことである。この学びの過程では、社会正義、人権擁護、多様性の尊重などの理念のみならず、それらの諸理念が具体的な社会問題に対する諸実践を通してどのように具体化しつつあるのかについても理解していく。福祉にかかわる社会問題は、社会の変化とともにその形をかえていくが、少子・高齢化社会やグローバル化の進展に伴う社会の変化は、新たな社会福祉実践や政策を要請するものとなっている。こうした社会の変化とそれに伴う社会福祉にかかわる理解の変化（あるいは不変であるもの）についても、本講義において学んでいく。</p> <p>以上を簡潔に整理するならば、以下の ~ を相互に関連させながら学ぶということでもある。</p> <p>社会福祉の原理、 社会福祉の歴史、 社会福祉の思想・哲学・理論、 社会問題と社会構造、 福祉政策。</p>															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。																
目標2 社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論をふまえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。																
目標3 社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。																
目標4 人びとの生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。																
目標5 福祉政策の動向と課題をふまえたうえで、関連施策や包括的支援について理解する。																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									2	2	2	1	1	2		
授業の内容																
1		社会福祉の原理 社会福祉の原理を学ぶ視点の重要性														
2		社会福祉の歴史 社会福祉の歴史を学ぶ視点の重要性														
3		社会福祉の歴史 日本の社会福祉の歴史的展開														
4		社会福祉の歴史 欧米の社会福祉の歴史的展開														
5		社会福祉の思想・哲学、理論 社会福祉の思想・哲学														
6		社会福祉の思想・哲学、理論 社会福祉の理論の基本的考え方														
7		社会福祉の思想・哲学、理論 社会福祉の論点														
8		社会福祉の思想・哲学、理論 社会福祉の対象とニーズ														
9		社会問題と社会構造 現代における社会問題														
10		社会問題と社会構造 社会問題の構造的背景														
11		福祉政策の基本的な視点 福祉政策の概念・理念														
12		福祉政策におけるニーズと資源 ニーズ														
13		福祉政策におけるニーズと資源 資源														
14		福祉政策の論点 普遍主義と選別主義														
15		まとめ														
ラ ア ク ニ ン グ グ ブ	A:知識の定着・確認		ミニッツ・ペーパー				工 夫 そ の 他 の	動画の活用。 時事問題を通じた理解の促進。								
	B:意見の表現・交換		グループワーク(議論・討論)													
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		参考文献や辞典、配布資料から、用語の理解、法制度、歴史的背景を学修する。(30h)													
	事後学修		参考文献や配布資料などを通じて復習し、学修した内容を深める。(30h)													
	想定時間合計		60													
教科書		指定しない。														
参考書		1.一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座4.社会福祉の原理と政策』中央法規 (ISBN:978-4-8058-8234-4)														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験	60%										
	レポート課題	40%										
注意事項	私語はひかえてください。											
備考	講義開始前に社会福祉関連図書（主に1.歴史2.経済3.哲学に関する書籍）を毎回紹介する。											
リンク												
	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
H010A202	社会保障論 (Social Security) *大分を創る科目(Oita Development Course)						対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態				
必修	2	2	福	前期	火1	日本語		単独				
担当教員	氏名 松本 由美 E-mail matsumoto-yumi@oita-u.ac.jp 内線 6097											
授業の概要	この授業は、国民が健やかで安心できる生活を送るために欠くことのできない社会保障に関する知識と理解を深めることを目的とする。社会保障の全体像を把握するために、まず、その概念、体系と仕組み、費用と財源および歴史について学習した上で、日本の社会保障を構成する各制度の要点を学ぶ。さらに、社会保障の課題と今後のあり方について考える。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1	社会保障の全体像を理解し、その目的や機能、現状について説明することができる。											
目標2	社会保障を構成する各制度の基本的な仕組みと諸給付について理解し、説明することができる。											
目標3	少子高齢化の進展等がもたらす社会保障の課題について、自分の考えを述べるることができる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)						6	4					
授業の内容												
1	社会保障論についてのガイダンス											
2	社会保障の概念(対象及びその理念を含む)											
3	社会保障制度の体系と仕組み(社会保険と社会扶助の関係を含む)											
4	社会保障の費用と財源											
5	社会保障の歴史											
6	福祉国家の発展											
7	現代社会における社会保障の現状(少子高齢化)											
8	現代社会における社会保障の現状(家族・雇用)											
9	年金保険											
10	医療保険											
11	介護保険											
12	雇用保険											
13	労災保険											
14	公的扶助											
15	社会保障の今日的課題と改革方策											
ラーニング	A:知識の定着・確認	学習内容に関するコメントを提出してもらう。					工夫	学習を補足するため、資料等を活用する。				
	B:意見の表現・交換						その					
	C:応用志向						他					
	D:知識の活用・創造						の					
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	参考書等に基づき、必要に応じて予習を行う(15h)。										
	事後学修	毎回、講義内容の復習を行い、知識や理解を定着させておく(30h)。										
	想定時間合計	45										
教科書	教科書は指定しない。 配布する講義資料を使用する。											
参考書	梶野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障(第21版)』有斐閣アルマ、2024年。ISBN:978-4-641-22234-2											

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	学期末レポート	70%										
	授業への参加の積極度	30%										
注意事項												
備考	【地域創生教育科目】 6月に2回または3回、オンデマンド講義を実施する。具体的にいつ実施するかについては初回講義時にアナウンスする。											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H010A203		保健医療サービス論 (Health and Medical Social Work)							オンライン(同時双方向型)						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	2	2	福祉健康科学部	前期	月3	日本語			単独						
担当教員	氏名 中川 美幸														
	E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120														
授業の概要	本講義では、保健・医療分野におけるソーシャルワークに必要な専門的知識(医療供給体制にかかる政策動向や課題、医療機関の種類等、医療ソーシャルワーカーの役割や歴史、多職種連携等)について理解をすることを目的とする。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	医療現場の倫理的問題や患者の尊厳について、医療倫理の四原則をふまえ検討することができる。														
目標2	医療ソーシャルワーカーの役割について説明することができる。														
目標3	医療供給体制の概要(医療法改正及び医療保険制度、診療報酬制度等)を列挙し、医療供給体制の課題を説明することができる。														
目標4	医療機関の種類や役割について説明することができる。														
目標5	保健医療領域における専門職の役割及び多職種連携について説明することができる。														
目標6	医療供給体制の動向及びこれを取り巻く政策動向と医療ソーシャルワークについて説明することができる。														
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							2	1	2	2	2	1			
授業の内容															
1	オリエンテーション/保健医療の課題をもつ人の理解														
2	医療現場の倫理的問題を考えたときの基礎 医療倫理の四原則														
3	患者の意思決定をめぐる諸課題														
4	保健医療領域におけるソーシャルワーク 医療ソーシャルワーカー業務指針														
5	医療提供体制の動向 医療法の改正1														
6	医療提供体制の動向 医療法の改正2														
7	国民医療費の概況														
8	医療保険制度の理解														
9	保健医療領域に必要な政策・制度及びサービスに関する知識														
10	診療報酬制度の理解														
11	医療機関の種類と機能														
12	保健医療領域における専門職の役割と連携														
13	回復期リハビリテーション期におけるソーシャルワーク														
14	在宅医療におけるソーシャルワーク														
15	緩和ケア・終末期医療におけるソーシャルワーク/まとめ														
ラーニングチェックシート	A:知識の定着・確認	時間外学修				工	そ	の	他	の					
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	書籍をできる限り多く読み、柔軟で多角的な視野の涵養につとめてください。また、メディア等を通じて保健・医療をめぐる日本また世界の現状と課題に目を向けてみてください。(22.5h)													
	事後学修	関連書籍を精読し関心を広げ、またメディア等を通じて保健・医療をめぐる日本また世界の現状と課題に関心を寄せてください。(22.5h)													
	想定時間合計														
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2025)『保健医療と福祉 第2版』中央法規。ISBN-13:978-4-8243-0156-7														
参考書	財団法人 厚生統計協会(2024)『国民衛生の動向2024/2025』ISBN:4910038540842 財団法人 厚生統計協会(2024)『国民の福祉と介護の動向2024/2025』ISBN:4910038540941														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		講義ごとのリアクションペーパーの内容により総合的に評価する。	40%									
	期末テスト	60%										
注意事項												
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医療ソーシャルワーカー											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H020S101		地域福祉論 (Local Welfare)							対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択	2	2	福	前期	金1	日本語			単独							
担当 教員	氏名 齋藤 建児															
	E-mail k-saito@oita-u.ac.jp 内線 6117															
授業 の 概 要	本科目は、複合化・複雑化する福祉課題に対応するために必要な知識、理論、技術を網羅的に包含しており、地域共生社会の実現に資する社会福祉士養成過程において重要な位置付けにある。具体的な内容は、ソーシャルワーカーが地域生活課題を解決するために必要な、地域福祉の基礎理論、実践の歴史、地域包括ケアシステムや共生社会政策を展開する諸理論であり、これらを実践や事例などを交えて学ぶ。さらに、他のソーシャルワーク科目との関連およびソーシャルワーク演習、実習で実践できることを念頭に置き展開する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 地域社会の変化と多様化、複合化する地域生活課題を説明できる																
目標2 地域福祉の歴史、理論の形成過程を説明できる																
目標3 制度の狭間にある諸問題の解決に資する地域共生社会政策を説明できる																
目標4 多機関協働の方法を説明できる																
目標5 多様なステークホルダーを巻き込む地域福祉実践を説明できる																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							5	1	3	1						
授業の内容																
1 ガイダンス、地域福祉の今日的な位置づけと意義を理解する																
2 地域社会の変化：過疎など地域社会の変化を捉える																
3 多様化・複雑化する地域生活課題：社会的孤立を中心に地域生活課題を考える																
4 生活困窮と社会的排除：その実態とそこに至る要因を理解する																
5 生活困窮者自立支援および諸制度の概要：制度の狭間にある諸問題への対応を考える																
6 生活困窮者自立支援制度の各事業を理解する																
7 地域共生社会の理念を理解する																
8 地域共生社会の実現に向けた方策：包括的相談支援体制の整備を理解する																
9 重層的支援体制整備事業：複雑化する諸課題への対策を考える																
10 地域福祉ガバナンスと多機関協働事業の仕組みを理解する																
11 地域福祉の推進主体：多様な主体と役割の実際を理解する																
12 地域福祉の推進主体：社会福祉法人、市民活動、NPO、中間支援組織の活動を理解する																
13 地域福祉の歴史：欧米、日本の地域福祉の源流を理解する																
14 地域福祉の基礎となる諸理論を理解する																
15 まとめ																
ラ ー ク ニ ン グ	A:知識の定着・確認		ディスカッションを通じて事例の検討を行う			工 夫 そ の 他 の	理解を深めるために、実践事例や映像資料を用いる									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		事前に教科書を熟読し、講義の課題について明確にする(15h) 新聞等を通じて時事問題を確認する(10h)													
	事後学修		講義後に配付資料と教科書の内容を照らし合わせて復習し、知識と技術の定着に努める(15h) 講義で得た問題意識と関連する文献の検索とレビューに努める(5h)													
	想定時間合計		45													
教科書		一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集,最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座6『地域福祉と包括的支援体制』,2021年,中央法規 ISBN:978-4-8058-8236-8														
参考書		適宜、資料を配付する														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	リアクションペーパー	40%										
	課題レポート	20%										
	試験	40%										
注意事項												
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の有無												
教員の 実務経験	地域福祉専門員として岩手県旧川井村社会福祉協議会で勤務。地域包括支援センター社会福祉士として岩手県二戸市社会福祉協議会で勤務。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H010A303		福祉サービスの組織と経営 (Administration of Social Welfare Institution)							対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態						
必修	2	3年	福祉健康科学部	後期	金5	日本語				単独						
担当教員	氏名 高橋 智秀															
	E-mail t.takahashi@mkousei.net 内線															
授業の概要	本講義では、福祉サービスのあるべき経営が、社会をより良くするために様々な実践が行われている現状を踏まえ、福祉サービスの中核を担う専門職として、福祉サービスを提供する組織や団体、その経営の基礎理論、管理運営について基礎的な知識を修得する															
	具体的な内容は、下記の4点とする ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要 社会福祉士に求められる福祉サービスの組織と沿革、経営の視点と方法 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論、労働者の権利等 福祉サービスに求められる福祉人材マネジメント															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割について説明することができる															
目標2	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論について説明することができる															
目標3	福祉サービス提供組織の経営における課題抽出と分析することができる															
目標4	福祉サービス提供組織の経営における課題解決のための方策について自分の考えを述べるることができる															
目標5	福祉人材のマネジメントについて組織経営の視点で述べるることができる															
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							5	1	3		1					
授業の内容																
1	オリエンテーション、福祉サービスを提供する組織															
2	福祉サービスの沿革と概況															
3	組織間連携と促進															
4	組織運営に関する基礎理論															
5	集団の力学に関する基礎理論															
6	リーダーシップに関する基礎理論															
7	経営体制															
8	福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス															
9	適切な福祉サービスの経営管理															
10	情報管理															
11	会計管理と財務管理															
12	福祉人材マネジメント															
13	福祉人材の育成															
14	働きやすい労働環境の整備															
15	まとめ															
ラーニングチェックポイント	A:知識の定着・確認	講義の内容を踏まえた自分の考えを整理するため、リアクションペーパーに取り組む				工夫その他の	実践現場の資料 パワーポイントによるプレゼンテーション									
	B:意見の表現・交換	SWOT分析を通して、課題抽出を行う														
	C:応用志向	ペア、小グループでのディスカッション適宜行う														
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	参考書等で予習を行う(15h)														
	事後学修	講義時に配布する資料やインターネットなどを通じて復習し、学びを深める(30h)														
	想定時間合計	45														
教科書	教科書を指定しない 資料を配布する															
参考書	最新 社会福祉士養成講座 ① 福祉サービスの組織と経営』中央法規 2022年 ISBN978-4-8058-8244-3															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	課題への取組み	40%										
課題レポート	60%											
	課題提出を単位取得の条件とする											
注意事項	全講義回数のうち、3分の2未満の出席であれば評価の対象から除外します											
備考	本講義の資料を整理するファイルを各自で準備してください(A4資料)											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	社会福祉法人の役員・公益社団法人の役員・NPO法人の役員・社会福祉法人の本部長・社会福祉法人の事務局長・社会福祉施設の管理者											
実務経験を いかした教 育内容	福祉サービスを提供している法人役員や管理者の経験を活かして、組織経営に必要な知識や視点等に関する授業を行う。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H020S104		こども家庭ソーシャルワーク概論 (Introduction to Children and Family Social Work)							対面(含 同時双方向型)							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
必修(社会福祉実践コース)、選択(理学療法)	1	1	福祉健康科学部	前期	他	日本語			オムニバス							
担当教員	氏名 飯田法子, 相澤仁, 河野洋子(元児童相談所長), 田中利武(弁護士), 岡田豊弘(児童養護施設長), 松田絵美(ファミリーホーム管理者), (社会的養育経験者1名) E-mail iida-noriko@oita-u.ac.jp(飯田) 内線 6114(飯田)															
授業の概要	社会的養育を経験した当事者や子ども支援の現場の専門家の声を聴き、子ども家庭ソーシャルワーカーに期待される役割を理解する。また、子ども家庭ソーシャルワークにおいては、多職種連携が重要性である点を認識する。1年次に本概論を受講することで、その後の学びへのモチベーションを高める。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 社会的養育経験者や福祉の現場の専門家の声を聴くことで、こども家庭ソーシャルワークの役割について理解し説明できる。																
目標2 こども家庭ソーシャルワーカーの重要性について説明できる。																
目標3 多職種の専門家との連携の重要性についてこども家庭ソーシャルワークの視点から説明できる。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									10							
授業の内容																
1	こども家庭ソーシャルワーカーへの期待		～現場の声を聴く(社会的養育経験者) および オリエンテーション													
2	こども家庭ソーシャルワーカーへの期待		～現場の声を聴く(元児童相談所 所長)													
3	こども家庭ソーシャルワーカーへの期待		～現場の声を聴く(元児童相談所 所長)													
4	こども家庭ソーシャルワーカーへの期待		～現場の声を聴く(弁護士)													
5	こども家庭ソーシャルワーカーへの期待		～現場の声を聴く(児童養護施設 施設長)													
6	こども家庭ソーシャルワーカーへの期待		～現場の声を聴く(元国立児童自立支援施設 施設長)													
7	こども家庭ソーシャルワーカーへの期待		～現場の声を聴く(里親・ファミリーホーム 管理者)													
8	こども家庭ソーシャルワーカーへの期待		～現場の声を聴く(里親・ファミリーホーム 管理者)													
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
ラ ッ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認		グループワーク(意見交換)を取り入れる										工 夫 そ の 他 の			
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		次回のトピックについて調べる(16h)													
	事後学修		レポート課題に取り組む(8h)													
	想定時間合計		24													
教科書	なし															
参考書	必要に応じて資料を提示する。															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート課題	50%										
授業への参加度や態度	50%											
注意事項	社会福祉実践コース：コース必修科目 および、こども家庭ソーシャルワーカー資格取得のための必修科目											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	児童相談所，児童発達支援事業所，国立児童自立支援施設 等											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	河野洋子（元児童相談所長），田中利武（弁護士），岡田豊弘（児童養護施設長），松田絵美（ファミリーホーム管理者）											
実務経験を いかした教 育内容	児童家庭福祉の現場の現状について事例を交えながら伝え、こども家庭ソーシャルワークの重要性を認識してもらう											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
H020S105	こどもの精神医学入門 (Introduction to Child Psychiatry)						対面(含 同時双方向型)							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
必修(社会福祉実践コース), 選択(理学療法)	1	1	福祉健康科学部	後期	他	日本語		オムニバス						
担当教員	氏名 井上登生, 清田晃生, 三ヶ田智弘 E-mail iida-noriko@oita-u.ac.jp(飯田) 内線 6114(飯田)													
授業の概要	こども家庭ソーシャルワークを実践するうえで必要な「こどもの精神医学」に関する基本を学ぶ。具体的には、こどもの精神発達を理解したうえで、発達障害、児童虐待やその他の出来事によるトラウマ、うつ・依存症・不登校等の精神的な課題を抱えたこどもおよびその保護者に関する精神医学的な視点からの理解と対応の基本について学ぶ。													
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	
目標1	こどもの精神発達と精神医学との関連について説明できる。													
目標2	発達障害, 児童虐待やその他の出来事によるトラウマ, うつ, 習癖等の理解と対応の基本について説明できる。													
目標3	精神疾患等を抱える保護者の医学的理解と対応の基本について説明できる。													
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)							10							
授業の内容														
1	こどもの精神発達と精神医学について 概説													
2	こどもの精神発達と精神医学について 概説													
3	発達障害のあるこどもについて 理解を深める													
4	発達障害のあるこどもへの対応の基本													
5	愛着の問題と被虐待児について 理解を深める													
6	こどものトラウマについて 理解と対応の基本													
7	その他の気になるこどもについて(うつ・習癖・不登校など) 理解と対応の基本													
8	精神疾患等を抱える保護者について 理解と対応の基本													
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
ラーニング	A:知識の定着・確認	グループワークを取り入れる				工	そ	他	の					
	B:意見の表現・交換													
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	次回のトピックについて調べる(16h)												
	事後学修	レポート課題に取り組む(8h)												
	想定時間合計	24												
教科書	なし													
参考書	必要に応じて資料を提示する。													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		レポート課題	50%									
	授業への参加度	50%										
注意事項	社会福祉実践コース：コース必修科目 および、こども家庭ソーシャルワーカー資格取得のための必修科目											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務経験	現役の児童精神科医・小児科医であり、地域の医療現場における児童虐待や発達障害のこどもおよび家族への支援の経験が豊富である											
実務経験を いかした 教育内容	具体的な医療現場の事例や地域支援の事例等を取り入れながら理解を深める											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H010A106		心理学概論 (Introduction to Psychology)							対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	2	1	福祉健康科学部	前期	金1	日本語		複数(共同)								
担当教員	氏名 河野 伸子、増田 成美															
	E-mail n-kawano@oita-u.ac.jp、nmasuda@oita-u.ac.jp 内線 7612、6108															
授業の概要	心理学は、人間の行動の背後には「こころ」が存在すると仮定し、客観的な手法を用いて、行動と心理の関係について科学的な説明を試みるものである。この講義では、心理学の基本的な考え方と伝統的な研究知見について、主に福祉との関係が深い領域を中心に学ぶことをねらいとする。特に、日常的な人間の行動や生活、社会の特徴について、心理学的な観点から、分析・考察できるようになるための基本的な概念を解説する。その他、心理学の成り立ちなどについてもとりあげる。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	心理学の成り立ちおよび人の心の基本的な仕組みや働きについて説明できる。															
目標2	現代の人的な諸問題を、心理学的な観点から考察し、意見を述べることができる。															
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)										6				4		
授業の内容																
1	心理学の成り立ち															
2	福祉と心理学															
3	多職種連携・チーム支援															
4	心と身体・感情															
5	心の健康(ストレスと心の働き)															
6	人の個性と性格															
7	心理アセスメント															
8	心の病															
9	人の発達のみちすじ1															
10	人の発達のみちすじ2															
11	人の発達のみちすじ3															
12	家族関係の心理学															
13	集団と個人															
14	知性を探る1															
15	知性を探る2															
ラーニング チェック ポイント グループ	A:知識の定着・確認	授業終了時に、振り返りのライティングを行う。				工 夫 そ の 他 の	講義の中に体験的要素を盛り込む。									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	授業中に提示する「次回のテーマ」について考えておくこと(15h)														
	事後学修	授業中に提示した参考文献や参考視聴覚教材を読んだり視聴したりすること(30h)														
	想定時間合計	45														
教科書	大谷真弓・安立奈歩・河野伸子著「授業で使える心理学ワークブック 改訂版」北樹出版 2014年 ISBN:978-4779304187															
参考書	講義中に提示する。															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		提出課題	45%									
	学期末試験	55%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務経験	河野 伸子（公認心理師，臨床心理士）、増田 成美（公認心理師，臨床心理士）											
実務経験を いかした教 育内容	アセスメントや具体例など実践経験を活かした視点から教示する											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H020P301		ライフサイクルの心理学(発達心理学) (Life-span Developmental Psychology)							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	2	1年	福祉健康科学部	後期	金3	日本語			単独						
担当教員	氏名 河野 伸子														
	E-mail n-kawano@oita-u.ac.jp 内線 7612														
授業の概要	人間の一生における胎児期から老年期・死までの発達段階的な諸問題について、また発達と人生、世代間交流など人生の時間軸に関わる諸問題について、発達心理学的な観点から解説する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	人の一生の各発達段階における発達の特徴(認知機能、感情・社会性、対人関係の発達、発達課題と躰き等)を説明できる														
目標2	現代における諸問題に対して、人間の心の発達過程と自己と他者の関係性の視点から考察し、支援方法について提案できる														
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							6		2		2				
授業の内容															
1	ガイダンス														
2	生涯発達心理学とは														
3	乳児期の発達														
4	乳児期の問題(虐待等)														
5	幼児期の発達														
6	幼児期の問題(発達障害などの非定型発達等)														
7	児童期の発達														
8	児童期の問題(いじめ等)														
9	青年期の発達														
10	青年期の問題(不登校等)														
11	成人期の発達														
12	成人期の問題(ひきこもり等)														
13	高齢期の発達														
14	高齢期の問題(認知症等)														
15	開発教育, 臨床的アプローチ														
ラーニングチェックシート	A:知識の定着・確認	教科書の事例を用いてグループディスカッションを行い、理解を深める。					工 夫 の 他 の								
	B:意見の表現・交換	。													
	C:応用志向	授業の終わりに、振り返りのライティングを行う。													
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	授業中に提示する「次回のテーマ」について考えてくること。グループワークの回の前には、事前に事例を読み込んでおき、設問について考えてくること。(15h)													
	事後学修	毎回授業中に提示する参考文献や参考視聴覚教材を読んだり視聴したりすること。(30h)													
	想定時間合計	45													
教科書	渡辺弥生・榎本淳子「発達と臨床の心理学」ナカニシヤ出版 2012年 ISBN: 978-4779506536														
参考書	講義中に適宜提示する。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		学期末試験	55%									
	提出課題	45%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	公認心理師，臨床心理士											
実務経験を いかした教 育内容	各発達段階における諸問題を取り上げる際、また、教科書にある事例解説の際には、実務経験に基づく解説を行う。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H020P513		健康心理学(健康・医療心理学A) (Health Psychology) *大分を創る科目(Oita Development Course)							対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	2	1	福祉健康科学部	後期	金2	日本語		単独								
担当教員	氏名 増田成美 E-mail nmasuda@oita-u.ac.jp 内線 6108															
授業の概要	本講義では、ライフサイクルにおける身体・心理・社会的課題を知り、生涯にわたって心の健康を維持していくために必要な心理学的知識と支援について学ぶことを目的としている。その中で、ストレスと心身の疾病との関係など、心の仕組みと働きに関する知識や災害時に必要な心理学的知識を取り上げ、保健・医療領域で働く対人援助職としての心理支援について概説する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	ストレスと心身のマネジメントについて概説できる。															
目標2	医療現場及びさまざまな保健現場における心理職の仕事、心理社会的課題、必要な支援について概説できる。															
目標3	災害時に必要な心理支援について概説できる。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							6			1	3					
授業の内容																
1	オリエンテーション															
2	ライフサイクルと心の健康															
3	ストレスと心身の疾病との関係															
4	精神科・心療内科における公認心理師の役割															
5	チーム医療と多職種連携・心理職の業務と法律と倫理															
6	様々な保健現場における心理社会的問題と支援 : 妊娠・出産・育児における支援															
7	様々な保健現場における心理社会的問題と支援 : 子どもの心理発達と児童虐待について															
8	様々な保健現場における心理社会的問題と支援 : 高齢者における心理支援															
9	依存症について															
10	ひきこもりについて															
11	うつ病と自殺について															
12	睡眠と健康について															
13	ポジティブ心理学															
14	心的外傷後ストレス障害(PTSD)について															
15	災害時の心理と支援															
ラ イ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	各回ごとのレポート提出、グループディスカッション、体験活動を取り入れる。対人援助職として活動する際に、心理職の役割を理解し、心理教育などの支援に役立つ知識を体験的に身に着ける。				工 夫	そ の 他 の	心理職としての経験や事例を交えて講義を行うこと、現場で実践されていることを講義の中に取り入れることで、心理職の活動について具体的イメージを持って学ぶことができる。								
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	教科書や参考文献から、各回におけるテーマについて予習する(15h)。														
	事後学修	配布資料や教科書、参考文献を用いて復習する(30h)。														
	想定時間合計	45														
教科書	・丹野義彦(編集)、野島一彦・繁樹算男(監修)、『公認心理師の基礎と実践 [第16巻] 健康・医療心理学』、遠見書房、2021。 ISBN 978-4-86616-066-5 ・資料も配布する。															
参考書	・福島哲夫(編集責任)『公認心理師必携テキスト』改訂第2版 株式会社学研メディカル秀潤社、2020。 ISBN 978-4-7809-1292-0 ・古賀恵理子・今井たよか(編著)『公認心理師の基本を学ぶテキスト16 健康・医療心理学 ウェルビーイングの心理学的支援のために』 ミネルヴァ書房、2022。 ISBN 978-4-623-08717-4															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	各回のレポート提出	40%										
	睡眠日誌の作成	10%										
	期末試験	50%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の有無												
教員の 実務経験	公認心理師・臨床心理士											
実務経験を いかした 教育内容	臨床心理士ならびに公認心理師の医療・福祉の現場における活動，心身の健康を保持するためのストレスマネジメントやトラウマ治療などの心理支援について，体験や事例を交えながら講義を行う。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H020P501		臨床心理学概論 (Introduction to Clinical Psychology)							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	2	2年	福祉健康科学部	前期	火3	日本語			単独						
担当教員	氏名 古長 紗恵														
	E-mail kocho-sae@oita-u.ac.jp 内線 7611														
授業の概要	臨床心理学は、心理学的な知見をもとに、人の心の問題に取り組む学問である。本講義では、臨床心理学の発展の歴史や代表的な技法を概観し、臨床心理学における基本的な考え方を学ぶ。加えて、対象領域における機能や連携のあり方などを取り上げ、現代の臨床心理学的支援の実際について理解を深める。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 臨床心理学の対象領域や基本的な考え方、その背景にある発展の歴史について説明できる															
目標2 臨床心理学の社会における機能や連携のあり方、関連法規について説明できる															
目標3 臨床心理学的アセスメントや代表的な面接技法について説明できる															
目標4 各発達段階における臨床心理学的問題と支援について領域との関連を含めて説明できる															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									4	2	2	1	1		
授業の内容															
1 臨床心理学の定義・基本的な考え方、対象領域															
2 臨床心理学における具体的な支援と連携・協働、地域包括ケアにおける臨床心理学の機能															
3 臨床心理学の歴史と発展ならびに現在の動向															
4 臨床心理学的支援の中で生じうる問題と関連法規および倫理															
5 臨床心理学的アセスメント															
6 精神疾患の基礎知識															
7 発達障害の基礎知識															
8 心理療法の理論(1)精神分析															
9 心理療法の理論(2)行動療法および認知行動療法															
10 心理療法の理論(3)人間性心理学およびカウンセリング															
11 各発達段階における臨床心理学的問題と支援(1)乳児期～幼児期															
12 各発達段階における臨床心理学的問題と支援(2)児童期															
13 各発達段階における臨床心理学的問題と支援(3)思春期・青年期															
14 各発達段階における臨床心理学的問題と支援(4)中年期～老年期															
15 災害時の臨床心理学的支援															
ラーニング	A:知識の定着・確認	各講義の終わりに講義を振り返るライティングを行い、意見や質問については次の講義で取り扱う。適宜、ロールプレイングやグループディスカッション、ワークシートも取り入れる。				工夫 その他	担当教員の体験や書籍の事例を提示する。								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	参考文献、関連キーワードの検索等、必要に応じて学習しておく(15h)。													
	事後学修	配付資料や参考文献、関連キーワードの検索などで、復習を行う(15h)。最終レポートに向けての振り返りや関連資料の検索をする(15h)。													
	想定時間合計	45													
教科書	なし。パワーポイントを使用し、スライド資料を講義ごとに配布する。														
参考書	講義ごとに紹介する。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		ライティングおよび提出課題	60%									
	学期末レポート	40%										
注意事項	なし											
備考	本科目は公認心理師受験資格取得のために必要な科目である。											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	臨床心理士、公認心理師											
実務経験を いかした教 育内容	心理支援の実践例に基づき臨床心理学について具体的に論じる。											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H010A304	社会心理学(社会・集団・家族心理学B) (Social psychology)						対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	2	2年	福祉健康科学部	後期	火1	日本語		単独					
担当教員	氏名 中里 直樹 E-mail nakazato-naoki@oita-u.ac.jp 内線 7530												
授業の概要	日常生活の事例を引き合いに出しながら、対人認知・対人魅力、リーダーシップ、援助行動、文化など、社会心理学の理論やモデルの考察を試み、社会的な問題の解決に必要な知識と技能を習得する。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	社会心理学の意義と研究法を理解し、説明できる。												
目標2	社会心理学の理論やモデルを、日常生活における自身の社会的行動と他者への支援活動に関係づけることができる。												
目標3	社会心理学の理論やモデルに基づき、社会的な問題の解決方法を提案できる。												
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							6		3	1			
授業の内容													
1	社会心理学の定義および研究法												
2	援助行動とソーシャル・サポート												
3	社会的自己(1):自己知識と自尊心,自己意識												
4	社会的自己(2):自尊心の維持・高揚のメカニズム,自己呈示												
5	社会的態度(1):態度の形成と変容												
6	社会的態度(2):説得的コミュニケーション												
7	社会的認知(1):対人認知と原因帰属												
8	社会的認知(2):推論・帰属の誤りとバイアス												
9	対人魅力と対人関係(1):初期的関心												
10	対人魅力と対人関係(2):対人関係・家族関係の発展・持続・危機												
11	集団・組織(1):集団の特徴と機能,集団への同調												
12	集団・組織(2):リーダーシップの理論,服従と抵抗												
13	集団・組織(3):集団間葛藤,リーダーシップの実践												
14	文化・社会とWell-being(1):個人主義・集団主義と文化的自己観												
15	文化・社会とWell-being(2):社会生態学的環境とWell-being												
ラ	A:知識の定着・確認	毎回の授業でミニツッペーパーに取り組んでもらい、提出を求める。ミニツッペーパーに書かれた質問に対しては、次回の授業時に返答する。					工 夫 そ の 他 の						
イ	B:意見の表現・交換	適宜、グループ・ディスカッションも取り入れる。											
ン	C:応用志向												
テ	D:知識の活用・創造												
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	配布資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(15h)											
	事後学修	授業で学習したことを配布資料等も用いて復習し、ミニツッペーパーを執筆する(15h)。15回分の授業内容の総合的理解及び考察に努め、社会心理学の理論及びその日常生活への適用について考察する(15h)。											
	想定時間合計	45											
教科書	・教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。												
参考書	・「新・くらしの社会心理学」小川一夫編著(1995)北大路書房 ISBN978-4571250156 ・「英語で学ぶ社会心理学」大坪庸介,アダム・スミス著(2017)有斐閣ブックス ISBN978-4641184367 ・Kassin, S., Fein, S., & Markus, H. R. (2024) Social Psychology (12th ed.). SAGE publications. ISBN978-1071852002												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		授業への積極的参加（ライティング課題や質問など）	50%									
	期末試験	50%										
注意事項	令和2年度（2020年度）以降の入学生にとっては2年次科目。令和元年度（2019年度）以前の入学生にとっては3年次科目。											
備考	【地域創生教育科目】											
リンク												
	URL											

チュートリアル科目

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
H010A204		チュートリアル (Tutorial)							対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態									
必修	2	2年	福祉健康科学部	後期	金4	日本語		複数(共同)、オムニバス									
担当教員	氏名 安藤,朝井,片岡,河上,紀,菅田,田中,橋本,工藤,滝口,齋藤,河野(洋),河野(伸),村上 E-mail takako-ando@oita-u.ac.jp 内線 8001																
授業の概要	チュートリアル ~ を通して,座学で学んだ知識が実際の現場でどのように役立つかを学習し,課題解決に必要な専門職間の連携と生活を包括的に支援するマネジメントおよびリーダーシップ能力を涵養することを目的とする。																
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	コース毎にグループを編成して,事例の検討・発表を行う。																
目標2	専門職としての問題解決についてのアプローチ方法を学ぶ。																
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)								10									
授業の内容																	
1	事例 提示,学習項目の抽出																
2	事例 討議,発表の準備																
3	事例 学習成果の発表,まとめ																
4	事例 提示,学習項目の抽出																
5	事例 討議,発表の準備																
6	事例 学習成果の発表,学習のまとめ																
7	事例 提示,学習項目の抽出																
8	事例 討議,発表の準備																
9	事例 学習成果の発表,学習のまとめ																
10	事例 提示,学習項目の抽出																
11	事例 討議,発表の準備																
12	事例 学習成果の発表,学習のまとめ																
13	事例 提示,学習項目の抽出																
14	事例 討議,発表の準備																
15	事例 学習成果の発表,学習のまとめ																
ラーニング	A:知識の定着・確認	問題解決型学習、グループ単位での教えあい・学びあい、発表				工 夫		そ の 他 の									
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	グループで抽出した学習項目について十分な自己学習をした上で、グループ討議に臨むこと。 グループ課題が時間内に終わらない時は、空いた時間にグループ活動を行うこと。(30h)															
	事後学修	他のグループの発表や教員による解説を参考に省察し、課題の完成度を高めること。(15h)															
	想定時間合計	45															
教科書	特に指定しない																
参考書	特に指定しない																

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	グループ活動への参加状況	30%										
	発表	30%										
	達成度確認テスト（学習成果物、レポート等）	40%										
注意事項	なし											
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事例ごとに、司会者・書記を選出する。司会者と書記は毎回変更すること。 ・発表についても、事例ごとに発表者を変更すること。 											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の有無												
教員の 実務経験	理学療法士、社会福祉士、臨床心理士・公認心理師、看護師・保健師、医師											
実務経験を いかした 教育内容	グループ学習を通じて、学生が専門的知識を深め、問題解決についてのアプローチ方法を学ぶ。 チューターである教員は学習のファシリテーターとして参加し、議論の経過を見守りつつ、必要に応じて助言・指導を行う。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H010A204		チュートリアル (Tutorial)							対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
必修	2	2年	福祉健康科学部	後期	火3	日本語			複数(共同)、オムニバス							
担当教員	氏名 安藤,朝井,片岡,河上,紀,菅田,田中,橋本,工藤,滝口,齋藤,河野(洋),河野(伸),村上 E-mail takako-ando@oita-u.ac.jp 内線 8001															
授業の概要	チュートリアル ~ を通して,座学で学んだ知識が実際の現場でどのように役立つかを学習し,課題解決に必要な専門職間の連携と生活を包括的に支援するマネジメントおよびリーダーシップ能力を涵養することを目的とする。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	コース毎にグループを編成して,事例の検討・発表を行う。															
目標2	専門職としての問題解決についてのアプローチ方法を学ぶ。															
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							10									
授業の内容																
1	事例 提示,学習項目の抽出															
2	事例 討議,発表の準備															
3	事例 学習成果の発表,まとめ															
4	事例 提示,学習項目の抽出															
5	事例 討議,発表の準備															
6	事例 学習成果の発表,学習のまとめ															
7	事例 提示,学習項目の抽出															
8	事例 討議,発表の準備															
9	事例 学習成果の発表,学習のまとめ															
10	事例 提示,学習項目の抽出															
11	事例 討議,発表の準備															
12	事例 学習成果の発表,学習のまとめ															
13	事例 提示,学習項目の抽出															
14	事例 討議,発表の準備															
15	事例 学習成果の発表,学習のまとめ															
ラーニング	A:知識の定着・確認	問題解決型学習、グループ単位での教えあい・学びあい、発表				工	そ									
	B:意見の表現・交換					夫	の									
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	グループで抽出した学習項目について十分な自己学習をした上で、グループ討議に臨むこと。 グループ課題が時間内に終わらない時は、空いた時間にグループ活動を行うこと。(30h)														
	事後学修	他のグループの発表や教員による解説を参考に省察し、課題の完成度を高めること。(15h)														
	想定時間合計	45														
教科書	特に指定しない															
参考書	特に指定しない															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	グループ活動への参加状況	30%										
	発表	30%										
	達成度確認テスト（学習成果物、レポート等）	40%										
注意事項	なし											
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事例ごとに、司会者・書記を選出する。司会者と書記は毎回変更すること。 ・発表についても、事例ごとに発表者を変更すること。 											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の有無												
教員の 実務経験	理学療法士、社会福祉士、臨床心理士・公認心理師、看護師・保健師、医師											
実務経験を いかした 教育内容	<p>グループ学習を通じて、学生が専門的知識を深め、問題解決についてのアプローチ方法を学ぶ。</p> <p>チューターである教員は学習のファシリテーターとして参加し、議論の経過を見守りつつ、必要に応じて助言・指導を行う。</p>											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H010A204		チュートリアル (Tutorial)							対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
必修	2	2年	福祉健康科学部	後期	木4	日本語			複数(共同)、オムニバス							
担当教員	氏名 安藤,朝井,片岡,河上,紀,菅田,田中,橋本,工藤,滝口,齋藤,河野(洋),河野(伸),村上 E-mail takako-ando@oita-u.ac.jp 内線 8001															
授業の概要	チュートリアル ~ を通して,座学で学んだ知識が実際の現場でどのように役立つかを学習し,課題解決に必要な専門職間の連携と生活を包括的に支援するマネジメントおよびリーダーシップ能力を涵養することを目的とする。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	コース毎にグループを編成して,事例の検討・発表を行う。															
目標2	専門職としての問題解決についてのアプローチ方法を学ぶ。															
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							10									
授業の内容																
1	事例 提示,学習項目の抽出															
2	事例 討議,発表の準備															
3	事例 学習成果の発表,まとめ															
4	事例 提示,学習項目の抽出															
5	事例 討議,発表の準備															
6	事例 学習成果の発表,学習のまとめ															
7	事例 提示,学習項目の抽出															
8	事例 討議,発表の準備															
9	事例 学習成果の発表,学習のまとめ															
10	事例 提示,学習項目の抽出															
11	事例 討議,発表の準備															
12	事例 学習成果の発表,学習のまとめ															
13	事例 提示,学習項目の抽出															
14	事例 討議,発表の準備															
15	事例 学習成果の発表,学習のまとめ															
ラーニング	A:知識の定着・確認	問題解決型学習、グループ単位での教えあい・学びあい、発表				工	そ									
	B:意見の表現・交換					夫	の									
	C:応用志向					他	の									
	D:知識の活用・創造					の										
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	グループで抽出した学習項目について十分な自己学習をした上で、グループ討議に臨むこと。 グループ課題が時間内に終わらない時は、空いた時間にグループ活動を行うこと。(30h)														
	事後学修	他のグループの発表や教員による解説を参考に省察し、課題の完成度を高めること。(15h)														
	想定時間合計	45														
教科書	特に指定しない															
参考書	特に指定しない															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	グループ活動への参加状況	30%										
	発表	30%										
	達成度確認テスト（学習成果物、レポート等）	40%										
注意事項	なし											
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事例ごとに、司会者・書記を選出する。司会者と書記は毎回変更すること。 ・発表についても、事例ごとに発表者を変更すること。 											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の有無												
教員の 実務経験	理学療法士、社会福祉士、臨床心理士・公認心理師、看護師・保健師、医師											
実務経験を いかした 教育内容	<p>グループ学習を通じて、学生が専門的知識を深め、問題解決についてのアプローチ方法を学ぶ。</p> <p>チューターである教員は学習のファシリテーターとして参加し、議論の経過を見守りつつ、必要に応じて助言・指導を行う。</p>											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H010A305		チュートリアル (Tutorial)							対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	2	3	福祉健康科学部	後期	火2	日本語	英語	複数(共同)								
担当教員	氏名 萬井,大塚,阿南,橋本,工藤,滝口,齋藤,河野(洋),渡邊,池永,古長,増田 E-mail hmieko@oita-u.ac.jp 内線 7604															
授業の概要	チュートリアル ~ を通して、座学で学んだ知識が実際の現場でどのように役立つかを学習し、課題解決に必要な専門職間の連携と生活を包括的に支援するマネジメントおよびリーダーシップ能力を涵養することを目的とする。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	グループで抽出した学習項目にそった自己学習を行う。															
目標2	グループ活動に積極的に参加する。															
目標3	グループ学習の成果を発表する。															
目標4	チームアプローチの全体性について説明できる。															
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							3	3	4							
授業の内容																
1	事例 -1提示、学習項目の抽出															
2	事例 -1討議、学習のまとめ															
3	事例 -2提示、学習項目の抽出															
4	事例 -2討議、発表準備															
5	事例 学習成果の発表、質疑応答、教員による解説															
6	事例 -1提示、学習項目の抽出															
7	事例 -1討議、学習のまとめ															
8	事例 -2提示、学習項目の抽出															
9	事例 -2討議、発表準備															
10	事例 学習成果の発表、質疑応答、教員による解説															
11	事例 -1提示、学習項目の抽出															
12	事例 -1討議、学習のまとめ															
13	事例 -2提示、学習項目の抽出															
14	事例 -2討議、発表準備															
15	事例 学習成果の発表、質疑応答、教員による解説															
ラーニング チェック ポイント グループ	A:知識の定着・確認	問題解決型学習				工夫 その他 の	3コース合同のグループ編成とすることで他の専門領域への理解が深まり、多角的視点をもって発展的に討議することができる									
	B:意見の表現・交換	3コース合同のグループ単位による教えあい・学びあい、発表、全体での討議														
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	グループで抽出した学習項目について十分な自己学習をした上で、話し合いに臨むこと。 グループ課題が時間内に終わらない時は、空いた時間にグループ活動を行うこと。(30h)														
	事後学修	他のグループの発表や教員による解説を参考に省察し、課題の完成度を高めること。(15h)														
	想定時間合計	45														
教科書	特に指定しない。															
参考書	特に指定しない。															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	グループ活動の参加状況	30%										
	発表	30%										
	達成度確認テスト（学習成果物、レポート等）	40%										
注意事項	なし。											
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1～4コマの全てのグループ活動において、司会者・書記を選出する。司会者と書記は毎回変更すること。 ・ 5コマ目の発表について、事例ごとに発表者を変更すること。 ・ 1～4コマの全てのグループ活動において、小グループ（各コース1～2名）で話し合いをしたのち、グループ全体での討議へと移ること。 											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士、社会福祉士、臨床心理士・公認心理師、看護師・保健師、医師											
実務経験を いかした 教育内容	<p>チューターである教員は学習のファシリテーターとして参加し、議論の経過を見守りつつ、必要に応じて助言・指導を行う。事例作成者である教員は、各専門資格による実地の臨床経験に基づいた知識、考え方を提供する。</p>											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H010A402	チュートリアル (Tutorial)						対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	1	4年	福祉健康科学 部 /全コー ス	後期	他	日本語		複数(共同)					
担当 教員	氏名 後藤、増田、志賀、志方、大塚、河野(洋)、萬井、片岡、紀、徳丸、溝口、松本、橋本、工藤、渡邊、河野(伸)、八木、中里、飯田、中山、安藤、朝井、河上、田中、菅田、村上、齋藤、池永、阿南、滝口、古長 E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120・6125												
授業 の概 要	チュートリアルでは、福祉健康科学部における理学療法、社会福祉、心理学各コースに加えて、医学部医学科、看護科と合同にて症例検討、討議を行う。チュートリアルを通して、座学で学んだ知識が実際の現場でどのように役立つかを学習し、課題解決に必要な専門職間の連携と生活を包括的に支援するマネジメントおよびリーダーシップ能力を涵養することを目的とする。また地方自治体における各種地域ケア会議を見学することにより、各専門職を目指す立場として地域包括ケアへの参加、貢献方法について学ぶ。合同演習では医学部と合同で5専門領域による演習を行い、多職種連携について学ぶ。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	実際の地域ケア会議を見学し、会議の進め方や各専門職の役割分担、各専門職連携による生活全体への支援の実際を学ぶ												
目標2	福祉健康科学部と医学部合同で、模擬的な地域ケア会議を総合的に実施し、自己の課題を見つけ今後の学修につなげる。												
目標3													
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							2	3	3	2			
授業の内容													
1	模擬地域ケア会議												
2	模擬地域ケア会議												
3	模擬地域ケア会議												
4	模擬地域ケア会議												
5	学内グループワーク(医学部と合同): 事例提示、討議												
6	学内グループワーク(医学部と合同): 発表準備												
7	学内グループワーク(医学部と合同): 発表												
8	学内グループワーク(医学部と合同): 討議、まとめ・解説												
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
ラ ー ク ニ ン テ ィ グ ラ フ	A:知識の定着・確認	実際の地域ケア会議見学により、これまで身につけた知識の応用、また現場の問題との相違について体験する。					工 夫 の 他 の						
	B:意見の表現・交換	学内グループワーク(医学部と合同)では、各5専門領域が集まり、一つの症例に対して討議、検討を行うことで、より実践的に地域包括ケアを学ぶ。											
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	学内グループワーク(医学部と合同)においては、事例シートを事前に配布し、その症例に対して予習を行う(15h)											
	事後学修	地域ケア会議見学、学内グループワークで学んだ事例において、それぞれの役割分担、他職種との連携について知識をまとめる(15h)											
	想定時間合計	30											
教科書	特に指定しない。												
参考書	特に指定しない。												

コース専門科目
(理学療法コース)

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式
H030B101		情報科学 (Statistics)					基礎系	対面
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
必修	1	1	福祉健康科学 部理学療法コ ース	前期	他	日本語	英語	複数(共同)
担当 教員	氏名 徳丸治, 菅田陽怜, 江島伸興(非常勤) E-mail ostokuma 内線 7972							
授業 の概 要	理学療法士として学術論文や専門書に記された数理統計的な情報を正しく理解し, また, レポート等に基礎的な記述ができることを目標とする。導入として, 理学療法士と情報科学との関連性について, 具体例を呈示してその必要性和重要性について理解を深める。その上で, 医療統計学の専門家を招いて情報科学の基礎から応用まで教授する。実際のデータを用いた演習形式を交えて, 実際の統計学の理解を目指す。							
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7
目標1 学術論文や専門書に記された数理統計的な情報を説明できる。								
目標2 レポート等への基礎的な記述ができる。								
目標3								
目標4								
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
各DPへの関連度(計10)							3	3 3 1
授業の内容								
1	導入(菅田)							
2	資料の整理(江島・徳丸)							
3	確率変数とその分布(江島・徳丸)							
4	母数の推定(江島・徳丸)							
5	標本分布(江島・徳丸)							
6	統計的検定論:二標本検定(江島・徳丸)							
7	回帰分析(江島・徳丸)							
8	実験計画法(江島・徳丸)							
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	学生一人一人が表計算ソフトを操作する演習により, 実際の統計学の基礎を確実に理解することを目指す。					工 夫 の 他 の	
	B:意見の表現・交換							
	C:応用志向							
	D:知識の活用・創造							
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	配布資料や参考図書で講義内容の予習を行うこと(30h)。						
	事後学修	配布資料や参考図書で講義内容の復習を行うこと。特に配布資料中の課題の答案を作成すること(30h)。						
	想定時間合計	60						
教科書	参考書を基に作成したテキストを配布する。							
参考書	浅野長一郎・江島伸興 基本多変量解析, 日本規格協会出版, 1995. ISBN: 978-4542601055 Nobuoki Eshima. Statistical Data Analysis and Entropy, Springer, 2020. ISBN: ISBN-13 : 978-9811525513							

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	定期試験	50%										
課題レポート	50%											
注意事項	集中講義として実施する。 受講時に各自ラップトップパソコンを持参すること（表計算ソフトウェアの使用に慣れておくこと）。											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医師、理学療法士，高等学校教諭											
実務経験を いかした教 育内容	医師，理学療法士，高校教諭としての実務経験をもつ教員が，臨床・研究・教育経験を生かし，情報科学の基礎から応用までを教育する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H020B111		解剖学 (Anatomy I)					基礎系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態						
選択(理学療法コースは必修)	1	1	福祉健康科学部	前期	木2	日本語		英語		オムニバス						
担当教員	氏名 紀 瑞成, 河上 敬介 E-mail ji@oita-u.ac.jp, kkawakami@oita-u.ac.jp 内線 7973(紀), 7735(河上)															
授業の概要	人体構造を理解するためには、細胞生物学、組織学、肉眼解剖学そして発生学という形態学の様々なレベルでの知識が必要である。本講義では、これらの学問を有機的に関連づけながら学習する。また、理学療法に重要となる骨、関節・靭帯、筋については、詳細な構造とともに働きも学び、他の器官との共通性と相違性について理解を深める。さらに、機能的、臨床的な関連性も含め講義することで、理学療法における解剖学的重要性を理解する。なお骨については、体表から触知できるランドマークに関して学習する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	人体の基本的構造について形態学の様々なレベルを説明できる。															
目標2	骨、筋、関節などの運動器系について、その詳細な構造、基本的な働き、他の器官との共通性と相違性について説明できる。															
目標3	細胞と組織の基本的構造および機能について説明できる。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							10									
授業の内容																
1	解剖学序論 解剖学用語、細胞・組織・器官・器官系(河上)															
2	人体発生学 発生の概論(胚子・器官系・胎児)(紀)															
3	組織学総論(上皮組織、結合組織 軟骨組織・骨組織)(紀)															
4	組織学総論(筋組織 骨格筋・心筋・平滑筋、神経組織、皮膚)(紀)															
5	組織学各論(消化器 肝臓・膵臓・胃・小腸)(紀)															
6	組織学各論(呼吸器 肺・気管、内分泌器 甲状腺・副腎)(紀)															
7	組織学各論(循環器 心臓・動脈・静脈、造血組織、リンパ組織)(紀)															
8	組織学各論(泌尿器 腎臓、生殖器 精巣・卵巣)(紀)															
9	組織学各論(大脳・脊髄)(紀)															
10	骨学総論(河上)															
11	骨学各論(河上)															
12	関節学(河上)															
13	筋学概論(河上)															
14	筋学各論(河上)															
15	体表解剖学総論(ランドマーク)(河上)															
ラーニング チェック ポイント グループ	A:知識の定着・確認	演習、小テスト				工夫 その 他の	学生がより深く学ぶための工夫:オリジナルの写真等の資料や模型を用いて解説する。									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	事前にテキストをよく読んでおく。(約1時間x15)														
	事後学修	医学に用いる用語を初めて学ぶ講義となる。解剖学用語の意味が理解できないと、理学療法学の情報の入手は困難となる。そのために英単語を記憶した時と同様に、解剖学用語の記憶に費やす時間外学習は必須である。(約2時間x15)														
	想定時間合計	45														
教科書	野村嶺編『標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野解剖学 第6版』(医学書院,2024) ISBN: 978-4-260-03922-2; 牛木辰男『入門組織学 改訂第2版』(南江堂,2013) ISBN: 978-4-524-21617-8															
参考書	金子丑之助原著『日本人体解剖学』19版上巻,下巻(南山堂,2000) ISBN: 978-4-525-10110-7; 伊藤隆『組織学 改訂19版』(南山堂,2005); A.L.Kierszenbaum,内山安男訳『組織細胞生物学』(南江堂,2006); Sobotta,藤田,石村訳『実習人体組織学図譜第5版』(医学書院,2005); 石村和敬,井上貴央監訳『最新カラー 組織学』(西村書店,2007); T.W.Sadler著,山田重人・安田峯生(訳)『ラングマン人体発生学』(メディカルサイエンスインターナショナル,2024)															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
		講義中に実施する小テスト	30%									
	期末試験	70%										
	期末試験は60点以上を合格とする。											
注意事項	他学部との関係で、定められた曜日・時限以外の開講もあるので、講義1回目に渡す日程表に従って授業計画をたてること。											
備考	なし											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H030B112		解剖学 実習 (Practice of Anatomy I)					基礎系	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
必修	2	1	福祉健康科学部	前期	木3,木4,木5	日本語	英語	複数(共同)、オムニバス						
担当教員	氏名 紀 瑞成, 河上敬介, 菅田陽怜, 大塚章太郎 E-mail ji@oita-u.ac.jp, kkawakami@oita-u.ac.jp 内線 7973(紀), 7735(河上)													
授業の概要	細胞学・組織学実習と運動器系における肉眼解剖学実習を行う。細胞学・組織学実習では、解剖学Iの講義で学んだ細胞や組織の構造を実際にプレパラート観察により理解を深める。肉眼解剖学実習では、医学部解剖学教室の協力のもと、実際の骨標本や液浸標本を用いて実施する。主に、骨、関節・靭帯、筋について、各器官の詳細な形状を観察し、その形状の意味を考える。さらに、複数遺体における骨標本や液浸標本を観察し、個体ごとの共通点や相違点を学び、人体の多様性を学習する。なお骨に関しては、講義で学んだ体表から触知できる簡単なランドマークに関して触察実習を行う。													
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1 上皮組織・結合組織・筋組織・神経組織の基本構造を説明できる。														
目標2 主な器官の構造的特徴を説明できる。														
目標3 運動器系については、各器官の位置や器官中の各部位の名称を説明できる。														
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)							4	3	3					
授業の内容														
1 組織学実習ガイダンス(組織学実習とは、顕微鏡の使い方など)(紀)														
2 組織学実習(上皮組織, 結合組織, 軟骨組織・骨組織)(紀)														
3 組織学実習(筋組織, 骨格筋・心筋・平滑筋, 神経組織, 皮膚)(紀)														
4 組織学実習(消化器 肝臓・膵臓・胃・小腸)(紀)														
5 組織学実習(呼吸器 肺・気管, 内分泌器 甲状腺・副腎)(紀)														
6 組織学実習(循環器 心臓・動脈・静脈, 造血組織, リンパ組織)(紀)														
7 組織学実習(泌尿器 腎臓・膀胱, 生殖器 精巣・卵巣)(紀)														
8 組織学実習(大脳・脊髄)(紀)														
9 肉眼解剖学実習ガイダンス(解剖学実習とは、解剖学実習の環境と心得)(河上)														
10 骨学実習(1)(河上、菅田、大塚)														
11 骨学実習(2)(河上、菅田、大塚)														
12 関節学実習(1)(河上、菅田、大塚)														
13 筋学実習(1)(河上、菅田、大塚)														
14 筋学実習(1)(河上、菅田、大塚)														
15 身体部位・体表観察(河上、菅田、大塚)														
ラーニング チェック ポイント グループ	A:知識の定着・確認		小テスト、口頭試問、グループでの共同作業、グループ発表			工 夫 そ の 他 の	人体液浸標本を用いて解説する。							
	B:意見の表現・交換													
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		講義とセットで進めていくため、事前にテキストを読んでおくこと。(約1時間x15)											
	事後学修		医学に用いる用語を初めて学ぶ講義となる。解剖学用語の意味が理解できないと、理学療法学の情報の入手は困難となる。そのためには英単語を覚えた時と同様に、解剖学用語の記憶に費やす。時間外学習は必須である。(約2時間x15)											
	想定時間合計		45											
教科書	野村靖編『標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野解剖学 第6版』(医学書院, 2024) ISBN: 978-4-260-03922-2; 牛木辰男編『入門組織学 改訂第2版』(南江堂, 2013) ISBN: 978-4-524-21617-8; 河上敬介, 磯貝香編『骨格筋の形と触察法改訂第2版』(大峰閣, 2013) ISBN: 10-4998068628													
参考書	J.W.Rohen, 横地千訊共著『解剖学カラーアトラス第7版』(医学書院, 2012) ISBN: 978-4-260-01378-9; V. P. Eroschenko 著, 相磯貞和(訳)『diFiore人体組織図譜 原著第11版』(南江堂2011) ISBN: 978-4-524-26004-1													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	実習中に実施する口頭試問	30%										
	実習中に実施する小テスト	30%										
	期末口頭試問	40%										
注意事項	他学部との関係で、定められた曜日・時限以外の開講もあるので、講義 1 回目に渡す日程表に従って授業計画をたてること。											
備考	スケジュールの詳細に関しては、第1回目に提示する。											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030B113		解剖学 (Anatomy)					基礎系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	1	1	福祉健康科学部	後期	木3	日本語	英語	オムニバス								
担当教員	氏名 紀 瑞成, 河上 敬介															
	E-mail ji@oita-u.ac.jp, kkawakami@oita-u.ac.jp 内線 7973(紀), 7735(河上)															
授業の概要	解剖学 にひきつづき, 人体の構造についての知識を深める。具体的には, 消化器系, 呼吸器系, 循環器系, 泌尿器系, 内分泌器系, 感覚器系, 中枢神経系, 末梢神経系の諸系統に分けて学習する。特に, 神経系に関しては, その構造と役割について詳しく学習する。更に, 局所解剖学を主体として, 四肢, 体幹の各部位ごとに主に運動器系, 神経系, 循環器系の位置関係について理解を深める。これらの講義を通して, 臨床で必要とされる人体構造の基礎について理解し, その面白さを学習する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 各系統の定義や役割, および主な器官の位置や構造を説明できる。																
目標2 四肢, 体幹の各部位ごとに主な運動器系, 神経系, 循環器系の位置関係について説明できる。																
目標3 個々の筋の起始・停止・神経支配・脊髄髄節レベル・作用を説明できる。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									10							
授業の内容																
1 肩甲部1の局所解剖学(河上)																
2 肩甲部2, 上腕部の局所解剖学(河上)																
3 前腕部の局所解剖学(河上)																
4 胸郭, 体幹前面1の局所解剖学(河上)																
5 体幹前面2, 体幹後面の局所解剖学(河上)																
6 骨盤, 臀部の局所解剖学(河上)																
7 大腿部の局所解剖学(河上)																
8 下腿部の局所解剖学(河上)																
9 内臓学I(循環器系・呼吸器系)(紀)																
10 内臓学II(消化器系・泌尿器系)(紀)																
11 内臓学III(生殖器系・内分泌器系)(紀)																
12 感覚器系概論, 皮膚・視覚器・平衡聴覚器(紀)																
13 神経系総論 神経系の区分・構成・髄膜と脳室系(紀)																
14 中枢神経系概論: 脊髄・大脳半球の特徴(紀)																
15 末梢神経系概論, 脊髄神経・脳神経・自律神経系の特徴(紀)																
ラーニング	A:知識の定着・確認		演習・小テスト			工夫 その他	解剖学IIとその実習は時間を区切らず, 実物を見ながら理解を深めることができるように進める。									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		事前にテキストをよく読んでおく。(約1時間x15)													
	事後学修		医学に用いる用語を初めて学ぶ講義となる。解剖学用語の意味が理解できないと, 理学療法士の情報の入手は困難となる。そのために英単語を記憶した時と同様に, 解剖学用語の記憶に費やす時間外学習は必須である。(約2時間x15)													
	想定時間合計		45													
教科書	野村嶺編『標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野解剖学 第6版』(医学書院, 2024) ISBN: 978-4-260-03922-2															
参考書	小川 鼎三, 森 於菟『分担解剖学1巻 改訂第11版』(金原出版, 1950) ISBN: 978-4-307-00341-4; 平沢興『分担解剖学2巻 改訂第11版』(金原出版, 1950) ISBN: 978-4-307-00342-1; 小川鼎三『分担解剖学3巻 改訂第11版』(金原出版, 1950) ISBN: 978-4-307-00343-8; Frank H.Netter著, 相磯貞和(訳)『ネッター解剖学アトラス 第5版』(南江堂2011) ISBN: 9784524269693															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
		講義中に実施する小テスト	30%									
	期末試験	70%										
	期末試験は60点以上を合格とする。											
注意事項	他学部との関係で、定められた曜日・時限以外の開講もあるので、講義1回目に渡す日程表に従って授業計画をたてること。											
備考	スケジュールの詳細に関する説明は、前期後半に提示する。											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030B114		解剖学 実習 (Practice of Anatomy)					基礎系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	2	1	福祉健康科学部	後期	木4,木5	日本語	英語	複数(共同)、オムニバス								
担当教員	氏名 紀 瑞成, 河上敬介, 菅田陽怜, 大塚章太郎, 川上 健二(非常勤) E-mail ji@oita-u.ac.jp, kkawakami@oita-u.ac.jp 内線 7973(紀), 7735(河上)															
授業の概要	医学部解剖学教室の協力のもと, 実際の骨標本や液浸標本を用いて実施する。具体的には, 消化器系, 呼吸器系, 循環器系, 泌尿器系, 内分泌器系, 感覚器系, 中枢神経系, 末梢神経系の標本により, 各器官系の構造を詳細に観察し, 各器官系の役割について考察する。また, 胸部と腹部に分けて各器官系同士の位置関係を観察し, その意味について考察する。更に, 運動器系に関しては, 四肢, 体幹の各部位における末梢神経や脈管との三次元的な位置関係を詳細に観察するとともに, 生体において触察を行う体表解剖学実習を実施する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 各系統間の位置関係を説明できる。																
目標2 各系統を構成する器官の位置関係や構造を説明できる。																
目標3 骨・筋・末梢神経・脈管に関しては体表から触察できる。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									4	3	3					
授業の内容																
1	肩甲部(1)の構造の観察と触察(河上, 菅田, 大塚, 川上)															
2	肩甲部(2)、上腕部(1)の構造の観察と触察(河上, 菅田, 大塚, 川上)															
3	上腕部(2)、前腕部(1)の構造の観察と触察(河上, 菅田, 大塚, 川上)															
4	前腕部(2)の構造の観察と触察(河上, 菅田, 大塚, 川上)															
5	胸郭、内臓の構造の観察と触察(河上, 菅田, 大塚, 川上)															
6	体幹前面の構造の観察と触察(河上, 菅田, 大塚, 川上)															
7	体幹後面、骨盤の構造の観察と触察(河上, 菅田, 大塚, 川上)															
8	臀部、大腿部(1)の構造の観察と触察(河上, 菅田, 大塚, 川上)															
9	大腿部(2)の構造の観察と触察(河上, 菅田, 大塚, 川上)															
10	下腿部の構造の観察と触察(河上, 菅田, 大塚, 川上)															
11	まとめ(河上, 菅田, 大塚, 川上)															
12	胸腔内臓と血管(心臓・肺)の観察(紀)															
13	腹腔内臓と血管(胃・腸・肝臓・膵臓・腎臓)の観察(紀)															
14	骨盤腔内臓と血管(子宮・卵巣・膀胱・直腸、甲状腺・副腎など)の観察(紀)															
15	皮膚・視覚器・平衡聴覚器の観察(紀)															
16	中枢神経系 脳1の観察(紀)															
17	中枢神経系 脳2・脊髄1の観察(紀)															
18	神経系 脊髄2・脊髄神経・脳神経・自律神経系の観察(紀)															
19																
20																
21																
22																
23																
24																
25																
26																
27																
28																
29																
30																
ラーニング	A:知識の定着・確認		小テスト、口頭試問、グループでの共同作業、グループ発表				工 夫		解剖学IIとその実習は時間を区切らず、実物を見ながら理解を深めることができるように進める。							
	B:意見の表現・交換						そ									
	C:応用志向						の									
	D:知識の活用・創造						他									

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	講義とセットで進めていくため、事前にテキストを読んでおくこと。(約1時間x15)										
	事後学修	前半は毎回口頭試問を実施するため復習が必須である(約2時間x15)。										
	想定時間合計	45										
教科書	野村嶺編『標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野解剖学 第6版』(医学書院, 2024) ISBN: 978-4-260-03922-2; 河上敬介, 磯貝香『骨格筋の形と触察法改訂第2版』(大峰閣, 2013) ISBN: 10-4998068628											
参考書	坂井建雄『プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系 第2版』(医学書院, 2011) ISBN: 978-4-260-01068-9; 坂井建雄『プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖 第2版』(医学書院, 2014); 坂井建雄『プロメテウス解剖学アトラス 胸部/腹部・骨盤部 第2版』(医学書院, 2014); 坂井建雄『プロメテウス解剖学アトラス 口腔・頭頸部』(医学書院, 2012); Frank H.Netter著, 相磯貞和(訳)『ネッター解剖学アトラス 第5版』(南江堂2011)											
成績 評価 の 方法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	実習中に実施する口頭試問	40%										
	期末口頭試問	60%										
	期末試験は60点以上を合格とする。											
注意事項	他学部との関係で、定められた曜日・時限以外の開講もあるので、講義1回目に渡す日程表に従って授業計画をたてること。											
備考	スケジュールの詳細に関する説明は、前期後半の実習時に提示する。											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030B104		生理学 (Physiology)					基礎系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	2	1	福祉健康科学 部理学療法コ ース	通年	月1,火5	日本語	英語	複数(共同)								
担当 教員	氏名 徳丸治															
	E-mail ostokuma 内線 7972															
授業 の 概 要	疾病を理解してそのリハビリテーションを図るためには、人体の正常機能を理解することが不可欠である。生体の正常機能についての科学である生理学を学ぶことは、理学療法の基礎として重要である。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	ホメオスタシスの過程を説明することができる。															
目標2	生命を維持する生体の機能である植物機能について説明することができる。															
目標3	外部環境に対する生体の適応の過程である動物機能について説明することができる。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							8	2								
授業の内容																
1	生理学入門：動物機能と植物機能，ホメオスタシス															
2	呼吸機能 - 1：換気機能，ガス交換															
3	呼吸機能 - 2：換気血流比，呼吸機能の調節															
4	循環機能 - 1：心筋の興奮とその伝導，心臓のポンプ機能															
5	循環機能 - 2：血圧の調節，微小循環															
6	消化機能 - 1：消化管運動，消化管吸収															
7	消化機能 - 2：消化液の分泌，消化管ホルモン															
8	体液：細胞内液と細胞外液，アシドーシスとアルカローシス															
9	腎機能：尿の生成と体液の調節，排尿機構															
10	血液：赤血球，白血球，血小板，血漿の成分，凝固															
11	内分泌 - 1：内分泌総論															
12	内分泌 - 2：内分泌各論															
13	自律神経：交感神経と副交感神経															
14	生殖：生殖機能の特徴，男性生殖機能，女性生殖機能															
15	生殖：性の分化と発達															
16	静止膜電位：平衡電位，濃度勾配と電位勾配，ナトリウムポンプ															
17	活動電位：電位依存性Na ⁺ チャネル，電位依存性K ⁺ チャネル，不応期															
18	興奮の伝導：伝導の機序，有髄線維と無髄線維															
19	情報の伝達：シナプス，神経伝達物質															
20	シナプスの可塑性と神経再生：長期増強，長期抑圧，神経再支配															
21	骨格筋：滑走説，興奮収縮連関，骨格筋のエネルギー代謝															
22	自律神経系：交感神経，副交感神経															
23	感覚機能 - 1：感覚総論，体性感覚（皮膚感覚，深部感覚）															
24	感覚機能 - 2：視覚，聴覚，前庭覚															
25	感覚機能 - 3：味覚，嗅覚															
26	運動機能 - 1：運動単位，脊髄反射															
27	運動機能 - 2：脳幹反射，小脳															
28	運動機能 - 3：大脳基底核，大脳皮質運動野															
29	高次脳機能 - 1：連合野，覚醒と睡眠，脳波															
30	高次脳機能 - 2：学習と記憶，情動															
ラ イ ク ニ ン グ ブ	A:知識の定着・確認					講義の冒頭に，前回の講義内容に関する発表を課す。	工 夫 の 他 の									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	参考図書等で次回講義内容の予習を行うこと（60h）。										
	事後学修	配付資料や参考図書等で講義内容の復習を行うこと(60h)。										
	想定時間合計	120										
教科書	特に指定しない。下記参考書等の中から自分にあったものを用意すること。											
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 生理学テキスト第9版（文光堂，2022）大地陸男 著（540頁）ISBN 978-4-8306-0231-3 標準生理学 第9版（医学書院，2019）本郷利憲，廣重力，豊田順一，熊田衛 編集（1202頁）ISBN 978-4260034296 ギャノン生理学 原書第26版（丸善，2022）W.F. Ganong著，岡田泰伸監修（910頁）ISBN 978-4621307083 											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	定期試験	80%										
	課題レポート	20%										
注意事項	高等学校において数学III，物理，化学，生物を履修していることを前提として講義を行う。											
備考	上記の参考書は担当教員の居室（福祉健康科学部研究棟2階）で実物を見ることができる。											
リンク	researchmap（担当教員の教育・研究・社会貢献の概要を知ることができる） URL https://researchmap.jp/osamu_tokumaru											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	医師，元・航空自衛隊航空医官，予備自衛官											
実務経験を いかした教 育内容	臨床や健康管理業務での経験に基いた教育を心掛けたい。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B103		生理学実習 (Practicum in physiology)					基礎系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必修	2	1	福祉健康科学 部理学療法コ ース	後期	月2,月3,月4	日本語	英語	単独							
担当 教員	氏名 徳丸治 E-mail ostokuma 内線 7972														
授業 の 概 要	生体の正常機能についての科学である生理学を学ぶことは、理学療法の基礎として重要である。生理学の講義において学習した人体の機能を、刺激に対する生体の反応を実際に観察することにより、真の理解を目指す。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 実習書に基いて正確に実験を行うことができる。															
目標2 観察した結果を正確に記述し、分かり易く提示することができる。															
目標3 結果に基いて論理的に考察することができる。															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
							各DPへの関連度(計10)		3	3	4				
授業の内容															
1 オリエンテーション															
2 カエル坐骨神経の活動電位(1)															
3 カエル坐骨神経の活動電位(2)															
4 ヒト神経の伝導速度(1)															
5 ヒト神経の伝導速度(2)															
6 味覚															
7 皮膚感覚															
8 視覚(視野)															
9 聴覚(音源定位)															
10 眼球運動															
11 脳波															
12 誘発電位と事象関連電位															
13 実習成果発表会準備(プレゼンテーション作成)															
14 実習成果発表会準備(プレゼンテーション中間チェック)															
15 実習成果発表会(口演またはポスターによるプレゼンテーション)															
ラ イ ク ニ テ ィ グ ブ	A:知識の定着・確認		生理学実習のレポートを課す。実習で得られたデータに基づいた学習グループ内での議論を通じて、人体の機能に対する理解を深めることを期待する。自然科学のレポートとして、一定水準に達するまで繰り返し指導を行うので、積極的な取り組みを期待する。					工 夫 の 他 の							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		実習書を熟読し、どのような実習を行うか十分に理解しておくこと(30h)。												
	事後学修		実習で得たデータを整理し、必要な解析を行い、実習班毎にレポートにまとめる(60h)。												
	想定時間合計		90												
教科書		特に指定しない。下記参考書等の中から自分にあったものを用意すること。													
参考書		日本生理学会教育委員会監修・新訂生理学実習書・南江堂(東京,2013)ISBN 978-4-524-26258-8													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		レポート	50%									
	実習成果発表会	50%										
注意事項												
備考	上記の参考書は担当教員の居室（福祉健康科学部研究棟2階）で実物を見ることができます。											
リンク	researchmap（担当教員の教育・研究・社会貢献の概要） URL https://researchmap.jp/osamu_tokumaru											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医師，元・航空自衛隊航空医官，予備自衛官											
実務経験を いかした教 育内容	臨床や健康管理業務での経験に基いた教育を心掛けたい。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030B105		生化学 (Biochemistry)					基礎系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
必修	1	1	福祉健康科学部	前期	火4	日本語			オムニバス							
担当教員	氏名 安部眞佐子・岩崎香子(福・非) E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120															
授業の概要	生活を包括的に支援するためには、生命現象の基礎を生体分子から理解する必要がある。さらに生体分子の代謝を理解し、健全状態や病態において人体でおこっていることを想像できる力をつける。実践を展開する際の確かな用語で他職種とディスカッションでき、対象者に説明できるような応用力のある生化学的知識を獲得することを目指す。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 生体分子の種類と役割を説明できる。																
目標2 生体内の代謝を関連付け、統合された人体の中でイメージできる																
目標3 恒常性維持のメカニズムを説明できる																
目標4 病態の生化学を他の科目の学習に応用できる																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									6		4					
授業の内容																
1 人体を構成する化学物質と細胞																
2 食物成分の生体への取り込みと利用																
3 安静・運動時の生体エネルギーの産出と利用																
4 生体と食物に含まれる糖質の種類と血糖維持																
5 脂質の細胞レベルと個体レベルでの役割																
6 窒素源としてのタンパク質																
7 遺伝情報を伝えるための核酸の代謝と栄養の関わり																
8 生体内での酵素の役割と異常																
9 細胞間・細胞内の情報伝達																
10 ホルモン・生理活性物質と作用(1)(視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺)																
11 ホルモン・生理活性物質と作用(2)(膵、副腎、性腺、消化管ホルモン)																
12 内分泌系異常と疾病、体液調節																
13 ビタミンの役割と異常																
14 ミネラルの役割と異常																
15 生体防御の基本的仕組み																
ラーニングチェックシート	A:知識の定着・確認		復習のための小テストを講義中に行う。			工 夫 そ の 他 の										
	B:意見の表現・交換		ミニッツペーパーで知識定着の程度を確認する。													
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		授業前に教科書の該当箇所を必ず読んでおいてください(1h×15回)。教科書の関連箇所の動画を視聴しておいてください(1h×15回)													
	事後学修		教科書や配布資料を用いて、授業で学習した内容を復習してください(2h×15回)。													
	想定時間合計		60													
教科書	山田和彦監修、福島亜紀子、叶内宏明編集「基礎から学ぶ生化学」改訂第4版(南江堂)。2025年 ISBN:9784524207626 高松研・堀内ふき(医学映像教育センター)「生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖生理」第3版。2020年 ISBN:9784862438317															
参考書	D.Papachristodoulou, 他。「エリオット生化学・分子生物学」(東京化学同人)。2016年 ISBN:9784807908608 石崎泰樹、丸山 敬(監修、翻訳)「イラストレイテッド 生化学」(リッピンコットシリーズ)原著8版(丸善出版)。2023年 ISBN:9784621308523															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		講義中に実施する小テスト	30%									
	期末試験	70%										
	講義中に実施する小テストと期末試験の合格を単位取得の条件とする。											
注意事項	生化学は生理学の内容と深く関連しているので、生理学の内容をリンクさせることを念頭に置いて講義に臨んでください。											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	安部眞佐子（管理栄養士）											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	大学の保健センターで栄養指導											
実務経験を いかした教 育内容	リハビリテーションで必要とされる人体の栄養について考慮しながら、生化学の知識を習得する。											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
H020B121	病理学 (Pathology)					基礎系	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態				
理学療法コース：必修，その他のコース：選択	1	1	福祉健康科学部	後期	金5	日本語		単独				
担当教員	氏名 守山 正胤 E-mail mmoriyam@oita-u.ac.jp 内線											
授業の概要	医療の現場で患者と関わるためには、個々の患者の病気についての深い理解が必須である。病理学とは病気の成り立ちを明らかにする学問であり、従って本授業では疾患の病気の成り立ち(病因)と病態を正しく理解することを目的とする。そして医療現場における病理学の果たす役割を理解することを目的とする。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1	病理学総論で扱う細胞傷害、炎症、免疫、循環障害、感染症、先天異常、腫瘍、生活習慣病、難病の病因・病態を説明できる。											
目標2	病理学各論で扱う各臓器の疾患の病因・病態を説明できる。											
目標3	医療現場における病理診断学の役割を理解し、各疾患の組織学的特徴を説明できる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)						4	3	3				
授業の内容												
1	病理学とはなにか											
2	細胞傷害											
3	炎症											
4	免疫											
5	循環障害											
6	先天異常・遺伝性疾患											
7	感染症											
8	生活習慣病											
9	腫瘍											
10	各論(循環器、呼吸器疾患)											
11	各論(神経疾患)											
12	各論(消化器疾患)											
13	各論(内分泌・代謝疾患)											
14	各論(アレルギー疾患、膠原病)											
15	各論(血液・造血器疾患)											
ラーニング	A:知識の定着・確認	疾病の理解に不可欠な病理学総論の知識を国際的に定評のある教科書を					工夫 その 他の	予習、復習を慣例化させることにより学力向上を図る。				
	B:意見の表現・交換	活用して深く理解し、各論で学ぶ疾病の発症と進展のメカニズムの理解										
	C:応用志向	できるように自ら学ぶこと。										
	D:知識の活用・創造											
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	必ず事前に予習をしていくこと(15h)										
	事後学修	講義前に前回講義のアープメント小テストを多く実施するので復習をしっかりすること(30h)										
	想定時間合計	45										
教科書	ロピンス基礎病理学 原書11版 丸善出版 Kumar, Abbas, Aster 監訳 豊國伸哉、高橋雅秀 2025年1月 9784621308622											
参考書	新しい免疫入門 第2版 免疫の基本的なしくみ(講談社) 審良静男、黒崎知博、村上 正晃 2024年05月 978-4-06-535747-7											

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		筆記試験	100%									
注意事項	なし											
備考	学生がより深く学ぶための工夫として一方的な講義ではなく、学生とdiscussionしながら学生の理解を導くような授業のやり方をしています											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	医師											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
H020B122		人間発達学 (Human Development)					基礎系	対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必修	1	1	福祉健康科学 部理学療法コ ース	後期	水1	日本語	英語	複数(共同)							
担当 教員	氏名 紀 瑞成, 徳丸 治 E-mail ji@oita-u.ac.jp, ostokuma@oita-u.ac.jp 内線 7973(紀), 7972(徳丸)														
授業 の 概 要	福祉健康科学部の学生は, 将来, さまざまな年齢の人々を対象とした地域包括ケアを担うことが期待されている。この授業は, 受精から出生, 小児を経て成人し, やがて加齢から死に至る過程を理解することを目的とする。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1 受精から出生までの成長と発達について説明できる。															
目標2 出生から思春期に至るまでの小児の成長と発達について説明できる。															
目標3 加齢に伴う人体機能の変化について説明できる。															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							10								
授業の内容															
1 生殖形成(紀)															
2 排卵、着床(紀)															
3 二層性胚盤、三層性胚盤(紀)															
4 胚子期(紀)															
5 胎児期、胎膜・胎盤(紀)															
6 胎児の血液循環(紀)															
7 中枢神経発生の概略とまとめ(紀)															
8 新生児期(徳丸)															
9 乳児期(徳丸)															
10 幼児期(徳丸)															
11 学童期(徳丸)															
12 思春期(徳丸)															
13 青年期(徳丸)															
14 老年期と死(徳丸)															
15 髄鞘形成(徳丸)															
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認		教員が一方向的に話すだけにならないよう, 学生とのdiscussionを楽しみながら講義を行いたい。			工 夫 そ の 他 の									
B:意見の表現・交換															
C:応用志向															
D:知識の活用・創造															
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		下記参考図書等を読んで, 講義内容について予習しておくこと(30h)。												
	事後学修		配布資料や参考図書などによりしっかりと復習を行うこと(30h)。												
	想定時間合計		60												
教科書	指定しない														
参考書	T.W.Sadler著, 山田重人・安田峯生(訳)『ラングマン人体発生学 第12版』(メディカルサイエンスインターナショナル, 2024) ISBN: 978-4-8157-3096-3 内山聖 著『標準小児科学』第8版(医学書院, 2013) ISBN: 978-4-260-01748-0														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		期末試験	100%									
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医師（小児科専門医）											
実務経験を いかした教 育内容	臨床や健康管理業務での経験に基いた教育を心掛けたい。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式
H030B214		運動学 (Kinesiology)					基礎系	対面
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
必修	1	1	福祉健康科学部	後期	火1	日本語	英語	単独
担当教員	氏名 阿南雅也 E-mail anan-masaya@oita-u.ac.jp 内線 6115							
授業の概要	運動学は、人間の身体運動を科学的に分析する学問であり、リハビリテーションの領域の基礎的知識として重要な学問である。本講義では、人間の運動を構成する基礎的な力学、関節や筋の構造と機能などを学ぶ。							
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7
目標1 身体運動の解釈に必要な力学の基礎的知識を説明できる								
目標2 生体の構造と機能を説明できる								
目標3 上肢帯と上肢の運動、下肢帯と下肢の運動、頭部・体幹の運動を説明できる								
目標4								
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
各DPへの関連度(計10)							10	
授業の内容								
1	運動学と理学療法							
2	生体力学の基礎 part 1							
3	生体力学の基礎 part 2							
4	生体力学の基礎 part 3							
5	生体力学の基礎 part 4							
6	生体の構造と機能 part 1							
7	生体の構造と機能 part 2							
8	生体の構造と機能 part 3							
9	上肢帯と上肢の運動 part 1							
10	上肢帯と上肢の運動 part 2							
11	下肢帯と下肢の運動 part 1							
12	下肢帯と下肢の運動 part 2							
13	頭部・体幹の運動 part 1							
14	頭部・体幹の運動 part 2							
15	頭部・体幹の運動 part 3							
ラーニング グループ	A:知識の定着・確認	授業開始時に前回分の小テストを行う。				工夫 その他	動画の活用、LMS(Moodle)を積極的に導入し、予習・復習をしやすい環境を整備	
	B:意見の表現・交換	講義の中でグループディスカッションを適宜行う。						
	C:応用志向	実際の臨床での事例などを交える。						
	D:知識の活用・創造							
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	教科書と事前にMoodleにアップした講義資料を用いて予習する(15h)。						
	事後学修	教科書とMoodleにアップした講義資料や動画を用いて復習する(30h)。						
	想定時間合計	45						
教科書	中村隆一・他：基礎運動学 第7版，医歯薬出版，2025，ISBN：978-4-263-26682-3							
参考書	藤縄理・他：運動学テキスト 改訂第2版(細田多穂 監修)．南江堂，2015，ISBN：978-4-524-26548-0 Neumann DA：筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版(Andrew PD・他 監訳)．医歯薬出版，2018，ISBN：978-4-263-26581-9							

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		学期末試験	80%									
	小テスト	20%										
	各定期試験はそれまでの出席回数が2/3以上の者にのみ受験資格を有す。											
注意事項	やむを得ない理由による授業欠席，定期試験受験欠席のときは，必ず連絡のうえ必要な書類を提出する。											
備考	なし											
リンク	Moodle (2025後期-火1 運動学) を参照すること URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士											
実務経験を いかした 教育内容	理学療法士としての実務経験をもつ教員が，臨床・研究・教育経験を生かして，理学療法士として基礎的知識として重要な運動学の教育を行っている。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B215		運動学 (Kinesiology)					基礎系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必修	1	2	福祉健康科学部	前期	木2	日本語	英語	単独							
担当教員	氏名 阿南雅也 E-mail anan-masaya@oita-u.ac.jp 内線 6115														
授業の概要	運動学 で学んだ身体運動の基本的な力学や関節や筋骨格系の構造・機能連関を基に、これらの学習を基盤とした姿勢や歩行などのメカニズムや、運動制御に関する神経学的、生理学的な基礎知識についても学習する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 姿勢や歩行などのメカニズムを説明できる															
目標2 寝返りや立ち上がり動作などのメカニズムを説明できる															
目標3 運動と動作の分析方法を説明できる															
目標4 疾病や障害の運動学・運動力学的特徴を説明できる															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									10						
授業の内容															
1	姿勢 part 1														
2	姿勢 part 2														
3	歩行と走行 part 1														
4	歩行と走行 part 2														
5	歩行と走行 part 3														
6	生体観察・生体力学の基礎														
7	運動と動作の分析 part 1(三次元動作解析,床反力)														
8	運動と動作の分析 part 2(筋電図)														
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業開始時に前回分の小テストを行う。					工夫その他の	動画の活用, LMS (Moodle) を積極的に導入し, 予習・復習をしやすい環境を整備							
	B:意見の表現・交換	講義の中でグループディスカッションを適宜行う。													
	C:応用志向	実際の臨床での事例などを交える。													
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	教科書と事前にMoodleにアップした講義資料を用いて予習する(8h)。													
	事後学修	教科書とMoodleにアップした講義資料や動画をを用いて復習する(15h)。													
	想定時間合計	23													
教科書	中村隆一・他:基礎運動学 第6版補訂, 医歯薬出版, 2012, ISBN: 978-4-263-21153-3														
参考書	藤縄理・他:運動学テキスト 改訂第2版(細田多穂 監修). 南江堂, 2015, ISBN: 978-4-524-26548-0 Neumann DA:筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版(Andrew PD・他 監訳). 医歯薬出版, 2018, ISBN: 978-4-263-26581-9														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		学期末試験	80%									
	小テスト	20%										
	各定期試験はそれまでの出席回数が2/3以上の者にのみ受験資格を有す。											
注意事項	やむを得ない理由による授業欠席，定期試験受験欠席のときは，必ず連絡のうえ必要な書類を提出する。											
備考	なし											
リンク	Moodle (2025前期-木2 運動学) を参照すること URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士											
実務経験を いかした 教育内容	理学療法士としての実務経験をもつ教員が，臨床・研究・教育経験を生かして，理学療法士として基礎的知識として重要な運動学の教育を行っている。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B216		運動学実習 (Practice of Kinesiology)					基礎系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必須	1	2	福祉健康科学部	後期	金1,金2	日本語	英語	単独							
担当教員	氏名 阿南雅也														
	E-mail anan-masaya@oita-u.ac.jp 内線 6115														
授業の概要	運動学 および運動学 で学んだ内容について、実習を通じて理解を深める。実習は三次元動作解析システム、床反力、筋電計などを用いて、身体重心、関節角度などの運動学的データ、圧中心および関節モーメントなどの運動力学データ、筋電図データの計測と解析まで幅広く行う。グループにて課題動作を設定して、各動作の成り立ちを学習する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	運動と動作の分析方法を説明できる														
目標2	運動と動作の分析機器を実施できる														
目標3	各動作の成り立ちを計測したデータから説明できる														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							4	3	3						
授業の内容															
1	オリエンテーション														
2	解析動作課題の決定と計画立案 part 1														
3	解析動作課題の決定と計画立案 part 2														
4	動作解析実習(動作解析・筋電図)														
5	動作解析実習(動作解析・筋電図)														
6	動作解析実習(動作解析・筋電図)														
7	動作解析実習(動作解析・筋電図)														
8	プレゼンテーション														
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
ラーニング	A:知識の定着・確認	各種動作の実験を行う。					工 夫 そ の 他 の								
	B:意見の表現・交換	そのデータを元に発表を行う。													
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	運動学 の復習を行う(15h)。													
	事後学修	実験データのまとめ、発表の準備を行う(30h)。													
	想定時間合計	45													
教科書	中村隆一・他：基礎運動学 第6版補訂，医歯薬出版，2012，ISBN: 978-4-263-21153-3														
参考書	藤縄理・他：運動学テキスト 改訂第2版(細田多穂 監修)。南江堂，2015，ISBN: 978-4-524-26548-0 Neumann DA：筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版(Andrew PD・他 監訳)。医歯薬出版，2018，ISBN: 978-4-263-26581-9														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	グループ活動への参加状況	30%										
	口頭による実習結果発表	25%										
	発表会への参加状況	20%										
	レポート	25%										
注意事項	実験実習終了後にその成果を発表する。グループ単位での実習のため、特別な理由なしに休まないこと。											
備考	なし											
リンク	Moodle (2025後期-金12 運動学実習) を参照すること URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	理学療法士											
実務経験を いかした教 育内容	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床・研究・教育経験を生かして、理学療法士として基礎的知識として重要な運動学の教育を行っている。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
H030B221		薬理学 (Pharmacology)					基礎系	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	1	2	福祉健康科学部	前学期 (6月-7月頃に開講)	木4	日本語	英語	複数(共同)					
担当教員	氏名 徳丸治, 片岡晶志, 後藤孔郎, 石崎敏理 (医学部)												
E-mail	ostokuma 内線 7972												
授業の概要	理学療法士としてリハビリテーションの現場に臨めば、薬物療法を行っていない患者のリハビリテーションに従事することはまれであろう。外来性化学物質の薬物と生体との相互作用を明らかにして治療に役立てようとする学問である薬理学の概要を理解することは、患者の治療に従事する一員である理学療法士として不可欠であるといえよう。本講義の前半では、さまざまな薬物の薬理作用と動態の基本を理解することを目標とする。後半では、内科系と外科系の臨床で用いられる代表的な薬剤について取り上げ、薬物療法を受けている患者の理学療法の実務と注意点を取り上げる。												
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)						
目標1	薬力学の基本的事項を説明できる						1	2	3	4	5	6	7
目標2	薬物動態の基本的事項を説明できる												
目標3	アゴニスト, アンタゴニストについて説明できる												
目標4	薬物用量作用曲線を説明できる												
目標5	自律神経系の体での役割とその作用薬の機序を説明できる												
目標6	主な中枢神経系作用薬について説明できる												
目標7	妊婦や小児などに対する薬理作用について説明できる												
目標8	治験の概要について説明できる												
目標9	内科系で用いる主な薬剤について説明できる												
目標10	外科系で用いる主な薬物について説明できる												
各DPへの関連度(計10)								5			5		
授業の内容													
1	薬理学総論：薬理学の歴史，薬力学，薬物動態学（医学部・石崎）												
2	自律神経とその作用薬（医学部・石崎）												
3	治験，妊婦と薬剤，小児と薬剤，その他（徳丸）												
4	中枢神経作用薬，抗精神病薬（徳丸）												
5	内科系で用いられる薬剤1：消化器，循環器，呼吸器，内分泌，血液（後藤）												
6	内科系で用いられる薬剤2：抗感染症薬（後藤）												
7	外科系で用いられる薬剤1：鎮痛薬，麻酔薬（片岡）												
8	外科系で用いられる薬剤2：抗炎症薬，抗腫瘍薬（片岡）												
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
ラーニング	A:知識の定着・確認	講義内で、学生同士のグループディスカッションの時間を設け、知識の定着を図る。					工	その他の	講師の経験した症例とそれに対する処方を提示し、実臨床に即した講義を展開する。 薬理学研究の最前線を紹介し、学生のリサーチマインドを醸成する。				
	B:意見の表現・交換												
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	1回あたり2時間（合計16時間）											
	事後学修	1回あたり2時間（合計16時間）											
	想定時間合計	32											
教科書	「リハビリテーション薬理学・臨床薬理学」内山 靖ほか 医歯薬出版 2020年 2970円 教科書に沿って授業を進めるので必ず準備すること。ISBN：978-4-263-26758-5												
参考書	標準薬理学第7版（医学書院，2015）6,500円＋税 ISBN 978-4260017503 カッティング薬理学 原書10版（丸善，2009）17,000円＋税 ISBN 978-4621080733												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	定期試験	50%										
課題レポート	50%											
注意事項	1年次に履修した解剖学，生理学，生化学，病理学をしっかりと復習しておくこと。											
備考	令和7年6月 - 7月に開講予定（全8回）											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	臨床医（整形外科，内科，小児科）											
実務経験を いかした教 育内容	実臨床に即した教育を心掛けたい。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
H030B222		臨床医学 - 1 (Clinical Medicine -1 (Internal Medicine))					基礎系	対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
理学療法コース必修	1	2年	福祉健康科学部	前期	月4	日本語		単独							
担当教員	氏名 後藤孔郎 E-mail gotokoro@oita-u.ac.jp 内線 6113														
授業の概要	医学を学ぶ上で疾患、特に内科領域の疾患は頻度が高くその範囲も多岐にわたる。内科学における主要疾患の概念、病因、症状、診断法、治療法などを概説する。理学療法学・心理学・社会福祉学の専門科目を学ぶ上で必要な疾病に対する医学的な知識を理解し、多面的視野と総合的判断力を身につけることを目標とする。消化器疾患・循環器疾患・呼吸器疾患・神経疾患・内分泌異常・糖代謝異常・膠原病・腎臓疾患の主な疾患について病態、症状、治療、予後などを学習し理解できる。リハビリテーションを行うに当たり、原疾患としての内科学的病態、発生機序、症候を理解するとともに、内臓疾患に関する生理、病態生理を理解し、疾患の予防を学ぶ理解する。これによりリハビリテーションにおける目的、目標を明確にする。														
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 臨床医学に関連する循環器系疾患に関する病態および臨床像を説明できる															
目標2 臨床医学に関連する呼吸器系疾患に関する病態および臨床像を説明できる															
目標3 臨床医学に関連する消化器系、腎泌尿器系、血液系疾患に関する病態および臨床像を説明できる															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)								7	1	2					
授業の内容															
1	内科症候学														
2	循環器疾患 循環器の解剖・生理														
3	循環器疾患 心電図の読み方、不整脈														
4	循環器疾患 虚血性心疾患、心不全、肺性心														
5	循環器疾患 先天性心疾患、心臓弁膜症、心筋症														
6	循環器疾患 高血圧、大動脈疾患、末梢血管疾患														
7	呼吸器疾患 呼吸機能と呼吸器疾患症候														
8	呼吸器疾患 閉塞性換気障害、拘束性換気障害														
9	呼吸器疾患 呼吸器感染症														
10	呼吸器疾患 呼吸器系腫瘍														
11	消化器疾患 上部消化管疾患														
12	消化器疾患 下部消化管疾患														
13	消化器疾患 肝胆膵疾患														
14	消化器疾患 消化器癌														
15	血液疾患 造血器腫瘍ほか血液疾患														
ラック ニ ン グ	A:知識の定着・確認	スライドによる画像、動画の供覧。また具体的症例を通じて病態、疾患を考えさせる項を設ける。重要領域において、疾患に関するレポートを課す。実際の症例について調べることにより病態、疾患に関する理解を深める。										工 夫 そ の 他 の	講義に関して、理解しやすいように各分野のポイントを絞ったプリントを作成し配布する。教科書ではわかりにくい点をより理解しやすいように工夫する。資料内の重要項目は空欄にし各自調べることにより理解度を高めやすくする。		
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	次回講義内容の領域について、教科書、参考書を用いて概要を把握する(15h)。													
	事後学修	講義された内容に関して、教科書、参考書などをもちい配布された資料の空欄を埋めることにより完成させ、より知識の理解、定着を行う(15h)。													
	想定時間合計	30													
教科書	内科学 第4版 (シリーズ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野)、シリーズ監修 奈良 勲 / 鎌倉 矩子、編集 前田 真治、医学書院 2020年 ISBN 978-4-260-04290-1														
参考書	内科診断学 第3版、編集 福井 次矢 / 奈良 信雄、医学書院 2016年 ISBN 978-4-260-02064-0、新臨床内科学 [デスク判] 第10版 ISBN978-4-260-03806-5 [ポケット判] 第10版、監修 矢崎 義雄、医学書院 2020年 ISBN978-4-260-03807-2、内科学 (第11版) 総編集 矢崎 義雄、2017年 ISBN978-4-254-32271-2 朝倉書店、「病気が見える」シリーズ、監修 武藤 学ほか、MEDICMEDIA 2017-2021年発行														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		疾患検討レポート	10%									
	期末試験（筆記試験）	90%										
	すべてのレポートおよび期末試験の合格を単位取得の条件とする。											
注意事項	講義に使うスライドや資料は実際の症例を用いている場合が多い。不用意に写真にとったり複写をして、配布したり、また決してネットにあげることなどがないようにして下さい。											
備考	【地域創生教育科目】											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務経験	医師、内科おもに内分泌内科の診療を大分大学医学部附属病院を中心に行ってきた。医師としての勤務歴は30年で、実務経験をいかした教育内容である。											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
実務経験を いかした教 育内容	医師、内科医師として実際に行ってきた診療、症例経験を講義内容に盛り込むことにより、より実地に近い実践的な知識を与えることができる。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B223		臨床医学 - 2 (Clinical Medicine -2 (Internal Medicine))					基礎系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
理学療法コース必修	1	2年	福祉健康科学部	後期	月4	日本語			単独						
担当教員	氏名 後藤孔郎 E-mail gotokoro@oita-u.ac.jp 内線 6113														
授業の概要	医学を学ぶ上で疾患、特に内科領域の疾患は頻度が高くその範囲も多岐にわたる。内科学における主要疾患の概念、病因、症状、診断法、治療法などを概説する。理学療法学・心理学・社会福祉学の専門科目を学ぶ上で必要な疾病に対する医学的な知識を理解し、多面的視野と総合的判断力を身につけることを目標とする。感染症、腎泌尿器系疾患、代謝・内分泌疾患、アレルギー・膠原病疾患、等の主な疾患について病態、症状、治療、予後などを学習し理解できる。 リハビリテーションを行うに当たり、原疾患としての内科学的病態、発生機序、症候を理解するとともに、内臓疾患に関する生理、病態生理、画像診断を理解し、疾患の予防を学び理解する。これによりリハビリテーションにおける目的、目標を明確にする。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 臨床医学に関連する悪性腫瘍に関する病態および臨床像を説明できる															
目標2 臨床医学に関連する腎泌尿器系疾患、内分泌・膠原病疾患に関する病態および臨床像を説明できる															
目標3 臨床医学に関連する救急疾患の病態を説明できる															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									7	1	2				
授業の内容															
1	感染症疾患														
2	腎泌尿器系疾患 総論														
3	腎泌尿器系疾患 各論														
4	代謝疾患														
5	内分泌疾患 総論														
6	内分泌代謝疾患 各論														
7	アレルギー・膠原病疾患 アレルギー疾患														
8	アレルギー・膠原病疾患 膠原病、免疫不全症														
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
ラーニング	A:知識の定着・確認	スライドによる画像、動画の供覧。また具体的症例を通じて病態、疾患を考えさせる項を設ける。重要領域において、疾患に関する症例検討、レポートを課す。実際の症例について調べることにより病態、疾患に関する理解を深める。				工夫	その他の	講義に関して、理解しやすいように各分野のポイントを絞ったプリントを作成し配布する。教科書ではわかりにくい点をより理解しやすいように工夫する。資料内の重要項目は空欄にし各自調べることにより理解度を高めやすくする。							
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	次回講義内容の領域について、教科書、参考書を用いて概要を把握する(16h)。													
	事後学修	講義された内容に関して、教科書、参考書などを持ち配布された資料の空欄を埋めることにより完成させ、より知識の理解、定着を行う(8h)。													
	想定時間合計	24													
教科書	内科学 第4版 (シリーズ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野)、シリーズ監修 奈良 勲 / 鎌倉 矩子、編集 前田 眞治、医学書院 2020年 ISBN 978-4-260-04290-1														
参考書	内科診断学 第3版、編集 福井 次矢 / 奈良 信雄、医学書院 2016年 ISBN 978-4-260-02064-0、新臨床内科学 [デスク判] 第10版 ISBN978-4-260-03806-5 [ポケット判] 第10版、監修 矢崎 義雄、医学書院 2020年 ISBN978-4-260-03807-2、内科学 (第11版) 総編集 矢崎 義雄、2017年 ISBN978-4-254-32271-2 朝倉書店、「病気が見える」シリーズ、監修 武藤 学ほか、MEDICMEDIA 2017-2021年発行														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		症例検討レポート	10%									
	期末試験（筆記試験）	90%										
	すべてのレポートおよび期末試験の合格を単位取得の条件とする。											
注意事項	講義に使うスライドや資料は実際の症例を用いている場合が多い。不用意に写真にとったり複写をして、配布したり、また決してネットにあげることなどがないようにして下さい。											
備考	前期 臨床医学1-2と合わせ全身臓器を学ぶ											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務経験	医師、内科おもに内分泌内科の診療を大分大学医学部附属病院を中心に行ってきた。医師としての勤務歴は30年で、実務経験をいかした教育内容である。											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
実務経験を いかした教 育内容	医師、内科医師として実際に行ってきた診療、症例経験を講義内容に盛り込むことにより、より実地に近い実践的な知識を与えることができる。											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
H030B224	臨床医学 - 1 (Clinical Medicine -1 (Orthopedic Surgery))					基礎系	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態				
必修	1	2	福祉健康科学部	前期	火5	日本語		単独				
担当教員	氏名 片岡 晶志 E-mail mkataoka@oita-u.ac.jp 内線 7457											
授業の概要	運動器疾患に対する社会的認知度が増すにつれ、その治療法も高度に専門化してきている。正確な診断をつけ適切な治療法を選択し高度な技術を正確に施すためには、運動器に対する解剖・生理学などの基礎知識に始まり、治療のゴール設定やそれを達成する手術法・リハビリテーションなど幅広い知識が求められる。運動器疾患に対する治療法の選択基準などを実際の臨床症例を基に学び、科学的な判断力を養うとともに最新の治療法の進歩についての知識を身につけることを目的とする。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1	運動器疾患の基礎となる骨・関節、筋・神経の解剖、生理、生化学、病理について説明できる。											
目標2	運動器疾患の症状、徴候、病態生理、診断、治療法、予後について説明できる。											
目標3	知識、技術のみでなく、医療人としての心がまえ、態度を説明できる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)						4	2	2	2			
授業の内容												
1	整形外科疾患各論：肩関節											
2	整形外科疾患各論：肘関節											
3	整形外科疾患各論：手関節および手指、末梢神経 頸椎											
4	整形外科疾患各論：手関節および手指、末梢神経											
5	整形外科疾患各論：胸椎・腰椎											
6	整形外科疾患各論：股関節											
7	整形外科疾患各論：膝関節											
8	整形外科疾患各論：足関節・足趾											
9	整形外科外傷学：骨折・脱臼、軟部組織損傷											
10	整形外科外傷学：脊椎・脊髄損傷											
11	整形外科疾患各論：絞扼性神経障害・外傷性末梢神経損傷											
12	整形外科疾患各論：骨代謝性疾患											
13	整形外科疾患各論：関節リウマチ											
14	整形外科疾患各論：変形性関節症											
15	整形外科疾患各論：スポーツ傷害											
ラーニング	A:知識の定着・確認	1)理解度、到達度を確保するため小テストをおこない、フィードバックする。					工 夫 そ の 他 の	教科書の熟読と深い理解を要求する 臨床医学 - 1では、すべての授業で標準整形学を使用するので、必ず準備すること。				
	B:意見の表現・交換	2)疾患概念の理解を最重要目標におく。										
	C:応用志向	3)小テストの結果を成績に加味する										
	D:知識の活用・創造											
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	該当する範囲の予習をおこなうこと(15h)										
	事後学修	復習を必ずおこなうこと(30h)										
	想定時間合計	45										
教科書	標準整形外科学(第15版)井樋栄二他 編集 医学書院 2023年 ISBN 978-4-260-04936-8											
参考書	必要となったときは図書館で探してください。(基本的には標準整形外科学をマスターすれば、他の参考書は不要です)											

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		テスト(小テスト含む)	100%									
	小テストを不定期におこなう											
注意事項	予習、復習を行うこと。とくに復習に重点をおいて学修すること。											
備考	授業中に、スライドをつかって実際の症例を紹介する。 【地域創生教育科目】											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医師として診療業務に携わっている											
実務経験を いかした教 育内容	実臨床をもとに、テキストに書かれていない重要な点まで触れる。また臨床症例を提示することで、学生に学修の必要性を納得させる											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030B225		臨床医学 - 2 (Clinical Medicine -2 (Orthopedic Surgery))					基礎系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
必修	1	2	福祉健康科学部	後期	月3	日本語			単独							
担当教員	氏名 片岡 晶志 E-mail mkataoka@oita-u.ac.jp 内線 7457															
授業の概要	運動器疾患に対する社会的認知度が増すにつれ、その治療法も高度に専門化してきている。正確な診断をつけ適切な治療法を選択し高度な技術を正確に施すためには、運動器に対する解剖・生理学などの基礎知識に始まり、治療のゴール設定やそれを達成する手術法・リハビリテーションなど幅広い知識が求められる。運動器疾患に対する治療法の選択基準などを実際の臨床症例を基に学び、科学的な判断力を養うとともに最新の治療法の進歩についての知識を身につけることを目的とする。ここでは運動器疾患の画像診断について学ぶ															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	運動器疾患の基礎となる骨・関節、筋・神経の解剖、生理、生化学、病理について説明できる。															
目標2	運動器疾患の症状、徴候、病態生理、診断、治療法、予後について説明できる。															
目標3	知識、技術のみでなく、医療人としての心がまえ、態度を説明できる。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							4	2	2	2						
授業の内容																
1	整形外科疾患各論：標準整形を用いた授業															
2	整形外科疾患各論：標準整形を用いた授業															
3	整形外科疾患各論：標準整形を用いた授業															
4	整形外科疾患各論：標準整形を用いた授業															
5	画像診断と病態															
6	画像診断と病態															
7	画像診断と病態															
8	画像診断と病態															
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
16																
17																
18																
19																
20																
21																
22																
23																
24																
25																
26																
27																
28																
29																
30																
ラーニング	A:知識の定着・確認		1)疾患概念の理解を最重要目標におく。			工夫 その 他の	症例検討をおこなう。									
	B:意見の表現・交換		2)理解度、到達度を確認するためレポート課題を課し、フィードバックする。提出ない場合は期末試験受験資格なしとする													
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	症例検討に該当する範囲の予習をおこなうこと（15h）										
	事後学修	復習を必ずおこなうこと（30h）										
	想定時間合計	45										
教科書	標準整形外科学（第15版）井樋栄二他 編集 医学書院 2023年 ISBN：978-4-260-04936-8											
参考書	必要に応じて図書館で調べてください											
成績 評価 の 方法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	テスト（小テスト含む）	100%										
		原則として月曜3限に講義を行うが、不定期であることに注意。前もって予定を公表する。										
注意事項	予習、復習を行うこと。症例検討のレポートは必ず提出すること。レポートをすべて提出していない場合は、テストでの評価はございません。											
備考	授業中に、スライドをつかって実際の症例を紹介する。 【地域創生教育科目】											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医師として臨床をおこなっている											
実務経験を いかした教 育内容	実臨床での症例を供覧する											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H030B226	臨床医学 - 1 (Clinical Medicine -1)					基礎系	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	1	2	福	前期	火4	日本語	英語	単独					
担当教員	氏名 井上 亮 E-mail ryo@oita-u.ac.jp 内線 医学部 5051												
授業の概要	神経疾患により生じる機能障害や運動障害はリハビリテーションにおいて多くの割合を占めている。そのため、神経疾患について専門的知識を深め、神経疾患領域におけるリハビリテーションの役割を理解することが重要である。授業では、基礎となる神経症候学を学び、その上でリハビリテーションの適応となる様々な神経疾患の症状、病態、治療について概説する。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	
目標1	神経症候の特徴、病態生理を理解し説明できる。												
目標2	神経疾患の特徴、診断のポイントを理解し、その治療について説明できる												
目標3	神経疾患に対するリハビリテーション効果を理解し、患者の生活にどのように支援できるかを説明できる。												
目標4	さまざまな専門職とのかかわりの中で、リハビリテーションの観点からどのようなリーダーシップを発揮できるかを説明できる。												
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						8	1	1					
授業の内容													
1	脳解剖と神経画像												
2	神経症候学Ⅰ(意識障害、大脳皮質、大脳基底核、辺縁系)												
3	神経症候学Ⅱ(脳幹、脳神経、小脳)												
4	神経症候学Ⅲ(運動、感覚、自律神経)												
5	脳血管障害Ⅰ												
6	脳血管障害Ⅱ												
7	脳腫瘍												
8	頭部外傷												
9	感染性疾患												
10	脱髄性疾患												
11	神経変性疾患												
12	神経変性疾患												
13	筋疾患												
14	筋疾患												
15	小児神経疾患												
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	演習、小テスト					工 夫	そ の 他 の	なし				
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	教科書を必要に応じて予習(15時間)											
	事後学修	教科書、小テストや配布資料を用いて復習する(15時間)											
	想定時間合計	30											
教科書	脳・神経、病気がみえる vol.7,第2版 2017年 MEDIC MEDIA出版 ISBN978-4896326864												
参考書	適宜紹介する												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト	15%										
最終試験	85%											
	すべての小テストおよび最終テストの合格が単位取得の条件とする。											
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医学部附属病院での医師（脳神経外科学）											
実務経験を いかした教 育内容	脳神経外科医としての実務経験をもとに、神経症候学、神経疾患学、リハビリテーション学を解説する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
H030B227		臨床医学 - 2 (Clinical Medicine -2)					基礎系	オンライン(同時双方向型)								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	1	2		後期	月5	日本語		単独								
担当教員	氏名 黒木 洋美 (非常勤講師) E-mail hiromi_kuroki @med.miyazaki-u.ac.jp 内線															
授業の概要	中枢疾患(脳、脊髄)に関する病態、画像、治療等及びリハビリテーション療法について学習する。特に急性期医療に関わる脳卒中、外傷性脳損傷などの病態と治療、社会復帰までの経過、また高齢者医療に関わる認知症などを中心に学習する。更に、神経難病や先天性疾患による中枢、神経系疾患について、疾患の理解を深めることで、リハビリテーション療法の訓練内容や目標設定などを理解する。臨床現場において大事な画像診断について画像と臨床症状の関連性を理解することを目指す。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	画像診断を説明できる															
目標2	病態を説明できる															
目標3	治療が説明できる															
目標4	予後が説明できる															
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							4	2	1	1	1	1				
授業の内容																
1	画像診断と治療 : 脳出血 実際の画像と障害の変化、対応するリハビリテーションを学ぶ(急性期~回復期)															
2	画像診断と治療 : 脳梗塞 実際の画像と障害の変化、対応するリハビリテーションを学ぶ(急性期~回復期)															
3	画像診断と治療 : 脳血管障害 実際の画像と障害の変化、対応するリハビリテーションを学ぶ(回復期~生活期/維持期)															
4	画像診断と治療 : 頭部外傷、その他:実際の画像と障害の変化、対応するリハビリテーションを学ぶ(急性期~回復期~生活期)															
5	画像診断と治療 : 変性疾患、進行性疾患、脱髄性疾患等;疾患、病態、画像やデータを理解してリハビリテーションを考える															
6	画像診断と治療 : 変性疾患、進行性疾患、脱髄性疾患等;疾患、病態、画像やデータを理解してリハビリテーションを考える															
7	画像診断と治療 : 認知機能低下(認知症)、高次脳機能障害:疾患、病態、画像やデータを理解してリハビリテーションを考える															
8	画像診断と治療 : 画像、検査データ、治療(手術含む)の内容からリハビリテーションを考える(横断的な考察)、その他															
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
ラーニング	A:知識の定着・確認	症例や画像、データ等を提示し、診断、病態、症状、治療、予後(後遺症)について学習する。臨床上的リハビリテーション治療計画の組み立て方、進め方を学ぶ。				工夫	その他の	教科書、スライドと配布プリント。随時、グループディスカッションを行う。								
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	事前学習1時間:事前資料配布を行う(1h)														
	事後学修	事後学修1時間:教材を用いて復習する(1h)														
	想定時間合計	16														
教科書	脳・神経、病気がみえる(第2版) 医療情報科学研究所編集 メディックメディア 2017年 ISBN 978-4-89632-686-4															
参考書	最新リハビリテーション医学(第3版) 安保雅博 著 医歯薬出版 2016年 ISBN 9784263212844															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		試験	100%									
注意事項												
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	医師											
実務経験を いかした教 育内容	実査の臨床での問題を提示しながら、授業を進める											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B201		理学療法概論 (Principle of Physical Therapy)					専門系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	1	2年	福祉健康科学部	前期	木3	日本語			単独						
担当教員	氏名 朝井政治														
	E-mail ma-asai@oita-u.ac.jp 内線 7551														
授業の概要	理学療法の歴史、法律、社会における理学療法士の役割と職域など、理学療法全般について学習する。実習の振り返りやグループ討議を交え、障害構造と理学療法の関係、理学療法の実践について理解を深めるとともに、理学療法の今後の在り方や自分自身の理学療法士としての将来を展望する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 理学療法士の組織・関連法規、理学療法士の現状と今後の課題について説明できる。															
目標2 理学療法士の適正について自身を振り返り、自己課題を抽出できる。															
目標3 理学療法の対象や役割、方法について説明できる。															
目標4 評価の目的、過程、対象について説明できる。															
目標5 事例について、情報収集、問題点抽出、ゴール設定を経験する。															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									3	1	2	2			2
授業の内容															
1	リハビリテーション、理学療法の概念と歴史														
2	理学療法士を目指す学生に求められるもの(グループワーク、発表)														
3	リスクマネジメント・情報管理														
4	理学療法の意義と役割														
5	理学療法の対象と評価1(総論:目的、過程、時期、記録)														
6	理学療法の対象と評価2(ICF、ADL)														
7	理学療法の進め方と治療(情報収集、問題点抽出、ゴール設定)														
8	事例検討(グループワーク、発表、まとめ)														
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
ラーニング	A:知識の定着・確認	基礎臨床実習の経験を踏まえた話し合いや発表、事例検討をグループ単位で実施する。				工 夫 そ の 他 の	講義だけでなく、グループワークや演習を取り入れる								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	1年次の基礎臨床実習の経験を振り返り、グループ学習において積極的に参加できるよう準備する。(3時間) 各回の講義の予習(1.5時間×8回)													
	事後学修	医療・福祉・教育・研究等、リハビリテーションや理学療法に関する情報に興味をもち資料を収集する。課題への取り組み。(合計8時間)													
	想定時間合計	23													
教科書	有馬慶美 編、概説 理学療法 第2版 (文光堂)、2015 ISBN 9784830645303														
参考書	奈良勲 編集主幹、木林勉ら 編、実学としてのリハビリテーション概観(文光堂)、2015 ISBN 9784830645174 馬場元毅 著、絵で見る 脳と神経(第4版) 医学書院。2017 ISBN 9784260027830														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	グループ学習での成果物・発表	20%										
	事例レポート	40%										
	課題レポート	40%										
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の基礎臨床実習 際の学習成果物（レポートやデイリーノート、学習ノートなど）を持参すること。 ・グループワークでは活発な相互交流をはかり、実習経験の充実、深化を図ること。 											
備考	なし											
リンク	URL											
担当教員の実務経験の有無												
教員の実務経験	理学療法士											
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無												
実務経験をいかした教育内容	理学療法の歴史，法律，社会における理学療法士の役割と職域など，理学療法全般について講義する。 情報収集 問題点抽出 ゴール設定の評価プロセスや理学療法の実際について解説する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B217		理学療法管理学 (Management in Physiotherapy Practices)					専門系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	2	3	福祉健康科学部	後期	月2	日本語			オムニバス						
担当教員	氏名 萬井太規、石丸知二、梅木駿太、兒玉慶司、竹村仁														
	E-mail mani-hiroki@oita-u.ac.jp 内線 6109														
授業の概要	臨床・地域・教育・研究の領域における管理・マネジメント能力を高めることを目的とする。保険・医療・福祉を取り巻く諸制度について学習し、理学療法士として求められる職業倫理、研究倫理について学ぶ。理学療法業務をマネジメントする創造的思考ができるようになることをめざす。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	理学療法士の法律と職業倫理について説明できる。														
目標2	保険・医療・福祉を取り巻く諸制度について説明できる。														
目標3	理学療法業務(急性期～生活期)のリスク管理について説明できる。														
目標4	職場管理および組織運営のマネジメントについて説明できる。														
目標5	理学療法教育・研究に関するマネジメントについて説明できる。														
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							3	1	2	2	1	1			
授業の内容															
1	総論(オリエンテーション・管理・マネジメントの外観)(萬井)														
2	個人情報の管理・データ管理(萬井)														
3	理学療法教育・研究のマネジメント(萬井)														
4	職場管理、組織運営のマネジメント1(竹村)														
5	職場管理、組織運営のマネジメント2(竹村)														
6	急性期の理学療法マネジメント(兒玉)														
7	回復期の理学療法マネジメント(石丸)														
8	生活期の理学療法マネジメント(石丸)														
9	職業倫理と理学療法業務のマネジメント(梅木)														
10	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度(梅木)														
11	医療事故とリスクマネジメント(梅木)														
12	リハビリテーションに関連した医療事故の事例検討1(梅木)														
13	リハビリテーションに関連した医療事故の事例検討2(梅木)														
14	海外青年協力隊に必要な理学療法マネジメント(萬井)														
15	理学療法士に求められる管理能力(まとめ)(萬井)														
ラーニングチェックシート	A:知識の定着・確認	映像(スライド)や、実際に起きた事例を提示することで、理学療法士が関連する管理法の知識の定着と臨床的対応能力を高める。				工 夫 の 他 の									
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	教科書、および各講師の事前授業資料を用いた各講義に関連する範囲の予習(各講義前1.5h)。													
	事後学修	各講義後に授業資料や教科書を用いて復習する(各講義後1.5h)													
	想定時間合計	45													
教科書	奈良勲、理学療法管理学、医歯薬出版株式会社、2018年 ISBN:978-4-263-26583-3														
参考書	石川朗・他、理学療法テキスト 理学療法管理学、中山書店、2020年 ISBN:978-4-521-74813-9 斉藤・能登編集、リハビリテーション管理学、医学書院、2020年 ISBN:978-4-260-04312-0														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		単元毎の小テスト、レポート	75%									
	期末テスト	25%										
注意事項	外部講師を含む数名の講師によるオムニバス形式の授業である。 各講師の講義毎に小テストあるいはレポートが実施されるため、特別な理由なしに休まないこと。											
備考	特になし											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	医療・福祉関連施設に勤務する理学療法士、管理運営業務を担う法人事務長など											
実務経験を いかした教 育内容	理学療法業務、管理運営業務、教育・研究業務に従事している講師が、理学療法士に関連する管理・マネジメントについて、実例を提示しながら解説する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B251		理学療法評価学 (Evaluation of Physical Therapy)					専門系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	1	2年	福祉健康科学部	前期	金3	日本語			複数(共同)、オムニバス						
担当教員	氏名 田中健一郎, 大塚章太郎														
	E-mail tanaka-kenichiro@oita-u.ac.jp 内線 6232 (田中)														
授業の概要	運動機能の基本的評価を学習する。問診等の情報収集, 身体観察, 身体計測について, 各検査のもつ意義と評価の方法を学習する。さらに, 関節可動域検査と筋力検査(徒手筋力検査, 筋持久力検査)について検査の意義と目的, 実施する上での注意点や禁忌, 評価していくプロセスについて学ぶ。さらにそれぞれの評価のつながりについて理解を深める。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	一般的な評価の意義と目的, 流れについて説明できる。														
目標2	形態計測における意義・目的, 方法を理解し, 結果の解釈について説明できる。														
目標3	関節可動域検査における意義・目的, 方法を理解し, 結果の解釈について説明できる。														
目標4	筋力検査における意義・目的, 方法を理解し, 結果の解釈について説明できる。														
目標5	各種評価のつながりについて説明できる。														
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							3	3	2	2					
授業の内容															
1	評価学総論(評価の目的, 流れ等)、医療面接、形態計測総論														
2	形態計測の実際1														
3	形態計測の実際2														
4	形態計測の実際3 関節可動域検査総論														
5	関節可動域検査の実際1(上肢)														
6	関節可動域検査の実際2(上肢)														
7	関節可動域検査の実際3(下肢)														
8	関節可動域検査の実際4(体幹ほか)、筋力検査総論														
9	総合演習1														
10	徒手筋力検査の実際1(上肢・肩甲帯)														
11	徒手筋力検査の実際2(上肢)														
12	徒手筋力検査の実際3(下肢)														
13	徒手筋力検査の実際4(体幹ほか)														
14	総合演習2														
15	総合演習3														
ラーニング	A:知識の定着・確認	学生をグループに分け、実際の評価について解説、デモンストレーションを実施してもらう				工夫その他の	模擬症例をもとにデモンストレーションや技術の振り返りを実施し、理解度を確認する 初回に解剖学、運動学に関する知識振り返りを行い、必要な知識が習得できているか確認する。								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	解剖学、運動学の復習をして授業に臨むこと(5時間)。 各評価法の実施方法について予習しておくこと(毎回1時間)。													
	事後学修	評価法に関する知識と実施方法について、復習を行い理解しておくこと(毎回1時間)													
	想定時間合計	35													
教科書	1) 理学療法評価法 第6版補訂版 (金原出版) 松澤正・江口勝彦 2022 ISBN:4307750683 2) 新・徒手筋力検査法 原著第10版(協同医書出版社) Dale Avers, Marybeth Brown 2020 ISBN:4763900412														
参考書	リハビリテーション・ポケットナビ 今日からなれる! 評価の達人(中山書店) 玉木彰・高橋仁美 2015 ISBN-10 : 4521741533														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	課題（講義用資料提出・発表）	10%											
	知識振り返り（形態測定ROM）	10%											
	知識振り返り（MMT）	10%											
	筆記試験	70%											
注意事項	履修時は、実習着を着用し、治療者として相応しい身だしなみを心掛けること。 評価器具を必ず持参すること。												
備考	特記なし												
リンク	URL												
担当教員の 実務経験の有無													
教員の 実務経験	理学療法士												
実務経験を いかした 育内容	理学療法の評価（特に形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査）に関する講義、演習を模擬症例を交えながら実施する												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B255		理学療法評価学 実習 (Practice of Evaluation)					専門系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	2	2年	福祉健康科学部	前期	金4,金5	日本語			複数(共同)、オムニバス						
担当教員	氏名 田中健一朗, 大塚章太郎														
	E-mail tanaka-kenichiro@oita-u.ac.jp, otsuka-shotaro@oita-u.ac.jp 内線 6232(田中), 7118(大塚)														
授業の概要	種々の運動機能検査で使用する機器の使用方法の理解し、学生同士で関節可動域検査、筋力検査、形態測定を主体としたアクティブラーニングにて実習を行う。また、具体的な症例を提示しながら、模擬的に検査・測定を実施し、患者の障害像やリスク管理を踏まえた検査手法を学修し、理学療法における評価の意味やその位置付け、および具体的な技術について学習する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 各検査の目的を述べる事ができる。															
目標2 各検査の手順が説明できる。															
目標3 学生同士による演習方式で検査を実施できる。															
目標4 各種疾患を想定した模擬症例に対して評価を実施する際のリスク管理を実施できる															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									2	2	2	1	2	1	
授業の内容															
1 形態計測総論、体表解剖に関する知識の確認、問診の実際															
2 形態計測の実際1															
3 形態計測の実際2															
4 形態計測の実際3、関節可動域検査総論															
5 関節可動域検査の実際1(上肢)															
6 関節可動域検査の実際2(上肢)															
7 関節可動域検査の実際3(下肢)															
8 関節可動域検査の実際4(体幹ほか)															
9 技術振り返り1(形態計測、関節可動域検査)															
10 筋力検査総論、徒手筋力検査の実際1(上肢・肩甲帯)															
11 徒手筋力検査の実際2(上肢)															
12 徒手筋力検査の実際3(下肢)															
13 徒手筋力検査の実際4(体幹ほか)															
14 技術振り返り2(徒手筋力検査)															
15 総合演習															
ラーニング	A:知識の定着・確認		学生同士による演習、模擬患者によるデモンストレーションを実施する。					工	そ 夫 の 他 の	単元ごとの振り返り(実技試験)を実施する。					
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		各評価技術の理解と習熟を目指し、十分な予習をすること。(各講義、2時間)												
	事後学修		各評価技術の理解と習熟を目指し、十分な復習をすること。(各講義、1時間)												
	想定時間合計		45												
教科書		1) 松澤 正・江口 勝彦, 理学療法評価法第6版補訂版, 金原出版, 2022, ISBN: 978-4-307-75068-4. 2) 日本理学療法学会連合 理学療法標準化検討委員会, 日本理学療法学会連合版 徒手筋力検査法, メジカルビュー社, 2024, ISBN: 978-4-7583-2269-0													
参考書		1) 玉木 彰・高橋 仁美, リハビリテーション・ポケットナビ 今日からなれる! 評価の達人, 中山書店, 2015, ISBN: 978-4-521-74153-6 2) Dale Avers・Marybeth Brown, 新・徒手筋力検査法 原著第10版, 協同医書出版社, 2020, ISBN: 9784763900418													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	総合演習	40%										
	実技試験	40%										
	レポート課題・小テスト	20%										
注意事項	履修時は、実習着を着用し、治療者として相応しい身だしなみを心掛けること。 評価器具を必ず持参すること。											
備考	実技試験 1 は第 1 回 ~ 15 回までの講義内容に関する実技試験											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医療機関、福祉施設で勤務経験のある理学療法士が、臨床現場でのポイントを踏まえ、実務経験を活かした演習を行う。											
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	なし											
実務経験を いかした教 育内容	理学療法の評価（特に形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査）に関する実技について、臨床的な実例も上げながら演習を実施していく。各評価法の学修後にその都度、模擬症例による振り返りを実施する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030B252		理学療法評価学 (Evaluation of Physical Therapy)					専門系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
必修	1	2年	福祉健康科学部	後期	火3	日本語			単独、複数(共同)							
担当教員	氏名 菅田陽怜, 萬井太規															
	E-mail hsugata@oita-u.ac.jp, mani-hiroki@oita-u.ac.jp 内線 7671(菅田)、6109(萬井)															
授業の概要	神経・生理機能の基本的評価(バイタルサイン・意識の評価、筋緊張検査、反射検査、感覚検査、脳神経検査、認知・高次脳検査)について学習する。各検査の意義と目的、方法と手順、留意点、さらにそれぞれの評価のつながりについて理解を深める。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	バイタルサイン・意識の評価の目的や方法を理解し、結果の解釈について説明できる。															
目標2	筋緊張検査、反射検査の目的や方法を理解し、結果の解釈について説明できる。															
目標3	感覚検査の目的や方法を理解し、結果の解釈について説明できる。															
目標4	脳神経検査の目的や方法を理解し、結果の解釈について説明できる。															
目標5	高次脳機能検査の目的や方法を理解し、結果の解釈について説明できる。															
目標6	脳画像(CT・MRI)を理解し、画像から障害予測を行うことができる。															
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							10									
授業の内容																
1	意識障害・全身状態の評価(菅田)															
2	意識障害・全身状態の評価(菅田)															
3	感覚検査(菅田)															
4	感覚検査(菅田)															
5	振り返り(菅田)															
6	筋緊張検査(萬井)															
7	反射検査(萬井)															
8	協調性検査(萬井)															
9	姿勢バランス検査(萬井)															
10	振り返り(萬井)															
11	脳神経検査(菅田)															
12	脳神経検査(菅田)															
13	高次脳機能検査(菅田)															
14	振り返り(菅田)															
15	脳画像(CT・MRI)解釈(菅田)															
ラーニング	A:知識の定着・確認	事前の知識確認や単元ごとの振り返り(小テスト)を用いた診断的/形成的評価を実施する。				工 夫 そ の 他 の	毎回の講義で小テストを行い、知識の定着を図る。									
	B:意見の表現・交換	基本的な疾患を想定し、具体的な評価方法を思考する。														
	C:応用志向	ペアやグループによる意見交換、問題解決を図る。														
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	各検査の意義・目的につながる神経解剖・生理について十分な予習をして臨むこと(1h×15回=15h)														
	事後学修	各検査の意義・目的につながる神経解剖・生理について十分に復習すること(1h×15回=15h) 理学療法評価学実習において検査が実施できるよう方法・手順について十分な復習をすること(1h×15回=15h)														
	想定時間合計	45														
教科書	理学療法評価学 改定第6版(金原出版)、松澤 正・江口 勝彦著、2018年発行(ISBN:978-4-307-75068-4)															
参考書	ベッドサイド神経のみかた 第18版(南山堂)、田崎義昭・斎藤佳雄著、2016年発行(ISBN:978-4-525-24798-0)															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		講義ごとの小テスト	20%									
	期末テスト	80%										
注意事項	履修時は、実習着を着用し、治療者として相応しい身だしなみを心掛けること。 評価器具は必ず持参すること。											
備考	なし。											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	理学療法士											
実務経験を いかした教 育内容	神経・生理機能に関する基本的な理学療法評価の目的や方法、結果の解釈について講義する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
H030B256		理学療法評価学 実習 (Practice of Evaluation)					専門系	対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必修	2	2年	福祉健康科学部	後学期	火4,火5	日本語		複数(共同)							
担当教員	氏名 菅田 陽怜、萬井 太規														
	E-mail hsugata@oita-u.ac.jp, mani-hiroki@oita-u.ac.jp 内線 7671(菅田)、6109(萬井)														
授業の概要	理学療法における評価の意味やその位置付け、および具体的技術について学習する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1 各検査の目的を述べる事ができる。															
目標2 各検査の手順が説明できる。															
目標3 学生同士による演習方式で検査を実施できる。															
目標4 各種疾患を想定した模擬症例に対して評価を実施する際のリスク管理を実施できる															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)								4	3	3					
授業の内容															
1	意識障害・全身状態の評価の実際(菅田)														
2	意識障害・全身状態の評価の実際(菅田)														
3	感覚検査の実際(菅田)														
4	感覚検査の実際(菅田)														
5	振り返り(菅田)														
6	筋緊張検査の実際(萬井)														
7	反射検査の実際(萬井)														
8	協調性検査の実際(萬井)														
9	姿勢バランス検査の実際(萬井)														
10	振り返り(萬井)														
11	脳神経検査の実際(菅田)														
12	脳神経検査の実際(菅田)														
13	高次脳機能検査の実際(菅田)														
14	振り返り(菅田)														
15	脳画像(CT・MRI)解釈の実際(菅田)														
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															
25															
26															
27															
28															
29															
30															
ラーニング	A:知識の定着・確認	学生同士による演習、模擬患者によるデモンストレーションを実施する。				工	そ								
	B:意見の表現・交換					夫	の								
	C:応用志向					他	の								
	D:知識の活用・創造														

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	各評価技術の理解と習熟を目指し、十分な予習をすること（1h×15回=15h）										
	事後学修	各評価技術の理解と習熟を目指し、十分な復習をすること（1h×15回=15h） 各検査の意義・目的につながる神経解剖・生理について十分な復習をすること（1h×15回=15h）										
	想定時間合計	45										
教科書	理学療法評価学 改定第6版補訂版（金原出版）、松澤 正・江口 勝彦著、2022年発行（ISBN: 978-4-307-75068-4）											
参考書	ベッドサイド神経のみかた 第18版（南山堂）、田崎義昭・斎藤佳雄著、2016年発行（ISBN:978-4-525-24798-0）											
成績 評価 の 方法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	実技試験（口頭試問含む）	100%										
注意事項	履修時は、実習着を着用し、治療者として相応しい身だしなみを心掛けること。 評価器具を必ず持参すること。											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士											
実務経験を いかした 育内容	理学療法の評価全般に関する実習を行う。各評価法の学修後にその都度、模擬症例による振り返りを実施する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式
H030B243		運動器系理学療法学 (Physical therapy for musculoskeletal disorders)					専門系	対面
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
必修	1	2	福祉健康科学部	後期	木2	日本語	英語	オムニバス
担当教員	氏名 大塚章太郎, 阿南雅也 E-mail otsuka-shotaro@oita-u.ac.jp (大塚), anan-masaya@oita-u.ac.jp (阿南) 内線 7118 (大塚), 6115 (阿南)							
授業の概要	運動器系疾患に対する理学療法は、身体に障害や機能低下がある場合、その機能を回復または維持させるために、身体運動を科学的に適用しなければならない。本講義では、まず、運動学、解剖学、生理学の知識をベースとして、運動器系疾患の理学療法の概要、関節可動域の改善、筋機能障害の改善等に用いられる理学療法の知識を学ぶ。さらに、いくつかの四肢および脊柱の運動器系疾患についての具体的な理学療法について実技を交えて学習することで理解を深める。							
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7
目標1	関節可動域の改善、筋機能障害の改善等に用いられる理学療法の知識を説明できる							
目標2	各運動器疾患の病態を説明できる							
目標3	各運動器系疾患に対する評価方法を説明できる							
目標4	各運動器系疾患に対する理学療法を説明できる							
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
各DPへの関連度(計10)							10	
授業の内容								
1	運動療法の基礎(阿南)							
2	関節可動域制限に対する運動療法(阿南)							
3	関節可動域制限に対する運動療法(阿南)							
4	筋機能障害に対する運動療法(阿南)							
5	筋機能障害に対する運動療法(阿南)							
6	運動器系理学療法学の概要(大塚)							
7	骨折に対する理学療法(大塚)							
8	骨折に対する理学療法(大塚)							
9	骨折に対する理学療法(大塚)							
10	肩関節疾患に対する理学療法(大塚)							
11	肩関節疾患に対する理学療法(大塚)							
12	肩関節疾患に対する理学療法(大塚)							
13	腰部・脊椎疾患に対する理学療法(大塚)							
14	腰部・脊椎疾患に対する理学療法(大塚)							
15	腰部・脊椎疾患に対する理学療法(大塚)							
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	小テスト行う。また、理解を深めるために課題をまとめさせ提出させる。					工 夫 そ の 他 の	基本的な実技を可能な範囲で取り入れる。
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修	教科書および参考書を基に予習をする(15h)。						
	事後学修	授業の内容を復習する(30h)。						
	想定時間合計	45						
教科書	・対馬栄輝・他:Crosslink理学療法テキスト 運動療法学,メジカルビュー,2020,ISBN:978-4-7583-2005-4 ・加藤浩・他:Crosslink理学療法テキスト 運動器障害運動療法学,メジカルビュー,2020,ISBN:978-4-7583-2001-6							
参考書	・工藤慎太郎:運動機能障害の「なぜ?」がわかる評価戦略,医学書院,2017,ISBN:978-4-260-03046-5 ・森山英樹・他:運動器疾患の病態と理学療法,医歯薬出版,2015,ISBN:978-4-263-21947-8 ・島田洋一・他:運動器疾患の治療とリハビリテーション 手術・保存療法とリハビリプログラム,MEDICAL VIEW,2016,ISBN:978-4-7583-1720-7							

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		学期末試験	80%									
	小テスト	20%										
	すべての項目の合格を単位取得の条件とする。											
注意事項	履修時は、実技を行うこともあるため実習着もしくは動きやすい服装（ジーパン・スカートは禁）を着用すること。											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士として、大学病院や地域の中核病院での実務経験を有する。											
実務経験を いかした教 育内容	これまで経験した実際の症例を通して解説する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030B244		運動器系理学療法学 (Physical therapy for musculoskeletal disorders)					専門系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	1	3	福祉健康科学部	前期	月3	日本語	英語	オムニバス								
担当教員	氏名 大塚章太郎, 阿南雅也															
	E-mail otsuka-shotaro@oita-u.ac.jp (大塚), anan-masaya@oita-u.ac.jp (阿南) 内線 大塚(7118), 阿南(6115)															
授業の概要	臨床場面で多く遭遇するであろう運動器系疾患を中心に, その病態および整形外科的治療方針などを理解し, 根拠に基づいた理学療法プログラムの立案に必要な知識を学ぶ。具体的には骨折, 変形性関節症, 脊椎疾患, 靭帯損傷等の整形外科的治療(保存的および観血的治療)に応じた理学療法評価から治療プログラム立案までの一連の過程を理解することを目指す。さらに, 理解を深めるためにデモンストレーションや学生同士での実技を実施する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	各運動器疾患の病態を説明できる															
目標2	各運動器系疾患に対する評価方法を説明できる															
目標3	各運動器系疾患に対する理学療法を説明できる															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							10									
授業の内容																
1	股関節疾患に対する理学療法 (阿南)															
2	股関節疾患に対する理学療法 (阿南)															
3	膝関節疾患に対する理学療法 (阿南)															
4	膝関節疾患に対する理学療法 (阿南)															
5	膝関節疾患に対する理学療法 (阿南)															
6	足関節疾患に対する理学療法 (大塚)															
7	足関節疾患に対する理学療法 (大塚)															
8	足関節疾患に対する理学療法 (大塚)															
9	関節リウマチに対する理学療法 (大塚)															
10	関節リウマチに対する理学療法 (大塚)															
11	運動器不安定症・運動器症候群に対する理学療法 (大塚)															
12	運動器不安定症・運動器症候群に対する理学療法 (大塚)															
13	実技 (大塚)															
14	実技 (大塚)															
15	実技 (大塚)															
ラーニング	A:知識の定着・確認	小テストの実施。				工夫その他の	理解しやすいように教科書以外の資料(動画も含む)などを活用する									
	B:意見の表現・交換	グループもしくはペアで、疾患および部位別の評価方法等について討議する時間を設ける。														
	C:応用志向	必要に応じて、メジャーやゴニオメーターを使用する。														
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	教科書および参考書を基に予習をする(15h)。														
	事後学修	授業の内容を復習する(30h)。														
	想定時間合計	45														
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・対馬栄輝・他: Crosslink理学療法テキスト 運動療法学, メジカルビュー, 2020, ISBN: 978-4-7583-2005-4 ・加藤浩・他: Crosslink理学療法テキスト 運動器障害運動療法学, メジカルビュー, 2020, ISBN: 978-4-7583-2001-6 															
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・工藤慎太郎: 運動機能障害の「なぜ?」がわかる評価戦略, 医学書院, 2017, ISBN: 978-4-260-03046-5 ・森山英樹・他: 運動器疾患の病態と理学療法, 医歯薬出版, 2015, ISBN: 978-4-263-21947-8 ・島田洋一・他: 運動器疾患の治療とリハビリテーション 手術・保存療法とリハビリプログラム, MEDICAL VIEW, 2016, ISBN: 978-4-7583-1720-7 															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	学期末試験	80%										
	小テスト	20%										
	すべての項目の合格を単位取得の条件とする。											

注意事項	
------	--

備考	
----	--

リンク	
	URL

担当教員の 実務経験の 有無	
----------------------	--

教員の 実務 経験	理学療法士として、大学病院や地域の中核病院での実務経験を有する。
-----------------	----------------------------------

実務経験を いかした教 育内容	現在も1回/週の実務を行っているため、実際の症例を通して解説することができる。
-----------------------	---

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030B232		運動器系理学療法学実習 (Practice of Physical Therapy for musculoskeletal disorders) *大分を創る科目(Oita Development Course)					専門系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	1	3	福祉健康科学部	後期	水1,水2	日本語	英語	複数(共同)、クラス分け								
担当教員	氏名 大塚章太郎, 阿南雅也 E-mail otsuka-shotaro@oita-u.ac.jp (大塚), anan-masaya@oita-u.ac.jp (阿南) 内線 7118 (大塚), 6115 (阿南)															
授業の概要	運動器系理学療法は、筋骨格系の障害に対する量的な機能回復からそれらを制御する神経系の機能も考慮した質的な機能回復へと変化してきている。本授業では、運動器系理学療法学で学修したことを基に、臨床上、頻繁に経験するであろう運動器疾患の障害に対する評価および治療の知識と技術を統合的・包括的に学習する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 運動器疾患に対する評価と治療の知識を学習し、その基本的な進め方を説明できる。																
目標2 運動器疾患に対する理学療法(評価と治療)について実習し、その効果や身体の変化について分析できる。																
目標3 グループで作成したレポートを基に、症例を通してゴール設定や治療プログラムの立案について提案する(グループ発表)。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									4	3	3					
授業の内容																
1	事例検討 初回情報提供およびグループ学習															
2	事例検討 発表, 追加情報提供															
3	事例検討 グループ学習															
4	事例検討 発表, 最終情報提供															
5	事例検討 グループ学習															
6	事例検討 グループ学習															
7	事例検討 発表															
8	スポーツ外傷の理学療法(外部講師, 主にテーピング, コンディショニング)															
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
ラック ニ ン グ	A:知識の定着・確認	B:意見の表現・交換				C:応用志向				D:知識の活用・創造	工 夫 そ の 他 の	教員が講義および発表の際に、これまで経験した症例に実施した治療などを補足説明を行い、より臨床に即した内容とする。また、スポーツ場面で活躍されている外部講師からテーピングやコンディショニングについて講義をしてもらう。				
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		運動器系理学療法学 の復習およびレポートの修正(15h)。													
	事後学修		発表の準備(30h)。													
	想定時間合計		45													
教科書	・対馬栄輝・他: Crosslink理学療法テキスト 運動療法学, メジカルビュー, 2020, ISBN: 978-4-7583-2005-4 ・加藤浩・他: Crosslink理学療法テキスト 運動器障害運動療法学, メジカルビュー, 2020, ISBN: 978-4-7583-2001-6															
参考書	・工藤慎太郎: 運動機能障害の「なぜ?」がわかる評価戦略, 医学書院, 2017, ISBN: 978-4-260-03046-5 ・森山英樹・他: 運動器疾患の病態と理学療法, 医歯薬出版, 2015, ISBN: 978-4-263-21947-8 ・島田洋一・他: 運動器疾患の治療とリハビリテーション 手術・保存療法とリハビリプログラム, MEDICAL VIEW, 2016, ISBN: 978-4-7583-1720-7															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	学期末試験	50%										
	レポートおよび発表の内容	30%										
	グループ活動への参加状況	20%										
	すべての項目の合格を単位取得とする。											
注意事項	自費でテーピングを購入する必要があるため、事前にテーピングの種類や価格を連絡する。											
備考	【地域創生教育科目】											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士として、大学病院や地域の中核病院での実務経験を有する。											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	民間病院で勤務しながら、国体やオリンピックでトレーナー活動を行っている。											
実務経験を いかした教 育内容	これまで経験した症例に実施した治療などを解説する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
H030B245		神経理学療法学 (Physical therapy for neurological disorders)					専門系	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	1	3年	福祉健康科学部	前期	月4	日本語		単独								
担当教員	氏名 菅田 陽怜 E-mail hsugata@oita-u.ac.jp 内線 7671															
授業の概要	脳血管障害の理学療法に必要な脳の構造と機能および脳血管障害後に生じる病態や症状について理解を深める。脳血管障害の病型とそれぞれの特徴・各時期における治療やリハビリテーションの進め方、リスク管理について理解する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 脳血管障害理学療法に必要な脳の機能および構造について説明することができる。																
目標2 脳損傷により生じる障害について説明することができる。																
目標3 脳血管障害後片麻痺患者の回復過程について説明することができる。																
目標4 脳血管障害における評価項目を選定することができる。																
目標5 脳血管障害における理学療法について説明することができる。																
目標6 脳血管障害における合併症について説明することができる。																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									6	4						
授業の内容																
1 脳血管障害理学療法総論																
2 脳の機能と構造(1) - 運動																
3 脳の機能と構造(2) - 感覚、脳血管の走行と灌流領域																
4 脳血管障害																
5 その他の脳損傷疾患 - 頭部外傷、脳腫瘍、低酸素脳症																
6 中枢性運動障害の病態																
7 中枢性運動障害に対する評価(1) - 機能障害(impairment)																
8 中枢性運動障害に対する評価(2) - 機能障害(activity / participation)																
9 脳卒中後片麻痺に対する理学療法(1) - 一般的トレーニングと課題特異的トレーニング																
10 脳卒中後片麻痺に対する理学療法(2) - 装具療法、機能的電気刺激、電気刺激療法、ロボット治療																
11 脳卒中後片麻痺に対する理学療法(3) - 合併症																
12 脳卒中後片麻痺に対する急性期の介入																
13 脳卒中後片麻痺に対する回復期の介入																
14 脳卒中後片麻痺に対する理学療法の実践(1)																
15 脳卒中後片麻痺に対する理学療法の実践(2)																
ラーニング チェック シート グループ	A:知識の定着・確認		映像(スライド)等を示してイメージを持たせる。授業中に学生に意見や説明を求める場面を設ける。				工 夫 そ の 他 の									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		神経解剖・生理について十分な予習をして臨むこと(1h×15回=15h)。													
	事後学修		神経解剖・生理について十分な復習を行うこと(1h×15回=15h)。 神経理学療法学 実習につながるよう知識の定着・確認に努めること(1h×15回=15h)。													
	想定時間合計		45													
教科書		神経障害理学療法学1 第2版(中山書店)、大畑光司・石川朗編集、2020年発行(ISBN:978-4-521-74496-4)														
参考書		1)脳卒中理学療法の理論と技術 第4版(メジカルビュー社)、原寛美・吉尾雅春編集、2022年発行(978-4-7583-2039-9) 2)ベッドサイド神経のみかた 第18版(南山堂)、田崎義昭・斎藤佳雄著、2016年発行(ISBN:978-4-525-24798-0) 3)脳卒中最新線 第4版(医歯薬出版)、福井園彦・藤田勉・宮坂元麿編集、2009年発行(ISBN:978-4-263-21336-0)														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		期末試験	100%									
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	理学療法士											
実務経験を いかした教 育内容	脳血管障害の理学療法全般について講義する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
H030B246		神経系理学療法学 実習 (Practice of physical therapy for neurological disorders)					専門系	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	1	3年	福祉健康科学部	後期	月4,月5	日本語		複数(共同)								
担当教員	氏名 萬井太規、菅田陽怜 E-mail mani-hiroki@oita-u.ac.jp 内線 6109(萬井)、7671(菅田)															
授業の概要	脳血管障害の患者モデルをとおして、疾患特性・障害構造特性をより深く理解する。 また、学生同士ペアとなり基本的な治療について実習を行う。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7		
目標1 患者モデルにおいて評価項目が選定できる。																
目標2 患者モデルにおいて問題点が抽出できる。																
目標3 患者モデルにおいてゴール設定ができる。																
目標4 患者モデルにおいて治療プログラムが立案できる。																
目標5 学生モデルにおいて治療の一部を実施できる。																
目標6 症例の脳画像から患者の全体像を説明できる																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							6	1	3							
授業の内容																
1 実技 (ポジショニング、関節可動域トレーニング)																
2 実技 (促通トレーニング)																
3 実技 (寝返り、起き上がり)																
4 実技 (立ち上がり)																
5 実技 (~ の練習)																
6 実技 (試験)																
7 画像評価 (脳画像提示)																
8 画像評価 (脳画像検討、資料作成)																
9 画像評価 (発表)																
10 歩行分析 (症例提示)																
11 歩行分析 (歩行状態の検討、資料作成)																
12 歩行分析 (発表)																
13 症例検討 (症例提示)																
14 症例検討 (症例の全体像把握、資料作成)																
15 症例検討 (発表)																
ラーニング	A:知識の定着・確認	学生同士による演習、グループによる協同学習を取り入れる。				工夫その他の										
	B:意見の表現・交換	症例レポートや模擬患者(Paper patient)を用い具体的なケース検討を行うことで、臨床推論能力を高める。														
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	神経系理学療法学 の十分な復習をして授業に臨むこと(1h×15回=15h)。														
	事後学修	習得した知識・技術が臨床実習で活用できるよう振り返りを継続すること(1h×15回=15h)。 作成した資料を用いて復習すること(1h×15回=15h)。														
	想定時間合計	45														
教科書	特に指定しない。															
参考書	1)脳卒中最前線 第4版(医歯薬出版)、福井園彦・藤田勉・宮坂元麿編集、2009年発行(ISBN:978-4-263-21336-0) 2)脳卒中理学療法の理論と技術 第4版(メジカルビュー社)、原寛美・吉尾雅春編集、2022年発行(978-4-7583-2039-9) 3)脳卒中片麻痺患者に対する課題指向型トレーニング(文光堂)、潮見泰蔵編集、2015年発行(ISBN:978-4-8306-4521-1)															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	グループ活動の評価	60%										
	実技試験	40%										
	全てについて6割以上の評価を得た場合のみ単位認定を行う。											
注意事項	なし											
備考	なし 【地域創生教育科目】											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士											
実務経験を いかした教 育内容	脳血管障害の理学療法について講義・実技指導を行う。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030B247		神経系理学療法学 (Physical therapy for neurological disorders)					専門系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
必修	1	3	福祉健康科学部	前期	金2	日本語			オムニバス							
担当教員	氏名 萬井太規・朝井政治															
	E-mail mani-hiroki@oita-u.ac.jp、ma-asai@oita-u.ac.jp 内線 6109(萬井)、7551(朝井)															
授業の概要	神経に起因する代表的な疾患とその障害像を理解し、それに対する理学療法アプローチの理論について学習する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	錐体外路系、小脳の解剖・生理について説明できる。															
目標2	難治性疾患の定義が説明できる。															
目標3	神経難病の病態と治療について説明できる。															
目標4	失調症の理学療法評価・治療について説明できる。															
目標5	パーキンソン病の理学療法評価・治療について説明できる。															
目標6	頭部外傷・末梢神経損傷の病態・症状について説明できる。															
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							10									
授業の内容																
1	神経・筋疾患総論、錐体外路系による運動制御(萬井)															
2	パーキンソン病(病態・症状・分類)(萬井)															
3	パーキンソン病(薬物療法・評価)(萬井)															
4	パーキンソン病(治療)(萬井)															
5	小脳の構造と機能(萬井)															
6	失調症(評価)(萬井)															
7	失調症(治療)(萬井)															
8	難治性疾患総論、脊髄小脳変性症の病態(朝井)															
9	免疫学総論、多発性硬化症(朝井)															
10	多発筋炎・皮膚筋炎、神経難病にみられる症状・合併症(朝井)															
11	ギラン・バレー症候群、重症筋無力症(朝井)															
12	筋萎縮性側索硬化症(朝井)															
13	頭部外傷(萬井)															
14	末梢神経の解剖・生理(萬井)															
15	末梢神経損傷(萬井)															
ラーニング	A:知識の定着・確認	スライドや適宜症例のビデオ等を示してイメージを持たせ、疾患の病態・評価・理学療法の実際について知識の定着と臨床的対応能力を高める。				工夫 その他	動画の活用、単元ごとに知識振り返りを実施する。									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	解剖学、生理学、運動学についての復習(5h)。配布資料や参考文献などの情報を必要に応じて予習(各講義前1.5h)。														
	事後学修	各講義後に授業資料や教科書を用いて復習する(各講義後1.5h)														
	想定時間合計	50														
教科書	細田多穂・他、シンプル理学療法学シリーズ 神経筋障害理学療法学テキスト 改訂第3版、南江堂、2018年 ISBN: 978-4-524-25257-2 尾上尚志・他、病気がみえる7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA、2017年 ISBN: 978-4-89632-686-4 小林哲夫・他、神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ 改訂第2版、MEDICAL VIEW、2019年 ISBN: 978-4-7583-1938-6															
参考書	森尾友宏・他、病気がみえる6 免疫・膠原病・感染症 第2版、MEDIC MEDIA、2018年 ISBN: 978-4-89632-720-5 中山恭秀・鈴木俊明、Crosslink理学療法学テキスト神経障害理学療法学、MEDICAL VIEW、2019年 ISBN: 978-4-7583-2003-0 吉尾雅春・森岡周、標準理学療法学 神経系理学療法学 第3版、医学書院、2022年 ISBN: 978-4-260-04989-4 寄本恵輔、神経難病リハビリテーション100の叢書 第2版、株式会社gene、2019年 ISBN: 978-4905241768															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		小テスト	20%									
	期末テスト	80%										
注意事項	特になし											
備考	特になし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士											
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	なし											
実務経験を いかした教 育内容	実際の症例の病態や経過を提示、解説する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B248		神経系理学療法学 実習 (Practice of physical therapy for neurological disorders)					専門系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	1	3	福祉健康科学部	後期	金1,金2	日本語			複数(共同)						
担当教員	氏名 萬井太規、朝井政治														
	E-mail mani-hiroki@oita-u.ac.jp、ma-asai@oita-u.ac.jp 内線 6109(萬井)、7551(朝井)														
授業の概要	神経に起因する代表的な疾患の患者モデルをとおして、疾患特性・障害構造特性をより深く理解する。提示された情報のみから情報収集、評価、治療技術に関する課題について学生間で討議して理解を深める。また、学生同士ペアとなり基本的な評価・治療技術について実習を行う。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	パーキンソン病の理学療法評価・治療が実施できる。														
目標2	運動失調の理学療法評価・治療が実施できる。														
目標3	筋萎縮性側索硬化症の評価・治療が実施できる。														
目標4	疾患・障害に合わせた動作の介助方法が実施できる。														
目標5	評価結果、評価の統合と解釈、および症例の問題点について専門用語を用いて説明できる。														
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							2	2	3					3	
授業の内容															
1	運動失調の評価(協調性検査)(萬井)														
2	運動失調の理学療法(萬井)														
3	運動失調Case study(問題点抽出・ゴール設定)(萬井)														
4	運動失調Case study(発表・討議・まとめ)(萬井、朝井)														
5	パーキンソン病の評価(姿勢反射検査)(萬井)														
6	パーキンソン病の理学療法(萬井)														
7	パーキンソン病Case study(問題点抽出・ゴール設定)(萬井)														
8	パーキンソン病Case study(発表・討議・まとめ)(萬井、朝井)														
9	筋萎縮性側索硬化症の評価(朝井)														
10	筋萎縮性側索硬化症の理学療法1(朝井)														
11	筋萎縮性側索硬化症の理学療法2(朝井)														
12	運動失調、パーキンソン病Case study(治療プログラム立案)(萬井、朝井)														
13	運動失調、パーキンソン病Case study(治療プログラム発表・討議)(萬井、朝井)														
14	疾患別・障害別介助方法(萬井)														
15	疾患別・障害別介助方法(萬井)														
ラーニング	A:知識の定着・確認	学生同士による演習、グループによる共同学習を取り入れる。症例レポートや模擬患者を用いた具体的なケース検討を行うことで、臨床推論能力を高める。さらに、模擬患者に対してロールプレイしながら実践することで、実施技術の獲得、及び問題点を学習する。				工夫その他の	ケーススタディ。症例検討のディスカッション、プレゼンテーション。ロールプレイング。								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		神経系理学療法学、理学療法評価学の復習(15h)。												
	事後学修		習得した知識・技術を臨床実習で活用するための復習と反復練習(各実習後2h)。												
	想定時間合計		45												
教科書	細田多穂・他、シンプル理学療法学シリーズ 神経筋障害理学療法学テキスト 改訂第3版、南江堂、2018年 ISBN: 978-4-524-25257-2 尾上尚志・他、病気がみえる7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA、2017年 ISBN: 978-4-89632-686-4 小林哲夫・他、神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ 改訂第2版、MEDICAL VIEW、2019年 ISBN: 978-4-7583-1938-6														
参考書	森尾友宏・他、病気がみえる6 免疫・膠原病・感染症 第2版、MEDIC MEDIA、2018年 ISBN: 978-4-89632-720-5 中山恭秀・鈴木俊明、CrossLink理学療法学テキスト神経障害理学療法学、MEDICAL VIEW、2019年 ISBN: 978-4-7583-2003-0 吉尾雅春・森岡周、標準理学療法学 神経系理学療法学 第3版、医学書院、2022年 ISBN: 978-4-260-04989-4 寄本恵輔、神経難病リハビリテーション100の観智 第2版、株式会社gene、2019年 ISBN: 978-4905241768														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		グループ活動の評価	40%									
	提出課題（個人レポートなど）	60%										
	全てについて6割以上の評価を得た場合のみ単位認定を行う。											
注意事項	特になし											
備考	特になし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士											
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	なし											
実務経験を いかした教 育内容	実際の症例の病態や経過を提示、解説する。評価・治療の手技をデモンストレーションし、実技指導する。											

ナンバリング	H030B249					授業科目名(科目の英文名)	内部障害理学療法学 (Physical Therapy for internal dysfunction)			区分・【新主題】/(分野)	専門系	授業形式	対面				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	主に使用する言語			その他に使用する言語	担当形態						
必修	1	2年	福祉健康科学部	後期	月1	日本語					オムニバス						
担当教員	氏名 田中健一郎、朝井政治 E-mail tanaka-kenichiro@oita-u.ac.jp、ma-asai@oita-u.ac.jp 内線 6232(田中)、7551(朝井)																
授業の概要	内部障害のなかでも循環分野における疾患とそれに伴って生じる障害像を学習し、治療および内部障害リハビリテーションの現状を学習する。目に見えない循環器疾患を理解するための病態解剖生理を再学習するとともに病態機能面も学習し、循環器疾患の障害について論じる。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7
目標1	循環器疾患の病態について説明できる。																
目標2	循環器疾患患者に対する評価や、リスク管理について説明できる。																
目標3	心臓リハビリテーション(特に運動療法)について説明できる。																
目標4	具体的な運動処方ができる。																
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)											4	2	2	2			
授業の内容																	
1	循環器総論																
2	循環器系の機能・構造																
3	心電図の診かた																
4	エネルギー代謝と栄養																
5	運動耐容能と運動処方																
6	病態・検査と治療 総論																
7	病態・検査と治療 (虚血性心疾患)																
8	病態・検査と治療(心臓弁膜症と心筋症)																
9	病態・検査と治療(大動脈および末梢血管疾患)																
10	病態・検査と治療(心不全)																
11	理学療法を実施する上でのリスク管理																
12	心臓リハビリテーション総論																
13	高齢社会と心疾患																
14	症例検討																
15	症例検討																
ラーニング	A:知識の定着・確認	講義に加え、ビデオ視聴、ディベート、学生による講義を取り入れる。					工夫	その他の	模擬症例を通して、病態、評価、治療の理解を深める。講義内容の振り返りを適宜実施する。								
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	各講義の予習を行う(各講義前1時間)															
	事後学修	各講義に復習を行う(各講義後に1時間)															
	想定時間合計	30															
教科書	医療情報科学研究所, 病気がみえる vol.2 循環器(第5版), MEDIC MEDIA, 2021, ISBN978-4-89632-830-1																
参考書	エレイ N. マリーブ, 人体の構造と機能(第3版), 医学書院, 2010, ISBN: 978-4-260-00956-0 高橋 哲也・神津 玲・野村 卓生, 内部障害理学療法学(第2版), 医学書院, 2020, ISBN: 978-4-260-04264-2																

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	課題レポート	20%										
	知識振り返り(確認テスト)	10%										
	筆記試験	70%										
注意事項	病理学、臨床医学の復習を行って、講義に参加すること											
備考	クォーター制で講義を行う可能性がある。 講義毎に確認テストを行う											
リンク	特になし URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医療機関、福祉施設で勤務経験のある理学療法士が、臨床現場でのポイントを踏まえ、実務経験を活かした講義を行う。											
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	なし											
実務経験を いかした教 育内容	循環器障害に対する理学療法について、症例を提示しながら、講義やディスカッションを進める。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式
H030B250		内部障害理学療法学 (Physical Therapy for internal dysfunction)					専門系	対面
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
必修	1	2年	福祉健康科学部	後期	月2	日本語		複数(共同)
担当教員	氏名 朝井政治、田中健一郎 E-mail ma-asai@oita-u.ac.jp、tanaka-kenichiro@oita-u.ac.jp 内線 7551、6232							
授業の概要	呼吸、代謝分野における理学療法の対象となる疾患と障害像を学習し、一般的な治療および内部障害系理学療法について学習する。さらになんや急性期領域における内部障害についての理解を深めるために疾患特異性と理学療法の現状について概説する。							
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7
目標1	呼吸、代謝を中心とした内科系疾患の病態、症状、治療法を説明できる。							
目標2	理学療法を実施する上でのリスクの抽出と説明ができる。							
目標3	内部障害を有する患者に対する理学療法に必要な評価、問題点抽出ができる。							
目標4								
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
各DPへの関連度(計10)							3 2 3	2
授業の内容								
1	総論(定義、疫学など)、呼吸器系の解剖・生理							
2	症候学と身体所見評価(発熱、咳、浮腫、体重減少、肥満、痛み、呼吸困難)							
3	理学療法を実施する上でのリスク管理							
4	検査・画像所見のみかた1							
5	検査・画像所見のみかた2							
6	呼吸器疾患に対する評価:フィジカルアセスメント1							
7	呼吸器疾患に対する評価:フィジカルアセスメント2							
8	呼吸器疾患に対する評価:運動機能、ADL							
9	呼吸器疾患に対する理学療法							
10	症例検討(呼吸器疾患)							
11	リハビリテーションの実際:がん症例							
12	身体の構造と機能:腎・代謝							
13	糖尿病に対する評価と理学療法							
14	腎機能障害に対する評価と理学療法							
15	症例検討(代謝系疾患)							
ラーニング	A:知識の定着・確認	模擬症例を通して、病態、評価、治療の理解を深める。				工夫 その他	講義内容の振り返りを適宜実施する。	
	B:意見の表現・交換	講義に加え、ビデオ視聴、ディベート、学生による講義を取り入れる。						
	C:応用志向							
	D:知識の活用・創造							
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	講義前の予習(1.5時間×15回)						
	事後学修	各講義の復習(1.5時間×15回)						
	想定時間合計	45						
教科書	医療情報科学研究所 編、病気がみえる vol.4 呼吸器(第4版)MEDIC MEDIA、2018 ISBN 9784896327304 医療情報科学研究所 編、病気がみえる vol.8 腎・泌尿器(第3版)MEDIC MEDIA、2019 ISBN 9784896327717							
参考書	エレイン N マリーブ 著、人体の構造と機能(第4版)(医学書院)、2015 ISBN 9784260020558 医療情報科学研究所 編、病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌(第5版)MEDIC MEDIA、2019 ISBN 9784896327663 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会等 監修、呼吸リハビリテーションマニュアル 運動療法(第2版)(照林社)、2012 ISBN 9784796522786 千住秀明ら監修、呼吸理学療法標準手技(医学書院)ISBN 9784260000765							

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	課題レポート, 学修成果物	20%										
	知識振り返り(小テスト)	20%										
	筆記試験	60%										
注意事項	病理学、臨床医学の復習を行って、講義に参加すること											
備考	なし											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士											
実務経験を いかした教 育内容	内部障害理学療法(呼吸、代謝)について、実際の症例を提示しながら、講義やディスカッションを進める。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B238		内部障害理学療法実習 (Practice of Physical Therapy for internal dysfunction) *大分を創る科目(Oita Development Course)					専門系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	1	3年	福祉健康科学 部 理学療法 コース	前期	木1,木2	日本語			複数(共同)						
担当 教員	氏名 朝井政治、田中健一郎														
	E-mail ma-asai@oita-u.ac.jp、tanaka-kenichiro@oita-u.ac.jp 内線 7551、6232														
授業 の 概 要	循環器疾患、呼吸器疾患、代謝疾患の代表的な疾患について、基本的な評価、治療手技について解説、実習を行う。 学生を複数のグループに分け、グループごとにガイドラインや文献から最新の知見を収集し、提示された症例に対する根拠に基づいた理学療法のプログラム立案の手順を学ぶ。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 内部障害系理学療法における基本的考え方、評価から治療、効果判定までの流れが説明できる。															
目標2 循環器系、呼吸器系、代謝系の代表的な疾患に対する評価、および治療手技の抽出ができる。															
目標3 内部障害系理学療法を行う上でのリスクが抽出できる。															
目標4 基本的な支援の方法(介助法を含む)を実施できる															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									3	2	3		1	1	
授業の内容															
1 オリエンテーション、バイタルサイン・フィジカルアセスメント : 講義、演習															
2 バイタルサイン・フィジカルアセスメント : 講義、演習															
3 呼吸器疾患に対する評価(画像所見、呼吸機能検査): 講義、演習															
4 呼吸器疾患に対する理学療法(コンディショニング): 講義、演習															
5 呼吸器疾患に対する理学療法(運動療法): 講義、演習、症例検討(呼吸器疾患)															
6 実技振り返り															
7 循環器疾患の病態1															
8 循環器疾患に対する評価(心電図)															
9 循環器疾患に対する理学療法(運動負荷試験と運動処方)															
10 症例検討(循環器疾患)															
11 スタンダードプリコーション															
12 吸引の理論と実践															
13 代謝系疾患に対する評価・理学療法															
14 症例検討(代謝系疾患)															
15 実技振り返り															
ラ ー ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認		各疾患の特徴をふまえた上で、評価、手技の実習を行う。通常の実習に加え、症例を通じたディベート、学生による講義形式の発表などを取り入れる。			工 夫 そ の 他 の	模擬症例を提示し、疾患や病態の理解を図る。								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		これまで学修した内容の復習と講義前の予習(1.5時間×15回)												
	事後学修		各講義後の復習(知識、実技)(1.5時間×15回)												
	想定時間合計		45												
教科書		解良武士、椿淳裕 編 :Crosslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学, (MEDICAL VIEW) 2019, ISBN978-4-7583-2004-7 医療情報科学研究所(編):病気が見えるVol2.循環器疾患(第5版), (Medic Media), 2021, ISBN978-4-89632-830-1													
参考書		千住秀明,眞刺 敏, 宮川 哲夫(監修),呼吸理学療法標準手技, (医学書院), 2008 ISBN 978-4-260-00076-5 宮城征四郎, 徳田安春(編), 疾患を絞り込む・見抜く!身体所見からの臨床診断, (羊土社), 2010 ISBN 978-4-7581-0679-5													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	筆記試験	60%										
	実技振り返り	30%										
	課題レポート	10%										
注意事項	履修時は、実習着を着用し、治療者として相応しい身だしなみを心掛けること。											
備考	なし 【地域創生教育科目】											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の有無												
教員の 実務経験	医療機関、福祉施設で勤務経験のある理学療法士が、臨床現場でのポイントを踏まえ、実務経験を活かした講義を行う。											
実務経験を いかした 教育内容	理学療法で実施する評価、治療法、介助法について、模擬症例や実際の症例の所見を提示しながら理解を深める。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B239		発達系理学療法学 (Pediatric Developmental Physical Therapy)					専門系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
理学療法コース必修	1	3年	福祉健康科学部	前期	他	日本語			単独						
担当教員	氏名 武田 真樹 E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120														
授業の概要	小児期より障害を持つ患者への理学療法を学ぶ。主な内容は、定型発達児の運動発達分析、対象疾患とその障害像、理学療法評価と基本的な介入方法である。対象疾患の特性として人(子ども)の発達を多面的に捉える必要があるため、運動・認知・社会性などの領域を関連づけて学ぶ。また対象疾患は多岐にわたるため、臨床でよく診る疾患にしぼって学ぶ。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 誕生から歩行獲得までの運動を発達の視点で説明できる。															
目標2 定型および異常運動発達と姿勢反射の関連性を説明できる。															
目標3 乳幼児の発達を運動・認知・社会性などの領域に関連づけて説明できる。また発達検査の概要を説明できる。															
目標4 対象疾患の病態・障害像を説明できる。またその診断・評価や基本的な介入方法を説明できる。															
目標5 定型発達児の運動発達過程と脳性麻痺児の運動特徴を再現できる。															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									8	1	1				
授業の内容															
1 オリエンテーションおよび発達系理学療法学概論															
2 乳児期の運動発達分析 : 0~3ヵ月															
3 乳児期の運動発達分析 : 4~6ヵ月															
4 乳児期の運動発達分析 : 7~9ヵ月															
5 乳児期の運動発達分析 : 10~12ヵ月															
6 乳幼児期の発達(マイルストーン)と検査															
7 定型および異常運動発達と姿勢反射の関連性															
8 対象疾患論 : 脳性麻痺および重症心身障害総論															
9 対象疾患論 : 脳性麻痺各論(痙直型四肢麻痺・両麻痺)															
10 対象疾患論 : 脳性麻痺各論(痙直型片麻痺・アテトーゼ型四肢麻痺)															
11 対象疾患論 : 重症心身障害各論															
12 対象疾患論 : 発達障害・知的障害															
13 対象疾患論 : 筋疾患															
14 対象疾患論 : 小児整形外科疾患															
15 口頭試問でのプレゼンテーション: 定型発達児の運動発達過程と脳性麻痺児の運動特徴															
ラック ニ テ イ グ ブ	A:知識の定着・確認		予習および復習範囲の提示、ペアおよびグループでの実技演習とディスカッションの促進、グループ学習によるレポート作成、口頭試問でのプレゼンテーション実施				工 夫	そ の 他 の							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		教科書の該当範囲を予習する(15h)。												
	事後学修		授業で配布された資料および教科書の該当範囲を復習する(15h)。レポート作成および口頭試問(プレゼンテーション)の準備をする(5h)。												
	想定時間合計		35												
教科書		細田多穂(監修)、小児理学療法学テキスト改訂第4版、南江堂、2024年、ISBN 978-4-524-20453-3 その他、授業中に配布する資料を使用する。													
参考書		浅野大喜(著)、リハビリテーションのための発達科学入門、協同医書出版社、2012年、ISBN 978-4-7639-106600 儀間裕貴他(編集)、子どもの感覚運動機能の発達と支援、メジカルビュー社、2024年、ISBN 978-4-7583-2251-5													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	定期試験		70%									
	レポート・口頭試問（プレゼンテーション）	30%										
	定期試験とレポート・口頭試問（プレゼンテーション）の点数を合算し成績および単位取得の判定を行います。											
注意事項	限られた回数・時間での授業です。能動的に学ぶことを心がけて参加して下さい。実技演習は動きやすい服装で参加して下さい（事前に連絡します）。											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士											
実務経験を いかした 教育内容	療育機関での臨床経験や福祉事業での業務経験を活かした授業をする。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B261		義肢装具学 (Prosthetics and orthotics)					専門系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必修	1	2	福祉健康科学部	後期	木1,木3	日本語	英語	オムニバス							
担当教員	氏名 阿南雅也, 片岡晶志 E-mail anan-masaya@oita-u.ac.jp, mkataoka@oita-u.ac.jp 内線 6115, 7457														
授業の概要	ある部位の身体機能が一時的に低下あるいは永久に消失した際、その機能を身体外部から代償する方法が義肢装具である。本講義では、リハビリテーションにおける義肢装具の意義、歴史、現状について、また各義肢装具の種類・構造、機能などを学ぶ。そして、義肢装具のチェックアウトおよび義肢装具療法の基礎知識、また補装具の支給体系について学ぶ。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 リハビリテーションにおける義肢装具の重要性と役割を説明できる															
目標2 義肢装具の種類・構造、機能を説明できる															
目標3 義肢装具のチェックアウトを説明できる															
目標4 義肢装具療法の目的および実際を説明できる															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									10						
授業の内容															
1 装具総論(阿南)															
2 脊髄損傷の装具(片岡)															
3 関節リウマチの装具(片岡)															
4 脳卒中片麻痺の装具(阿南)															
5 整形外科治療装具・スポーツ障害の装具 part1(阿南)															
6 整形外科治療装具・スポーツ障害の装具 part2(阿南)															
7 末梢神経障害の装具, 小児用装具(片岡)															
8 切断総論・切断のリハビリテーション(片岡)															
9 義肢総論(片岡)															
10 下腿義足(阿南)															
11 大腿義足 part1(阿南)															
12 大腿義足 part2(阿南)															
13 股, 膝, サイム, 足部切断用義足(阿南)															
14 義手(阿南)															
15 その他の補装具(阿南)															
ラーニング	A:知識の定着・確認		授業開始時に前回分の小テストを行う。				工夫	その他の	動画の活用, LMS(Moodle)を積極的に導入し, 予習・復習をしやすい環境を整備						
	B:意見の表現・交換		実際の臨床での事例などを交える。												
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		教科書と事前にMoodleにアップした講義資料を用いて予習する(15h)。												
	事後学修		教科書とMoodleにアップした講義資料や動画を用いて復習する(30h)。												
	想定時間合計		45												
教科書	佐伯寛:標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 義肢装具学・医学書院, 2018, ISBN: 978-4-260-03441-8														
参考書	澤村誠志・他:義肢学 第3版・医歯薬出版, 2015, ISBN: 978-4-263-21539-5 飛松好子・他:装具学 第4版・医歯薬出版, 2016, ISBN: 978-4-263-21418-3 伊藤利之・他:義肢装具のチェックポイント 第8版・医学書院, 2014, ISBN: 978-4-260-01744-2														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	学期末試験	80%										
小テスト	20%											
	学期末試験はそれまでの出席回数が2/3以上の者にも受験資格を有す。											
注意事項	阿南担当分は「木曜1限」、片岡担当分は「木曜3限」にて実施する。											
備考	なし											
リンク	Moodle (2025後期-木1 義肢装具学)を参照すること URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士, 医師											
実務経験を いかした教 育内容	理学療法士, 医師としての実務経験をもつ教員が, 臨床・研究・教育経験を生かして, 理学療法士の臨床現場で多岐に用いられる義肢装具に関する教育を行っている。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B262		義肢装具学実習 (Practice of Prosthetics and orthotics)					専門系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必修	1	3年	福祉健康科学部	前期	木3,木4	日本語	英語	オムニバス、クラス分け							
担当教員	氏名 阿南雅也, (非)松尾英美子 E-mail 阿南:anan-masaya@oita-u.ac.jp 内線 阿南:6115														
授業の概要	義肢装具学で学修したことを基に、義肢装具の構造と使用されるパーツについて学修する。また装具については学生自身が相互にモデルとなり、疾病と装具の特殊性を学修する。義肢については、体験用義足を用い、装着時の問題点やアライメント調整の技術を理解し、義肢の適合判定の知識について学修する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 義肢装具の構造について説明できる															
目標2 基本的な装具のチェックアウトができる															
目標3 基本的な義肢のアライメント調整が説明できる															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									4	3	3				
授業の内容															
1 義肢・装具のエビデンス調査(阿南)															
2 義肢・装具のエビデンス調査(阿南)															
3 義肢・装具のエビデンス発表(阿南)															
4 義肢・装具のエビデンス発表(阿南)															
5 義肢・装具の使用方法(チェックアウト,アライメント調整を含む)調査(阿南)															
6 義肢・装具の使用方法(チェックアウト,アライメント調整を含む)調査(阿南)															
7 義肢・装具の使用法の発表(阿南)															
8 義肢・装具の使用法の発表(阿南)															
9 装具の体験実習(阿南)															
10 装具の体験実習(阿南)															
11 義肢装具に関する法律や制度概論・材料学・トピックス(松尾)															
12 義肢装具士からみた装具のチェックポイント(松尾)															
13 義足等の体験実習・義足の調整(松尾)															
14 義足等の体験実習・義足の調整(松尾)															
15 義足等の体験実習・義足の調整(松尾)															
ラーニング	A:知識の定着・確認		講義の中でグループディスカッションを適宜行う。				工夫その他の	動画の活用, LMS(Moodle)を積極的に導入し, 予習・復習をしやすい環境を整備							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		義肢装具学の復習を行う(15h)。												
	事後学修		発表の準備を行う(30h)。												
	想定時間合計		45												
教科書	佐伯寛:標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 義肢装具学。医学書院, 2018, ISBN: 978-4-260-03441-8														
参考書	澤村誠志・他:義肢学 第3版。医歯薬出版, 2015, ISBN: 978-4-263-21539-5 飛松好子・他:装具学 第4版。医歯薬出版, 2016, ISBN: 978-4-263-21418-3 日本整形外科学会・他:義肢装具のチェックポイント 第9版。医学書院, 2021, ISBN: 978-4-260-04589-6														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	グループ活動への参加状況	30%										
	口頭による実習結果発表	25%										
	発表会への参加状況	20%										
	レポート	25%										
注意事項	グループ単位での実習のため、特別な理由なしに休まないこと。											
備考	なし											
リンク	Moodle (2025前期-木34 義肢装具学実習)を参照すること URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士・義肢装具士											
実務経験を いかした教 育内容	理学療法士、義肢装具士としての実務経験をもつ教員が、臨床・研究・教育経験を生かして、理学療法士の臨床現場で多岐に用いられる義肢装具に関する教育を行っている。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030B271		物理療法学 (Electrophysical Agents)					専門系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	1	3	福祉健康科学部	前期	火3	日本語	英語	オムニバス								
担当教員	氏名 阿南雅也, 河上敬介, 萬井太規 E-mail 阿南: anan-masaya@oita-u.ac.jp 内線 阿南: 6115															
授業の概要	物理療法では、より高い効果を求めて強い強度で行われたり、様々な種類のエネルギーを利用したりすることになるが、同時に身体に対する危険性も高くなる。安全で効果の高い治療を実施するためには、与えられたエネルギーに対して身体がどのような反応を示すかを基礎知識として学習する必要がある。また、物理療法には極超短波療法、超短波療法、超音波療法などがあるが、使用される物理的エネルギーの多くは目に見えないものであり、理解することが困難な場合が多い。本授業では、これらを可能な限り単純化して各自がイメージとして理解できるように心がけながら行う。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	各種物理療法の作用機序を説明できる															
目標2	各種物理療法の適応と禁忌を説明できる															
目標3	各種物理療法の実施上の注意点を説明できる															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							10									
授業の内容																
1	物理療法の概要(河上)															
2	温熱療法(総論, ホットパック, パラフィン浴)(河上)															
3	温熱療法(赤外線療法)(河上)															
4	温熱療法(超短波療法, 極超短波療法)(河上)															
5	超音波療法(河上)															
6	電気刺激療法(総論)(阿南)															
7	電気刺激療法(神経筋電気刺激)(阿南)															
8	電気刺激療法(経皮的電気刺激)(阿南)															
9	電気刺激療法(バイオフィードバック療法)(阿南)															
10	光線療法(レーザー, 紫外線)(阿南)															
11	牽引療法(概要, 頸椎牽引, 骨盤牽引)(萬井)															
12	間欠的空気圧迫装置, 持続的他動運動装置(萬井)															
13	寒冷療法(萬井)															
14	水治療法(萬井)															
15	リスク管理(萬井)															
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	授業開始時に単元ごとの小テストを行う。														
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	高校時代に学んだ物理学を復習する(15h)。														
	事後学修	講義内容を復習する(30h)。														
	想定時間合計	45														
教科書	吉田英樹・他: Crosslink理学療法学テキスト 物理療法学, メジカルビュー社, 2020, ISBN: 978-4-7583-2006-1															
参考書	庄本康治・他: エビデンスから身につける物理療法, 羊土社, 2017, ISBN: 978-4-7581-0262-9															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		学期末試験	90%									
	小テスト	10%										
注意事項	物理療法は物理学の現象を生体に与える治療法である。 高校時代に学んだ物理学を復習しておいていただきたい。											
備考	なし											
リンク	Moodle (2025前期-火3 物理療法学)を参照すること URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士											
実務経験を いかした 教育内容	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床・研究・教育経験を生かして、理学療法士が行う基本的治療法の一つである物理療法に関する教育を行っている。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H030B272		物理療法学実習 (Practice of Therapeutic Physical Agents)					専門系	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
必修	1	3	福祉健康科学部	前期	火4,火5	日本語	英語	複数(共同)、クラス分け						
担当教員	氏名 萬井太規, 河上敬介, 阿南雅也 E-mail 萬井: mani-hiroki@oita-u.ac.jp 内線 萬井: 6109													
授業の概要	実際に物理療法がおこなえるよう, 各療法についての目的, 効果と適応, 手技, リスク管理などを整理しながら学修する。物理療法の主な目的は疼痛の緩和, 循環の改善等であり, 臨床においては運動療法と組み合わせて実施される場合が多い。本授業では物理療法を実施する場面を想定して, 物理療法機器の取り扱い, リスク管理などを実習する。この時に物理療法の授業で学んだ知識を復習しながら, その効果も体験できるように行う。													
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1 各種物理療法のエビデンスを調査し, 説明できる														
目標2 各種物理療法の作用機序を説明できる														
目標3 各種物理療法の適応と禁忌, 実施上の注意点を説明できる														
目標4 各種物理療法を実施できる														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)							4	3	3					
授業の内容														
1 オリエンテーション														
2 各種物理療法のエビデンスの調査														
3 各種物理療法のエビデンスの調査														
4 各種物理療法のエビデンスの報告														
5 各種物理療法のエビデンスの報告														
6 各種物理療法のエビデンスの報告														
7 温熱療法・超音波療法の治療法の実際														
8 温熱療法・超音波療法の治療法の実際														
9 電気刺激療法・光線療法の治療法の実際														
10 電気刺激療法・光線療法の治療法の実際														
11 牽引療法・寒冷療法・水治療法の実際														
12 牽引療法・寒冷療法・水治療法の実際														
13 機器体験実習														
14 機器体験実習														
15 機器体験実習														
ラック	A:知識の定着・確認	グループで物理療法機器のエビデンスの調査, 治療法の実験を行う。					工夫 その他	物理療法学と並行して行う。						
ニテ	B:意見の表現・交換	講義の中でグループディスカッションを適宜行う。												
ンイ	C:応用志向													
グ	D:知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	物理療法学の復習を行う(15h)。												
	事後学修	発表の準備, 機器の使用法の復習を行う(30h)。												
	想定時間合計	45												
教科書	吉田英樹・他: Crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学, メジカルビュー, 2019, ISBN: 978-4-7583-2006-1													
参考書	庄本康治・他: エビデンスから身につける物理療法, 羊土社, 2017, ISBN: 978-4-7581-0262-9													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	グループ活動への参加状況	30%										
	口頭による実習結果発表	25%										
	発表会への参加状況	20%										
	レポート	25%										
注意事項	グループ単位での実習のため、特別な理由なしに休まないこと。											
備考	なし											
リンク	Moodle (2025前期-火45 物理療法学実習)を参照すること URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士											
実務経験を いかした 教育内容	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床・研究・教育経験を生かして、理学療法士が行う基本的治療法の一つである物理療法に関する教育を行っている。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B218		基礎理学療法学 (Physical therapy fundamentals)					専門系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	1	3	福祉健康科学部	前期	火1	日本語	英語		オムニバス						
担当教員	氏名 河上敬介、菅田陽怜 E-mail kkawakami@oita-u.ac.jp, hsugata@oita-u.ac.jp 内線 河上7735、菅田7671														
授業の概要	安全で効果的な理学療法を施行するために、基礎医学的観点から理学療法の対象となる病態を理解し、その病態に対する理学療法の影響が説明できる。特に、運動器系の中で特に理学療法の対象となることの多い筋系と神経系に関して、細胞生物学的視点から病態と治療に対する反応のメカニズムを説明でき、各種理学療法の効果を客観的に判定できる。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 基礎医学的観点から理学療法の対象となる病態を理解する															
目標2 対象となる病態に対する理学療法の影響が説明できる															
目標3 細胞生物学的視点から病態と治療に対する反応のメカニズムを説明できる															
目標4 各種理学療法の効果を客観的に評価できる															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									4	3	3				
授業の内容															
1 理学療法と基礎医学(総論)															
2 筋収縮に関わる役者たち															
3 細胞内外の情報伝達に関わる役者たち															
4 筋の収縮特性と理学療法															
5 不活動による筋の適応とそのメカニズム															
6 サルコペニアの病態															
7 萎縮筋に対する理学療法応答とそのメカニズム															
8 損傷筋における理学療法応答とそのメカニズム															
9 脳神経科学の基礎理論															
10 運動に関わる大脳皮質各領域の役割															
11 神経損傷後の神経回路再編成															
12 学習と再学習に関わる脳領域															
13 運動学習理論															
14 リハビリテーションによる脳の変化															
15 ニューロモデュレーション															
ラーニング目標	A:知識の定着・確認		理学療法の科学的根拠に値する情報を収集し、他に説明し、意見交換の場を設ける。				工夫 その他	最新の科学的知見を中心に講義を行い、エビデンスに基づく理学療法に必要な、科学的根拠を導き出す術を示す。							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		事前配布資料を確認し、1・2年生で学んだ基礎医学の復習を行う(8h)。												
	事後学修		講義で不足を感じた基礎医学の項目を補填する(8h)。 配布資料を用いて復習する(7h)												
	想定時間合計		23												
教科書	なし(配布資料により行う)														
参考書	1, 2年生時まで学んだ、解剖学、生理学、生化学、病理学等の教科書やテキスト。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		テスト	80%									
	授業時の意見交換	20%										
注意事項												
備考												
リンク	Moodle (2025前期-火12 基礎理学療法学)を参照すること URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	理学療法士											
実務経験を いかした教 育内容	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床・研究・教育経験を生かして、理学療法士が行う研究活動と、その臨床的意義を中心に教育を行う。											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H030B213	基礎理学療法実習 (Physical Therapy Fundamentals) *大分を創る科目(Oita Development Course)					専門系	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	1	3	福祉健康科学部	前期	火2	日本語	英語	複数(共同)、クラス分け					
担当教員	氏名 河上敬介, 阿南雅也 E-mail 河上: kkawakami@oita-u.ac.jp, 阿南: anan-masaya@oita-u.ac.jp 内線 河上: 7735, 阿南: 6115												
授業の概要	臨床における理学療法効果の科学的根拠となる知見を得るための理論体系を構築することを目的とする。これまで学んだ知識を基礎として、基礎理学療法領域の各領域について研究されている内容やトピックスを調査し、最先端の英語論文に触れる。また、最新の研究内容や研究手法、臨床応用について主体的に学修する。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	基礎理学療法領域の中から、国内外の情報を収集できる												
目標2	基礎理学療法領域の最先端の英語論文に触れる												
目標3	最新の研究内容や研究手法、臨床応用について論理的に説明できる												
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							4	3	3				
授業の内容													
1	オリエンテーション												
2	基礎理学療法領域の研究報告内容の整理												
3	基礎理学療法領域の研究報告内容の整理												
4	基礎理学療法領域の紹介												
5	基礎理学療法領域の紹介												
6	基礎理学療法領域の細領域の調査												
7	基礎理学療法領域の細領域の発表												
8	基礎理学療法領域の細領域の発表												
9	基礎理学療法領域の細領域の論文抄読												
10	基礎理学療法領域の細領域の論文抄読												
11	基礎理学療法領域の細領域の論文抄読												
12	基礎理学療法領域の細領域の研究手法の調査												
13	基礎理学療法領域の細領域の研究手法の調査												
14	基礎理学療法領域の細領域の研究手法の調査												
15	まとめ												
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	グループで基礎理学療法領域の調査を行う。				工 夫 そ の 他 の	その他の工夫 英語論文にふれる機会を得ることで、これからの研究活動につなげる。						
B:意見の表現・交換	講義の中でグループディスカッションを適宜行う。												
C:応用志向													
D:知識の活用・創造													
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	論文検索を行う方法などを事前に慣れておく(15h)。											
	事後学修	発表の準備を行う(30h)。											
	想定時間合計	45											
教科書	指定しない(必要に応じて提示する)												
参考書	指定しない												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	グループ活動への参加状況	30%										
	口頭による実習結果発表	25%										
	他のグループの発表に対する質疑への参加状況	20%										
	レポート	25%										
注意事項	グループ単位での実習のため、特別な理由なしに休まないこと。											
備考	なし 【地域創生教育科目】											
リンク	Moodle (2025前期-火12 基礎理学療法実習) を参照すること URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士											
実務経験を いかした 教育内容	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床・研究・教育経験を生かして、理学療法士が行う研究活動や臨床応用を中心に教育を行っている。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B242		疼痛の理学療法学 (Physical therapy for chronic pain)					専門系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	1	3	福祉健康科学部	後期	月3	日本語			オムニバス						
担当教員	氏名 大塚章太郎・徳丸治・片岡晶志・菅田陽怜・河上敬介														
	E-mail otsuka-shotaro@oita-u.ac.jp 内線 大塚(7118)、徳丸(7972)、片岡(7457)、菅田(7671)、河上(7735)														
授業の概要	理学療法を行う際に、疼痛が大きな阻害因子となる。そのため、効果的な理学療法を行う上で疼痛に関する知識は必要不可欠なものである。近年の研究からさまざまな神経系の機能異常や心理・社会的要因が影響していることが明らかになってきている。本講義では、疼痛の発生のメカニズム、薬物による鎮痛のメカニズム、神経系の可塑性異常による疼痛、運動器由来の疼痛に対する理学療法について理解できることを目指す。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 疼痛発生および鎮痛のメカニズムを説明できる															
目標2 痛みの可塑性について説明できる															
目標3 疼痛のある疾患に対しての理学療法展開を説明できる															
目標4 疼痛に対する薬物の作用機序を説明できる															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
							各DPへの関連度(計10)		8	2					
授業の内容															
1	概論(大塚)														
2	疼痛発生のメカニズム(徳丸)														
3	薬物による鎮痛のメカニズム(片岡)														
4	薬物による鎮痛のメカニズム(片岡)														
5	神経系の可塑性異常による疼痛(菅田)														
6	神経系の可塑性異常による疼痛(菅田)														
7	筋痛症候群の疼痛と理学療法(河上)														
8	運動器疾患の疼痛と理学療法(大塚)														
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
ラーニング	A:知識の定着・確認	グループによるレポート作成				工夫 その他	理解しやすいように資料(動画も含む)などを活用する								
	B:意見の表現・交換	実際の疼痛患者のケースを基にグループディスカッションを行い、理学療法評価と治療方針を立てる。													
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	参考書を基に講義前に予習をする(各講義前、2時間)。													
	事後学修	講義の内容を復習する(各講義後、2時間)。													
	想定時間合計	32													
教科書	教科書は指定しない。 授業時に配布するプリント小冊子を使用する。														
参考書	参考書を指定しない。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		学期末試験	100%									
	学期末試験は60%以上を合格とする。											
注意事項	解剖学、運動学、生理学に関する基礎的な知識を復習しておくこと。											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医師・理学療法士											
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	なし											
実務経験を いかした教 育内容	多角的なアプローチの必要な疼痛マネジメントのポイントを医師、理学療法士がそれぞれの立場からを解説する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B281		ADL学 (Activities of Daily Living)					専門系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	1	3年	福祉健康科学部	後期	木1	日本語			複数(共同)						
担当教員	氏名 田中健一郎、朝井政治														
	E-mail tanaka-kenichiro@oita-u.ac.jp、ma-asai@oita-u.ac.jp 内線 6232(田中)、7551(朝井)														
授業の概要	ADL学は、リハビリテーションおよび理学療法において重要な位置を占める。ADL学では、ADLの概念やADL評価国際生活機能分類[ICF]との関連性などの基本的なADLを理解する。また、ADLを支援する機器としての自助具や日常生活用具、歩行補助具や車いすなどの補装具の使用目的とその役割についても学修する。さらに、ADLの環境因子として重要な生活環境について学び、理学療法士として専門的な視点で、対象者を取り巻く生活環境の基礎知識や具体的な対応方法を学修する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	ADLの概念を説明できる。														
目標2	代表的なADL評価について適応と実施方法を説明できる。														
目標3	ADL基本動作を理解し、動作を分析、説明できる														
目標4	ADL支援機器の基本的機能を説明できる														
目標5	フレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドロームの評価とADL指導ができる														
目標6	代表的な疾患に対する介助・支援方法を説明できる														
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							2	2	2	1	2	1			
授業の内容															
1	オリエンテーション(日常生活活動とは、評価の復習) 総論														
2	ADL評価														
3	ADL評価														
4	基本動作とセルフケア														
5	ADLと身体活動量														
6	福祉用具・環境調整														
7	代表的な疾患・障害におけるADL(整形外科)														
8	代表的な疾患・障害におけるADL(中枢疾患)														
9	代表的な疾患・障害におけるADL(中枢疾患)														
10	代表的な疾患・障害におけるADL(脊髄損傷)														
11	代表的な疾患・障害におけるADL(脊髄損傷)														
12	代表的な疾患・障害におけるADL(内部障害)														
13	フレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドロームの評価とADL														
14	症例検討														
15	ADL総合振り返り														
ラーニングチェックポイント	A:知識の定着・確認	各種評価や介助方法について、演習を取り入れる。				工夫その他の	具体的な理学療法やADL指導について実際の症例ビデオを視聴し、ディスカッションを行う。 小テストを行い、知識の定着を深める。								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	解剖学、生理学、運動学の復習と各講義の予習(各回1時間)													
	事後学修	各講義後に復習すること(各回1時間)													
	想定時間合計	30													
教科書	島田裕之, 高齢者理学療法学, 医歯薬出版, 2017, ISBN:978-4-263-21743-6 鶴見隆正, 標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版, 医学書院, 2017, ISBN:978-4-260-03256-8														
参考書	橋元 隆, 理学療法学テキスト, 日常生活活動(ADL)第2版, 神陵文庫, 2015, ISBN:978-4-915814-21-1 福井園彦, 老人のリハビリテーション第8版, 医学書院, 2016, ISBN:978-4-260-02428-0														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト	10%										
	課題レポート	20%										
	筆記試験	70%										
注意事項	講義の中で一部演習を行う											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医療機関、福祉施設で勤務経験のある理学療法士が、臨床現場でのポイントを踏まえ、実務経験を活かした講義を行う。											
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	なし											
実務経験を いかした教 育内容	ADLの評価、環境調整、福祉用具の利用について、具体例を示しながら、講義やディスカッションを進め、理解を深める。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B282		ADL学実習 (Practice of Activities of Daily Living)					専門系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	1	3年	福祉健康科学部	後期	木2,木3	日本語			複数(共同)						
担当教員	氏名 田中健一郎、朝井政治														
	E-mail tanaka-kenichiro@oita-u.ac.jp、ma-asai@oita-u.ac.jp 内線 6232(田中)、7551(朝井)														
授業の概要	ADL学で学んだ知識をもとに、ADLの評価およびその改善のための基本的な介入方法や、寝返り動作、起き上がり動作などの基本動作を中心とした各動作の介助、指導方法について学修する。また、移動補助具である、杖・松葉杖・車いすにおける採寸とチェックアウト、使用方法についても学修する。さらに、実践的なアプローチ方法について、模擬症例を通じたディスカッションを行いながら学修する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	適切なADL評価法の選択、評価の実践ができる														
目標2	代表的な疾患、障害に対して適切な介助、ADL指導ができる														
目標3	代表的な疾患、障害に対して適切な福祉用具の選択、処方ができる														
目標4	フレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドロームの評価とADL指導ができる														
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							2	2	2	1	2	1			
授業の内容															
1	オリエンテーション、総論														
2	ADL評価(概論:目的、代表的な評価尺度)														
3	ADL評価(概論:基本動作)														
4	基本動作とセルフケア														
5	ADLと身体活動量														
6	福祉用具(名称と機能、採寸の意義)・環境調整														
7	代表的な疾患・障害におけるADL(整形外科)														
8	代表的な疾患・障害におけるADL(中枢疾患)														
9	代表的な疾患・障害におけるADL(中枢疾患)														
10	代表的な疾患・障害におけるADL(脊髄損傷)														
11	代表的な疾患・障害におけるADL(脊髄損傷)														
12	代表的な疾患・障害におけるADL(内部障害)														
13	フレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドロームの評価とADL														
14	症例検討														
15	実技総合振り返り														
ラーニングチェックシート	A:知識の定着・確認	各種評価や介助方法について、症例を想定した演習・実技を取り入れる				工 夫 の 他 の	具体的な理学療法やADL指導について実際の症例ビデオを視聴し、ディスカッションを行う。 症例を模擬し、学生同士で介助方法、福祉用具の具体的な調整を行う								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	解剖学、生理学、運動学、疾患学の復習と講義の予習(各回1時間)													
	事後学修	各講義後に復習すること(各回1時間)													
	想定時間合計	30													
教科書	島田裕之 編著、高齢者理学療法学(医歯薬出版)2017 ISBN978-4-263-21743-6 鶴見隆正 編集、標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版(医学書院)2017 ISBN978-4-260-03256-8														
参考書	橋元 隆 理学療法学テキスト 日常生活活動(ADL)第2版(神隆文庫)2015 ISBN-10:4915814211 福井園彦 老人のリハビリテーション第8版(医学書院)2016 ISBN:978-4-260-02428-0														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	課題レポート	20%										
	実技総合振り返り	20%										
	筆記試験	60%										
注意事項	講義の中で一部実習を行う。講義は、実習着を着用し、治療者として相応しい身だしなみを心掛けること。											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の有無												
教員の 実務経験	医療機関、福祉施設で勤務経験のある理学療法士が、臨床現場でのポイントを踏まえ、実務経験を活かした講義を行う。											
実務経験を いかした教 育内容	ADLの評価、環境調整、福祉用具の利用について、具体例を示しながら、講義やディスカッションを進め、理解を深める。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B291		地域理学療法学 (Community-based physical therapy)					専門系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	1	3年	福祉健康科学 部 理学療法 コース	後期	火1	日本語			単独						
担当 教員	氏名 田中健一郎 E-mail tanaka-kenichiro@oita-u.ac.jp 内線 6232														
授業 の 概 要	地域理学療法学に関わる理念と定義を理解し、地域在住の障害者や高齢者を取り巻く制度的環境や支援ネットワークの現状を学習する。また、地域理学療法学において現状の課題・問題についてディスカッション等を実施することにより、理学療法士が果たすべき役割について理解を深める。さらに、地域理学療法学と密接な関係がある介護保険制度や高齢者施策について、学生が在住する地域における違い等を把握することにより地域に適したリハビリテーションのビジョンを構築する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	地域理学療法学に関わる理念と定義を理解し、対象者を取り巻く制度的環境や支援ネットワークの現状を説明できる														
目標2	地域理学療法学において現状の課題・問題を挙げ、理学療法士が果たすべき役割について説明できる														
目標3	地域理学療法学と密接な関係がある介護保険制度や高齢者施策について理解し、地域理学療法法のビジョンについて説明ができる														
目標4	地域理学療法について、具体的な実践方法を説明することができる														
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							3	2	2	1	1	1			
授業の内容															
1	地域理学療法および地域リハビリテーションの概念と視点														
2	地域理学療法と社会情勢と制度														
3	地域理学療法の対象と支援方法														
4	理学療法的支援(1)														
5	理学療法的支援(2)														
6	理学療法的支援(3)														
7	地域の仕組みと行政														
8	世界の地域リハビリテーション														
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
ラ ッ ク ニ テ ィ ン グ ブ	A:知識の定着・確認	小テストを取り入れながら、知識の確認を行う。				工 夫 そ の 他 の	特記なし								
B:意見の表現・交換	具体的な症例を提示し、ディスカッションを取り入れる														
C:応用志向															
D:知識の活用・創造															
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修	理学療法概論の復習(5時間) 各回の講義の予習(各回1時間 8回)													
	事後学修	各講義後に復習すること(各回1.5時間 8回)													
	想定時間合計	25													
教科書	金谷さとみ,原田和宏 編著,地域理学療法学 第5版(医学書院),2022, ISBN:978-4-260-05007-4														
参考書	牧迫飛雄馬 編著,地域理学療法学,(医歯薬出版株式会社),2021,ISBN:978-4-263-26734-9														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト	10%										
	課題レポート	20%										
	筆記試験	70%										
注意事項	特記なし											
備考	特記なし											
リンク	特記なし											
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務経験	医療機関、福祉施設で勤務経験のある理学療法士が、臨床現場でのポイントを踏まえ、実務経験を活かした講義を行う。											
実務経験を いかした教 育内容	地域理学療法概念、基本的な視点、具体的な実践方法を等について、臨床の具体例を提示しながら、講義やディスカッションを進め、理解を深める。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030B401		理学療法学研究論 (Physical Therapy Research)					研究系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	2	3	福祉健康科学部	通年	他	日本語	英語	単独、オムニバス、クラス分け								
担当教員	氏名 河上敬介, 朝井政治, 徳丸治, 紀瑞成, 阿南雅也, 菅田陽怜, 萬井太規, 安藤敬子, 大塚章太郎, 田中健一郎 E-mail 阿南: anan-masaya@oita-u.ac.jp 内線 阿南: 6115															
授業の概要	研究モラルと倫理教育とともに、基礎研究概説、臨床研究概説を学修する。また、各教員の研究室への配属により、基礎・臨床研究倫理や研究方法論、研究計画法を学ぶことで、疑問点の解明や問題点の解決のための論理的な思考過程を構築する。これにより、その後実施される臨床実習において、論理的思考により、患者の評価や治療の実践を科学的な視点から検証することが可能となる。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 基礎・臨床研究倫理を説明できる																
目標2 研究方法論や研究計画法を説明できる																
目標3 研究テーマの背景-目的を説明できる																
目標4 研究テーマにおける方法を説明できる																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									4	2	2				2	
授業の内容																
1 研究モラルと倫理教育・研究内容紹介(教員1)																
2 基礎研究概説・研究内容紹介(教員2)																
3 臨床研究概説・研究内容紹介(教員3)																
4 研究内容紹介(教員4・5)																
5 研究内容紹介(教員6・7)																
6 研究内容紹介(教員8・9)																
7 研究内容紹介(教員10・11)																
8 基礎・臨床研究倫理 各論1(全教員)																
9 基礎・臨床研究倫理 各論2(全教員)																
10 基礎・臨床研究方法論 研究計画法1(背景-目的)(全教員)																
11 基礎・臨床研究方法論 研究計画法2(背景-目的)(全教員)																
12 基礎・臨床研究方法論 研究計画法3(方法)(全教員)																
13 基礎・臨床研究方法論 研究計画法4(方法)(全教員)																
14 基礎・臨床研究方法論 研究計画法5(背景-目的-方法)(全教員)																
15 基礎・臨床研究方法論 研究計画法6(背景-目的-方法)(全教員)																
ラーニング	A:知識の定着・確認	各教員の研究室へ配属(2~3名)する。				工夫	その他の	中間報告会にて進捗状況を報告する。								
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	各指導教員に指示に従う(120h)。														
	事後学修	各指導教員に指示に従う(120h)。														
	想定時間合計	240														
教科書	各指導教員に指示に従う															
参考書	各指導教員に指示に従う															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	研究活動への参加状況	60%										
	必要な文献・資料を使って研究背景を説明	20%										
	研究計画の立案	20%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士，医師，看護師											
実務経験を いかした 教育内容	理学療法士，医師，看護師としての実務経験をもつ教員が，臨床・研究・教育経験を生かし，基礎・臨床研究方法論を教育する．											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B402		理学療法学研究演習 (Advanced practice on Physical Therapy Research)					研究系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必修	2	4	福祉健康科学部	通年	他	日本語	英語	単独、クラス分け							
担当教員	氏名 河上敬介, 朝井政治, 片岡晶志, 徳丸治, 紀瑞成, 阿南雅也, 菅田陽伶, 萬井太規, 安藤敬子, 大塚章太郎, 田中健一朗 E-mail anan-masaya@oita-u.ac.jp 内線 6115														
授業の概要	臨床で発見した新たな高いレベルの疑問点や問題点を解決するための術を, 教員の指導のもと試行錯誤しながら学修する。この様に, 臨床実習という実践を単に, 評価や治療技術の取得に留めず, 論理的思考の構築と疑問点の解明や問題点の解決に活用する能力を身につける。また指導教員の直接指導によって, 基礎・臨床研究実践論を学びながら, 予備実験, 本実験, データ解析, 討論, 最終発表準備を経て, 抄録集を作成し, 卒業研究発表会を行う。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 基礎・臨床研究実践論を説明する。															
目標2 予備実験, 本実験, データ解析を実践する。															
目標3 最終発表準備を経て, 抄録集を作成し, 研究内容を発表する。															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									2	2	2	1	1	2	
授業の内容															
1	ガイダンス														
2	基礎・臨床研究実践論 予備実験1														
3	基礎・臨床研究実践論 予備実験2														
4	基礎・臨床研究実践論 予備実験3														
5	基礎・臨床研究実践論 本実験1														
6	基礎・臨床研究実践論 本実験2														
7	基礎・臨床研究実践論 本実験3														
8	基礎・臨床研究実践論 データ解析1														
9	基礎・臨床研究実践論 データ解析2														
10	基礎・臨床研究実践論 データ解析3														
11	基礎・臨床研究実践論 討論1														
12	基礎・臨床研究実践論 討論2														
13	基礎・臨床研究実践論 最終発表準備1														
14	基礎・臨床研究実践論 最終発表準備2														
15	最終発表														
ラーニング	A:知識の定着・確認	各教員の研究室へ配属(2~3名)する。				工夫	最終発表会にて報告する。								
	B:意見の表現・交換					その									
	C:応用志向					他									
	D:知識の活用・創造					の									
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	各指導教員に指示に従う(120h)。													
	事後学修	各指導教員に指示に従う(120h)。													
	想定時間合計	240													
教科書	各指導教員に指示に従う。														
参考書	各指導教員に指示に従う。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	研究活動への参加状況	30%										
	予備実験，本実験，データ解析の実践	30%										
	最終研究発表	40%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士，医師，看護師											
実務経験を いかした 教育内容	理学療法士，医師，看護師としての実務経験をもつ教員が，臨床・研究・教育経験を生かし，基礎・臨床研究実践論を教育する．											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B131		基礎臨床実習 (Basic clinical practice I)					臨床実習		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	1	1	福祉健康科学部	後期	他	日本語			複数(共同)						
担当教員	氏名 河上敬介、菅田陽怜、朝井政治、阿南雅也、萬井太規、大塚章太郎、田中健一朗 E-mail kkawakami@oita-u.ac.jp, hsugata@oita-u.ac.jp 内線 7735														
授業の概要	臨床実習指導者の指導の下、理学療法業務を見学し、理学療法士の役割について学ぶ。また、理学療法対象者を取り巻く種々の職種の役割を学び、理学療法部門との協力体制に関して体験学習する。さらに、理学療法対象者や臨床実習施設のスタッフに対する適切な態度について学ぶ。なお、可能な施設では、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションについて経験し、地域における理学療法士の役割を理解し、生活を支援するために必要な知識、技術、多職種との連携について学ぶ。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 理学療法対象者とのコミュニケーションの取り方について説明できる。															
目標2 理学療法士の役割について説明できる。															
目標3 理学療法対象者を取り巻く種々の職種とその役割について説明できる。															
目標4 理学療法部門と他職種との協力体制について、その必要性も含めて説明できる。															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									4	3		3			
授業の内容															
1	実習事前ガイダンス(12月)・実習直前ガイダンス(2月)														
2	1週間の集中実習(1年次春季休暇中)														
3	実習報告会(実習終了後)														
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
ラーニング	A:知識の定着・確認	実習後の報告会にて、実習を通して気づいたことや学んだことを学生間で共有し知識の定着を図る				工夫	その他の	臨床実習予定施設の中から、各学生がお世話になる施設を学生の主体的な判断で希望することができる。							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	これまでに学習した知識を復習しておく(5時間)													
	事後学修	実習で体験したことを振り返るとともに、実習での気づきや学んだことを整理する(5時間)													
	想定時間合計														
教科書	1年生時に学んだ全ての教科書。														
参考書	1年生時に学んだ全ての参考書。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	臨床実習評価	40%										
	実習報告書などの提出	20%										
	実習前・後指導への参画と理解	40%										
注意事項	履修規定に定める条件により履修が可能となる。原則として、全日出席で評価対象とする。また、実習の履修に問題が生じると予想される場合は、コース会議の審議を経て実習遂行が不可能となり、単位を修得できないことがある。											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	理学療法士											
実務経験を いかした教 育内容	教員以外の指導に関わる実務経験者											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H030B254	基礎臨床実習 (Basic clinical practice)					臨床実習	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	1	2	福祉健康科学部	後期	他	日本語	英語	複数(共同)					
担当教員	氏名 河上敬介、菅田陽怜、朝井政治、阿南雅也、萬井太規、大塚章太郎、田中健一朗 E-mail kkawakami@oita-u.ac.jp, hsugata@oita-u.ac.jp 内線 7735												
授業の概要	臨床実習指導者の指導の下、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションについて経験し、地域における理学療法士の役割を理解し、生活を支援するために必要な知識、技術、多職種との連携について学ぶ。可能な範囲で、これまでに学習した知識・技能を活用し、理学療法対象者の現病歴、既往歴、家族歴などの問診と検査・測定を学習する。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	地域における理学療法士の役割が説明できる。												
目標2	カルテより情報収集や理学療法対象者に対して問診ができる。												
目標3	理学療法対象者に対して、主な検査・測定ができる。												
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							2	2	2	2	2		
授業の内容													
1	実習事前ガイダンス(12月)												
2	実習前直前ガイダンス(2月)												
3	1週間の集中実習												
4	実習報告会(実習終了後)												
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
16													
17													
18													
19													
20													
21													
22													
23													
24													
25													
26													
27													
28													
29													
30													
ラーニング目標	A:知識の定着・確認	演習、問題点解決への創造的思考力の開発				工夫	臨床実習予定施設の中から、各学生がお世話になる施設を学生の主体的な判断で希望することができる。						
	B:意見の表現・交換					他の							
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	これまでに学習した知識・技術を復習しておく（5時間）										
	事後学修	実習で体験したことを振り返るとともに、実習で学んだ知識や技術を整理する（5時間）										
	想定時間合計											
教科書	1、2年生時に学んだ全ての教科書。											
参考書	1、2年生時に学んだ全ての参考書。											
成績 評価 の 方法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	臨床実習評価	40%										
	実習報告書などの提出	20%										
	実習前・後指導への参画と理解	40%										
注意事項	履修規定に定める条件により履修が可能となる。原則として、全日出席で評価対象とする。また、実習の履修に問題が生じると予想される場合は、コース会議の審議を経て実習遂行が不可能となり、単位を修得できないことがある。											
備考	なし 【地域創生教育科目】											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無	有無											
教員の 実務 経験	理学療法士											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	理学療法士											
実務経験を いかした教 育内容	医療機関、介護施設等で、理学療法対象者の既往歴、現病歴、家族歴などの問診と、簡単な検査・測定を学習する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B301		臨床実習 (Clinical Practice I)					臨床実習		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	4	3年	福祉健康科学部	後期	他	日本語			複数(共同)						
担当教員	氏名 朝井、田中、河上、阿南、菅田、萬井、大塚 E-mail ma-asai@oita-u.ac.jp、tanaka-kenichiro@oita-u.ac.jp 内線 7551、6232														
授業の概要	臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習において、これまでに学習した知識・技能を活用し、理学療法対象者を通して、必要な検査・測定を実施する。さらに、得られた結果を統合・解釈して問題点を抽出する。これらを通して、理学療法対象者の障害像・全体像を捉える能力を養う。また、可能な施設では、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションについて経験し、地域における理学療法士の役割を理解し、生活を支援するために必要な知識、技術、多職種との連携について学ぶ。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 理学療法対象者の情報収集ができる。															
目標2 理学療法対象者に対して検査・測定ができる。															
目標3 理学療法対象者の問題点について列挙できる。															
目標4 理学療法対象者のゴール設定を経験する。															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									3	2	1	1	2	1	
授業の内容															
1	1) 臨床実習事前ガイダンス(事前、直前、接遇セミナー)														
2	2) 学内実習(集中実習前)														
3	・技術振り返り:実技試験、フィードバック														
4	・知識振り返り:筆記試験														
5	3) 3週間の集中実習:実習施設の指導者のもとで実習を行う														
6	4) 実習施設訪問指導:担当教員が実習施設に赴き、臨床実習指導者および学生とともに実習の進行状況や問題点を確認する。														
7	今後の実習での目標、指導内容について調整を図る。														
8	5) 学内実習(集中実習後)														
9	・提出用資料の作成:事例報告書(レポート、レジュメ等)、デイリーノート等														
10	・技術振り返り:実技試験、フィードバック														
11	・知識振り返り:筆記試験														
12	・事例検討会:事例発表、検討会など														
13															
14															
15															
ラ ア ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	実習前・後の筆記試験、実技テストで、知識、技術の確認を行う。				工 夫 そ の 他 の									
	B:意見の表現・交換	実習後の事例検討会にて、臨床実習で学んだ事例を通じて知識や技術の向上を図る。													
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修	臨床実習前:これまでに学修した知識、技術を見直しておく(10時間)。													
	事後学修	臨床実習後:事例検討会に向けて、資料の準備、知識の整理をしておく(5時間)。 実習中ならびに事例検討会で学修した疾患、病態、理学療法手技について、不十分だった点を振り返っておく(10時間)。													
	想定時間合計	45													
教科書	特に指定しない														
参考書	特に指定しない														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		臨床実習前後の学内臨床実習成績	50%									
	臨床実習評価表による評価	50%										
注意事項	履修規定に定める条件を満たすことにより本課目の履修が可能となる。 実習の履修に問題が生じると予想される場合は、理学療法コース会議の審議を経て実習遂行が不可となり、単位を修得できないことがある。											
備考	臨床実習前の準備を十分に行い、臨床実習に臨むこと。 臨床実習期間を通じて、体調管理、リスク管理に留意すること。 臨床実習実施に関しては、実習指導者への報告・連絡・相談を徹底すること。 【地域創生教育科目】											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	理学療法士											
実務経験を いかした教 育内容	臨地実習前に事例を通じて知識、技術の振り返りを行う。 医療機関、介護施設等で、理学療法（主に評価）に関する3週間の実習を行う。また、1週間の学内実習を行う。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B302		臨床実習 (Clinical Practice)					臨床実習		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必修	7	4年時	福祉健康科学部	前期	他	日本語	英語	複数(共同)、クラス分け							
担当教員	氏名 阿南・萬井・朝井・河上・菅田・大塚・田中 E-mail 阿南:anan-masaya@oita-u.ac.jp 内線 阿南:6115														
授業の概要	臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習において、理学療法対象者の評価から、その問題点の抽出、ゴール設定、理学療法プログラムの立案を通して、臨床思考過程能力を養う。なお、可能な施設では、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションについて経験し、地域における理学療法士の役割を理解し、生活を支援するために必要な知識、技術、多職種との連携について学ぶ。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 理学療法対象者のゴール設定ができる。															
目標2 理学療法対象者の理学療法プログラムが立案できる。															
目標3 臨床実習指導者の指導の下、理学療法の一部を経験する。															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									2	2		2	2	2	
授業の内容															
1	1) 事前指導(実習前)														
2	臨床実習の目的、意義、心得等、実習に必要な項目について事前にオリエンテーションを行う。														
3	臨床実習 に臨む準備が十分であるか否かを判断するために、学力試験および実技試験を行う。														
4															
5															
6	2) 臨床実習(6週間)														
7	実習施設の臨床実習指導者のもとで実習を行う。														
8															
9	3) 実習地訪問指導														
10	担当教員が実習地に赴き、学生及び臨床実習指導者から実習の進捗具合や問題点、残りの実習期間の目標や指導内容について調整を図る。														
11															
12															
13	4) 事後指導(実習終了後)														
14	実習に関する成果と反省及び今後の課題等について相互共有し、実習経験の充実・深化を図る。														
15	臨床実習中に学習した内容から1つテーマを決めたことについてまとめ、報告会で発表する。														
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															
25															
26															
27															
28															
29															
30															
ラーニング	A:知識の定着・確認	実習前の筆記試験・実技テストで知識、技術の確認を行う。					工		そ						
	B:意見の表現・交換	実習後の報告会にて、臨床実習で学んだ事を通じて知識や技術の向上を図る。					夫		の						
	C:応用志向						他		の						
	D:知識の活用・創造														

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	臨床実習前：これまでに学修した知識，技術を見直しておく（10h）。										
	事後学修	臨床実習後：事例検討会に向けて、資料の準備、知識の整理をしておく（5h）。 実習中ならびに事例検討会で学修した疾患、病態、理学療法手技について、不十分だった点を振り返っておく（45h）。										
	想定時間合計	60										
教科書	特に指定しない。											
参考書	特に指定しない。											
成績 評価 の 方法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	実習前学力試験	10%										
	実習前実技試験	20%										
	臨床実習課題提出	10%										
	報告会発表・レジュメ	20%										
	臨床実習評価	40%										
臨床実習評価とは臨床実習施設で実施した指導内容に対する評価であり、必要に応じて臨床実習指導者と担当教員とで協議して行う。												
注意事項	事前の準備を十分に行い、実習実施に関しては臨床実習指導者への報告・連絡・相談を徹底すること。 リスク管理を十分に行い、事故・怪我等が発生しないように細心・最善の注意を払うこと。											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	理学療法士											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	理学療法士											
実務経験を いかした教 育内容	これまでに習得した知識・技術を実際の臨床場面の対象者に対して適応し、基本的な理学療法プロセスを実施できるよう、支援・指導する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030B303		臨床実習 (Clinical Practice)					臨床実習		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	7	4年	福祉健康科学部	前期	他	日本語	英語		複数(共同)、クラス分け						
担当教員	氏名 大塚・萬井・朝井・河上・阿南・菅田・田中 E-mail otsuka-shotaro@oita-u.ac.jp 内線 7118														
授業の概要	臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習において、経験する理学療法を通して、理学療法の知識と技術を統合する能力を養う。また、経過の観察を通じて理学療法の効果を学ぶ。なお、可能な施設では、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションについて経験し、地域における理学療法士の役割を理解し、生活を支援するために必要な知識、技術、多職種との連携について学ぶ。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 理学療法対象者のゴール設定ができる。															
目標2 理学療法対象者の理学療法プログラムを立案できる。															
目標3 必要に応じて理学療法プログラムを修正できる。															
目標4 治療内容・経過等について報告できる。															
目標5 臨床実習指導者の判断の下、理学療法を実施できる。															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									2	2		2	2	2	
授業の内容															
1	1) 事前指導(実習前)														
2	臨床実習 の課題や報告書および臨床実習指導者評価を基に臨床実習 に臨む準備が十分であるか否かを判断し、必要に応じて面談を行う。														
3															
4	2) 臨床実習(6週間)														
5	実習施設の臨床実習指導者のもとで実習を行う。														
6															
7	3) 実習地訪問指導														
8	担当教員が実習地に赴き、学生および臨床実習指導者から実習の進具合や問題点、残りの実習期間の目標や指導内容について調整を図る。														
9															
10	4) 事後指導(実習終了後)														
11	実習に関する成果と反省及び今後の課題等について相互共有し、実習経験の充実・深化を図る。														
12	臨床実習中に学習した内容から1つテーマを決めたことについてまとめ、報告会で発表する。														
13	学内・学外すべての履修が終了するため、臨床に赴くに相応しい学力を兼ね備えているかを判断するために実習後学力および実技試験を実施する。														
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															
25															
26															
27															
28															
29															
30															
ラ ア ク ニ ン グ ブ	A:知識の定着・確認		実習後の事例検討会にて、臨床実習で学んだ事例を通じて知識や技術の向上を図る。			工 夫 そ の 他 の									
	B:意見の表現・交換		実習後の筆記試験、実技テストで、知識、技術の確認を行う。												
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	臨床実習前：これまでに学修した知識、技術を見直しておく（10h）。										
	事後学修	臨床実習後：事例検討会に向けて、資料の準備、知識の整理をしておく（5時間）。 実習中ならびに事例検討会で学修した疾患、病態、理学療法手技について、不十分だった点を振り返っておく（50h）。										
	想定時間合計	65										
教科書	特に指定しない。											
参考書	特に指定しない。											
成績 評価 の 方法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	実習後学力試験	10%										
	実習後実技試験	20%										
	臨床実習課題提出	10%										
	報告会発表・レジュメ	20%										
	臨床実習評価	40%										
臨床実習評価とは臨床実習施設で実施した指導内容に対する評価であり、必要に応じて臨床実習指導者と担当教員とで協議して行う。												
注意事項	事前の準備を十分に行い、実習実施に関しては臨床実習指導者への報告・連絡・相談を徹底すること。 リスク管理を十分に行い、事故・怪我が発生しないように細心・最善の注意を払うこと。											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	理学療法士											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	理学療法士											
実務経験を いかした教 育内容	これまでに習得した知識・技術を実際の臨床場面の対象者に対して適応し、基本的な理学療法プロセスを実施できるよう、支援・指導する。											

コース専門科目
(社会福祉実践コース)

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
H030S104		現代社会と福祉Ⅱ (Contemporary Society WelfareⅡ)					概論系	オンライン(同時双方向型)								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択	2	1	福祉健康科学部	後期	木3	日本語		単独								
担当教員	氏名 志賀 信夫															
	E-mail nobu-shiga@oita-u.ac.jp 内線 7727															
授業の概要	本講義の目的は、社会福祉の理念および実践が社会の成熟と人権意識の高まりによって発展し、施策(制度)として形成された社会福祉を学習することにある。また、少子・高齢社会やグローバル化の進展によって、社会構造が大きく変動していきながら、現代社会における社会福祉は、あらたな局面に直面している。本講義の第二の目的として、転換期にある日本社会の実態をグローバル化、ローカリズムの視点でとらえ、現代社会に希求される社会福祉の実践や施策を検討する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。								○	○						
目標2	現代社会における社会福祉制度・実践の潮流を説明できる。									○	○	○			○	
目標3	福祉サービスの供給と利用について理解する。										○	○				
目標4	福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。												○	○		
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							1	2	2	2	1	2				
授業の内容																
1	社会福祉の原理															
2	社会福祉の構成要素と過程① 社会福祉の構成要素															
3	社会福祉の構成要素と過程② 福祉政策の過程															
4	福祉政策の動向と課題① 福祉政策と包括的支援															
5	福祉政策の動向と課題② 多文化共生、多様性、SDGs															
6	福祉政策と関連施策① 保健医療政策、教育政策、住宅政策															
7	福祉政策と関連施策② 労働政策、経済政策															
8	福祉サービスの供給と利用過程① 福祉供給部門															
9	福祉サービスの供給と利用過程② 福祉供給過程 一公私(民)関係、再分配一															
10	福祉サービスの供給と利用過程③ 福祉供給過程 一市場、準市場、自治一															
11	福祉サービスの供給と利用過程④ 福祉供給過程 一社会開発、福祉開発一															
12	福祉サービスの供給と利用過程⑤ 福祉利用過程 一スティグマ、権力・情報の非対称性、シティズンシップ一															
13	福祉政策の国際比較① 国際比較の視点と方法															
14	福祉政策の国際比較② 脱商品化と福祉レジーム															
15	まとめ															
ラーニング オブ ア イ ン テ ン シ ブ グ ラ フ	A:知識の定着・確認	○	ミニッツ・ペーパー				工 夫 そ の 他 の	動画の活用。 時事問題を通じた理解の促進。								
	B:意見の表現・交換	○	グループワーク(議論・討論)													
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造	○														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	テキストや配布資料及び参考文献等から、用語の理解、法・制度、歴史的背景を学修する。(30h)														
	事後学修	テキストや配布資料及び、参考文献などを通じて復習し、学修した内容を深める。(30h)														
	想定時間合計	60														
教科書	適宜指示する。															
参考書	1. 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座4. 社会福祉の原理と政策』中央法規 (ISBN: 978-4-8058-8234-4)															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	期末試験	60%	○	○								
	レポート課題	40%	○	○	○							
注意事項	私語はひかえてください。											
備考	本科目は別府大学の学生も受講可能											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030S101		社会学と社会システム (Sociology and Social System)					概論系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択	2	1	福祉健康科学部	前期	月2	日本語			単独							
担当教員	氏名 志賀 信夫 E-mail nobu-shiga@oita-u.ac.jp 内線 7727															
授業の概要	社会学が現代社会をとらえる上で不可欠な学問であることを理解し、具体的事例の検討を通して考えていく。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	現代社会の特性を説明できる。															
目標2	生活の多様性について説明できる。															
目標3	人と社会の関係について説明できる。															
目標4	社会問題とその背景について説明できる。															
目標5	福祉関係の仕事に就いた場合、社会的な視点からも対象を捉えることができる。															
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							2	1	1	2	1	3				
授業の内容																
1	社会学の成立とその視点; A. コントとその時代															
2	社会学の発展; M. ウェーバー															
3	社会学の発展; K. マルクス															
4	社会学の発展; E. デュルケム															
5	近代化、産業化、脱工業化															
6	組織と集団															
7	社会的役割、社会化															
8	社会問題の諸相															
9	逸脱行動															
10	差別と偏見															
11	いじめと社会															
12	自殺と社会															
13	家族とジェンダー															
14	現代の労働の特徴とその問題															
15	まとめ															
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	授業内容に関する問いを設定した小テストを適宜行う				工 夫 そ の 他 の	動画の活用。 時事問題を通じた理解の促進。									
	B:意見の表現・交換	グループワーク(議論・討論)														
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	シラバスの内容に沿って、次回の内容をある程度把握しておく(15h)。														
	事後学修	授業で理解できなかったことを書籍、ネット等で調べる(30h)。														
	想定時間合計	45														
教科書	教科書は指定しない。適宜プリントを配布する。															
参考書	なし。															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	小テスト	20%										
	最終テスト	80%										
注意事項	なし。											
備考	なし。											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030S209		社会福祉調査の基礎 (Introduction to Social Welfare Research)					概論系		オンライン(オンデマンド型)						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	3	福祉健康科学部	前期	木3	日本語			単独						
担当教員	氏名 岩野 卓 E-mail iwano-suguru@oita-u.ac.jp 内線														
授業の概要	社会科学では、社会調査の結果は重要なエビデンスの一つである。同時に、調査によって一方的に都合のよい結果を導くことも可能である。本授業では、社会福祉調査の目的と方法を説明し、量的調査と質的調査の区別とその手法、実際に調査するに当たって留意すべき点等を理解させ、科学的に有意義な調査を行える基礎をつくる。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 社会福祉調査の基礎的技術を実施できる。															
目標2 調査上の倫理を説明できる。															
目標3 社会福祉調査の留意点を説明できる。															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									4	1	3	1		1	
授業の内容															
1 社会福祉調査の意義と目的															
2 社会調査と対象と方法															
3 社会福祉調査のデザイン															
4 量的調査の種類・方法															
5 調査票の作成															
6 調査票の配布と回収															
7 量的調査におけるデータ解析															
8 量的調査の発表・報告															
9 質的調査の種類															
10 質的調査の手法															
11 質的調査におけるデータ解析															
12 質的調査の発表・報告															
13 社会福祉調査と個人情報保護															
14 ITの活用とデータ分析															
15 社会科学としての社会福祉															
ラーニング オブ グ	A:知識の定着・確認		質問票(アンケート)で問うべき社会的現象を考え、実際に質問票を作成してみる、学生からのアンケート収集と教員から回答提示、調査の続きを実際に行う演習、学生自身によるリサーチクエスチョンの作成				工 夫 そ の 他 の	実際に調査を実施しその結果を発表する							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		準備学修 教科書およびMoodle上に呈示した参考資料に目を通す(15h)												
	事後学修		量的及び質的調査を時間外に実施し、発表できる形にまとめる(30h)												
	想定時間合計		45												
教科書		一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 社会福祉調査の基礎』中央法規出版、2021年、ISBN9784805882351													
参考書		適宜提示する													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	調査の実施	20%										
試験	80%											
注意事項	教科書を忘れないこと。 量的調査ではフリーソフトHADのインストールを推奨 (https://norimune.net/had)											
備考	なし。											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	国東市社会福祉協議会の依頼による調査の計画助言、解析を実施											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H030S105	社会保障論 (Social Security)					制度政策系	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	2	福	後期	水3	日本語		単独					
担当教員	氏名 松本 由美 E-mail matsumoto-yumi@oita-u.ac.jp 内線 6097												
授業の概要	この授業では、日本の社会保障制度の具体的な仕組みと改革動向について学ぶとともに、政策課題について考えるための多角的な視点を身につける。そのために、社会保障の歴史、社会保険制度、民間保険制度、諸外国の社会保障制度について学習し、理解を深める。それを踏まえて、社会保障制度の政策課題や今後のあり方を考える。今年度は、特に、公的年金制度を中心に講義を進めたい。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	社会保険の各制度、特に公的年金制度について具体的に説明することができる。												
目標2	社会保障制度の歴史と近年の改革動向について理解し、説明することができる。												
目標3	社会保障制度の課題について考え、今後のあり方について自らの考えを述べる事ができる。												
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							6	4					
授業の内容													
1	社会保障の政策課題												
2	日本の社会保障の歴史(確立期(~1960年代))												
3	日本の社会保障の歴史(拡充期・改革期(1970年代~))												
4	年金制度の体系・財政方式												
5	国民年金制度												
6	厚生年金保険制度												
7	年金制度の課題と改革動向												
8	医療保険制度の体系と医療提供体制												
9	健康保険制度												
10	国民健康保険制度												
11	高齢者医療制度												
12	医療保障制度の課題と改革動向												
13	介護保険制度												
14	公的保険制度と民間保険制度の関係												
15	諸外国における社会保障制度												
ラーニング	A:知識の定着・確認	学習内容に関する課題を提出してもらう。					工夫 その 他の	学習を補足するため、資料や新聞記事等を活用する。					
	B:意見の表現・交換												
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	参考書等に基づき、必要に応じて予習を行う(15h)。											
	事後学修	毎回、講義内容の復習を行う、知識や理解を定着させておく(30h)。											
	想定時間合計	45											
教科書	教科書は指定しない。 配布する講義資料を使用する。												
参考書	椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障(第21版)』有斐閣アルマ、2024年。ISBN:978-4-641-22234-2												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030S102		地域福祉論 (Local Welfare)					社会福祉分野系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	2	福	後期	金3	日本語			単独						
担当 教員	氏名 齋藤 建児														
	E-mail k-saito@oita-u.ac.jp 内線 6117														
授業 の 概 要	本科目は、地域福祉論 およびソーシャルワークで得た学びを踏まえ、ジェネリックな視点のもと「地域を基盤としたソーシャルワーク」の展開を中心に学ぶ。さらに、災害時の対応や地域福祉計画、福祉行政財政を含めており、地域福祉を展開する体制について総合的に学ぶ。これらの一連は「個を地域で支える援助」と「個を支える地域をつくる援助」の両面を包含するだけでなく、地域共生社会の実現に資する実践力を養うことをめざしている。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 地域を共通としたソーシャルワークの理念、方法、展開を説明できる															
目標2 災害時の支援に必要な法制度および方法を説明できる															
目標3 福祉計画の意義および策定と運用について説明できる															
目標4 福祉行政の役割を説明できる															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									4	2	4				
授業の内容															
1 オリエンテーション															
2 地域を基盤としたソーシャルワークの方法：概念、理念、方法、歴史を理解する															
3 住民の主体形成に向けたアプローチ：概念、アプローチの方法を理解する															
4 地域を基盤としたソーシャルワークの展開：事例を通じて展開過程を学ぶ															
5 災害時における法制度：被災者へ支援に向けて関連法制度を学ぶ															
6 災害時における総合的かつ包括的な支援：被災者が抱える多様なニーズへの対応を学ぶ															
7 福祉計画の定義、目的、機能と歴史的展開：福祉計画の基本的な視点を学ぶ															
8 地域福祉計画、地域福祉支援計画：法定計画に至るまでの歴史の変遷および策定ガイドラインを理解する															
9 福祉計画の策定過程と方法：策定に係る一連を理解する															
10 福祉計画におけるニーズ把握の方法・技術：ニーズの概念および具体的な把握方法を学ぶ															
11 福祉計画における評価：説明責任および事後評価を学ぶ															
12 国、都道府県、市町村の役割：福祉行政の役割を理解する															
13 国と地方の役割、福祉行政の組織、専門職の役割：地方分権、地方創生を理解する、社会福祉の実施体制を学ぶ															
14 福祉における財源：国、地方、民間の財源を学ぶ															
15 まとめ															
ラ ー ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認		ディスカッションを通じて事例の検討を行う			工 夫 そ の 他 の	理解を促すために、実践事例や映像資料を用いる								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		事前に教科書を熟読し、講義の課題について明確化する(15h) 新聞等を通じて時事問題を確認する(10h)												
	事後学修		講義後に配付資料と教科書の内容を照らし合わせて復習し、知識と技術の定着に努める(15h) 講義で得た問題意識に関連する文献の検索とレビューに努める(5h)												
	想定時間合計		45												
教科書		一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集,最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座6『地域福祉と包括的支援体制』,2021年,中央法規 ISBN:978-4-8058-8236-8													
参考書		適宜、資料を配付する													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	リアクションペーパー	30%										
	課題レポート	30%										
	試験	40%										
注意事項	私語など講義の妨げとなるような行為は禁止する。											
備考	各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	地域福祉専門員として岩手県旧川井村社会福祉協議会で勤務。地域包括支援センター社会福祉士として岩手県二戸市社会福祉協議会で勤務。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式
H030S203		児童・家庭福祉 (Children, Young people and family welfare)					社会福祉分野系	対面
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
選択	2	2年	福祉健康科学部	前期	火4	日本語		単独
担当教員	氏名 河野洋子 E-mail kawano-youko@oita-u.ac.jp 内線 6098							
授業の概要	こども・家庭福祉における理念、現状と課題、制度施策について理解を深め知識を学ぶ。一年次に学んだ「こども家庭ソーシャルワーク概論」と密接に関係しており、当該授業の周辺領域を幅広く扱う。特に、こども・家庭福祉の共通理念である「こどもの権利」の理解と権利保障のための実践・具体的方法について事例を通じて考える。この授業は、将来、職業人としてだけでなく、社会人、家庭人としても大切な学びの時間になる。							
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7
目標1	こども・家庭福祉の理念、特に「こどもの権利」を理解し、説明できる。							
目標2	こども・家庭福祉の現状と課題、制度施策等について理解する。							
目標3	こども・家庭福祉の専門職として、実践に必要な倫理・知識・技術について理解し、説明できる。							
目標4								
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
各DPへの関連度(計10)							3 1 1 2 2 1	
授業の内容								
1	こども家庭福祉とは何か こどもの権利の考え方、経緯と歴史、こどもの権利に関する条約、ウェルフェアからウェルビーイングへ 意見表明等支援とアドボカシー							
2	こども家庭福祉の動向、こども家庭福祉の支援と基盤(1) 法体系、実施体制							
3	こども家庭福祉の支援と基盤(2) 関係機関・施設と利用方式、人材と専門職							
4	こども家庭福祉のソーシャルワーク実践(1) 概論、支援の端緒と調査							
5	こども家庭福祉のソーシャルワーク実践(2) アセスメント、支援の展開過程と連携							
6	こども家庭福祉の課題とソーシャルワーク実践(3) 児童虐待							
7	こども家庭福祉の課題とソーシャルワーク実践(4) 児童虐待							
8	こども家庭福祉の課題とソーシャルワーク実践(5) 社会的養護							
9	こども家庭福祉の課題とソーシャルワーク実践(6) 社会的養護、少年非行							
10	こども家庭福祉の課題とソーシャルワーク実践(7) ひとり親							
11	こども家庭福祉の課題とソーシャルワーク実践(8) 女性福祉							
12	こども家庭福祉の課題とソーシャルワーク実践(6) 教育							
13	こどもの福祉課題と支援(1) 口頭発表							
14	こどもの福祉課題と支援(2) 口頭発表							
15	まとめ							
ラーニング	A:知識の定着・確認	教員の児童相談所での実務経験を活かした事例、映像教材を提供する。				工夫その他の	大分県内の実践モデルを紹介する	
	B:意見の表現・交換	ペアディスカッション・口頭発表を通じて、能動的な学習を目指す。また、学生による資料作成と発表も取り入れ、知識の習得と定着を目指す。						
	C:応用志向							
	D:知識の活用・創造							
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	教科書に目をとおり、理解が難しい点を事前に調べる(15h) 資料を読み、口頭発表の資料作成等の準備をする(15h)						
	事後学修	学びの到達度を把握するため、毎回の講義終了後にショート・ライティングを課す(15h)						
	想定時間合計	45						
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『児童・家庭福祉(第2版)』中央法規, 2025年 ISBN978-4-8243-0155-0							
参考書	井上登生、河野洋子、相澤仁 「おおいたのこども家庭福祉」明石書店、2022年、ISBN978-4-7503-5435-4(講義中に適宜、関係する箇所(具体的な実践状況等)を紹介する)							

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート	30%										
	口頭発表	30%										
	試験	40%										
注意事項	学習を進める中で、自分自身のこども時代に向き合うことが辛くなることもあるかもしれません。その場合は遠慮せず、担当教員に相談してください。											
備考	疑問が生じたら、その都度、質問してください。 【地域創生教育科目】											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	社会福祉士、児童相談所長（児童福祉司）											
実務経験を いかした教 育内容	児童相談現場の事例を活かした授業を行う。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
H030S204		障害者福祉 (Social work for people with disabilities)					社会福祉分野系	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	2	福祉健康科学部	後期	火4	日本語		単独					
担当教員	氏名 滝口 真 E-mail makoto-takiguchi@oita-u.ac.jp 内線 6096												
授業の概要	障がい概念と特性を踏まえ、障がい児・者とその家族の「生活を包括的に支援する」という視点に立ち、障がい児・者を取り巻く社会環境について理解する。また、障がい児・者福祉の歴史と障がい観の変遷に加え、障がい児・者の法制度と「多職種連携による支援の仕組み」について理解する。さらに、障がい児・者に生じる生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる「知識、技能、価値」の修得および適切な支援のあり方を理解できる。												
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)						
目標1	障がい概念と特性について理解できる。						1	2	3	4	5	6	7
目標2	障がい児者とその家族の生活実態とこれを取り巻く社会環境について「生活を包括的に支援する」視点について理解できる。												
目標3	障がい児者福祉の歴史と法制度および「関係機関と専門職」の役割について述べるができる。												
目標4	障がい児者とその家族等に対する支援の実際について、専門職としての「知識・技能・知識」について説明ができる。												
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							3	2	2	3			
授業の内容													
1	障がい児者福祉を学ぶ事の意義、国際生活機能分類(ICF)と障害者の定義と特性(ICIDHからICF(構造)へ、身体・知的・精神・発達各障がい等)												
2	障がい児者の生活実態(地域移行、居住、就学・就労、高齢化、介護需要、障がい者の芸術・スポーツ等)												
3	障がい児者を取り巻く社会環境(バリアフリー、コンフリクト、障がい者虐待、親亡き後問題、きょうだいへの支援等)												
4	障がい児者福祉理念と障がい観の変遷及び障がい児者援助の変遷(ソーシャルインクルージョンまでの変遷、偏見と差別、障がい者関係法変遷、障がい児者の処遇史)												
5	障害者の権利条約と障害者基本法及び障がい児者福祉制度の発展過程(障害者権利条約の概要、障害者基本法の概要等)												
6	障害者総合支援法(障害者総合支援法概要、障がい者サービス及び相談支援、障害支援区分、自立支援医療、補装具、地域生活支援事業、障害福祉計画等)												
7	身体障害者福祉法と知的障害者福祉法(身体障害者福祉法と知的障害者福祉法の概要、身体障害者手帳と療育手帳、各福祉法に基づく措置等)												
8	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律と児童福祉法(精神保健福祉法概要・入院形態と処遇、対象手帳、児童福祉法の障害児支援概要、発達・家族・地域支援等)												
9	発達障害者支援法と障害者虐待防止法(発達障害者支援法概要、発達障害者支援センターの役割、障害者虐待防止法概要、障がい者虐待未然防止、通報義務、早期発見等)												
10	障害者差別解消法の概要と高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー法)の概要(合理的配慮、施設設置管理者等の責務)												
11	障害者雇用促進法の概要と国等による障害者就労施設等からの物品等に関する法律(事業主の責務、法定雇用率、障害者優先調達推進法の概要、障害者就労施設等)												
12	障がい児者と家族等の支援における関係機関の役割(国・都道府県・市町村、障害者に対する法制度に基づく施設・事業所、特別支援学校、ハローワーク等)												
13	障がい児者と家族に関連する専門職等の役割(医師・看護師等、相談支援専門員・サービス管理責任者等、ピアサポーター、SSW、住民・ボランティア等)												
14	障がい領域における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割並びに障がい者と家族等に対する支援の実際(多職種連携)(地域相談支援、就労支援、居住支援等)												
15	これからの障がい児・者福祉における全体総括と展望												
ラーニング	A:知識の定着・確認	レポート等の学習成果物を作成して下さい。グループによる意見交換を行います。授業の最後に質問の時間を設けます。疑問に感じた事項や質問内容をノートに記載し質問します。					工夫	その他の	講義のポイントについて適宜、意見を求める。講義のテーマに関する資料を別途配布する。				
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	テキストおよび配布資料を精読し、理解が難しい用語を事前に調べておきましょう(20h)。											
	事後学修	授業で学習した内容を振り返るために小テストおよび配布資料を用いて復習を行いましょう(25h)。											
	想定時間合計	45											
教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 共通科目 『障害者福祉』』。<第2版>中央法規出版。2021年。ISBN 978-4-8243-0151-2。(各自で必ず<第2版>の最新版を準備下さい。)												
参考書	渡部昭男。『障害のある子の就学・進学ガイドブック』(改訂新版)。青木書店。2022年(講義中に適宜必要な箇所を単元に応じて紹介します。) 滝口 真・福永良逸共編著。『障害者福祉論 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』,法律文化社,2010年(講義中に適宜必要な箇所を単元に応じて紹介します。)												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート	20%										
	発表報告	10%										
	期末テスト	70%										
注意事項	席は間隔をあけてソーシャルディスタンスに心がけましょう。											
備考	疑問などが生じたら、その都度、質問して下さい。積極的な参加を期待しています。											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H020S201		高齢者福祉 (Social Work Theory for the Elderly)					社会福祉分野系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	2年	福祉健康科学部	前期	水3	日本語			単独						
担当教員	氏名 工藤修一 E-mail takamine@oita-u.ac.jp 内線 7947														
授業の概要	高齢者, 及び高齢社会を概観することで我が国が解決すべき問題を理解するとともに, 介護保険制度など具体的支援システムの理解を深める。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について説明できる。															
目標2 高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について説明できる。															
目標3 高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解することを通して、マッチングできる社会資源をピックアップできる															
目標4 高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援を複数提示できる															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									2		4	4			
授業の内容															
1 高齢者の定義と特性															
2 認知症の特性とケア															
3 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境(高齢者全般)															
4 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境(要介護高齢者)															
5 高齢者の住環境															
6 高齢者福祉の歴史(大正~八法改正)															
7 高齢者福祉の歴史(八法改正~現在)															
8 老人福祉法															
9 介護保険法															
10 介護保険法															
11 高齢者と家族などの支援における関係機関と専門職の役割															
12 地域包括支援センターの機能と役割															
13 高齢者と家族等に対する支援の実際(貧困)															
14 高齢者と家族等に対する支援の実際(医療)															
15 超高齢化社会に係る日本の生き残り戦略															
ラ ッ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認		30分毎の質問タイム グループディスカッション			工 夫 そ の 他 の	講義の開始時にトピックスを説明する。								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		30分を目安として新聞を毎日読むこと(8h)。												
	事後学修		講義ごとのキーワード(10h) 高齢者特性(7h) 貧困(5h) 孤独・孤立(5h) 高齢者ニーズ(5h) 社会資源(5h)												
	想定時間合計		45												
教科書		使用しない(レジュメを配布する)。													
参考書		日本ソーシャルワーク学校連盟『高齢者福祉論』(中央法規)2021 978-4805882450 (ISBN-13)													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト3回	30%										
	試験レポート	70%										
注意事項												
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務経験	医療ソーシャルワーカー 7年											
実務経験を いかした教 育内容	臨床時代に関与したケースをふんだんに盛り込む。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030S205		貧困に対する支援 (Social Support for Poverty)					社会福祉分野系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	2	福祉健康科学部	前期	木4	日本語			単独						
担当教員	氏名 志賀 信夫 E-mail nobu-shiga@oita-u.ac.jp 内線 7727														
授業の概要	本講義は、現代の貧困問題とそれに対する施策としての公的扶助の原理や、制度について学ぶことを目的とする。また、国民生活の安全網としての生活保護の問題・課題を検討することにある。そのため、まず、2000年代に入って社会的に注目された日本の貧困問題を分析し、その実態を理解する。次いで、救貧対策としての公的扶助の役割や原理を学ぶ。そのうえで、日本の生活保護制度の仕組みを学ぶとともに、運用場面における諸問題について検討を深める。以上、公的扶助の実態を踏まえることから、日本社会が直面する貧困問題を考える。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 「貧困問題」を分析する視点を修得する。															
目標2 公的扶助の実態を理解し、説明できる。															
目標3 生活保護制度の仕組みや実施体制を説明できる。															
目標4 貧困問題をふまえて生活保護の改革課題を提示することができる。															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									1	1	3	2	1	2	
授業の内容															
1 現代日本の貧困問題															
2 貧困の概念															
3 貧困の把握と測定															
4 戦前日本社会における国民生活と貧困問題															
5 戦後日本社会における国民生活の状況と社会保障の役割															
6 高度経済成長と公的扶助の展開															
7 日本の貧困問題と貧困対策の変化															
8 生活保護制度の成立と展開															
9 生活保護の目的と原理															
10 生活保護制度の仕組みと保護基準															
11 生活困窮の実態															
12 生活保護の実施体制と援助の方法															
13 生活保護の動向と特徴															
14 生活保護改革と生活困窮者自立支援制度															
15 まとめ															
ラック ニ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認		ミニッツ・ペーパー			工 夫 そ の 他 の	動画の活用。 時事問題を通じた理解の促進。								
	B:意見の表現・交換		グループワーク(議論・討論)												
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		参考文献や辞典、配布資料から、用語の理解、法制度、歴史的背景を予習する。(15h)												
	事後学修		配布資料及び、参考文献などを通じて復習し、学習した内容を深める。(30h)												
	想定時間合計		45												
教科書	指定しない。														
参考書	一般財団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)『最新社会福祉士養成講座4 貧困に対する支援』中央法規(ISBN : 978-4-8058-8247-4) 志賀信夫(2022)『貧困理論入門』堀之内出版(ISBN : 978-4-909237-65-1)														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	試験	60%										
	レポート	40%										
注意事項	講義では、ただ漫然と聞いていたり、知識を入れ込むだけでなく、自分の頭で理解し考えるようにしてください。また、受講生も私も講義に集中できる環境を保持するため、講義の迷惑になるような私語や受講態度はしないでください。											
備考												
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030S207		権利擁護を支える法制度 (Legal system that supports the protection of rights)					社会福祉分野系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	2年	福	前期	月4,月5	日本語			単独						
担当 教員	氏名 田中 良太														
	E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120														
授業 の 概 要	社会福祉サービスの利用についての相談援助の場面では、その活動と法との関連を理解することにより質の高い支援が可能になります。そのためには、憲法の基本的人権や行政法の行政手続き等についての理解が必要不可欠です。また、社会福祉基礎構造改革によって、高齢者や障害者、子育て等の福祉サービスの利用が措置制度から契約制度に転換したため、民法の契約に関する理解も必要です。本講義は、社会福祉サービスの利用における相談援助の活動に関連する法として、憲法・民法・行政法を中心に、その基本的な法律用語や法解釈、判例等について講述した上で、判断能力が不十分な人々の生活を支援する成年後見制度についての理解を深めていきます。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 憲法・民法・行政法の基本的な法律用語について説明することができる。															
目標2 判例や新聞記事の内容について意見を述べるができる。															
目標3 成年後見制度における問題点を挙げるができる。															
目標4 憲法・民法・行政法の知識を、普段の生活において応用することができる。															
目標5 法的観点から地域や福祉の課題について分析することができる。															
目標6 憲法や民法、行政法、成年後見制度について、探求心をもって自発的に学習に取り組むことができる。															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									1	1	2	2	2	2	
授業の内容															
1 法の基礎(法と規範)															
2 憲法(1) 憲法の意義と機能															
3 憲法(2) 基本的人権の内容とその射程															
4 憲法(3) 社会権															
5 民法(1) 民法の意義と機能															
6 民法(2) 契約															
7 民法(3) 親族・相続															
8 行政法(1) 行政法の意義と機能															
9 行政法(2) 行政手続法・行政不服審査法															
10 成年後見制度(1) 成年後見制度の意義と機能															
11 成年後見制度(2) 成年後見															
12 成年後見制度(3) 保佐・補助・日常生活自立支援事業															
13 権利擁護の意義と支える仕組み(虐待防止法・苦情解決の仕組み)															
14 権利擁護で直面しうる法的諸問題															
15 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際															
ラ ー ク ニ テ ィ ン グ 	A:知識の定着・確認		事例に基づくディスカッションを行うことがある。			工 夫 の 他 の									
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		事前にトピックに関連する資料を学習する(20h)												
	事後学修		学習した内容を振り返り学習を深める(25h)												
	想定時間合計		45												
教科書		社会福祉士養成講座編集委員会(編)『権利擁護を支える法体制(第2版)』(中央法規),2025. (ISBN 978-4-8243-0152-9) 必ず本書 第2版を準備のうえ、受講ください。													
参考書															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート	100%										
注意事項	本講義は、社会福祉士試験の受験科目である「権利擁護を支える法制度」にも対応しているので、受験を予定している学生は受講してください。											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	弁護士											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030S208		刑事司法と福祉 (Criminal Justice and Welfare)					社会福祉分野系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択	2	2	福祉健康科学部	後期	他	日本語			オムニバス							
担当教員	氏名 黒木 晃平、小白川 類、石田 圭、御手洗 和也 E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120															
授業の概要	かねてより犯罪の社会因子は認識されているが、近年はこれへの着目が強くなり、いわゆる懲罰・矯正だけでなく「支援」が求められている。本講義では、犯罪の社会因子の理解を土台にして、各種の具体的支援について広く取り扱う。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを説明できる。																
目標2 刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について説明できる。																
目標3 刑事司法の制度に関わる関係機関などの役割について説明できる。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									7	3						
授業の内容																
1 刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境「 」(犯罪の動向等について)(黒木)																
2 刑事司法(刑事訴訟法 刑事訴訟外観、刑事手続きの流れ、刑事裁判にかかわる関係機関、刑事施設内での処遇)(小白川)																
3 刑事司法(刑事訴訟法 身体の拘束、接見交通権、自白法則)(小白川)																
4 刑事司法(刑法総論 刑法の基本原則、体系論、犯罪の成立要件・刑罰)(小白川)																
5 刑事司法(刑法総論 実行行為性、未遂犯、因果関係、故意)(小白川)																
6 刑事司法(刑法総論 違法性、責任)(小白川)																
7 刑事司法(刑法総論 共犯、刑法各論 財産犯1)(小白川)																
8 刑事司法(刑法各論 財産犯2、社会的法益に対する罪)(小白川)																
9 刑事司法(刑法各論 国家的法益に対する罪)(小白川)																
10 少年司法(少年法の基本原則、非行少年に対する手続き、少年鑑別所、少年院での処遇、児童福祉法による措置)(小白川)																
11 刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境「 」(地域生活定着促進事業、刑事司法における福祉の役割等について)(石田)																
12 更生保護制度「 」(制度の概要と福祉の役割等について)(石田)																
13 更生保護制度「 」(更生保護施設、自立準備ホーム、保護司等との連携について(事例による説明))(黒木)																
14 犯罪被害者支援/医療観察制度(被害者支援の状況/医療観察の状況について)(御手洗)																
15 刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境「 」(刑事司法と福祉の連携、地域連携等について(事例による説明))(御手洗)																
ラーニングチェックシート	A:知識の定着・確認	講義で扱う事例の多くは、実際の担当ケースに基づくものであり、「自分だったらどのような支援をするのか」について、逐次発言を求める。														
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	刑事司法に関わる参考文献や配布資料等の情報を必要に応じて予習、例えば非行に至った同級生等、触法行為をしたケースをプライバシーに留意しメモ書きを作成(15h)。														
	事後学修	配布資料を用いた復習や犯罪者家族の苦悩等に関する文献学習(講義内で資料を準備します)(30h)														
	想定時間合計	45														
教科書	使用しない。 授業中に配布するプリント等を使用する。															
参考書	なし															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		課題レポート	100%									
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	社会福祉士、精神保健福祉士、弁護士											
実務経験を いかした教 育内容	地域生活定着支援センターでの矯正施設出所者等の自立支援等を通じた知識・経験をいかして授業を行う。 弁護士として刑事弁護に携わった知識・経験を活かして授業を行う。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
H030S301		ソーシャルワークの基盤と専門職 (The Foundation of Social Work Profession)					相談援助技術系	対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択	2	1年	福祉健康科学部	後期	火4	日本語		単独							
担当教員	氏名 河野洋子 E-mail kawano-youko@oita-u.ac.jp 内線 6098														
授業の概要	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解し、そのジレンマを考える。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ・意義・課題について述べることできる。														
目標2	ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について説明できる。														
目標3	ソーシャルワークの価値規範と倫理について述べ、自分なりの考えを付け加えることができる。														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							2	1	1	4	2				
授業の内容															
1	社会福祉士及び介護福祉士法・精神保健福祉士法、専門性、求められるコンピテンシー														
2	ソーシャルワークの概念														
3	ソーシャルワークの基盤となる考え方(1) 社会正義・人権尊重														
4	ソーシャルワークの基盤となる考え方(2) 多様性の尊重・集団的責任														
5	ソーシャルワークの基盤となる考え方(3) 当事者主権・尊厳の保持														
6	ソーシャルワークの基盤となる考え方(4) 権利擁護・アドボカシー・自立支援														
7	ソーシャルワークの基盤となる考え方(5) ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーション														
8	ソーシャルワークの倫理(1) 専門職倫理の概念														
9	ソーシャルワークの倫理(2) 倫理綱領														
10	ソーシャルワークの倫理(3) 倫理的ジレンマ														
11	ソーシャルワークの倫理(4) 倫理的ジレンマの考察														
12	ソーシャルワークの倫理(5) 倫理的ジレンマの考察														
13	ソーシャルワークの形成過程(1) 口頭発表														
14	ソーシャルワークの形成過程(2) 口頭発表														
15	まとめ														
ラ	A:知識の定着・確認	・教員の実務経験を活かした事例、映像教材を提供する。ペアディスカッション・口頭発表を通じて、能動的な学習を目指す。また、学生による資料作成と発表も取り入れ、知識の習得と定着を目指す。				工	そ	・学びの到達度を把握するために、毎回の講義終了後にショート・ライティングを課す。							
イ	B:意見の表現・交換					夫	の								
ニ	C:応用志向														
テ	D:知識の活用・創造														
イ	準備学修	次回のトピックについて調べ学習をする(15h) 口頭発表の準備をする(15h)													
イ	事後学修	ショートライティングを書くことで復習を行う(15h)													
	想定時間合計	45													
教科書	指定しない														
参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(編)『ソーシャルワークの基盤と専門職』(中央法規)2021年 ISBN978-4-8058-8241-2														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	口頭発表	30%										
	レポート	40%										
	試験	30%										
注意事項												
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	社会福祉士 児童相談所長（児童福祉司）											
実務経験を いかした教 育内容	児童相談現場の手法や事例等を用い、将来、実務者として役立つ知見の取得を念頭に授業を行います。											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
H030S302	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門) (Social work of foundation and profession (specialty))					相談援助技術系	対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択	2	2年生	福祉健康科学部	前期	木5	日本語		単独						
担当教員	氏名 河野洋子 E-mail kawano-youko@oita-u.ac.jp 内線 6098													
授業の概要	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。さらに、総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。													
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	
目標1	社会福祉士の職域と求められる役割について説明できる													
目標2	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。													
目標3	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。													
目標4	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。													
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)							2	2	1	3	2			
授業の内容														
1	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲													
2	社会福祉士の職域と役割、多様な組織・機関・団体における専門職													
3	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(1)ミクロレベルの対象・意義・介入と実際													
4	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(2)メゾレベルの対象・意義・介入と実際													
5	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(3)マクロレベルの対象・意義・介入と実際													
6	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容(1)総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点													
7	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容(2)ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容													
8	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容(3)多職種連携及びチームアプローチの意義と内容													
9	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容(4)多職種連携及びチームアプローチの意義と内容													
10	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容(5)多職種連携及びチームアプローチの意義と内容													
11	多職種連携の意義と課題・ジレンマ													
12	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 諸外国の状況													
13	ソーシャルワークの実践(1)資料作成													
14	ソーシャルワークの実践(2)口頭発表(ワールドカフェ方式)													
15	まとめ													
ラ	A:知識の定着・確認	・教員の実務経験を活かした事例、映像教材を提供する。ペアディスカッション・口頭発表を通じて、自ら考える力を養成する。また、学生に目指す社会福祉士像について資料作成、口頭発表してもらうなど、能動的な学習を目指す。					工	そ	プレゼン力を高めるレクチャーを行う。					
ィ	B:意見の表現・交換						夫	の						
ニ	C:応用志向													
テ	D:知識の活用・創造													
ィ	授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	次回のトピックについて調べ学習を行う(15h) 口頭発表の準備をする(15h)											
グ		事後学修	理解度の確認、考察力向上のため、毎回の講義終了後に、ショート・ライティングを課す(15h)											
ブ		想定時間合計	45											
教科書	指定しない													
参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(編)『ソーシャルワークの基盤と専門職(共通・社会専門)』(中央法規)2021年 ISBN978-4-8058-8241-2													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	口頭発表	30%										
	レポート	30%										
	試験	40%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	社会福祉士、児童相談所長（児童福祉司）											
実務経験を いかした教 育内容	児童相談現場の手法や事例を用い、将来、実務者として役立つ知見の取得を念頭に授業を行います。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030S303		ソーシャルワークの理論と方法 (Social Work Theory and Method)					相談援助技術系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	2年	福祉健康科学部	後期	木5	日本語			単独						
担当教員	氏名 齋藤 建児														
	E-mail k-saito@oita-u.ac.jp 内線 6117														
授業の概要	本科目は、社会福祉士養成課程の要である「ソーシャルワークの理論と方法」について学習する。その中でも、ソーシャルワークの基本ともいえる、生活課題を解決するために必要な「人と環境との相互作用」の視点について理解することをめざす。そのうえで、具体的な実践方法のケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワークについて、今日的な福祉課題や事例を交え、知識、技術、理論を学ぶ。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	人と環境の相互作用の理論を説明できる														
目標2	クライアントの課題を把握する視点をもとに生活課題を分析できる														
目標3	ケアマネジメント(ケースマネジメント)の方法を説明できる														
目標4	グループワークの概念と展開を説明できる														
目標5	コミュニティワークの概念と展開過程を説明できる														
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							5	2	3						
授業の内容															
1	オリエンテーション、														
2	ソーシャルワーカーが学ぶ理論：ソーシャルワークの共通基盤と固有の視点を理解する														
3	人と環境の相互作用に関する理論：システム理論と生態学理論を理解する														
4	クライアントの状況、課題を把握するための視点：BPSモデル、マイクロ・メゾ・マクロレベルを理解する														
5	ソーシャルワークの目標と展開過程の概要を理解する														
6	ケアマネジメント(ケースマネジメント)：原則、意義、方法を学ぶ														
7	グループワーク：意義と目的を学ぶ														
8	グループワーク：展開過程を理解する														
9	セルフヘルプグループ：実践事例から意義を学ぶ														
10	コミュニティワーク：理論に関する系譜とモデルを学ぶ														
11	コミュニティワーク：意義と目的を理解する														
12	コミュニティワーク：展開過程、手法を学ぶ														
13	ソーシャルアクション：概念と意義を理解する														
14	コミュニティオーガナイズ：概念と意義を理解する														
15	まとめ														
ラーニング	A:知識の定着・確認	ディスカッションを通じて事例の検討を行う				工夫 その 他の	理解を深めるために、実践事例や映像資料を用いる								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	事前に教科書を熟読し、講義の課題について明確化する(15h) 新聞等を通じて時事問題を確認する(10h)													
	事後学修	講義後に配付資料と教科書の内容を照らし合わせて復習し、知識と技術の定着に努める(15h) 講義で得た問題意識に関連する文献の検索とレビューに努める(5h)													
	想定時間合計	45													
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集,最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座12『ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目]』,2021年,中央法規 ISBN:978-4-8058-8242-9														
参考書	適宜、資料を配付する														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	リアクションペーパー	30%										
	課題レポート	30%										
	試験	40%										
注意事項												
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の有無												
教員の 実務経験	地域福祉専門員として岩手県旧川井村社会福祉協議会で勤務。地域包括支援センター社会福祉士として岩手県二戸市社会福祉協議会で勤務。											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H030S304	ソーシャルワークの理論と方法 (Theory and Method of Social Work)					相談援助技術系	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	3	福祉健康科学部	前期	水5	日本語		単独					
担当教員	氏名 桑野 博文 E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120												
授業の概要	ソーシャルワークの具体的な展開過程を学ぶとともに、ソーシャルワークにおける専門援助技術の体系を習得することを目的とする。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	
目標1	ソーシャルワークの具体的な展開過程について、説明することができる。												
目標2	ソーシャルワークにおける専門援助技術の体系について理解できる。												
目標3													
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						6	2	1		1			
授業の内容													
1	相談援助の展開過程の流れ、ケース発見、受理面接(インテーク)												
2	問題把握 ニーズ確定 事前評価(アセスメント)												
3	事前評価 支援目的・目標設定 支援の計画 支援の実施												
4	経過観察(モニタリング)、再アセスメントと支援の強化												
5	支援の終結と効果測定、評価、アフターケア、予防的対応とサービス開発												
6	相談援助のためのアウトリーチの技術												
7	相談援助のための契約の技術												
8	アセスメント技術(アセスメントの特性、援助的關係、面接)												
9	アセスメント技術(アセスメントで収集すべき情報と視覚化ツール)												
10	アセスメント技術(アセスメント面接で得た情報の使い方)												
11	相談援助のための介入の技術												
12	相談援助のための経過観察、再アセスメント、効果測定、評価の技術												
13	相談援助のための面接技術(相談援助における面接の目的、展開)												
14	相談援助のための面接技術(面接で用いる技術とコミュニケーション)												
15	相談援助のための記録の技術												
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認	現場における実践を事例として用い、グループワークにて討議する。					工夫その他の	何でもメモを授業終わりに配布し、理解の状況を確認していく。教科書の内容により、必要に応じ資料を配布していく。					
	B:意見の表現・交換												
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	授業資料を事前にしっかりと読んでおくこと。(15回×1h) 事例を行う授業では、事例の読み込み、自身の意見をまとめておくこと。(3回×1h) 授業資料にある用語について意味を調べておく。(15回×1h)											
	事後学修	授業資料を復習し、知識の定着に努める。各1h グループワーク後の他の方の意見を振り返る。3回×1h ソーシャルワーカーの倫理について振り返る。2h											
	想定時間合計	55											
教科書	テキストは使用しない。 授業資料を準備する。資料に沿って授業を展開していく。												
参考書	なし												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		試験レポート	80%									
	小レポート	20%										
注意事項	授業には必ず、教科書を持参。											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	非常勤等で24年											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	医療ソーシャルワーカー 29年											
実務経験を いかした教 育内容	教育としての知識が現場において、どのように展開されるか、知識的な理論と実践の繋がりをアクティブラーニング等を通じて理解を促す。											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
H030S305	ソーシャルワークの理論と方法(専門) (Theory and Methods of Social Work (Specialty) I)					相談援助技術系	対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択	2	3年生	福祉健康科学部	後期	水3	日本語		単独						
担当教員	氏名 河野洋子 E-mail kawano-youko@oita-u.ac.jp 内線 6098													
授業の概要	社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。													
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	
目標1	多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を説明できる。													
目標2	支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について説明できる。													
目標3	社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクション事例を見出しプレゼンテーションできる。													
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)							2	2	1	2	2	1		
授業の内容														
1	総合的かつ包括的な支援の考え方													
2	家族支援の実際(1)													
3	家族支援の実際(2)													
4	地域支援の実際													
5	非常時や災害時支援の実際													
6	ソーシャルワークにおける援助関係の形成													
7	ネットワークの形成													
8	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発、ソーシャルアクション													
9	ソーシャルワークに関連する技法 演習(1)カンファレンス													
10	ソーシャルワークに関連する技法 演習(2)カンファレンス・ネゴシエーション													
11	ソーシャルワークに関連する技法 演習(3)ファシリテーション													
12	ソーシャルワークに関連する技法 演習(4)ファシリテーション													
13	ソーシャルワークに関連する技法 演習(5)プレゼンテーション													
14	ソーシャルワークに関連する技法 演習(6)プレゼンテーション													
15	まとめ													
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認	教員の実務経験を活かした事例、映像教材を提供する。					工夫その他の	技法演習では、実践現場で活かせるスキルを紹介する。(カンファレンスやファシリテーションにおけるホワイトボードミーティングの手法など)						
	B:意見の表現・交換	ペアワーク、グループワーク、ロールプレイ、口頭発表を実施し、能動的な学習を目指す。												
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	今回のトピックについて、事前に参考書を読み、講義の課題を明確にする(15h) 発表やロールプレイなどの準備をする(15h)												
	事後学修	リアクションペーパーを作成し、授業の振り返りと理解度を把握する。理解度に応じて知識と技術の定着に努める(15h)												
	想定時間合計	45												
教科書	特に指定しない													
参考書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟(編)(2021)『ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』(中央法規) ISBN978-4-8058-8249-8													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート	30%										
	テスト	40%										
	口頭発表	30%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	社会福祉士、児童福祉司（児童相談所長）											
実務経験を いかした教 育内容	児童相談所勤務経験を活かしたリアリティのある授業を行います。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030S306		ソーシャルワークの理論と方法(専門) (Theory and Methods of Social Work (Specialty))					相談援助技術系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択	2	4年	福祉健康科学部	前期	月1	日本語			単独							
担当教員	氏名 今尾 顕太郎															
	E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120															
授業の概要	本講義は事例分析を主としている。提示する素材はすべて実際のケースであり、理論と実践の関係性、ソーシャルワーカーとクライアントの相互作用、環境の中のクライアントに焦点化しながら支援内容や経過を疑似的に経験する。提示される支援経過が最適か否かではなく、他の手段、方法についての検討をグループディスカッションなどで実施し言語化する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 提示された事例の概要をアセスメントし説明する。																
目標2 アセスメントの結果を相互に共有し、事例の課題について協議する。																
目標3 課題の抽出の後、解決策を検討する。																
目標4 個別事例の解決策から、他事例との共通性やソーシャルワークの一般性を見出す。																
目標5 自分(自グループ)の結論を言語化し他者と共有する。																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									2	3	2	1	1	1		
授業の内容																
1 ソーシャルワークにおける演繹法と帰納法																
2 事例分析(児童虐待) グループワーク																
3 事例分析(障害児の社会参加)グループワーク																
4 事例分析(行動障害を有する障害者) グループワーク																
5 事例分析(重度身体障害者の単独自立生活) グループワーク																
6 事例分析(DV) グループワーク																
7 事例分析(ホームレス) グループワーク																
8 事例分析(がん) グループワーク																
9 事例分析(難病) グループワーク																
10 事例分析(要介護高齢者) グループワーク																
11 事例分析(高齢者虐待) グループワーク																
12 組織内カンファレンスの方法 グループワーク ロールプレイ																
13 地域カンファレンスの方法 グループワーク ロールプレイ																
14 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実践(ミクロレベル)																
15 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実践(メソレベル)																
ラーニングチェックシート	A:知識の定着・確認		グループワーク、ブレインストーミング、ロールプレイ			工夫その他の	シヨート動画、映画などを利用する場合もある。									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		配布資料の精読や実習の経験を振り返り、講義の予習をする(各回2h)。													
	事後学修		授業の学習を、配布資料の確認やグループワークのまとめを振り返り自己の理解を深める(各回2h)。													
	想定時間合計		60													
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントや小冊子を使用する。															
参考書	・平塚 良子『ソーシャルワークを「語り」から「見える化」する』 ミネルヴァ書房 2022年 ISBN9784623092611 福山 和女『統合的短期型ソーシャルワーク』金剛出版 2014年 ISBN9784772413701 ・岩間 伸之『支援困難事例と向き合う』 中央法規 2014年 ISBN9784805850480															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	グループワーク参画態度	40%										
	グループワーク結果	30%										
	ロールプレイ	20%										
	小レポート	10%										
注意事項												
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医療ソーシャルワーカー、スクールソーシャルワーカー、相談支援専門員											
実務経験を いかした教 育内容	症例検討では、経過の中で発生する社会福祉士の心理的葛藤や変遷について現実に体験し、思考したことなどを元に講義を展開する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030S401		ソーシャルワーク演習 (Social Work Seminar)					演習系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択(社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格に必	2	2	福祉健康科学部	前期	木1	日本語			オムニバス							
担当教員	氏名 工藤修一・中山慎吾・滝口真・志賀信夫・河野洋子・齋藤建児・野中宏晃・本田浩史 E-mail nakayama-shingo@oita-u.ac.jp 内線 7518(中山)															
授業の概要	ソーシャルワークにおける基本的な姿勢や技能を身につけるため、自己覚知、基本的なコミュニケーション技術、基本的な面接技術、ソーシャルワークの展開過程等について、適宜事例を用いて演習を行う。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。															
目標2	ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。															
目標3	ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							3	3	2	2						
授業の内容																
1	イントロダクション(講義のねらい ルールについて説明 予定について)															
2	自己覚知(自己理解と他者理解)															
3	自己覚知(自己理解と他者理解)															
4	基本的なコミュニケーション技術(傾聴の姿勢等)															
5	基本的なコミュニケーション技術(傾聴の姿勢等)															
6	基本的なコミュニケーション技術(繰り返し・言い換え)															
7	基本的なコミュニケーション技術(繰り返し・言い換え)															
8	基本的なコミュニケーション技術(質問・促し)															
9	基本的なコミュニケーション技術(感情の反映・要約)															
10	基本的な面接技術(面接の構造化・場の設定等)															
11	ソーシャルワークの記録															
12	ソーシャルワークの展開過程(ケースの発見・インテーク・アセスメント・プランニング)															
13	ソーシャルワークの展開過程															
14	グループダイナミクスの活用															
15	プレゼンテーション技術															
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認	全ての講義でグループワークを導入している。				工夫その他の	適宜小レポートを課す。									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	前回の演習をよくふりかえっておくこと(15h)														
	事後学修	演習の中で出てきた疑問点について自分なりに調べること(30h)														
	想定時間合計	45														
教科書	教科書は指定しない。適宜、参考書を紹介する。															
参考書	講義において紹介する。															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		グループワークの参加度	80%									
	小レポート	20%										
注意事項	5回以上欠席がある場合、単位を認めない。 ロールプレイについて特に真剣に取り組むこと											
備考	2クラスに分けて同じ時限に行う。講義の最初に各回の担当の予定を知らせる。講義計画は変更する場合がある。必ずソーシャルワーク演習とソーシャルワーク演習(専門) をセットで履修すること。(社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格に必要な科目)【地域創生教育科目】											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030S402		ソーシャルワーク演習(専門) (Seminar on Social Work (Advanced))					演習系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択(社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格に必	2	2	福祉健康科学部	前期	木2	日本語			オムニバス						
担当教員	氏名 工藤修一・中山慎吾・滝口真・志賀信夫・河野洋子・齋藤建児・野中宏晃・本田浩史 E-mail nakayama-shingo@oita-u.ac.jp 内線 7518(中山)														
授業の概要	ソーシャルワークの展開過程に関して実践的に理解するため、ケースの発見・インテーク、情報収集、アセスメント、プランニング、支援の実施・モニタリング、支援の終結と事後評価・アフターケアなどについて、適宜事例を用いて演習を行う。具体的な事例等(集団に対する事例含む)を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に学習する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として体系立てていくことができる能力を習得する。														
目標2	ミクロ・メゾレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程について実践的に理解する。														
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							4	3	3						
授業の内容															
1	イントロダクション (講義のねらい ルールについて説明 予定について)														
2	ケースの発見・インテーク・情報収集														
3	ケースの発見・インテーク・情報収集														
4	アセスメント														
5	アセスメント														
6	プランニング														
7	プランニング														
8	支援の実施・モニタリング														
9	支援の実施・モニタリング														
10	支援の終結と事後評価・アフターケア														
11	支援の終結と事後評価・アフターケア														
12	ケースワーク事例の分析と理解														
13	ケースワーク事例の分析と理解														
14	グループワーク事例の分析と理解														
15	グループワーク事例の分析と理解														
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認	毎回の講義で、グループワークやロールプレイを取り入れる。				工夫	学生の発表も取り入れる。								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	援助者として自分のもっている傾向を把握すること(15h)。													
	事後学修	毎回の演習における議論をふりかえること(30h)。													
	想定時間合計	45													
教科書	特に使用しない。														
参考書	講義において適宜紹介する														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		グループワーク等の参加度	80%									
	小レポート	20%										
注意事項	5回以上欠席がある場合、単位を認めない ロールプレイについて特に真剣に取り組むこと											
備考	2クラスに分けて同じ時限に行う。講義の最初に各回の担当の予定を知らせる。授業計画は変更する場合がある。必ずソーシャルワーク演習とソーシャルワーク演習(専門) をセットで履修すること。(社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格に必要)【地域創生教育科目】											
リンク												
	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H030S403	ソーシャルワーク演習(専門) (Seminar on Social Work (Advanced))					演習系	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択(社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格に必)	2	2年生	福祉健康科学部	後期	木1	日本語		複数(共同)					
担当教員	氏名 青山昌憲・妻川真理子 E-mail masa150snori@gmail.com(青山)、tsumakawa0410@gmail.com(妻川) 内線												
授業の概要	前期のソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク演習(専門) の成果をふまえつつ、さらに実践的なソーシャルワークの技術を体験的に習得する。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	
目標1	ソーシャルワークのプロセスを理解し、クライアント支援について必要な技術を選択できる												
目標2	ケースワーク・コミュニティワーク・グループワークといった各技法の事例についてそのポイントを説明できる												
目標3	援助事例について分析し、課題を予測し、応用できる												
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						2	2	2	2	2			
授業の内容													
1	イントロダクション(講義の予定、相談援助技法について)												
2	虐待事案の対応からソーシャルワークプロセスを考える												
3	貧困・社会的困窮者支援からソーシャルワークプロセスを考える												
4	災害時支援からソーシャルワークプロセスを考える												
5	認知症の対応からソーシャルワークプロセスを考える												
6	アウトリーチとチームアプローチ理解												
7	終末期ケアからソーシャルワークプロセスを考える												
8	地域福祉計画と地域アセスメント												
9	様々な危機状態にある事例からソーシャルワークプロセスを考える												
10	社会資源の活用・調整・開発と組織化の重要性												
11	ソーシャルアクションについて												
12	コーディネーションについて(事例研究)												
13	ファシリテーションについて(事例研究)												
14	ネゴシエーションについて(スーパービジョン)												
15	プレゼンテーションについて(スーパービジョン)												
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認	ほぼ全ての講義でグループワークを導入しており、学生同士の相互作用によって教育効果を高める。					工夫	その他の	上記に加えて、適宜、小レポート等を課す。				
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	前回の演習経験を振り返り、講義演習に臨む(30h)											
	事後学修	演習を通して出てきた疑問点を調べておく(30h)											
	想定時間合計	60											
教科書	特に指定しない。												
参考書	講義の中で適宜紹介する												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	グループワークへの参加度	60%										
	小レポート	15%										
	修了レポート	25%										
注意事項	5回以上の欠席の場合、単位を認めない グループワーク等に積極的に参加すること											
備考	必ずソーシャルワーク(専門) 、ソーシャルワーク演習(専門) をセットで履修すること。 授業計画は変更する場合がある。(社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格に必要) 【地域創生教育科目】											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医療ソーシャルワーカー											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
H030S404		ソーシャルワーク演習(専門) (Seminar on Social Work (Advanced))					演習系	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択(社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格に必)	2	2年生	福祉健康科学部	後期	木2	日本語		複数(共同)								
担当教員	氏名 青山昌憲・妻川真理子 E-mail masa150snori@gmail.com(青山)、tsumakawa0410@gmail.com(妻川) 内線															
授業の概要	前期のソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク演習(専門) の成果をふまえて、さらに実践的なソーシャルワークの技術を体験的に習得する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	ソーシャルワークのプロセスを理解し、クライアント支援について必要な技術を選択できる															
目標2	ケースワーク・コミュニティワーク・グループワークといった各技法の事例についてそのポイントを説明できる															
目標3	援助事例について分析し、課題を予測し、応用できる															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							2	2	2	2	2					
授業の内容																
1	イントロダクション(講義の予定、相談援助技法について)															
2	虐待事案の対応からソーシャルワークプロセスを考える															
3	貧困・社会的困窮者支援からソーシャルワークプロセスを考える															
4	災害時支援からソーシャルワークプロセスを考える															
5	認知症の対応からソーシャルワークプロセスを考える															
6	アウトリーチとチームアプローチ理解															
7	終末期ケアからソーシャルワークプロセスを考える															
8	地域福祉計画と地域アセスメント															
9	様々な危機状態にある事例からソーシャルワークプロセスを考える															
10	社会資源の活用・調整・開発と組織化の重要性															
11	ソーシャルアクションについて															
12	コーディネーションについて(事例研究)															
13	ファシリテーションについて(事例研究)															
14	ネゴシエーションについて(スーパービジョン)															
15	プレゼンテーションについて(スーパービジョン)															
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認	ほぼ全ての講義でグループワークを導入しており、学生同士の相互作用によって教育効果を高める。				工夫	適宜、小レポートを課す。									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	前回の演習経験を振り返り、講義演習に臨む(30h)														
	事後学修	演習を通して出てきた疑問点を調べておく(30h)														
	想定時間合計	60														
教科書	特に指定しない。															
参考書	講義の中で適宜紹介する															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	グループワークへの参加度	60%										
	小レポート	15%										
	修了レポート	25%										
注意事項	5回以上の欠席の場合、単位を認めない グループワーク等に積極的に参加すること											
備考	必ずソーシャルワーク(専門) 、ソーシャルワーク演習(専門) をセットで受講すること。 授業計画は変更する場合がある。(社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格に必要) 【地域創生教育科目】											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医療ソーシャルワーカー											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
H030S405		ソーシャルワーク演習(専門) ()					演習系	対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択(社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格に必)	2	4年生	福祉健康科学部	前期	木3,木4	日本語		オムニバス							
担当教員	氏名 工藤修一・中山慎吾・滝口真・志賀信夫・河野洋子・齋藤建児・足立美和 E-mail nakayama-shingo@oita-u.ac.jp 内線 7518														
授業の概要	ソーシャルワーク実習を踏まえ、実際の援助場面を題材とした実践的能力を涵養する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	支援の方向性や具体的な計画について表現することができる。														
目標2	支援過程で必要となる社会資源を指摘することができる。														
目標3	支援の中で必要な面接のスキルを実践することができる。														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							3	3	2	2					
授業の内容															
1	インテークの実際と方法														
2	アセスメントの実際と方法														
3	プランニングの実際と方法														
4	支援の実施の実際と方法														
5	モニタリングの実際と方法														
6	評価・効果測定の実実際と方法														
7	終結とアフターケアの実際と方法														
8	アウトリーチ型支援の具体的方法														
9	チームアプローチの具体的方法														
10	ネットワーキングの具体的方法														
11	地域住民のニーズ把握の具体的方法														
12	地域福祉の計画立案についての具体的方法														
13	地域福祉の計画実施についての具体的方法														
14	社会資源の活用・調整・開発の具体的方法														
15	サービスの評価の具体的方法														
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	全ての講義でグループワークを行う。				工 夫 そ の 他 の	適宜、小レポートを行う。								
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	毎回の演習事例を各自でふりかえっておくこと(10h)。													
	事後学修	演習を通して出た疑問点について自分なりに調べておく(35h)。													
	想定時間合計	45													
教科書	指定しない。														
参考書	適宜紹介する。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		グループワークへの参加度	80%									
	小レポート	20%										
注意事項	グループワークへの積極的な参加が必要である。 5回以上の欠席がある場合、単位を認定しない。											
備考	(社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格に必要)【地域創生教育科目】											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H030S501		ソーシャルワーク実習指導 (Social Work Practicum Guidance)					実習系	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択	2	2年	福祉健康科学部	後期	水2	日本語		複数(共同)						
担当教員	氏名 工藤修一、中山慎吾、滝口真、齋藤建児、志賀信夫、河野洋子 E-mail takamine@oita-u.ac.jp 内線 7947													
授業の概要	本科目では「ソーシャルワーク実習」に向けて事前学習および事後学習を行う。 事前学習では、ソーシャルワーク実習の意義を理解する、ソーシャルワークの価値と倫理に基づいた社会福祉士の役割、実習が、実践に基づいたソーシャルワークに係る知識と技術を習得する機会であることを理解する。また、事後学習では実習で得た具体的な体験や知識および技術について振り返り、意味づけを行い、それぞれが内面化する作業を通じ、次年度のソーシャルワーク実習への準備に努める。													
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	ソーシャルワーク実習の意義および目的について説明できる。													
目標2	社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を説明できる。													
目標3	ソーシャルワークに係る知識と技術について、実習を通して必要な事項を内面化し、説明できる。													
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)							7		3					
授業の内容														
1	オリエンテーション(ソーシャルワーク実習の概要:意義、目的、展開、実習指導・スーパービジョンの意義)【全体】													
2	実習分野(利用者理解含む)と施設・機関、地域社会等に関する基本的理解【全体】													
3	実習先で関わる他の専門職の専門性や業務に関する基本的な理解【全体】													
4	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解【全体】													
5	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解【全体】													
6	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 実習生個人票の作成【個別】													
7	実習計画の作成(学生・教員)事前学習および実習計画書の作成【個別】													
8	実習計画の作成(学生・教員・実習指導者)事前学習および実習計画書の作成【個別】													
9	巡回指導													
10	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成【個別】													
11	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士の役割(児童福祉分野)【全体】													
12	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士の役割(障害者福祉分野)【全体】													
13	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士の役割(高齢者福祉分野)【全体】													
14	見学実習(更生保護施設)【全体】													
15	見学実習(児童相談所)【全体】													
ラーニンググループ	A:知識の定着・確認	実習施設ごとのグループ学習,並びに講義での成果の報告					工	そ	夫	の	他	の		
	B:意見の表現・交換													
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	配属施設の利用者特性・機能・役割(30h)												
	事後学修	理論と実践の融合(10h) 自己覚知(5h)												
	想定時間合計	45												
教科書	使用しない(レジュメ配布)。													
参考書	指定しない。													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	実習生個人票	10%										
	実習計画書	30%										
	実習レポート	40%										
	受講態度	20%										
注意事項												
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医療ソーシャルワーカー（7年）											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
H030S503		ソーシャルワーク実習指導 (Social Work Practicum Guidance)					実習系		対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態					
選択	2	3年	福祉健康科学部	前期	月4,月5	日本語			複数(共同)					
担当教員	氏名 工藤修一、中山慎吾、滝口真、齋藤建児、志賀信夫、河野洋子 E-mail takamine@oita-u.ac.jp 内線 7947													
授業の概要	本科目は、ソーシャルワーク実習 に向けた事前指導として、 ソーシャルワーク実習の意義について理解する、 社会福祉士に求められる役割の理解、 価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を知る、 ソーシャルワークに係る知識と技術について学び、 ソーシャルワーク実習に備える。また、 ソーシャルワーク実習における学びをより豊にすべく、事前の実習課題を明確にし、実習計画を作成する。													
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	ソーシャルワーク実習の意義および目的について説明できる。													
目標2	社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を説明できる。													
目標3	ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、基礎的な能力を習得する。													
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)								7			3			
授業の内容														
1	前期オリエンテーション・実習のコンセプト													
2	実習の学び方(2年次実習省察・先輩の体験談)													
3	社会福祉専門職の機能と役割													
4	社会福祉法制度(社会資源)の理解													
5	実習課題明確化の方法と事前訪問のポイント													
6	実習課題の明確化(実習計画書作成)1【個別】													
7	実習課題の明確化(実習計画書作成)2【個別】													
8	実習課題の明確化(実習計画書作成)3【個別】													
9	福祉実践の理解(外部講師)1													
10	福祉実践の理解(外部講師)2													
11	福祉実践の理解(外部講師)3													
12	守秘義務と個人情報保護法													
13	実習で想定されるディレンマ													
14	実習記録の方法													
15	まとめと実習前の諸注意													
ラ イ ク ニ テ ィ グ ラ フ	A:知識の定着・確認	実習計画書の個別指導(意見交換)を各学生あたり5回前後実施する。					工 夫 の 他 の							
	B:意見の表現・交換													
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	2年次実習省察(10h) 社会福祉士倫理綱領(10h) 配属施設の利用者特性(10h) 配属施設の機能(15h)												
	事後学修	外部講師レポート(10h)												
	想定時間合計	55												
教科書	使用しない(レジュメ配布)。													
参考書	その都度紹介する。													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	実習計画書	30%										
	事前学習レポート	40%										
	実習生個人票	10%										
	受講態度	20%										
注意事項												
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医療ソーシャルワーカー（7年）											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	児童，障害者，医療実践のスペシャリストから，あるべき実習，あるべき実習生について教示を頂く。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
H030S505		ソーシャルワーク実習指導 (Social Work Practicum Guidance)					実習系	対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択	2	3年	福祉健康科学部	後期	火5	日本語		複数(共同)							
担当教員	氏名 工藤修一、中山慎吾、滝口真、齋藤建児、志賀信夫、河野洋子 E-mail takamine@oita-u.ac.jp 内線 7947														
授業の概要	社会福祉実践とは問題解決の営みである。つまり、ソーシャルワーカーには極めて高度な問題解決能力が必要とされる。そこで本講義では、ソーシャルワーク実習で各学生が体験した事柄を素材にして、問題の特定、生起要因の把握、解決方法の検討を繰り返し学習する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1 「問題とは何か」について構造的に説明できる。															
目標2 問題の生起要因について分析できる。															
目標3 問題の解決策について提案できる。															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)										5	5				
授業の内容															
1	オリエンテーション														
2	問題の掌握方法														
3	問題の生起要因														
4	社会福祉実践の課題の検討(グループ報告) 1														
5	社会福祉実践の課題の検討(グループ報告) 2														
6	社会福祉実践の課題の検討(グループ報告) 3														
7	社会福祉実践の課題の検討(グループ報告) 4														
8	社会福祉実践の課題の検討(グループ報告) 5														
9	実習報告会準備														
10	実習報告会														
11	実習報告会														
12	実習報告会														
13	社会福祉実践の課題の検討(グループ報告) 6														
14	社会福祉実践の課題の検討(グループ報告) 7														
15	社会福祉実践の課題の検討(グループ報告) 8														
ラック ニ ン イ グ	A:知識の定着・確認	学生の報告を中心素材としてディスカッションを繰り返す。				工 夫 そ の 他 の									
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	福祉実践の課題整理(10h) 課題の生起要因の特定(20h)													
	事後学修	課題の解決策の検討(20h)													
	想定時間合計	50													
教科書	使用しない。														
参考書	その都度紹介する。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		課題レポート	100%									
注意事項												
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医療ソーシャルワーカー（7年）											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H030S502	ソーシャルワーク実習 (Social Work Practicum)					実習系	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	2年	福祉健康科学部	後期	他	日本語		複数(共同)					
担当教員	氏名 工藤修一、中山慎吾、滝口真、齋藤建児、志賀信夫、河野洋子 E-mail takamine@oita-u.ac.jp 内線 7947												
授業の概要	本コースでは、社会福祉士国家試験受験資格に必要なソーシャルワーク実習を2カ所において、計240時間実施する。本科目はその1カ所目の実習となる。実習実施にあたり、厚生労働省指針を踏えた実習計画書を作成し、実習指導者による指導および科目担当教員による巡回指導および帰校日指導を実施する。履修する学生においては、社会福祉士に求められる実践力の獲得をめざし、ソーシャルワーク実習指導 で得た学習内容を踏まえ実習に臨む。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	
目標1	各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士として支援を行うために必要な実践体系をイメージできる												
目標2	支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する												
目標3													
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						5	3		2				
授業の内容													
1	8日間の実習で、体系や流れは配属先によって異なる												
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
ラーニング	A:知識の定着・確認	実習のためすべてアクティブラーニング				工	そ	夫					
	B:意見の表現・交換					夫	の						
	C:応用志向					他	の						
	D:知識の活用・創造												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	配属施設の利用者特性・機能・役割(30h)											
	事後学修	理論と実践の融合(10h) 自己覚知(5h)											
	想定時間合計	45											
教科書	使用しない。												
参考書	指定しない。												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	実習評価	50%										
	実習レポート	30%										
	担当教員の評価	20%										
注意事項	ソーシャルワーク実習は実習施設・機関と大学との契約関係によるものであり、所定のルールに従って実習生としての役割を果たすことが求められる。											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	医療ソーシャルワーカー（7年）											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030S504		ソーシャルワーク実習 (Social Work Practicum)					実習系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択	6	3年	福祉健康科学部	前期	他	日本語			複数(共同)							
担当教員	氏名 工藤修一、中山慎吾、滝口真、齋藤建児、志賀信夫、河野洋子															
	E-mail takamine@oita-u.ac.jp 内線 7947															
授業の概要	本コースでは、社会福祉士国家試験受験資格に必要なソーシャルワーク実習を、計23日間実施する。実習実施にあたり、厚生労働省指針を踏えた実習計画書を作成し、実習指導者による指導および科目担当教員による巡回指導および帰校日指導を実施する。履修する学生においては、社会福祉士に求められる実践力の獲得をめざし、ソーシャルワーク実習指導 得た学習内容を踏まえ実習に臨む。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と評価ができる															
目標2	当該実習先が地域社会の中で果たす役割を列挙できる															
目標3	施設の経営やサービスの管理運営の実際について説明できる															
目標4	生活を包括的に支援するための必要要素について列挙できる。															
目標5	職業倫理と組織の一員としての役割と責任に伴った行動ができる															
目標6	ソーシャルワーカーに求められる技術の実践的理解															
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							4	2	2	2						
授業の内容																
1	配属施設によって体系や典型は異なる															
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
ラーニング	A:知識の定着・確認	実習のためすべてアクティブラーニング				工 夫 そ の 他 の										
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	福祉実践の課題整理(10h) 課題の生起要因の特定(20h)														
	事後学修	課題の解決方策の検討(20h)														
	想定時間合計	50														
教科書	使用しない。															
参考書	個別に(実習施設の特性に合わせて)紹介する。															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	実習レポート	30%										
	実習評価	50%										
	担当教員の評価	20%										
注意事項	ソーシャルワーク実習は実習施設・機関と大学との契約関係によるものであり、所定のルールに従って実習生としての役割を果たすことが求められる。											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医療ソーシャルワーカー（7年）											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
H040S220	現代の精神保健の課題と支援 (Contemporary Mental Health Issues and Support I)					精神保健福祉系	オンライン(同時双方向型)					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態				
選択	2	3年	福祉健康科学部	前期	火1	日本語		単独				
担当教員	氏名 堤 隆 E-mail tsutsumi@oita-u.ac.jp 内線 7477											
授業の概要	精神保健では、「心の健康の維持」と「心の病気の予防」に関する内容を学ぶ。 本講では、「心の健康」と「心の危機」についての心理社会的側面をみていくことにする。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1	「心の健康」「心の危機」「心の病気」について理解できる											
目標2	ライフサイクルごとの「心の問題」について学ぶことができる											
目標3	家庭や職場などの環境ごとの「心の問題」について学ぶことができる											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)						10						
授業の内容												
1	精神保健の概要											
2	精神保健の歴史・課題											
3	乳幼児期・学童期のメンタルヘルス											
4	思春期・青年期のメンタルヘルス											
5	成人期・老年期(高齢者)のメンタルヘルス											
6	ストレスと心の病気											
7	精神の健康											
8	精神の健康への関与と支援											
9	家庭におけるメンタルヘルス(1)											
10	家庭におけるメンタルヘルス(2)											
11	学校におけるメンタルヘルス(1)											
12	学校におけるメンタルヘルス(2)											
13	職場におけるメンタルヘルス(1)											
14	職場におけるメンタルヘルス(2)											
15	まとめ											
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	学修成果物の作成					工 夫 そ の 他 の					
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修	テキストを事前に読んでおく(23h)										
	事後学修	教材を用いて復習する(23h)										
	想定時間合計	46										
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟.最新・精神保健福祉士養成講座2「現代の精神保健の課題と支援」(中央法規)2021 ISBN:978-4-8058-8253-5											
参考書	尾崎紀夫 標準精神医学 第9版 (医学書院)2024 ISBN:978-4-260-05334-1											

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	学修成果物	70%										
	総合的に評価する	30%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H040S221	現代の精神保健の課題と支援 (Contemporary Mental Health Issues and Support II)					精神保健福祉系	オンライン(同時双方向型)						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	3年	福祉健康科学部	後期	月2	日本語		単独					
担当教員	氏名 堤 隆 E-mail tsutsumi@oita-u.ac.jp 内線 7477												
授業の概要	精神保健では、「心の健康の維持」と「心の病気の予防」に関する内容を学ぶ。 本講では、心の病気の予防やケアについて検討する。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	「統合失調症」「アルコール依存症」「認知症」などの精神障害について理解できる												
目標2	こうした精神障害の予防やケアについて学ぶことができる												
目標3	国内外の精神医療や精神保健について概観することができる												
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							10						
授業の内容													
1	統合失調症(1)												
2	統合失調症(2)												
3	発達障害者に対する対策												
4	アルコール問題に対する対策												
5	薬物依存対策												
6	うつ病と自殺防止対策												
7	認知症高齢者に対する対策(1)												
8	認知症高齢者に対する対策(2)												
9	社会的ひきこもり、ニート、ホームレス												
10	災害時の精神保健												
11	精神保健福祉士、性同一性障害												
12	ターミナルケアと精神保健												
13	地域精神保健の概要												
14	世界の精神保健												
15	講義内容全体についての討論												
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	学修成果物の作成					工 夫 そ の 他 の						
	B:意見の表現・交換												
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	テキストを事前に読んでおく(23h)											
	事後学修	教材を用いて復習する(23h)											
	想定時間合計	46											
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟・最新・精神保健福祉士養成講座2「現代の精神保健の課題と支援」(中央法規)2021 ISBN:978-4-8058-8253-5												
参考書	尾崎紀夫 標準精神医学 第9版 (医学書院)2024 ISBN:978-4-260-05334-1												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	学修成果物	70%										
	総合的に評価する	30%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H020P701		精神疾患とその治療 (Mental Illness and Its Treatment)					精神保健福祉系		オンライン(同時双方向型)						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	3年	福	前期	木5	日本語			オムニバス						
担当 教員	氏名 河野健太郎、平川博文、井上綾子、泉寿彦、室長祐彰、駄阿優子、佐藤盛暁														
	E-mail kentarakohno@oita-u.ac.jp 内線 5823														
授業 の 概 要	精神医学では、精神疾患の成因や症状、治療に関する内容を学ぶ。本講では、精神医学の歴史や診断法・症状評価、主たる精神障害をみていくことにする。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 精神医学の総論を理解し、説明することができる。															
目標2 精神症状・状態像の理解と診断法について学び、説明することができる。															
目標3 精神科における代表的な疾患を理解し、説明することができる。															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									8	2					
授業の内容															
1 精神医学概論(精神医学・医療の歴史、精神現象の生物学的基礎)															
2 精神障害の理解(精神障害の概念、精神疾患の診断分類)															
3 精神疾患の症状と診断、検査															
4 代表的な疾患とその症状、経過、予後(器質性精神障害)															
5 代表的な疾患とその症状、経過、予後(精神作用物質による精神および行動の障害)															
6 代表的な疾患とその症状、経過、予後(統合失調症)															
7 代表的な疾患とその症状、経過、予後(気分障害)															
8 代表的な疾患とその症状、経過、予後(神経症性障害・生理的障害・パーソナリティ障害)															
9 代表的な疾患とその症状、経過、予後(知的障害・発達障害)															
10 代表的な疾患とその症状、経過、予後(小児期・青年期の行動および情緒の障害)															
11 精神疾患の治療															
12 精神医療の動向															
13 精神科医療機関における治療															
14 精神科治療における人権擁護、精神保健福祉士の役割															
15 精神医療と保健、福祉の連携の重要性															
ラ ッ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認		適宜、質問やミニディスカッションなどを通し積極的に学生が考え学ぶことができるようにする。					工 夫	そ の 他 の						
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		必要に応じて教科書を読み、予習をする(15h)。												
	事後学修		授業で学習したことを復習する(30h)。												
	想定時間合計		45												
教科書		最新精神保健福祉士養成講座『1 精神医学と精神医療』(中央法規出版、2021年) ISBN 978-4-8058-8252-8													
参考書		太田保之・上野武治編『学生のための精神医学』(医歯薬出版、2014年) ISBN978-4-263-23591-1													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	学期末試験	90%										
	授業への参加の積極度	10%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	附属病院の医師											
実務経験を いかした教 育内容	種々の精神疾患の原因・症状・検査・診断・治療法や、精神疾患にまつわる歴史、法律、仕組みなどについて講義する											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H040S311		精神保健福祉の原理 (Principle of Psychiatric Social Work)					精神保健福祉系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	2年	福祉健康科学部	前期	金5	日本語			単独						
担当教員	氏名 時松伴文 E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120														
授業の概要	障害者福祉の歴史をふまえて、障害者福祉の基本的枠組みについて理解する。そのうえで、精神障害者の定義とその障害特性を理解し、社会的排除や社会的障壁などについての問題意識をもつ。精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷を理解し、精神障害者の生活実態について学び、専門職としてのアイデンティティを形成する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 障害者福祉の歴史、思想をふまえて、障害者福祉の基本的枠組みを説明できる															
目標2 精神障害者の定義とその障害特性を理解したうえで、社会的排除や社会的障壁について説明できる															
目標3 精神障害者の社会的立場の変遷を理解し、精神障害者の生活実態について説明できる															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									6			4			
授業の内容															
1 障害者福祉の理念(1) 障害者福祉の思想と原理															
2 障害者福祉の理念(2) ノーマライゼーション、リハビリテーション、自立生活															
3 障害者福祉の理念(3) 障害者福祉の歴史的展開															
4 国際生活機能分類(ICIDH から ICF)について															
5 制度における「精神障害者」の定義															
6 精神障害の障害特性の理解															
7 諸外国の動向をふまえた社会的排除と社会的障壁の理解															
8 日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事(1)															
9 日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事(1)															
10 日本における社会的障壁(1)															
11 日本における社会的障壁(2)															
12 精神障害者の生活実態と精神科医療															
13 精神障害者の家族とその生活実態															
14 精神障害者の社会生活															
15 まとめ															
ラーニング	A:知識の定着・確認		演習、グループディスカッション、ブレインストーミング				工 夫 そ の 他 の	アイスブレイク、動画の活用、遠隔講義の活用							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		テキストの該当箇所、配布資料や参考文献などの情報が必要に応じて予習する(15h)。ディスカッションの準備をする(15h)。												
	事後学修		授業で学習したことをテキストや配布資料をもとに復習し、理解水準を確実なものとする(30h)。												
	想定時間合計		60												
教科書	『精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理』中央法規 3,300円(税込) ISBN:978-4-8058-8256-6														
参考書	参考書は指定しない。適宜資料配布する。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		期末試験	100%									
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須条件である。 授業の内容は予定のため、変わる可能性がある。											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	精神科病院でのソーシャルワーク（精神保健福祉士）、学校教育機関でのソーシャルワーク（社会福祉士・精神保健福祉士）											
実務経験を いかした教 育内容	実践現場における事例の提供や理論と実践の間にあるジレンマなどを取り扱う。 日本精神保健福祉士協会で作成された「将来ビジョン」を活用する。											

※この科目は別府大学との単位互換対象科目となりました。大分大学においては開講しないため別府大学にて開講される該当科目をオンラインにて受講ください。シラバスは別途掲載します。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H040S311		精神保健福祉の原理 (Principles of Psychiatric Social Work)					精神保健福祉系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択	2	2年	福祉健康科学部	後期	他	日本語			単独							
担当教員	氏名 尾口昌康 E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120															
授業の概要	精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の倫理綱領を把握し、その職責を理解し、求められる役割を理解する。精神保健福祉士の存在意義を理解し、近年の精神保健福祉の動向をふまえたうえで、その職域と業務特性を理解する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	精神障害者とのかかわりに基づき精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を説明できる。															
目標2	精神保健福祉の倫理綱領をふまえて、その職責、求められる役割を説明できる。															
目標3	近年の精神保健福祉の動向をふまえたうえで、精神保健福祉士の職域と業務特性を説明できる。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							6			2	2					
授業の内容																
1	精神保健福祉士の資格化と精神保健福祉の理念(1)精神医学ソーシャルワーカー協会の設立															
2	精神保健福祉士の資格化と精神保健福祉の理念(2)Y問題と倫理綱領の制定															
3	精神保健福祉士の資格化と精神保健福祉の理念(3)ごく当たり前の生活															
4	精神保健福祉士の観点・視点(1)人と環境の相互作用、生活者															
5	精神保健福祉士の観点・視点(2)エンパワメント、リカバリー															
6	精神保健福祉士の関係性															
7	精神保健福祉法の理解															
8	精神保健福祉士の職業倫理															
9	精神保健福祉士の業務特性(1)															
10	精神保健福祉士の業務特性(2)															
11	精神保健福祉士の職場・職域(1)															
12	精神保健福祉士の職場・職域(2)															
13	精神保健福祉士の業務内容と業務指針(1)															
14	精神保健福祉士の業務内容と業務指針(2)															
15	まとめ															
ラーニング	A:知識の定着・確認	演習、グループディスカッション、ブレインストーミング				工 夫 そ の 他 の	アイスブレイク、動画の活用、遠隔講義の活用									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	テキストの該当箇所、配布資料や参考文献などの情報を必要に応じて予習する(15h)。ディスカッションの準備をする(15h)。														
	事後学修	授業で学習したことをテキストや配布資料をもとに復習し、理解水準を確実なものとする(30h)。														
	想定時間合計	60														
教科書	『精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理』中央法規 3,300円(税込) ISBN:978-4-8058-8256-6															
参考書	参考書は指定しない。適宜資料配布する。															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		期末試験	100%									
	合計100点中60点以上が合格（ただし出席3分の2以上が条件）											
注意事項	授業の内容は予定ですので、変わる可能性がある。 精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須条件である。											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	精神科病院でのソーシャルワーク（精神保健福祉士）、学校教育機関でのソーシャルワーク（社会福祉士・精神保健福祉士）											
実務経験を いかした教 育内容	実践現場における事例の提供や理論と実践の間にあるジレンマを教材として取り扱う。 日本精神保健福祉士協会で作成された「倫理綱領」「業務指針」を活用する。											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H040S316	ソーシャルワークの理論と方法(専門)A (Psychiatric Social Work Theory and Method (advanced) A)					精神保健福祉系	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	3年	福	前期	他	日本語		単独					
担当教員	氏名 尾口 昌康 E-mail m-oguchi@nm.beppu-u.ac.jp 内線 0977-86-6701(研究室)												
授業の概要	本講義のねらいは、人と環境との相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて学ぶことである。また、ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解するとともに、それに係る知識と技術を修得することにある。 加えて、コミュニティワークの概念とその展開を学び、ソーシャルワークにおけるスーパービジョンを修得することを目的とする。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7						
目標1	人と環境との口語作用に関する理論と、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて説明できる。												
目標2	ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて説明できる。												
目標3	ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について説明できる。												
目標4	コミュニティワークの概念とその展開について説明できる。												
目標5	ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて説明できる。												
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						6		2	2				
授業の内容													
1	ソーシャルワークの構成要素												
2	ソーシャルワークの展開過程												
3	精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点												
4	アウトリーチ												
5	インテーク												
6	アセスメント (情報から情報分析・解釈、人と環境の相互作用から捉えた問題の特性)												
7	アセスメント (本人に関する理解、環境に関する理解、アセスメントツール(エコマップ等))												
8	援助関係の形成技法												
9	面接技術とその応用												
10	支援の展開(人、環境へのアプローチ)事例分析												
11	支援の展開(ケアマネジメント)												
12	精神障害者家族の課題												
13	家族理解の変遷												
14	家族支援の方法 (家族相談面接、家族療法的アプローチ)												
15	家族支援の方法 (家族間暴力への介入、家族のリカバリー、家族のセルフヘルプグループ)												
ラーニング	A:知識の定着・確認	正確な知識が定着しているか確認するため、意見の表現・交換を通して、事例をどのように理解しているかを確認するとともに、援助方法について他者に的確に伝える言語化スキルを高めるため、毎回、学生に意見や説明を求めます。					工	そ	視聴覚教材も積極的に用います。				
ニング	B:意見の表現・交換						夫	の					
ィン	C:応用志向						他	の					
グ	D:知識の活用・創造												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	次回の講義部分について、解らない語句等を事前に調べておくこと(15h)。 事例についてはその概要をジェノグラムやエコマップ、タイムライン等を用いて整理し、理解した上で授業に臨むこと(15h)											
	事後学修	知識の定着を図るためにMoodleにアップロードされたスライドを再確認し、配布資料のカッコ書きの部分については何も見ずに記入できるようにしておくこと(15h)											
	想定時間合計	45											
教科書	教科書は特に指定せず、配布資料に基づいて授業を行います。												
参考書	最新 精神保健福祉士養成講座6『ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)』中央法規出版 2021年 (ISBN 978-4-8058-8257-3) そのほかは、授業の中で適宜紹介します。												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末レポート	70%										
	授業内レポート	20%										
	授業中の発言内容や参加姿勢等	10%										
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、この科目の単位修得が必須要件です。											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	精神科病院にて精神保健福祉士としての実務経験あり											
実務経験を いかした教 育内容	精神科病院における精神保健福祉士としての実務経験や、公益社団法人日本精神保健福祉士協会の認定スーパーバイザーとしての活動、各種セルフヘルプグループへの支援などの経験を活かした授業を行います。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H040S317		ソーシャルワークの理論と方法(専門)B (Social Work Theory and Method (Advanced) B)					精神保健福祉系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択	2	3	福祉健康科学部	後期	他	日本語			単独							
担当教員	氏名 梶原 浩介															
	E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120															
授業の概要	精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割を理解する。 精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開を理解する。 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を理解する。 精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解し、説明できる。															
目標2	精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を学び具体的に支援方法を説明できる。															
目標3	精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解し、説明できる。															
目標4	精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開を理解し、説明できる。															
目標5	個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえケースを検討できる。															
目標6	精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解し、説明できる。															
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							2	2	2	4						
授業の内容																
1	多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)の意義と目的・連携に関わる概念整理															
2	多職種連携・多機関連携の留意点・当事者中心、当事者参加の原則・目標の共有															
3	チームビルディングとチームの形態・特徴															
4	多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)における精神保健福祉士の役割の実際(事例分析)															
5	組織と精神保健福祉士の関係性															
6	組織介入・組織改善の実践モデル															
7	組織運営管理の実際															
8	精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義															
9	地域における精神保健福祉の向上															
10	個別支援から地域における基本的視点															
11	個別支援から地域における体制整備															
12	政策提言・政策展開															
13	精神障害者の地域移行・地域定着に関わる展開(事例分析)															
14	関連分野における精神保健福祉士の実践展開(学校・教育分野、産業分野)															
15	関連分野における精神保健福祉士の実践展開(司法分野、その他)															
ラーニング ユニット グループ	A:知識の定着・確認	グループに分かれて調べ学習、発表を実施				工 夫 の 他 の										
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	教科書の該当箇所を熟読し、事前に課題を整理し明確にしておく(10h)														
	事後学修	講義で解説した教科書該当箇所を再考し、講義内で紹介した文献や資料等で理解を含め、学修した内容を定着させる(10h)														
	想定時間合計															
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)』中央法規出版、2021年、ISBN9784805882573。ただし、最新版が刊行されている場合は、最新版を購入すること。															
参考書	資料配布及び講義内で説明する															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	グループ学習及び発表を含む総合評価	60%										
	課題レポート	40%										
	合計100点中60点以上が合格（ただし出席3分の2以上が条件）											
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須条件である。											
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	精神科医療機関、教育機関、行政機関等での精神保健福祉業務に従事。											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H040S318	精神障害リハビリテーション論 (Mental Disorder Rehabilitation Theory)					精神保健福祉系	オンライン(同時双方向型)						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	3	福祉健康科学部	前期	他	日本語		単独					
担当教員	氏名 今村 浩司 E-mail imamura_k@seinan-jp.ac.jp 内線												
授業の概要	精神障害リハビリテーションの概念を学ぶ。 精神障害リハビリテーションのプロセス及び精神保健福祉士の役割について学ぶ。 精神障害リハビリテーションのプログラムの知識、実施機関、援助実践を学ぶ。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	精神障害リハビリテーションの概念を理解し、説明できる。												
目標2	精神障害リハビリテーションのプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、説明できる。												
目標3	精神障害リハビリテーションのプログラムの知識、実施機関を理解し、説明できると同時に援助場面で活用できる。												
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							2	2	3	3			
授業の内容													
1	精神障害リハビリテーションの理念と定義												
2	医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション												
3	精神障害リハビリテーションの基本原則												
4	精神障害リハビリテーションとソーシャルワークとの関係												
5	地域及びリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義												
6	精神障害リハビリテーションの対象、チームアプローチ、精神障害リハビリテーションのプロセス												
7	精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割												
8	医学的リハビリテーションプログラム												
9	職業的リハビリテーションプログラム												
10	社会的リハビリテーションプログラム												
11	教育的リハビリテーションプログラム												
12	家族支援プログラム												
13	精神障害リハビリテーションの動向と実際												
14	精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション												
15	依存症のリハビリテーション												
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認	グループに分かれて調べ学習、発表を実施				工	そ	他					
	B:意見の表現・交換					夫							
	C:応用志向					の							
	D:知識の活用・創造												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	教科書の該当箇所を熟読し、事前に課題を整理し明確にしておく(25h)											
	事後学修	講義で解説した教科書該当箇所を再考し、講義内で紹介した文献や資料等で理解を含め、学修した内容を定着させる(20h)											
	想定時間合計	45											
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新精神保健福祉士養成講座 精神障害リハビリテーション論』中央法規出版、2021年、ISBN9784805882542。ただし、最新版が刊行されている場合は、最新版を購入すること。												
参考書	資料配布及び講義内で説明する												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	グループ学習及び発表を含む総合評価	60%										
	課題レポート	40%										
	合計100点中60点以上が合格（ただし出席3分の2以上が条件）											
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須条件である。											
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	精人理事10年等											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H040S222		精神保健福祉制度論 (Social Welfare System for Person with a Mental Disorder)					精神保健福祉系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	3	福祉健康科学部	前期	水1	日本語			単独						
担当教員	氏名 橋本美枝子 E-mail hmieko@oita-u.ac.jp 内線 7604														
授業の概要	精神保健福祉に関する法制度の体系を理解した上で、精神保健福祉法、医療観察法、生活支援に関する制度、生活保護制度や生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度等の制度の概要と課題、精神保健福祉士の役割について学ぶとともに、法制度の限界と課題について考える。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 精神障害者に関する法制度の体系について説明できる。															
目標2 生活支援に関する制度、生活保護や生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題について説明できる。															
目標3 制度を活用する上での精神保健福祉士の役割について説明できる。															
目標4 障害者に関する法制度を適切に活用し、法制度の限界と課題について考えることができる。															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									10						
授業の内容															
1 精神障害者に関する制度・施策の体系															
2 精神保健福祉法における入院形態・入院の方法と精神保健福祉士の役割															
3 精神保健福祉法における人権擁護と精神保健福祉士の役割															
4 医療観察法の概要と審判・処遇の流れ及び精神保健福祉士の役割(精神保健参与員の役割を含む)															
5 医療観察法の処遇内容と精神保健福祉士の役割															
6 医療観察法の処遇内容と社会復帰調整官の役割															
7 精神障害者の医療に関する課題															
8 相談支援制度の概要と相談支援制度における精神保健福祉士の役割															
9 居住支援制度の概要と居住支援における精神保健福祉士の役割															
10 就労支援制度の概要と就労支援における精神保健福祉士の役割															
11 精神障害者の生活支援制度に関する課題															
12 生活保護の概要と生活保護制度における精神保健福祉士の役割															
13 生活困窮者自立支援制度の概要と生活困窮者自立支援制度における精神保健福祉士の役割															
14 低所得者対策と精神保健福祉士の役割															
15 精神障害者の経済的支援制度に関する課題															
ラーニングチェックシート	A:知識の定着・確認		正確な知識が定着しているか確認するために、毎回、学生に意見や説明を求める。					工		なし					
	B:意見の表現・交換							夫							
	C:応用志向							の							
	D:知識の活用・創造							の							
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		制度・サービスについて理解を深めるために、教科書の内容をノートに整理すること(30h)。												
	事後学修		学んだ制度・サービスに関する知識を定着させるために、講義ノートを整理するとともに、暗記すること(15h)。												
	想定時間合計		45												
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟=編集『第2版 精神保健福祉制度論』中央法規出版,2021年 ISBN:978-4-8243-0158-1														
参考書	資料を配布する														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験	70%										
	授業中の発言内容や参加姿勢等	30%										
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須要件である。											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務経験	ソーシャルワーカー（アルコール依存の回復支援施設、精神障害者のグループホーム、アルコール依存症家族グループ）											
実務経験を いかした教 育内容	精神障害者が利用できる福祉制度・サービスについて、事例を用いて具体的に理解できるよう実践的学習を行う。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H040S411		ソーシャルワーク演習(専門)A (Practice on Mental Health Social Work(advanced)A)					精神保健福祉系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	3	福祉健康科学部	後期	水1	日本語			複数(共同)						
担当教員	氏名 森崎 大輔・杉山 新悟・佐藤 亮介・首藤 和彦														
	E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120														
授業の概要	本講義はソーシャルワーカーである精神保健福祉士の専門性の基礎(知識,技術,価値)を獲得することにある。講義で学習した理論や知識をもとに、思考し行動できるソーシャルワーカーとしての実践能力を習得することを学習目標としている。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	精神保健の課題のある人の状況,困難,希望を的確に聞き,環境を含め理解し,ソーシャルワークを展開する専門性の基礎を獲得														
目標2	精神保健の課題のある人のための諸制度,サービスについて,その概念と利用要件や手続きを知り,援助に活用できるようにする。														
目標3	精神保健の課題をもつ人の支援で関係機関と連携し,調整役を担える力を養う。(詳細は備考欄記載)														
目標4	精神保健の課題ある人の環境を見渡し,共生社会実現へ向け制度や住民にはたらきかける力を養う(詳細は備考欄記載)														
目標5	精神保健福祉士として考え,行動するための基盤を獲得し,職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。														
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)								10							
授業の内容															
1	精神保健福祉士の演習の意義と目的・ソーシャルワークの課題を通じた演習														
2	家族からの精神科受診相談とインテーク面接														
3	医療保護入院における受診・受療支援														
4	精神科デイ・ケアにおける多機関連携による地域生活支援														
5	精神科クリニックにおけるアルコール依存症者の回復に向けた支援														
6	グループを活用した心理教育プログラムによる家族支援														
7	DPATの受け入れによる被災地の精神科の受援活動														
8	相談支援事業所における危機介入からの就労支援														
9	就労移行支援事業所における措置入院からの就労支援														
10	相談支援事業所におけるピアサポーターの養成と活動支援														
11	社会福祉協議会における精神保健福祉ボランティアの養成と普及啓発														
12	訪問型の生活訓練事業を活用したひきこもりの若者支援														
13	地域包括支援センターにおける多機関連携による認知症高齢者への危機														
14	精神科病院からの地域移行支援と福祉サービスの利用支援														
15	保健所における自殺予防のための電話相談と普及啓発														
ラーニング チェック シート グループ	A:知識の定着・確認	毎回、事例に関する質疑応答や意見表明を求める。また、ロールプレイ等を用いた体験的な学習を行う。				工	その 他 の	なし							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	テキストおよび事例を読み込んだ上で、授業に臨む。その際、わからないことを調べるとともに、事例についてはジェノグラム・エコマップ・タイムラインなどを作成し、事例の概要を整理しておくこと(30h)。													
	事後学修	演習で学んだ内容をノートに整理する(15h)。													
	想定時間合計	45													
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 = 編集『最新 精神保健福祉士養成講座7ソーシャルワーク演習[精神専門]』中央法規,2021年 ISBN:9784805882580														
参考書	資料を配布する														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		授業中の発言内容や参加姿勢等	100%									
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須要件である。											
備考	目標 精神保健の課題のある人のための関係機関、職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携するコーディネート役を担えるようになる 目標 精神保健の課題のある人の環境、社会を見渡し、差別、偏見を除去し共生社会を実現する活動を認識し、政策、制度、行政、住民に作用する方法をイメージする											
リンク	URL											
担当教員の実務経験の有無												
教員の実務経験	森崎(精神保健福祉士,社会福祉士)杉山(社会福祉士,精神保健福祉士)佐藤(精神保健福祉士,社会福祉士)首藤(精神保健福祉士,社会福祉士)											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式				
H040S422		ソーシャルワーク演習(専門)B (Practice on Mental Health Social Work(advanced)B)					精神保健福祉系	対面				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態				
選択	2	3	福祉健康科学部	後期	水2	日本語		複数(共同)				
担当教員	氏名 森崎 大輔・杉山 新悟・佐藤 亮介・首藤 和彦 E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120											
授業の概要	本講義はソーシャルワーカーである精神保健福祉士の専門性の基礎(知識,技術,価値)を獲得することにある。講義で学習した理論や知識をもとに、思考し行動できるソーシャルワーカーとしての実践能力を習得することを学習目標としている。											
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)					
目標1	精神保健の課題のある人の状況,困難,希望を的確に聞き,環境を含め理解し,ソーシャルワークを展開する専門性の基礎を獲得					1	2	3	4	5	6	7
目標2	精神保健の課題のある人のための諸制度,サービスについて,その概念と利用要件や手続きを知り,援助に活用できるようにする。											
目標3	精神保健の課題をもつ人の支援で関係機関と連携し,調整役を担える力を養う。(詳細は備考欄記載)											
目標4	精神保健の課題ある人の環境を見渡し,共生社会実現へ向け制度や住民にはたらきかける力を養う(詳細は備考欄記載)											
目標5	精神保健福祉士として考え,行動するための基盤を獲得し,職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。											
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)							10					
授業の内容												
1	保健所における家族に対するかわりと受診・受療に向けた支援											
2	精神医療審査会における退院請求への対応											
3	心のケアセンターにおける被災者支援とコミュニティの再生に向けた働きかけ											
4	市町村の協議会(精神の部会)における障害福祉計画の立案											
5	市町村における生活困窮者への地域生活支援											
6	基幹相談支援センターにおける障害者虐待防止法に基づく取り組み											
7	児童虐待が疑われる要援護児童とその家族への支援											
8	メンタルヘルス課題のある中学生への多職種・多機関連携による支援											
9	就業・生活支援センターにおける就労支援											
10	地域生活定着支援センターにおける触法障害者への支援											
11	更生保護施設におけるハームリダクションに基づくリカバリー支援											
12	医療観察法に基づく社会復帰調整官を中心とした多職種連携による支援											
13	EAP機関における勤労者の休職・復職支援											
14	企業における合理的配慮に基づく障害者雇用に向けた支援											
15	CSWEのコンピテンシー、「精神保健福祉士のキャリアラダー」に基づく実践力の獲得											
ラーニング コンピ テ ン シー グ ラ フ	A:知識の定着・確認	毎回、事例に関する質疑応答や意見表明を求める。また、ロールプレイ等を用いた体験的な学習を行う。					工 夫 の 他 の	なし				
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	テキストおよび事例を読み込んだ上で、授業に臨む。その際、わからないことを調べるとともに、事例についてはジェノグラム・エコマップ・タイムラインなどを作成し、事例の概要を整理しておくこと(30h)。										
	事後学修	演習で学んだ内容をノートに整理する(15h)。										
	想定時間合計	45										
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 = 編集『最新 精神保健福祉士養成講座7ソーシャルワーク演習[精神専門]』中央法規,2021年 ISBN:9784805882580											
参考書	資料を配布する											

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		課題への取り組み	60%									
	授業中の発言内容や参加姿勢等	40%										
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須要件である。											
備考	目標 精神保健の課題のある人のための関係機関、職種役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携するコーディネート役を担えるようになる 目標 精神保健の課題のある人の環境、社会を見渡し、差別、偏見を除去し共生社会を実現する活動を認識し、政策、制度、行政、住民に作用する方法をイメージする											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の有無												
教員の 実務経験	森崎(精神保健福祉士,社会福祉士)杉山(社会福祉士,精神保健福祉士)佐藤(精神保健福祉士,社会福祉士)首藤(精神保健福祉士,社会福祉士)											
実務経験を いかした 教育内容	精神障害者およびメンタルヘルスの課題をもつクライアントの生活課題を分析し、援助計画を立てたり、面接やグループ援助スキル等が獲得できるよう実践的な指導をする。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H040S423		ソーシャルワーク演習(専門)C (Practice on Mental Health Social Work(advanced)C)					精神保健福祉系	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択	2	4	福祉健康科学部	後期	月3	日本語		複数(共同)						
担当教員	氏名 森崎 大輔・杉山 新悟・佐藤 亮介 E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120													
授業の概要	精神保健福祉援助実習で行った事例研究を集団で検討することを通して、自らの実践を内省するとともに他者の経験や考えから学ぶことで、精神保健福祉士に必要な援助技術・知識・価値の統合をはかる。そのために、精神保健福祉援助実習で行った事例研究を集団で検討する。その際、質疑応答や意見表明のみならず、ロールプレイ等を用いた体験的な学習を行う。													
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1 事例を多面的にとらえなおすことができる														
目標2 自身の知識や価値、事象に対する認知や行動の傾向等を自覚することができる														
目標3 アセスメント・援助計画・評価の方法等を理解し、実践できる														
目標4 ロールプレイ等の体験的学習を通して、具体的な援助技術が実践できる														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)							6	4						
授業の内容														
1 事例研究の意義と方法														
2 事例検討による実習体験の一般化：ハーバード方式による事例検討(1)														
3 事例検討による実習体験の一般化：ハーバード方式による事例検討(2)														
4 事例検討による実習体験の一般化：ハーバード方式による事例検討(3)														
5 事例検討による実習体験の一般化：ハーバード方式による事例検討(4)														
6 事例検討による実習体験の一般化：ハーバード方式による事例検討(5)														
7 事例検討による実習体験の一般化：ハーバード方式による事例検討(6)														
8 プロセスレコードを用いた事例検討の方法														
9 事例検討による実習体験の一般化：プロセスレコードを用いた事例検討(1)														
10 事例検討による実習体験の一般化：プロセスレコードを用いた事例検討(2)														
11 事例検討による実習体験の一般化：プロセスレコードを用いた事例検討(3)														
12 事例検討による実習体験の一般化：プロセスレコードを用いた事例検討(4)														
13 事例検討による実習体験の一般化：プロセスレコードを用いた事例検討(5)														
14 事例検討による実習体験の一般化：プロセスレコードを用いた事例検討(6)														
15 まとめ														
ラーニング	A:知識の定着・確認	精神保健福祉援助実習で行った事例研究を集団で検討する。その際、質疑応答や意見表明のみならず、ロールプレイ等を用いた体験的な学習を行う					工夫	なし						
	B:意見の表現・交換													
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	事前に配布された事例を読み込み、わからないことを調べる(15h)。さらに、質問内容・自分ならどうするかを考える(15h)。												
	事後学修	演習で学んだ内容についてノートに整理する(15h)												
	想定時間合計	45												
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟=編集『最新 精神保健福祉士養成講座7ソーシャルワーク演習[精神専門]』中央法規,2021年 ISBN:9784805882580													
参考書	資料を配布する													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		事例のレポート	50%									
	発言やロールプレイ等への取り組み姿勢	50%										
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須要件である											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	森崎(精神保健福祉士, 社会福祉士)杉山(社会福祉士, 精神保健福祉士)佐藤(精神保健福祉士, 社会福祉士)											
実務経験を いかした教 育内容	精神障害者およびメンタルヘルスの課題をもつクライアントの生活課題を分析し、援助計画を立てたり、面接やグループ援助スキル等が獲得できるよう実践的な指導をする。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式
H040S511		ソーシャルワーク実習指導 A (Leading of Mental Health Social Work Practicum A)					精神保健福祉系	対面
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
選択	2	3	福祉健康科学部	後期	火4	日本語		単独
担当教員	氏名 橋本美枝子 E-mail hmieko@oita-u.ac.jp 内線 7604							
授業の概要	本科目では、次年度に精神科医療機関とそれ以外の2機関で実習を行うために必要な事前指導を通して、各機関の機能や求められる専門性を体得する。そこで、精神保健福祉援助実習と実習指導の内容と展開の説明および意義を理解し、精神保健医療福祉の現状や精神保健福祉士の職業倫理と法的責務について、講義および精神科医療機関と精神保健福祉センターの見学実習を通して学ぶ。学生の実習目標と照合した上で、実習先を選定し、実習計画書の個別・集団指導を行う。ならびに個人情報保護法の理解を含む守秘義務について指導する。							
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7
目標1 精神保健福祉援助実習指導における個別・集団指導の意義が理解できる。								
目標2 精神保健医療福祉の現状および精神保健福祉援助の専門的知識と技術、職業倫理と法的責務を理解できる。								
目標3 実習施設と地域社会を理解した上で、実習生・実習担当教員・実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画を立てられる。								
目標4								
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
各DPへの関連度(計10)							3 1 1 1	
授業の内容								
1 精神保健福祉援助実習と実習指導の内容と展開(オリエンテーション)								
2 精神保健福祉実習の意義(個別指導と集団指導の意義を含む)								
3 精神保健医療福祉の現状(利用者理解を含む)に関する基本的な理解								
4 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解								
5 見学実習(精神科医療機関)の目的・事前学習								
6 見学実習(精神科医療機関)								
7 見学実習(精神科医療機関)の振り返り								
8 見学実習(精神障害者施設)の目的・事前学習								
9 見学実習(精神障害者施設)								
10 見学実習(精神障害者施設)の振り返り								
11 実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解								
12 実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解								
13 実習計画書の作成(個別指導)								
14 実習計画書の作成(集団指導)								
15 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成								
ラーニング	A:知識の定着・確認	毎回、学生に意見や説明等を求める。施設見学の事前・事後学習を宿題として課す。実習計画は、2-3年次の実習の振り返りを基盤に立案し、発表する。施設見学の他、断酒会・AA等、自助グループに参加して当事者から体験的に学習する。				工夫	なし	
	B:意見の表現・交換					その		
	C:応用志向					他		
	D:知識の活用・創造					の		
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	精神保健福祉センター、精神科病院の設置基準、役割・機能、精神保健福祉士の業務などについて、事前学習レポートを作成する(10h)。2-3年次の相談援助実習を振り返り、自己評価し、4年次の精神保健福祉援助実習の援助計画を立てる(20h)。						
	事後学修	指導内容(見学実習を含む)についてノートを整理する(15h)。						
	想定時間合計	45						
教科書	資料を配布する							
参考書	資料を配布する							

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート	70%										
授業中の発言内容や参加姿勢等	30%											
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須要件である。											
備考	なし											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	ソーシャルワーカー（アルコール依存の回復支援施設、精神障害者のグループホーム、アルコール依存症家族グループ）											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	精神保健福祉センター（保健師、精神保健福祉士）、精神科病院（精神保健福祉士）											
実務経験を いかした教 育内容	精神保健福祉センター、精神科病院での見学実習指導において、機関の役割・機能および、各専門職の業務内容について実践的に学習する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式
H040S513		ソーシャルワーク実習指導 B (Leading of Mental Health Social Work Practicum B)					精神保健福祉系	対面
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
選択	2	4	福祉健康科学部	前期	月4	日本語		単独
担当教員	氏名 橋本美枝子 E-mail hmieko@oita-u.ac.jp 内線 7604							
授業の概要	ソーシャルワークの価値や倫理を基盤とした上で、精神障害者の生活や課題を理解し、相談援助に係る専門的知識と技術について、具体的かつ実際に理解する。実習前には、記録方法、プライバシー保護・守秘義務の理解、実習前の確認、事例研究の方法等について指導を行うとともに、事前訪問指導を行う。実習終了後は、施設及び精神科医療機関実習での記録や体験を踏まえた省察を行う。							
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7
目標1	価値や倫理を基盤とした上で、精神障害者の生活や課題を理解できる。							
目標2	相談援助に係る専門的知識と技術について、具体的かつ実際に理解できる。							
目標3	実習記録の方法について理解し、事実と考察を分けて記入できる。							
目標4	個人情報保護および守秘義務について理解できる。							
目標5	事例研究のためのケースサマリーの意義・まとめ方が理解できる。							
目標6	実習終了後に記録をもとに精神保健福祉士の専門性、クライアントの生活課題を省察できる。							
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
各DPへの関連度(計10)							6 1 1 2	
授業の内容								
1	「実習記録ノート」の記録内容							
2	「実習記録ノート」の記録方法							
3	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解							
4	実習における個人情報保護法の理解							
5	実習前の確認事項(事前訪問前の指導)1							
6	実習前の確認事項(事前訪問前の指導)2							
7	事前訪問で実習指導者指示された事前学習等に関する指導							
8	事例研究の意義と方法							
9	ケースサマリーのまとめ方							
10	プロセスレコードのまとめ方							
11	精神科医療機関実習での記録や体験を踏まえた省察(クライアントの理解を中心に)							
12	精神科医療機関実習での記録や体験を踏まえた省察(精神保健福祉士の業務理解を中心に)							
13	実習での記録や体験を踏まえた省察(クライアントの理解を中心に)							
14	施設実習での記録や体験を踏まえた省察(精神保健福祉士の業務理解を中心に)							
15	施設及び精神科医療機関実習での記録や体験を踏まえた総合的評価(集団指導)							
ラーニング	A:知識の定着・確認	毎回、知識が定着しているかを確認するために質問をする。また、実習前および実習後にはグループディスカッションによって、意見表明・交換を行う。					工夫	なし
	B:意見の表現・交換						その	
	C:応用志向						他の	
	D:知識の活用・創造						の	
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	あらかじめ配布する資料に必ず目を通し、要点を整理しておく(6h)。実習後は、実習記録から精神保健福祉士の専門性、クライアントの生活課題等について、何を学んだのが具体的に整理してから指導に臨むこと(24h)						
	事後学修	実習指導内容をノートに整理する(15h)。						
	想定時間合計	45						
教科書	資料を配布する							
参考書	資料を配布する							

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート等提出物	50%										
	実習指導への参加姿勢	50%										
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須要件である。											
備考	なし											
リンク	URL											
担当教員の実務経験の有無												
教員の実務経験	ソーシャルワーカー（アルコール依存の回復支援施設、精神障害者のグループホーム、アルコール依存症家族グループ）											
実務経験をいかした教育内容	事前指導では、実習現場を想定した指導を行う。クライアントの生活課題を理解するために、実践現場で用いていたケースサマリーのフォーマットを用いて指導する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H040S514		ソーシャルワーク実習指導C (Leading of Mental Health Social Work Practicum C)					精神保健福祉系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	4	福祉健康科学部	後期	月4	日本語			単独						
担当教員	氏名 橋本美枝子														
	E-mail hmieko@oita-u.ac.jp 内線 7604														
授業の概要	本科目では、精神科医療機関と精神科医療機関以外の2機関での実習の事後指導を行う。事後指導の内容は、実習中に行った事例研究を用いた事例の発表とディスカッションを通して、利用者・環境・精神保健福祉士の専門性の深化を図る。実習報告会に向けての発表準備(実習報告会での発表資料の作成および個別指導)、実習報告書の作成(個別指導)、実習成果の検証を通じた、実習評価(個別指導・集団指導)、実習および実習指導を通じた学生自身の学習成果・成長の評価(集団指導)である。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 実習記録や実習体験を踏まえた自己課題を整理できる。															
目標2 実習記録や実習体験を踏まえた自己課題を言語化できる。															
目標3 実習での学び・考えたことを実習総括レポートとして文章化できる。															
目標4 実習総括レポートの内容を実習報告会で口頭発表できる。															
目標5 実習報告会での質疑応答に適切に回答できる。															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
							各DPへの関連度(計10)		5		5				
授業の内容															
1 事後学習の目的と意義															
2 実習記録や実習体験をふまえた課題達成状況の評価(1)															
3 実習記録や実習体験をふまえた課題達成状況の評価(2)															
4 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理(1)															
5 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理(2)															
6 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書(実習総括レポート)の作成指導(1)															
7 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書(実習総括レポート)の作成指導(2)															
8 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書(実習総括レポート)の作成指導(3)															
9 実習の評価全体総括会(実習報告会)の発表資料の作成指導(1)															
10 実習の評価全体総括会(実習報告会)の発表資料の作成指導(2)															
11 実習の評価全体総括会(実習報告会)の発表資料の作成指導(3)															
12 実習報告会による全体的評価の総括 実習報告会(実習の評価全体総括会)での発表															
13 実習報告会による全体的評価の総括 実習報告会(実習の評価全体総括会)での発表															
14 実習報告会での発表の振り返り(評価・総括)															
15 実習指導過程全体を振り返り(評価・総括)															
ラ イ ク ニ テ イ グ ブ	A:知識の定着・確認		実習記録や実習体験を踏まえた自己課題を整理し、文章および口頭で表			工 夫 そ の 他 の	なし								
	B:意見の表現・交換		現し、実習生同士で意見交換をする。												
	C:応用志向		実習での学び・考えたことを実習総括レポートとしてまとめる。また、												
	D:知識の活用・創造		実習報告会で発表する。												
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		実習総括レポートの作成(20h)、実習報告会の資料作成・発表準備(10h)												
	事後学修		実習指導の内容をノートに整理する(15h)												
	想定時間合計		45												
教科書		資料を配布する													
参考書		資料を配布する													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	実習報告書	40%										
	課題レポート	30%										
	実習指導への参加姿勢	30%										
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須要件である。											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	ソーシャルワーカー（アルコール依存の回復支援施設、精神障害者のグループホーム、アルコール依存症家族グループ）											
実務経験を いかした教 育内容	精神障害当事者および家族のニーズや、地域、精神科医療機関および障害福祉サービス事業所など、精神障害者の保健医療福祉に携わる機関の実情を踏まえ、今後精神保健福祉士として働くために必要な知識・スキルを意識した指導を行う。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H040S512		ソーシャルワーク実習 (Mental Health Social Work Practicum)					精神保健福祉系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態					
選択	5	4	福祉健康科学部	前期集中	他	日本語				単独					
担当教員	氏名 橋本美枝子														
	E-mail hmieko@oita-u.ac.jp 内線 7604														
授業の概要	精神科医療機関と精神科医療機関以外の2機関で実習を行う。実習中は、毎週実習を振り返り、直面した課題に効果的に取り組めるように、帰校による個別指導（実習日誌への指導・個別相談）と集団指導（実習の振り返りとSSTなどロールプレイをもちいた課題解決）を行う。また実習機関での巡回指導では、実習生への指導とともに、実習指導者と実習指導に関する協議等を行う。各機関の実習終了後には直ちに実習のまとめを行う（個別指導）。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助について理解できる															
目標2 退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助について理解できる															
目標3 多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助について理解できる															
目標4 利用者や関係者等とコミュニケーションをとることができる															
目標5 利用者やその関係者との支援関係を形成することができる															
目標6 精神保健福祉士の倫理に基づいた行動をとることができる															
目標7 簡潔明瞭に実習日誌を記述することができる															
目標8 実習目標を意識して実習に取り組むことができる															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									4	2	2	2			
授業の内容															
1 精神科医療機関(12日)と精神科医療機関以外(7日)の2機関で実習を行い、それぞれの機関の機能や求められる専門性を体得する															
2 精神科病院(12日)では、以下について指導を受ける															
3 入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助															
4 退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助															
5 多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助															
6 精神科医療機関・精神科医療機関以外の施設(7日)2機関共通で、以下について指導を受ける															
7 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成															
8 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成															
9 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との支援関係の形成															
10 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワーメントを含む)とその評価															
11 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践															
12 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解															
13 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解															
14 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実践															
15 実習先が地域社会の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と地域社会へのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解															
ラーニング	A:知識の定着・確認	毎週実習を振り返り、直面した課題に効果的に取り組めるように、帰校による個別指導(実習日誌への指導・個別相談)と集団指導(実習の振り返りとSSTなどロールプレイをもちいた課題解決)を行う					工夫	なし							
	B:意見の表現・交換						その他								
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	事前学習を行う(1時間/日)													
	事後学修	実習終了後、その日のうちに実習日誌を記述する(1時間/日) 実習中にわからなかったことを調べる(1時間/日)													
	想定時間合計	45													
教科書	資料を配布する														
参考書	資料を配布する														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	実習指導者の評価	40%										
	実習日誌	30%										
	実習指導への参加姿勢	30%										
注意事項	精神保健福祉士国家試験の受験資格を得るためには、単位取得が必須要件である											
備考	【地域創生教育科目】											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	ソーシャルワーカー（アルコール依存の回復支援施設、精神障害者のグループホーム、アルコール依存症家族グループ）											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	精神保健福祉士											
実務経験を いかした教 育内容	実習機関の実習指導者は、面接場面やグループワーク、利用者宅への訪問、関係機関との連携等、精神保健福祉士として必要な実務に学生を同席させる等、実践的な指導を行う											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
H030S601	卒業研究指導 (Graduation Research Guidance I)					基礎研究科目	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必修	2	3	福祉健康科学部	前期	他	日本語		複数(共同)							
担当教員	氏名 社会福祉実践コース全教員 E-mail makoto-takiguchi@oita-u.ac.jp 内線 6096														
授業の概要	卒業研究への導入として、まず「科学的に実践すること」の基礎的な知見を養う。具体的には、「研究をするとはどういうことか」についての基礎的な理解、すなわち視点・対象・方法の設定の必要性について理解するとともに、福祉健康科学分野の先行研究例を参照しながら、実際に学生が自分自身の卒業研究を行っていく具体的なイメージを構築する。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7		
目標1	自己が関心を持つ事柄に関する先行研究を探ることができる。														
目標2	先行研究の内容をレジュメにまとめ、報告することができる。														
目標3	研究対象を選択する際に、視点・対象・方法の設定の必要性を説明することができる。														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)													10		
授業の内容															
1	1. 卒業研究の進め方・形式														
2	各ゼミの進め方は、初回に卒業指導教員が説明します。形式は、ゼミナール形式で実施します。														
3															
4	2. 卒業研究のスケジュール(予定)														
5	2年12月:ゼミ希望の調査、ゼミ配属の決定														
6	3年前期:ゼミの開始														
7	4年4月末:卒業論文の題目提出														
8	8月頃:卒業論文中間報告会														
9	1月末:卒業論文の提出														
10															
11															
12															
13															
14															
15															
ラック ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	卒業論文の執筆に向けて、各自が選択した研究テーマに従って、報告・					工 夫 そ の 他 の	なし。							
	B:意見の表現・交換	討論を行なうゼミナール形式を実施します。													
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	報告者は、入念な報告準備をしてください(20h)。													
	事後学修	報告にて指摘された点について、文献・インターネット等で調査してください(25h)。													
	想定時間合計	45													
教科書	各ゼミで指示します。														
参考書	各ゼミで指示します。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		報告内容、討議への参加態度などを含む研究活動の総合的評価	100%									
注意事項	なし。											
備考	なし。											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
H030S602		卒業研究指導 (Graduation Research Guidance)					基礎研究科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	2	3年	福祉健康科学部	後期集中	他	日本語		複数(共同)					
担当教員	氏名 社会福祉実践コース教員 E-mail makoto-takiguchi@oita-u.ac.jp 内線 6096												
授業の概要	卒業研究指導 を受けて、本科目では学生が取り組む具体的な研究テーマの設定を行う。具体的には、学生が関心のある領域や、実習における臨床場面での経験を踏まえて、卒業研究のテーマを絞り込み、卒業研究の枠組みを作成する。学生には自分自身の関心明確化するためのプレゼンテーションを求めるとともに、バズセッションやブレインストーミングを用いた小集団討議の方法を活用し、卒業研究の枠組みを完成させることを目指す。												
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)						
目標1	自身が関心のある領域や、実習における経験から、関係する先行研究を探し、内容をレジュメにまとめることができる。						1	2	3	4	5	6	7
目標2	研究テーマについて、自分自身の関心を明確化するためのプレゼンテーションを行うことができる。												
目標3	卒業論文で取り組む具体的な研究テーマの設定ができる。												
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)										10			
授業の内容													
1	1. 卒業研究の進め方・形式												
2	各ゼミの進め方は、初回に卒業指導教員が説明します。形式は、ゼミナール形式で実施します。												
3													
4	2. 卒業研究のスケジュール(予定)												
5	2年12月:ゼミ希望の調査、ゼミ配属の決定												
6	3年前期:ゼミの開始												
7	4年4月末:卒業論文の題目提出												
8	8月頃:卒業論文中間報告会												
9	1月末:卒業論文の提出												
10													
11													
12													
13													
14													
15													
ラック ニ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	卒業論文の執筆に向けて、各自が選択した研究テーマに従って、報告・					工 夫 そ の 他 の	なし。					
	B:意見の表現・交換	討論を行なうゼミナール形式を実施します。											
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	報告者は、入念な報告準備をしてください(20h)。											
	事後学修	報告にて指摘された点について、文献・インターネット等で調査してください(25h)。											
	想定時間合計	45											
教科書	各ゼミで指示します。												
参考書	各ゼミで指示します。												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
		報告内容、討議への参加態度などを含む研究活動の総合的評価	100%									
注意事項	なし。											
備考	なし。											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030S603		卒業研究 (Seminar for Graduate Thesis)					基礎研究科目		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	2	4年	福祉健康科学部	前期集中	他	日本語			複数(共同)						
担当教員	氏名 社会福祉実践コース教員 E-mail makoto-takiguchi@oita-u.ac.jp 内線 6096														
授業の概要	3年次の卒業研究指導を受けて、実際にテーマを明らかにするための卒業研究に着手する。具体的には、先行研究を踏まえた研究設問の設定、研究設問に答えるための調査方法の選定に基づいて、フィールドワークを用いた調査研究を実施し、実証的なデータの収集と分析を目指す。これら一連のプロセスは、各教員の十分な指導の元において行われる。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 先行研究を踏まえた研究設問の設定ができる。															
目標2 フィールドワークを用いた調査研究を実施し、実証的なデータを収集することができる。															
目標3 目標1・目標2を踏まえた、卒業論文の執筆を進めることができる。															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)												10			
授業の内容															
1	1. 卒業研究の進め方・形式														
2	各ゼミの進め方は、初回到卒業指導教員が説明します。形式は、ゼミナール形式で実施します。														
3															
4	2. 卒業研究のスケジュール(予定)														
5	2年12月:ゼミ希望の調査、ゼミ配属の決定														
6	3年前期:ゼミの開始														
7	4年4月末:卒業論文の題目提出														
8	8月頃:卒業論文中間報告会														
9	1月末:卒業論文の提出														
10															
11															
12															
13															
14															
15															
ラック ニ ン グ	A:知識の定着・確認	各自が選択した研究テーマに従って、報告・討論を行なうゼミナール形式を実施します。				工 夫 そ の 他 の	なし。								
	B:意見の表現・交換	また、卒業論文の執筆を進めてもらいます。													
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	報告者は、入念な報告準備をしてください(15h)。													
	事後学修	報告にて指摘された点について、文献・インターネット等で調査してください(15h)。 また、報告内容をもとに、卒業論文の執筆を進めてください(15h)。													
	想定時間合計	45													
教科書	各ゼミで指示します。														
参考書	各ゼミで指示します。														

成績 評価 の 方法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	報告内容	50%										
	討議への参加態度を含む研究活動の総合的評価	50%										
注意事項	なし。											
備考	なし。											
リンク												
	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
H030S604	卒業研究 (Seminar for Graduate Thesis)					基礎研究科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態				
必修	2	4年	福祉健康科学部	後期集中	他	日本語		複数(共同)				
担当教員	氏名 社会福祉実践コース教員 E-mail makoto-takiguchi@oita-u.ac.jp 内線 6096											
授業の概要	ここまでの卒業研究への準備段階を経て、卒業研究 では卒業研究論文の完成を目指す。研究の関心の明確化、研究テーマの設定、先行研究の調査、仮説の構築、仮説の実証、実証結果の考察といった一連の研究プロセスに則った卒業研究論文を作成することで、科学的に実践することを可能にする論理的な思考能力の涵養を目指す。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1	各自が選択した研究テーマに従い、研究プロセスに則った卒業論文を完成することができる。											
目標2												
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)									10			
授業の内容												
1	1. 卒業研究の進め方・形式											
2	各ゼミの進め方は、初回到卒業指導教員が説明します。形式は、ゼミナール形式で実施します。											
3												
4	2. 卒業研究のスケジュール(予定)											
5	2年12月:ゼミ希望の調査、ゼミ配属の決定											
6	3年前期:ゼミの開始											
7	4年4月末:卒業論文の題目提出											
8	8月頃:卒業論文中間報告会											
9	1月末:卒業論文の提出											
10												
11												
12												
13												
14												
15												
ラーニング	A:知識の定着・確認	卒業論文の執筆を進めながら、卒業論文を完成させていただきます。					工夫	なし。				
	B:意見の表現・交換						その					
	C:応用志向						他					
	D:知識の活用・創造						の					
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	卒業論文の執筆を進めてください(20h)。										
	事後学修	卒業論文の修正し、執筆を進めてください(25h)。										
	想定時間合計	45										
教科書	各ゼミで指示します。											
参考書	各ゼミで指示します。											

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		報告内容・討議への参加を含む研究活動の総合的評価	100%									
注意事項	なし。											
備考	なし。											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030S605		卒業論文 (Graduation Thesis)					基礎研究科目		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
必修	4	4	福祉健康科学部	後期	他	日本語			複数(共同)							
担当教員	氏名 社会福祉実践コース教員 E-mail makoto-takiguchi@oita-u.ac.jp 内線 6096															
授業の概要	本科目は卒業研究指導 ・ 、卒業研究 ・ (直接的には卒業研究)と連動している。卒業論文指導教員の指導を受けて、卒業論文を作成する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	各自が選択した研究テーマに従い、研究プロセスに則った論文を作成できる															
目標2																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)											10					
授業の内容																
1	卒業研究 参照。卒業論文指導教員によって異なる。															
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
ラーニング	A:知識の定着・確認	みずから選んだテーマを探求し、4年間に学んだ知識を活用し、必要に応じ政策や実践における応用も視野に入れて、論文を作成する。				工夫	その他の									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	卒業研究 参照														
	事後学修	卒業研究 参照														
	想定時間合計	45														
教科書	使用しない。															
参考書	指定しない。															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	卒業論文	100%										
注意事項												
備考												
リンク												
	URL											

コース専門科目
(心理学コース)

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030P103		心理学統計法 (Psychological Statistics)					心理学基礎系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	1年	福祉健康科学部	後期	木1	日本語			単独						
担当教員	氏名 中里 直樹 E-mail nakazato-naoki@oita-u.ac.jp 内線 7530														
授業の概要	心理・福祉に関する身近な事象を統計的に処理する方法(基礎統計量, 標本理論, 相関係数, 2検定, t検定, 分散分析など)を体系的に学習し, 心理専門職としての基礎的知識・技能を習得する。また, PCによる基本的な分析の実施を学ぶ。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 基本的な統計理論(データの性質, 統計的仮説検定など)について説明できる。															
目標2 基本的な統計分析(t検定, 相関分析など)について理解し, 説明できる。															
目標3 統計学的な視点から心理事象を見つめ, 心理統計の意義を説明できる。															
目標4 PCによる基礎的な分析が実施できる。															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									7		1	2			
授業の内容															
1 心理学統計法概論															
2 データの性質(1): 名義・順序尺度															
3 データの性質(2): 間隔・比率尺度															
4 度数分布と統計図表															
5 代表値と散布度															
6 正規分布および様々な分布															
7 標準正規分布															
8 標本理論(1): 推測統計															
9 中間試験, 標本理論(2): 標準誤差															
10 統計的仮説検定の手続き															
11 平均値の差の検定(1): 対応のない/対応のあるt検定															
12 相関とその検定(1): 共分散															
13 相関とその検定(2): 相関係数と無相関検定															
14 比率の差の検定: 2検定															
15 平均値の差の検定(2): 分散分析															
ラーニング	A:知識の定着・確認	ライティング課題や中間テスト, グループ・ディスカッション, PC実習を活用して, 学生の動機づけを高め, 深い学びに導く。ライティングでの質問に対しては, 次回の授業時に返答する。				工夫	その他の								
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	配布資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(15h)													
	事後学修	授業で学習したことを配布資料や参考文献も用いて復習し, ライティング課題に取り組む(15h)。中間試験及び最終レポートに向けての学習(15h)。													
	想定時間合計	45													
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 「Excelで今すぐはじめる心理統計: 簡単ツールHADで基本を身につける 第二版」小宮あすか, 布井雅人著 (2024). 講談社 ISBN978-4065371800 適宜, プリント資料を配布する。 														
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 「心理・教育のための統計法 第3版」山内光哉著 (2009) サイエンス社 ISBN978-4781912356 「よくわかる心理統計」山田剛史, 村井潤一郎著 (2004) ミネルヴァ書房 ISBN978-4623039999 Discovering statistics using IBM SPSS Statistics (6th ed.) Field, A. P. (2024) London: SAGE. ISBN978-1529630008 														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	授業への積極的参加（ライティング課題の記述内容や質問など）	30%										
	中間試験	30%										
	最終レポート	40%										
	授業回数の3分の1を超えて欠席した場合，最終レポートを受取しない。											
注意事項	「心理学研究法 Ⅰ/心理学研究法」を履修する前に受講することが望ましい。											
備考	令和2年度（2020年度）以降入学生に対しては選択科目											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式
H030P101		心理学実験 (Psychological Experiments)					心理学基礎系	対面
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
選択	2	1	福祉健康科学部	後期	火3	日本語	英語	単独
担当教員	氏名 村上 裕樹 E-mail murakami-hiroki@oita-u.ac.jp 内線 6106							
授業の概要	心理学で行われる実験、調査、検査方法の基礎を体験的に学ぶことで、こころのメカニズムについて研究する方法・技術(実験の計画立案や統計の基礎知識を含む)を習得する。さらに、実験によって得られた結果について、科学的報告書の形式に従ったレポートにまとめる方法について学ぶことを目的とする。							
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7
目標1	心理学の実験、調査、検査を体験的に学ぶことで、こころのメカニズムについて研究する方法・技術の基礎を習得できる。							
目標2	科学的報告書の形式で、実験の方法・結果を記述することができる。							
目標3	実験結果について考察することができる。							
目標4								
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
各DPへの関連度(計10)							10	
授業の内容								
1	オリエンテーション							
2	錯視：ミュラー・リェル 実験の実施							
3	錯視：ミュラー・リェル データ解析							
4	記憶：系列位置効果 実験の実施							
5	記憶：系列位置効果 データ解析							
6	学習：鏡像描写							
7	イメージ：心的回転							
8	認知的葛藤：ストループ効果							
9	知能テスト(集団式)							
10	感情の測定							
11	質問紙法							
12	尺度構成法：一対比較法							
13	生理指標							
14	社会的促進 実験の実施							
15	社会的促進 データ解析							
ラーニング	A:知識の定着・確認	各実験の実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)として参加体験することで理解を深める。				工 夫 そ の 他 の		
	B:意見の表現・交換	実験で得られたデータをまとめ、それを元に考察する。さらに研究を						
	C:応用志向	展させるためのアイデアを提案し、レポートにまとめる。						
	D:知識の活用・創造							
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(7.5h)。						
	事後学修	授業で得られたデータをまとめ、それを元に考察する。さらに、研究を展させるためのアイデアを提案する(37.5h)。						
	想定時間合計	45						
教科書	宮谷真人・坂田省吾(代表編集)(2009). 心理学基礎実習マニュアル, 北大路書房, ISBN: 978-4762826658							
参考書	森敏昭・吉田寿夫(編著)(1990). 心理学のためのデータ解析テクニカルブック, 北大路書房, ISBN: 9784762851070							

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		授業への取り組み	50%									
	レポート	50%										
注意事項	私語厳禁。 心理学実験に必要な基本的なルールを学ぶことができますので、卒業研究で心理学実験を実施する可能性のある人は必ず受講してください。											
備考	公認心理師指定科目。 「認定心理士」資格では、「基礎科目c」（心理学実験実習）に区分される科目である。											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	公認心理師											
実務経験を いかした教 育内容	専門性や実務経験を生かして、研究や研究知見を応用することの重要性について説明する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030P102		心理学研究法 (Psychological Research Methods)					心理学基礎系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択	2	3年	福祉健康科学部	前期	金2	日本語			単独							
担当教員	氏名 中里 直樹 E-mail nakazato-naoki@oita-u.ac.jp 内線 7530															
授業の概要	心理学的な問題意識を起点として、それを研究としての「問題・目的」の設定に向けてどのように論理構成するか、それにふさわしいデータ収集法・分析法は何か、といった心理学研究の方法論全般について体系的に学習し、心理学の基礎的知識・技能を習得する。授業の過程では、尺度構成法、PCによるデータ処理法なども取り入れる。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	心理学的な問題意識を研究ベースに高め、何らかの研究課題を提案できる。															
目標2	研究目的にふさわしいデータ収集法および統計解析方法を選択できる。															
目標3	調査票を構成し、データ収集ができる。															
目標4	コンピュータによる統計解析ができる。															
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							6		3	1						
授業の内容																
1	心理学研究法概論															
2	実験的研究と相関的研究															
3	相関関係と因果関係、相関分析と回帰分析															
4	実験的研究(1): 実験法の特徴と利点															
5	実験的研究(2): 実験計画法と分散分析															
6	相関的研究(1): 調査法の特徴と利点															
7	相関的研究(2): 調査項目と回答方法															
8	測定と数量化(1): 尺度構成法															
9	測定と数量化(2): 尺度の妥当性・信頼性															
10	測定と数量化(3): 調査票の構成															
11	PCによる統計解析(1): 因子分析および項目分析															
12	PCによる統計解析(2): 重回帰分析															
13	PCによる統計解析(3): 重回帰分析の発展形															
14	研究課題と仮説の設定、質的研究															
15	研究課題と研究倫理															
ラーニング	A:知識の定着・確認	毎回のライティング課題やディスカッション、PCによる統計解析の実習を活用して、学生の動機づけを高め、深い学びに導く。また、グループで調査票を作成した上で、データ収集から統計解析までを行ってもら				工 夫 そ の 他 の										
	B:意見の表現・交換	。ライティングでの質問に対しては、次回の授業時に返答する。														
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	授業内容に関する予習(15h)														
	事後学修	授業で学習したことを配布資料や参考文献も用いて復習し、ライティング課題に取り組む(15h)。 授業外での調査票作成及び15回分の授業内容についての総合的理解(15h)。														
	想定時間合計	45														
教科書	・「Excelで今すぐはじめる心理統計: 簡単ツールHADで基本を身につける(第二版)」小宮あすか、布井雅人著(2024)。講談社 ISBN978-4065371800(第一版を所持している場合、新規購入の必要はない) ・適宜、資料を配布する。															
参考書	・「なるほど! 心理学研究法」三浦麻子著(2017) 北大路書房 ISBN978-4762829666 ・「なるほど! 心理学調査法」大竹恵子 編著(2017) 北大路書房 ISBN978-4762829901 ・Research Methods in Psychology: Evaluating a World of Information (4th ed.) Morling, B. (2021) W W Norton & Co Inc. ISBN978-1324033318															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	授業への積極的参加（ライティング課題の記述内容やディスカッション参加など）	40%										
	最終レポート	60%										
	授業回数の3分の1を超えて欠席した場合，最終レポートを受理しない。											
注意事項	「心理学統計法」を履修済みであることが望ましい。											
備考	令和2年度（2020年度）～令和5年度（2023年度）入学生用。											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030P107		心理的アセスメント (Psychological Assessment)					心理学基礎系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択(令和元年度(2019年度)以前入学生は必修)	2	3	福祉健康科学部	前期	月4	日本語	英語	オムニバス								
担当教員	氏名 溝口剛, 村上裕樹 E-mail t-mizo@oita-u.ac.jp 内線 7522															
授業の概要	心理的アセスメントは心理臨床の現場においてももちろんのこと、心理学研究の上でも用いられることが多い。この授業では、心理的アセスメントの目的、観点及び展開について解説し、観察、面接及び心理検査などの心理的アセスメントの方法と、その適切な記録及び報告について学ぶ。また、学生が検査者・被検査者となって実際に心理検査を実施し、自分の検査データに基づいて所見(レポート)を作成することを通して、心理検査の施行法や結果の整理、報告書の適切な書き方を体験的に学ぶ。その中で心理検査の効用と限界、倫理的諸問題についても考えを深めていく。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	心理的アセスメントの目的、観点、展開をふまえた上で、心理的アセスメントの方法について説明できる。															
目標2	心理検査の効用と限界、倫理的諸問題について説明できる。															
目標3	代表的な心理検査を実際に施行し、結果を整理し、解釈を行った上、で適切に報告書としてまとめることができる。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							10									
授業の内容																
1	心理的アセスメントの目的、観点、展開、方法、理論モデル															
2	心理検査の効用と限界、倫理、心理検査を用いたアセスメントの手順、報告書の書き方															
3	樹木画テスト(検査実習、概要と施行法)															
4	樹木画テスト(結果の整理と解釈、レポート課題)															
5	文章完成法テスト(検査実習、概要と施行法)															
6	文章完成法テスト(結果の整理と解釈、レポート課題)															
7	YG性格検査(検査実習、概要と施行法)															
8	YG性格検査(結果の整理と解釈、レポート課題)															
9	WAB 失語症検査(概要と施行法)															
10	WAB 失語症検査(検査の受検)															
11	WAB 失語症検査(検査の実施)															
12	DN-CAS認知評価システム(概要と施行法)															
13	DN-CAS認知評価システム(検査の受検)															
14	DN-CAS認知評価システム(検査の実施)															
15	Mini Mental State Examination(MMSE)															
ラック	A:知識の定着・確認	学生がベア(検査者・被検査者)となって実際に心理検査を実施し(ロールプレイ)、自分の検査データに基づいて所見(レポート)を作成する。				工夫	学生が実際に心理検査を体験することによって、検査手順や倫理的問題についても実践的に学べるよう指導している。									
ニテ	B:意見の表現・交換															
ンイ	C:応用志向															
グ	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	授業で取り上げる心理検査について、参考文献等に基づいて予習する(15h)。														
	事後学修	検査結果の整理やスコアリング等は、授業時間外に各自で行う課題となる(30h)。各検査ごとに心理検査報告書(レポート)を書いて提出する(12h)。														
	想定時間合計	57														
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配布する。 心理検査の用具、マニュアル、解説書は貸与する。															
参考書	石合 純夫(2012). 高次脳機能障害学 第2版 医歯薬出版(ISBN : 9784263213964) 松原達也(編著)(1976). 心理テスト法入門 日本文化科学社(ISBN : 9784821063604) 岡堂哲雄(編)(1993). 心理検査学 垣内出版(ISBN : 9784773401301) 山鳥 重(1985). 神経心理学入門 医学書院(ISBN : 9784260117074)															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		課題への取り組みおよび達成状況	50%									
	レポート提出	50%										
注意事項	なし。											
備考	公認心理師指定科目。											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	臨床心理士，公認心理師											
実務経験を いかした教 育内容	実際の用具を用いて，心理検査を体験学習する（実習）											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030P110		心理演習 (Seminar in Psychology)					心理学基礎系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択	4	3	福祉健康科学部	通年	火2,木3	日本語	英語	オムニバス、クラス分け								
担当教員	氏名 渡辺 亘, 溝口 剛, 村上 裕樹, 志方 亮介 E-mail wwata@oita-u.ac.jp (渡辺) 内線 7585 (渡辺)															
授業の概要	心理支援の核である「支援に関わる基本的コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援等」に関する知識と技能(連携、倫理、法的義務に関することを含む)を修得するとともに、事例検討やロールプレイング、心理検査実習などを通してその実践を具体的に学ぶ。これにより、公認心理師等の心理専門職に必要な支援の資質を涵養する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	心理支援を要する者等に対する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援等」に関する知識と技能の修得															
目標2	心理支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成に関する知識と技能の修得															
目標3	心理支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチに関する知識と技能の修得															
目標4	他職種連携及び地域連携															
目標5	公認心理師等としての職業倫理及び法的義務への理解															
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							2	1	2	2	2	1				
授業の内容																
1	神経心理学的アセスメントの特徴															
2	心理検査の実際: Frontal Assessment Battery (FAB)															
3	心理検査の実際: ウィスコンシンカードソーティングテスト(WCST)															
4	心理検査の実際: ウェクスラー記憶検査(WMS-R)(概要と施行法)															
5	心理検査の実際: ウェクスラー記憶検査(WMS-R)(検査の受検)															
6	心理検査の実際: ウェクスラー記憶検査(WMS-R)(検査の実施)															
7	心理検査の実際: ベントン視覚記憶検査(BVRT)															
8	心理検査の実際: レーヴン色彩マトリックス検査(RCPM)															
9	心理検査の実際: PFスタディ1(検査実習, 概要と施行法)															
10	心理検査の実際: PFスタディ2(結果の整理と解釈, レポート課題)															
11	心理検査の実際: ウェクスラー式知能検査(概要, 施行法, 実習課題)															
12	心理検査の実際: ウェクスラー式知能検査(結果の整理と解釈, レポート課題)															
13	心理検査の実際: ロールシャッハテスト1(概要と施行法, 検査実習課題)															
14	心理検査の実際: ロールシャッハテスト2(スコアリング, 集計課題)															
15	心理検査の実際: ロールシャッハテスト3(解釈, レポート課題)															
16	心理面接の定義と目的															
17	心理面接の進め方1(場面づくりと接遇)															
18	心理面接の進め方2(態度・姿勢)															
19	心理面接の進め方3(言葉がけ)															
20	心理面接の進め方4(映像による学習)															
21	心理面接の実際1(ロールプレイの実施)															
22	心理面接の実際2(ロールプレイの実施)															
23	心理面接の実際3(ロールプレイの検討)															
24	心理面接の実際4(臨床素材・事例にふれる)															
25	心理面接の実際5(臨床素材・事例の検討)															
26	多職種連携および地域支援 総論															
27	多職種連携および地域支援の事例															
28	多職種連携および地域支援の事例															
29	多職種連携および地域支援の事例															
30	まとめ															
ラーニング	A:知識の定着・確認		・実際に心理検査を行ったり心理面接や地域支援の模擬実施を行うことにより、体験的な学びを促す				工 夫 そ の 他 の	実際の体験とともに、倫理的問題や法的義務についても実践的に学ぶ。								
	B:意見の表現・交換		・グループやペアによる討議・実習等を行い、協働による学びを展開する													
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	関連する文献等により予習を求める。詳細は授業において指示する(20h)										
	事後学修	心理検査のデータの整理とレポートの作成、ロールプレイに関する資料作成、配布資料や関連する文献等による復習を求める。詳細は授業において指示する(25h)										
	想定時間合計	45										
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配布する。 心理検査の用具, マニュアル, 解説書は貸与する。											
参考書	石合 純夫 (2012). 高次脳機能障害学 第2版 医歯薬出版 ISBN978-4-263-21396-4 岡堂哲雄(編) (1993). 心理検査学 垣内出版 ISBN978-4773401301 小松貴弘他(2019). 時間のかかる営みを、時間をかけて学ぶための心理療法入門 創元社SBN978-4-422-11721-8											
成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	演習への取り組み	25%										
	心理検査に関する課題・レポートへの取り組み	25%										
	心理面接に関する課題・レポートへの取り組み	25%										
	地域支援等に関する課題・レポートへの取り組み	25%										
注意事項	「臨床心理学概論」を履修済みであること。 前期15回・後期15回の通年科目である。											
備考	公認心理師資格要件科目											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無	有無											
教員の 実務 経験	臨床心理士, 公認心理師											
実務経験を いかした教 育内容	心理検査、心理面接、地域援助等に関する具体的な学びを促す											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030P205		感情心理学(感情・人格心理学B) (Psychology of Emotion)					生理認知心理学系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択	2	1・3(令和元年度以前の入学生)	福祉健康科学部	後期	木2	日本語	英語	単独								
担当教員	氏名 村上 裕樹 E-mail murakami-hiroki@oita-u.ac.jp 内線 6106															
授業の概要	感情研究のさまざまな知見について学び、感情の理論についての理解を深めます。感情は意識できるものだけではなく、自分でも意識できない感情もあります。そのような点も踏まえ、感情の生物学的基礎を理解した上で、客観的な感情の測定方法について学びます。また、感情が人の行動に及ぼす影響や、感情のコントロールの仕方について理解し、感情の理論を心理学研究に応用する技術を身につけます。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 感情の理論を説明できる。																
目標2 感情の理論を応用することができる。																
目標3 感情の理論を心理学研究に応用することができる。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									10							
授業の内容																
1 感情心理学とは																
2 感情の生物学的基盤																
3 感情の理論 感情の起源																
4 感情の理論 認知が先か感情が先か																
5 感情の機能 感情は有害か、有用か																
6 感情の機能 感情の機能を解明するための基礎理論																
7 感情と進化 個体の安全と生存に関わる感情																
8 感情と進化 集団生活に関わる感情																
9 感情と認知																
10 感情と目撃証言																
11 感情と発達																
12 感情と自己注目																
13 感情と適応的・不適応的自己注目																
14 感情と遺伝子																
15 感情と健康																
ラーニング	A:知識の定着・確認		ミニッツペーパー。発問。			工		その他の								
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(7.5h)。													
	事後学修		授業で学んだことについての復習をし、紹介された参考文献について精読することで理解を深める(45h)。													
	想定時間合計		53													
教科書	なし。資料を配付する。															
参考書	・大平英樹(編)(2010).感情心理学 有斐閣アルマ,ISBN:978-4641123885 ・北村英哉・木村晴(2006).感情研究の新展開 ナカニシヤ出版,ISBN:9784779501104															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		授業への取り組み	50%									
	レポート課題	50%										
注意事項	私語厳禁。											
備考	公認心理師指定科目。											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	公認心理師											
実務経験を いかした教 育内容	専門性や実務経験を活かして、感情心理学的知見について説明する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030P203		行動分析学(学習・言語心理学) (Behavior Analysis (Psychology of Learning and Language))					生理認知心理学系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択	2	2	福祉健康科学部	後学期	火3	日本語			単独							
担当教員	氏名 佐藤晋治															
	E-mail ssato@oita-u.ac.jp 内線 7531															
授業の概要	科学的に実践を展開するための学習・言語心理学の一つである行動分析学の原理と技法、並びに、対人援助に適用する際に留意すべき事柄を学修することで、臨床心理学的専門職者としての「知識・技能・価値」を修得できる。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 行動分析学の原理と技法について説明できる(知識)。																
目標2 行動分析学の原理と技法を実生活に適用できる(技能)。																
目標3 行動分析学の原理と技法を対人援助に適用する際の留意点を説明でき、実生活に適用できる(価値)。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									4		3	3				
授業の内容																
1 心とこころ																
2 心理学における行動分析学																
3 行動の原因																
4 行動とは?																
5 強化と弱化(4つの基本随伴性)																
6 消去と復帰																
7 刺激性制御、行動変容																
8 シェイピングとチェイニング																
9 不適切行動を減少させるには?																
10 実験的行動分析																
11 強化スケジュール																
12 単一被験体法																
13 言語行動																
14 言語行動の種類																
15 文字が関与する言語行動																
ラーニングチェック	A:知識の定着・確認		演習,小テスト,小レポート,予習,復習,宿題,調べ学修(論文,書籍,インターネット等)				工 夫 そ の 他 の	動画の活用, LMS(Moodle)の活用								
	B:意見の表現・交換		学び合い, 教え合い,													
	C:応用志向		プレゼンテーション, 学びの省察,													
	D:知識の活用・創造		ロールプレイ													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		教科書やMoodleで予習し,必要に応じて,論文,書籍,インターネット等により「調べ学修」に取り組むこと(1週あたり90分/総計22.5時間)。													
	事後学修		講義で学習した内容を振り返り,講義で扱った内容や関連する課題について論文,書籍,インターネット等により「調べ学修」に取り組むこと(1週あたり90分/総計22.5時間)。													
	想定時間合計		45													
教科書		・杉山尚子(2005) 行動分析学入門 - ヒトの行動の思いがけない理由。集英社新書(ISBN978-4-087-20307-3)(本体660円+税)														
参考書		・講義内容に関連した資料を必要に応じてMoodleにアップする。 ・坂上貴之・井上雅彦(2018) 行動分析学入門 - 行動の科学的理解をめざして。有斐閣アルマ(ISBN978-4-641-22102-4)(本体660円+税)														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	試験	60%										
	発表, 討論	20%										
	レポート, ライティング	20%										
注意事項	講義内でMoodleを使用することもあるので、Moodleを閲覧できる媒体（スマホ、タブレット端末、ノートPCなど）を持参すること。また少なくとも週に1度はMoodleのこの科目のページを閲覧し、準備学修、事後学習に活用すること。											
備考	特になし。											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	臨床心理士, 学校心理士											
実務経験を いかした教 育内容	臨床心理士, 学校心理士としての実践経験を講義内容に含める。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030P202		神経心理学(神経・生理心理学) (Neuro- and Physiological Psychology)					生理認知心理学系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択	2	3	福祉健康科学部	前期	木2	日本語	英語	単独							
担当教員	氏名 村上 裕樹 E-mail murakami-hiroki@oita-u.ac.jp 内線 6106														
授業の概要	脳の損傷によってもたらされる認知・行動・感情などの障害(高次脳機能障害)や、認知・感情などのこころの活動と生理反応との関連性について紹介する。このような知見について学習することで、脳神経系の構造と機能、脳や身体とこころの関連性について理解を深める。また、神経心理学的障害に関する評価方法や認知リハビリテーションなどの介入方法について紹介する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 脳神経系の構造及び機能について説明できる。															
目標2 こころと脳、身体との関連性について説明できる。															
目標3 高次脳機能障害について説明できる。															
目標4 生理指標を心理学研究に応用する知識を身につける。															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									10						
授業の内容															
1 脳神経系の構造及び機能															
2 失語・失読・失書															
3 失行															
4 行為・行動の抑制障害															
5 半側空間無視															
6 注意障害、記憶障害															
7 遂行機能障害															
8 認知症															
9 自律神経活動：皮膚電気活動															
10 自律神経活動：心拍															
11 自律神経活動：血行力学的反応															
12 自律神経活動の応用															
13 免疫・内分泌系															
14 脳波：背景脳波															
15 脳波：事象関連電位															
ラーニング	A:知識の定着・確認					ミニッツペーパー。発問。					工 夫 其 他 の				
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(7.5h)。												
	事後学修		授業で学んだことについての復習をし、紹介された参考文献について精読することで理解を深める(45h)。												
	想定時間合計		53												
教科書	なし。資料を配付する。														
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 堀忠雄 (2008). 生理心理学 培風館, ISBN: 978-4563058784 石合 純夫 (2012). 高次脳機能障害学 第2版 医歯薬出版, ISBN: 978-4-263-21396-4 宮田洋(監修) (1997). 新生理心理学 1-3巻 北大路書房, ISBN: 978-4762820946 利島 保 (監修) (2015). 脳神経心理学 朝倉書店, ISBN: 978-4-254-52664-6 山島 重 (1985). 神経心理学入門 医学書院, ISBN: 978-4-260-11707-4 														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		授業への取り組み	50%									
	レポート課題	50%										
注意事項	私語厳禁。 心理的アセスメント，心理演習を履修する人は受講してください。											
備考	公認心理師指定科目。											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	公認心理師											
実務経験を いかした教 育内容	専門性や実務経験を活かして，神経生理心理学的知見について説明する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030P204		知覚・認知心理学 (Psychology of Percetion & Cognition)					生理認知心理学系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択	2	3	福祉健康科学部	前	月3	日本語			単独							
担当教員	氏名 藤田 敦															
	E-mail a-fujita@oita-u.ac.jp 内線 7614															
授業の概要	人間が学習や問題解決などの情報処理活動を行う際に生じる感覚・知覚・記憶・認知・思考の心理過程について、科学的な観点から理解を深めていくことを目的とする。特に、知識(記憶)が、いかに形成されていくのかを理解し、認知的・心理的な問題との関係を考察する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 認知心理学の科学的・専門的な知識を説明することができる。																
目標2 実験的な手法で、認知過程を客観的に観察・記録・分析できる。																
目標3 認知心理学と日常の社会的生活を関係づけて説明できる。																
目標4 認知理論と学習活動・社会活動・臨床的問題を関係づけることができる。																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									4	3		3				
授業の内容																
1 認知心理学の定義と方法																
2 心理物理学と感覚能力の特徴																
3 初期知覚における同化・対比・残像																
4 3次元世界と運動の知覚																
5 知覚の体制化～群化・分化・完結化																
6 高次情報処理過程～情報処理モデルによる説明																
7 感覚記憶と注意過程																
8 注意能力と短期記憶(作業記憶)																
9 注意力・作業記憶の障害																
10 記憶モデルと短期記憶																
11 作業記憶における情報処理																
12 長期記憶の構造と内容																
13 長期記憶の体制化と忘却																
14 思考と問題解決の過程																
15 日常的認知のスタイルと臨床的問題の関連																
ラーニングチェックシート	A:知識の定着・確認		認知実験の体験や討論・意見発表の場を設ける。			工夫その他の	動画、音声等の多様なメディアを利用する。									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		配布資料を利用して予習する。(15h)													
	事後学修		専門用語を中心に、講義における学習内容を整理する。(30h)													
	想定時間合計		45													
教科書	使わない。講義の際に適宜資料を配布する。															
参考書	講義中に紹介する。															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	期末試験	90%										
	小課題	10%										
注意事項	学びを深めるために、講義者から出される発問や課題に対して、積極的に取り組むこと。											
備考												
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030P303		発達と学習の心理学 (Developmental and Educational Psychology)					発達・教育心理学系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択	2	1	福祉健康科学部	後期	月3	日本語			オムニバス							
担当教員	氏名 麻生良太、藤田敦 E-mail ryoaso@oita-u.ac.jp,a-fujita@oita-u.ac.jp 内線 7584,7614															
授業の概要	子どもの身体的、心理的発達の過程と障害、および、そこに関わる家庭環境、保育・教育環境の役割・影響について理解し、教育の現場における発達支援・学習支援の考え方について学ぶ。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 誕生から幼児、児童期を経て青年期に至るまで心身の発達と、家庭環境や教育環境の役割について説明することができる。																
目標2 子どもの成長と学習について、発達・教育心理学の観点から評価・分析し、具体的な支援を構想することができる。																
目標3 教育と福祉という側面から、学校現場に起こりうる教育課題について説明し、解決方法を提案することができる。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									8		2					
授業の内容																
1 発達と教育を結ぶ心理学(麻生)																
2 胎生期の発達と環境(麻生)																
3 からだと脳の発達(麻生)																
4 情動と動機付けの発達(麻生)																
5 自己の発達(麻生)																
6 言語の発達(麻生)																
7 認知の発達(麻生)																
8 人間関係の発達(麻生)																
9 社会性・道徳性の発達(麻生)																
10 心理的発達の過程における障害(麻生)																
11 学習理論1～行動の変容に注目する学習観(藤田)																
12 学習理論2～こころの内面に注目する学習観(藤田)																
13 学習の動機付け1～学びのエネルギー(藤田)																
14 学習の動機付け2～学習行動の変容と動機付けの心理(藤田)																
15 学習の障害と教育(藤田)																
ラーニング	A:知識の定着・確認	小課題や課題に関する小グループのディスカッションを実施し、課題意識を高め、多角的多面的に視野をひろげる。				工夫	その他の	動画や音声などの多様なメディアの活用、LMS(Moodle)の活用								
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	現代の子どもの発達や学校教育における課題について関心を持ち、自分なりの考え(教育観、学習観、発達観)を整理しておく。(15h)														
	事後学修	発達や教育に関する自らの考えを、心理学的な視点を加えて再考する。(30h)														
	想定時間合計	45														
教科書	教科書は使わない。適宜必要な資料を配付する。															
参考書	幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	期末試験（筆記試験）	70%										
	小課題，グループワーク等	30%										
注意事項	学びを深めるために，講義者から出される発問や課題に対して，積極的に取り組むこと。											
備考												
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030P304		発達と学習の心理学 (Developmental and Educational Psychology)					発達・教育心理学系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	2	教育学部	前期	木2	日本語			オムニバス						
担当 教員	氏名 藤田敦・麻生良太														
	E-mail a-fujita@oita-u.ac.jp,ryoaso@oita-u.ac.jp 内線 7614,7584														
授業 の 概 要	子どもが自己を確立し、社会的に自立していくまでの発達過程と、その過程において生じる心理的な課題を整理し、学校における学習活動や社会的な経験の意義、学習環境や教師の役割、教育的支援の実際について学ぶ。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	幼児・児童期から青年期までの心身の発達及び学習過程を理解し、心理的側面に必要な教育的支援を構想できる。														
目標2	社会的な自立に至る成長を促す上での教師の役割を理解し、説明することができる。														
目標3	教育と福祉という側面から、学校現場に起こりうる教育課題について説明し、解決方法を提案することができる。														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							8	2							
授業の内容															
1	幼児期から青年期に至る発達と教育(麻生)														
2	社会的な自立に関わる発達と課題(麻生)														
3	アイデンティティの生涯発達(麻生)														
4	キャリア形成と生涯発達(麻生)														
5	自己実現・キャリア形成としての学習(麻生)														
6	発達過程と学習過程の評価と課題(藤田)														
7	習得的学力を促す学習法と教材(藤田)														
8	探究的・活用的学力を促す授業づくり(藤田)														
9	問題解決力を育む授業(藤田)														
10	言語的活動と学習・記憶の関係(藤田)														
11	確かな理解と記憶を促す授業(藤田)														
12	主体的・意欲的な学習を引き出す授業づくり(藤田)														
13	学級経営における教師の役割・姿勢・態度(藤田)														
14	自己理解を深め自己肯定感・自己実現を促す教育的支援(藤田)														
15	子どもの発達と教育を支える学校と教師の役割(藤田)														
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	具体的な教育場面を想定した問題に対する話し合いや、教育的支援の				工 夫 そ の 他 の	動画や音声などの多様なメディアの活用、LMS(Moodle)の活用								
	B:意見の表現・交換	実際を考える小課題を実施する。													
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		現代の子どもの発達や学校教育における課題について関心を持ち、自分なりの考え(教育観、学習観、発達観)を整理しておく。(15h)												
	事後学修		発達や教育に関する自らの考えを、心理学的な視点を加えて再考する。(30h)												
	想定時間合計		45												
教科書	教科書は使わない。必要な資料は講義中に配布する。														
参考書	幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	期末試験（筆記試験）	70%										
	小課題，グループワーク等	30%										
注意事項	学びを深めるために，講義者から出される発問や課題に対して，積極的に取り組むこと。											
備考												
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030P402		対人関係と家族の心理学(社会・集団・家族心理学A) (Theory and Practice on Clinical Psychology)					社会・産業心理学系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択	2	3	福祉健康科学部	前期	月5	日本語			オムニバス							
担当教員	氏名 池永恵美・志方亮介 E-mail m-ikenaga@oita-u.ac.jp 内線 6107															
授業の概要	我々は様々な人間関係や集団の中で生きており、本講義では人と人の相互作用や個人と集団との関係、家族の諸問題について学習とする。具体的には、前半は対人場面における人間行動や人と人とのコミュニケーション、集団の機能、集団心理療法の理論と方法について学び、対人関係(二者関係~集団)において起こる様々な心理的現象を理解するための基本的知識を習得する。また後半については、家族の構造や家族の発達を学んだ上で、現代の家族にみられる臨床的諸問題や家族への支援の方法について基本的知識を習得する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	人間関係における様々な対人行動について説明できる。															
目標2	集団の特徴、集団が成員に対して及ぼす影響について説明できる。															
目標3	集団心理療法の目的・方法について説明できる。															
目標4	家族の構造的特徴や家族の発達や現代の家族が抱えている課題について心理学的な視点から説明できる															
目標5	家族への心理臨床的な支援の方法について説明できる															
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							7	3								
授業の内容																
1	他者とのつきあい(コミュニケーション)															
2	他者とのつきあい(対人認知)															
3	他者とのつきあい(自己開示)															
4	他者とのつきあい(自己呈示)															
5	他者とのつきあい(援助要請)															
6	集団の機能(凝集性、規範、同調)															
7	集団の機能(社会的な手抜き、集団浅慮)															
8	中間試験															
9	家族とは何か(家族の構造)															
10	家族の発達(成人期、結婚による家族の成り立ち)															
11	家族の発達(子育て期、老年期の家族)															
12	家族の中のコミュニケーション															
13	家族の抱える問題と支援(虐待、発達障害)															
14	家族の抱える問題と支援(夫婦紛争、介護)															
15	家族への心理臨床的支援(家族療法)															
ラーニングチェックシート	A:知識の定着・確認	ミニッツペーパー、体験活動、グループディスカッション				工夫その他の	動画視聴の後に意見交換を行う									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	配布資料やインターネット、参考文献等を用いて必要に応じて予習する(5h)。														
	事後学修	授業で配布したプリントや参考文献を用いて復習する(15h)。 毎回のミニレポート(10h) 最終試験およびレポートへの取り組み(15h)														
	想定時間合計	45														
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントを使用する。 Moodle上に資料を掲載する場合もある。(事前に告知する)															
参考書	山岸俊男編:「社会心理学キーワード」、有斐閣双書、2001 ISBN4-641-05872-5 池田謙一・唐沢稯・工藤恵理子・村本由紀子著:「社会心理学」、有斐閣、2010 ISBN978-4-641-05375-5 中釜陽子・野末武義・布柴靖枝・武藤清子 著:「家族心理学」、有斐閣ブックス、2019 ISBN978-4-641-18446-6 亀口憲治編著:「家族療法」、ミネルヴァ書房、2006 ISBN978-4-623-04506-8															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	中間試験	30%										
	学期末試験	30%										
	ミニツツペーパーの内容	40%										
注意事項	グループディスカッションの際には活発な意見を述べるように意識すること											
備考	公認心理師要件科目											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務経験	公認心理師・臨床心理士（池永恵美・志方亮介）											
実務経験を いかした教 育内容	多機関での家族支援について、モデルケースを通して事例検討を行い、家族支援の知識を習得する											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030P508		産業・組織心理学 (Industrial and Organizational Psychology)					社会・産業心理学系		オンライン(同時双方向型、オンデマンド)						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	4	福祉健康科学部	前期	金3	日本語			単独						
担当教員	氏名 増田成美														
	E-mail nmasuda@oita-u.ac.jp 内線 6108														
授業の概要	「働くこと」は、私たちにとって「生きること」に直結する重要な要素である。この授業では、大学生が就労した際に役立つと思われる、キャリア形成、組織における人の行動、安全管理、メンタルヘルス対策といった、産業・組織分野の知見を紹介する。また、職場における様々な問題に対する心理的支援について概説する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 組織における人の行動の特性やその背後にある心理について説明できる。															
目標2 働く中で生じる様々な問題に対して心理学的観点から必要な支援や問題解決を提案できる。															
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									3	3	2		1	1	
授業の内容															
1 ガイダンス															
2 社会的自立とは															
3 キャリア形成															
4 ヒューマンエラー															
5 ワーク・モチベーション															
6 職場集団の力動															
7 リーダーシップ															
8 職業性ストレス															
9 産業・組織分野の制度・法律															
10 産業・組織領域での心理学的援助															
11 事例検討 ストレスマネジメント															
12 事例検討 の発表															
13 産業・組織分野での活動の法律と倫理															
14 事例検討 個人情報と守秘義務															
15 事例検討 の発表・まとめ															
ラーニング チェック ポイント グループ	A:知識の定着・確認		ミニレポート、グループディスカッション、事例検討と事例における対応についての発表を取り入れる。			工夫 その 他の	グループで事例検討し、考えられる対応について発表する。職場における心理的問題について考え、それに対する支援を検討していく姿勢について学ぶ。								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		配布資料や参考書、インターネットを用いて予習する(10h)。発表のための準備(5h)。												
	事後学修		配布資料の復習(30h)。												
	想定時間合計		45												
教科書	資料を配布します。														
参考書	新田泰生(編集)野島一彦・繁樹算男(監修)『公認心理師の基礎と実践 [第20巻]産業・組織心理学』,遠見書房,2019. ISBN 978-4-86616-070-2														

成績 評価 の 方法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
		講義への取り組みおよびミニレポート（授業感想・意見）	20%										
		事例検討の発表	40%										
		学期末レポート	40%										
注意事項	なし												
備考	本講義はメディア形式のため、インターネットに接続可能な端末を準備する必要がある。												
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の 有無													
教員の実務 経験	公認心理師・臨床心理士												
実務経験を いかした教 育内容	成人の復職支援の事例に携わった実務経験等を活かし、助言等を行う。												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H020P511		障害者・障害児心理学 (Psychology for Adults & Children with Disabilities)					臨床心理学系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択	2	1年生	福祉健康科学部	後期	金1	日本語			単独							
担当教員	氏名 池永恵美 E-mail m-ikenaga@oita-u.ac.jp 内線 6107															
授業の概要	本講義では、主に知的障害、発達障害、肢体不自由等について取り上げ、個々の障害の特徴と必要な心理学的支援について学習することを目的とする。また特に発達障害に関しては、生涯発達の観点から乳幼児期から成人期まで各発達段階で起こりやすい心理社会的問題や必要な心理学的支援について講義を行う。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 知的障害、発達障害、情緒障害、肢体不自由について個々の障害の特性を説明できる。																
目標2 個々の障害について、心理学的支援の方法について説明できる。																
目標3 発達障害児・者の生涯発達とそれぞれの時期における困難・課題について説明できる。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									7	3						
授業の内容																
1 障害とは																
2 知的障害児・者の理解と支援																
3 発達障害に関する概説																
4 発達障害児・者の理解(1)自閉症スペクトラム障害者の体験世界を知る																
5 発達障害児・者の理解(2)自閉症スペクトラム障害の概説																
6 発達障害児・者の理解(3)自閉症スペクトラム障害の歴史																
7 発達障害児・者の理解(4)自閉症スペクトラム障害についての近年の研究動向																
8 発達障害児・者の理解(5)ADHD																
9 発達障害児・者の理解(7)学習障害 - 学習障害の基礎的理解																
10 発達障害児・者の理解(7)学習障害 - 学習障害児への支援																
11 発達障害児・者と生涯発達支援(1)乳幼児期																
12 発達障害児・者と生涯発達支援(2)学齢期 - 特別支援教育について学ぶ																
13 発達障害児・者と生涯発達支援(3)学齢期 - 困りの実際を知る																
14 発達障害児・者と生涯発達支援(4)青年期、成人期																
15 情緒障害(チック、場面緘黙)																
ラーニングチェックシート	A:知識の定着・確認		ミニッツペーパー			工 夫 の 他 の										
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		授業で学習する各障害について、インターネットや書籍を用いて予習する(10h)。													
	事後学修		授業中に配布した資料を用いて復習する(20h)。授業で学習した各障害について、自分で書籍やインターネット等を用いて知識・理解を深める(15h)													
	想定時間合計		45													
教科書	教科書は指定しない。授業中に配布するプリントを使用する。															
参考書	井澤信三・小島道夫編「障害児心理入門」(ミネルヴァ書房)2010年 ISBN978-4-62-306551-6 杉山登志郎著「発達障害の子どもたち」(講談社現代新書)2007年 ISBN978-4-06-280040-2 杉山登志郎著「発達障害のいま」(講談社現代新書)2011年 ISBN978-4-06-288116-6															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		学期末試験	70%									
	ミニツツペーパーの内容	30%										
注意事項	特になし											
備考	特になし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	臨床心理士、公認心理師											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030P512		人格心理学(感情・人格心理学A) (Psychology of Personality (Psychology of Emotion and Personality A))					臨床心理学系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択	2	2年	福祉健康科学部	前期	火5	日本語	英語	単独								
担当教員	氏名 溝口剛															
	E-mail t-mizo@oita-u.ac.jp 内線 7522															
授業の概要	人の心を理解する上で、パーソナリティ(人格)の理解は欠かせないもののひとつである。この授業では、心理学におけるさまざまなパーソナリティ理論を紹介し、パーソナリティを理解する方法について概説する。その上で、さまざまな心理的・発達の問題をパーソナリティという観点から理解していく力を身につける。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	心理学における主要なパーソナリティ理論について説明できる。															
目標2	パーソナリティを理解する方法について説明できる。															
目標3	さまざまな心理的・発達の問題をパーソナリティの観点から理解し、説明できる。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							10									
授業の内容																
1	パーソナリティとは何か(自己理解と他者理解)															
2	パーソナリティとは何か(概念,古典的パーソナリティ分類)															
3	パーソナリティの類型論															
4	パーソナリティの類型論と特性論															
5	パーソナリティの特性論															
6	精神分析理論とパーソナリティ(フロイトのパーソナリティ理論)															
7	精神分析理論とパーソナリティ(ユングのパーソナリティ理論)															
8	現象学的理論とパーソナリティ(ロジャーズのパーソナリティ理論)															
9	パーソナリティ理解の方法(観察法)															
10	パーソナリティ理解の方法(面接法,検査法)															
11	パーソナリティの形成過程(人格形成の基礎・原理)															
12	パーソナリティの形成過程(乳児期~幼児期前期におけるパーソナリティの発達)															
13	パーソナリティの形成過程(幼児期後期~青年期におけるパーソナリティの発達)															
14	精神病理とパーソナリティ(人格構造とパーソナリティ障害)															
15	まとめ															
ラーニング	A:知識の定着・確認	毎回授業の終わりに質問や感想を記入したライティングを提出させる。				工夫その他の	事例を交えて講義することによって、より共感的な理解を促し、省察を深める。									
	B:意見の表現・交換	次回の授業冒頭でライティングの内容を取り上げて解説を加えることによって、対話型の授業となるよう努めると同時に、学生のさらなる省察を深める。														
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	各回で取り上げるテーマに関して、参考文献等に基づいて予習する(15h)。														
	事後学修	授業で学習したことを活かし、配布資料や参考文献を用いて復習する(30h)。														
	想定時間合計	45														
教科書	教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。															
参考書	近藤卓(編著) 2004 パーソナリティと心理学 大修館書店 (ISBN: 9784469265446) 詫摩武敏・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊(著) 1990/2003 性格心理学への招待 自分を知り他者を理解するために サイエンス社 (ISBN: 9784781910444)															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		ライティング	50%									
	期末試験(テスト)	50%										
	期末試験(テスト)は、状況によっては最終レポートに変更することがありうる。											
注意事項	なし。											
備考	公認心理師指定科目。											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務経験	臨床心理士、公認心理師											
実務経験を いかした 教育内容	事例を交えて講義することによって、より共感的な理解を促し、省察を深める。											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H030P502	臨床心理学実践論(心理学的支援法) (Theory and Practice on Clinical Psychology(Methods of Psychological Support))					臨床心理学系	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
コース必修	2	2年	福祉健康科学部	後期	月3	日本語		単独					
担当教員	氏名 古長 紗恵 E-mail kocho-sae@oita-u.ac.jp 内線 7611												
授業の概要	本講義では、心理学的支援の適用範囲や倫理、歴史、代表的技法等を幅広く取り扱い、臨床心理学の実践における基本的知識や技術を学ぶ。特に技法については、ロールプレイや模擬実践によって体験的に理解を深める。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	
目標1	心理学的支援の基本的な考え方や適用範囲、倫理的留意点を説明できる												
目標2	心理学的支援の歴史や代表的技法を説明できる												
目標3	対象者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択できる												
目標4	代表的技法をワークの中で実践する												
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						4	3	1	1	1			
授業の内容													
1	オリエンテーション、心理学的支援とは												
2	心理学的支援の歴史												
3	心理学的支援の対象、適用範囲、倫理												
4	技法の選択、アセスメント												
5	代表的技法(1)精神分析・精神分析的な心理療法												
6	代表的技法(2)行動療法・行動分析												
7	代表的技法(3)認知療法・認知行動療法												
8	代表的技法(4)クライエント中心療法・カウンセリング												
9	代表的技法(5)家族療法												
10	代表的技法(6)コミュニティアプローチ												
11	代表的技法(7)プレイセラピー												
12	代表的技法(8)箱庭療法・絵画療法												
13	代表的技法(9)動作法・リラクゼーション												
14	心の健康教育												
15	まとめ												
ラーニング チェック ポイント グループ	A:知識の定着・確認	講義ごとのライティング、ワーク(ロールプレイ、架空事例を用いた不安階層表作成やコラム法等の模擬実践等)、ワークを経てのディスカッション					工 夫	そ の 他 の					
	B:意見の表現・交換												
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	配布資料や、事前に告知するテーマについて必要に応じて予習する(15h)											
	事後学修	授業で学習したことについて配布資料やインターネットの検索で復習する(15h)、最終レポートに向けての学習(15h)											
	想定時間合計	45											
教科書	教科書は指定しない。各講義で資料を配布する。												
参考書	参考書は指定しない。講義の中で随時紹介する。												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		ライティングおよび提出課題	60%									
	最終レポート	40%										
注意事項	なし											
備考	本科目は公認心理師受験資格取得のために必要な科目である。											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	臨床心理士・公認心理師											
実務経験を いかした教 育内容	臨床心理士・公認心理師としての実際の経験も踏まえながら、実践的な講義を展開する。											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
H030P504	司法・犯罪心理学 (Forensic and Criminal Psychology)					臨床心理学系	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態				
選択	2	2年	福	後期	木3	日本語		単独				
担当教員	氏名 中園 武彦 E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120											
授業の概要	非行や犯罪に関する心理学並びに離婚、親権、面会交流等を巡る家族の紛争及びその解決に関する心理学の基本的な知識を習得する。非行・犯罪は個人的要因と環境的要因が複合的に絡み合っている。環境的要因の中でも家族的要因は重要な位置を占める。家族紛争に関する理解は犯罪理解にも有用である。この授業を通じ、犯罪や犯罪者の理解、非行少年や犯罪者に対する支援や処遇、犯罪被害者に対する支援及び紛争下にある家族成員の支援の在り方を身に付けることを目指す。こうした知見は、人間に対する理解を深めるものでもあり、自己や周囲の人々の心身の健康や福祉の配慮に役立てることができるものである。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1	法的仕組みと関連する機関の役割及びそこで働く人々の職務内容について説明できる。											
目標2	非行・犯罪理論および非行少年・犯罪者の心理について説明できる。											
目標3	司法機関・行政機関・矯正機関における非行少年・犯罪者の支援について説明できる。											
目標4	犯罪被害者の心理および支援の在り方について説明できる。											
目標5	家事事件の基礎知識に基づき、家事事件当事者に対する心理的支援の在り方について説明できる。											
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)						10						
授業の内容												
1	犯罪の定義・犯罪統計・犯罪理解へのアプローチ(その1)											
2	犯罪理解へのアプローチ(その2)											
3	犯罪捜査(被疑者の供述・虚偽自白・被害者及び目撃者の証言等)											
4	刑事司法及び少年司法の手続(刑事裁判・少年審判・医療観察法・裁判員裁判等)											
5	非行・犯罪の心理アセスメント(方法・対象・BPSモデル・RNRモデル・GLM・アタッチメント・虐待・発達障害・集団非行・いじめ等)											
6	非行少年及び犯罪者の面接法(事実への接近・司法面接)											
7	犯罪加害者へのアセスメント(情状鑑定・法的効果と臨床的效果)											
8	非行少年への心理支援(警察・家庭裁判所・少年鑑別所・少年院・保護観察所・児童自立支援施設等)											
9	矯正施設における加害者臨床(刑事施設分野における改善指導)											
10	社会内処遇における心理支援(家族へのアプローチ・保護者支援・家族の両面性(保護因子とリスク因子)・就学及び就職支援)											
11	各種犯罪類型の特徴と心理支援(その1:窃盗犯罪・粗暴犯罪・性犯罪)											
12	各種犯罪類型の特徴と心理支援(その2:薬物犯罪・凶悪犯罪・インターネット関連犯罪)											
13	犯罪被害者への心理支援(捜査・司法機関の各種制度・PTSD支援・二次被害・代理受傷等)											
14	家事事件(その1:離婚を巡る親や子への心理支援・調停事例・児童虐待)											
15	家事事件(その2:親権・面会交流・ステップファミリー・DV等)											
ラーニング	A:知識の定着・確認	毎回、疑問等を記載したミニレポートを作成し、次回授業で取り上げて更に深く説明するなどして対話型の授業を構築し、知識の定着を図る。					工 夫 そ の 他 の	事例等の使用				
	B:意見の表現・交換	配布事例を通じて知見の適用などの応用力を身に付ける。なるべく集団討議を取り入れ、意見の表現・交換を学修する。										
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	配布された事例資料を読み、事例のアセスメントや処遇方法などを検討して予習する(23h)。										
	事後学修	授業で配布されたレジュメ、資料、事例資料を見直し、復習する(23h)。										
	想定時間合計	46										
教科書	岡本吉生編 『司法・犯罪心理学』 遠見書房 2023年(第二版) 978-4-86616-176-1											
参考書	参考書は指定しない。事例をまとめた資料を毎回配布する。											

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		授業に取り組む態度及びミニレポート	30%									
	最終レポート	70%										
注意事項	特になし											
備考	特になし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	家庭裁判所調査官（公認心理師）											
実務経験を いかした教 育内容	家庭裁判所調査官としての長年の経験を活かし、犯罪加害者や被害者の心理及び支援に関する知見や技法を伝える。また、家事事件の紛争理解や紛争解決のための当事者支援の在り方に関する知見や技法について伝える。											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
H030P506	教育臨床心理学(教育・学校心理学) (Social Theory and Social System)					臨床心理学系	対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択	2	3	福祉健康科学部	前期	火4	日本語	英語	オムニバス						
担当教員	氏名 渡辺 亘・溝口 剛 E-mail wwata@oita-u.ac.jp(渡辺)・t-mizo@oita-u.ac.jp 内線 7585(渡辺)・7522(溝口)													
授業の概要	学校における子ども、保護者等を対象とする教育臨床領域について、その理論と実際について学ぶ。具体的には、教育臨床領域における心理支援の考え方等の総論とともに、不登校やいじめ、発達障害等の理解と対応といった各論についても取り上げ、学校における心理支援(スクールカウンセリング等)について具体的に学ぶ。													
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	
目標1	学校における心理的問題および支援の概要を説明できる													
目標2	児童生徒の抱える心理的問題の理解と支援について説明できる													
目標3	専門職としての役割や他職種連携による支援について説明できる													
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)							2	2	1	2	2	1		
授業の内容														
1	児童生徒が発生しやすい問題と社会的背景													
2	学校現場と心理専門職													
3	児童生徒の心理的問題のアセスメント													
4	スクールカウンセリングにおけるアセスメント													
5	児童生徒の心理的問題の支援													
6	校内における協力体制													
7	専門機関における心理支援と連携													
8	不登校問題の理解と対応													
9	いじめ問題の理解と対応													
10	発達障害の理解													
11	発達障害の対応													
12	自傷行為の理解と対応													
13	摂食障害の理解と対応													
14	保護者への対応													
15	教員のメンタルヘルス													
ラ イ ク ニ テ ィ ン グ ブ	A:知識の定着・確認	毎回授業の終わりに質問や感想を記入したライティングを提出させる。次回の授業冒頭でライティングの内容を取り上げて解説を加えることによって、対話型の授業となるよう努めると同時に、学生のさらなる省察を深める。					工 夫 の 他 の	専門機関で支援に携わる専門家や第一線で働くスクールカウンセラーによる講義を行い、より具体的な学びを促進する。						
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	ニュースなどから社会的問題、家族の問題、子どもの問題、教育上の問題などについて情報を得るように努める(15h)。												
	事後学修	授業で学習したことを活かし、配布資料や参考文献を用いて復習する(30h)。												
	想定時間合計	45												
教科書	「教育臨床の実際 第2版」武内ら、ナカニシヤ出版(2018年)ISBN 9784779512810													
参考書	「生徒指導提要」文部科学省等													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		毎回のライティング	50%									
	最終テストまたはレポート	50%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	臨床心理士および公認心理師（渡辺亘・溝口剛）											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	支援専門機関における専門職および臨床心理士・公認心理師											
実務経験を いかした教 育内容	事例等を交えて講義することによって、より実践的な理解を促し、省察を深める。											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H030P506	教育臨床心理学(教育・学校心理学) (Social Theory and Social System)					臨床心理学系	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	3	福祉健康科学部	前期	火4	日本語	英語	オムニバス					
担当教員	氏名 渡辺 亘・溝口 剛 E-mail wwata@oita-u.ac.jp(渡辺)・t-mizo@oita-u.ac.jp 内線 7585(渡辺)・7522(溝口)												
授業の概要	学校における子ども、保護者等を対象とする教育臨床領域について、その理論と実際について学ぶ。具体的には、教育臨床領域における心理支援の考え方等の総論とともに、不登校やいじめ、発達障害等の理解と対応といった各論についても取り上げ、学校における心理支援(スクールカウンセリング等)について具体的に学ぶ。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	学校における心理的問題および支援の概要を説明できる												
目標2	児童生徒の抱える心理的問題の理解と支援について説明できる												
目標3	専門職としての役割や他職種連携による支援について説明できる												
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							2	2	1	2	2	1	
授業の内容													
1	児童生徒が発生しやすい問題と社会的背景												
2	学校現場と心理専門職												
3	児童生徒の心理的問題のアセスメント												
4	スクールカウンセリングにおけるアセスメント												
5	児童生徒の心理的問題の支援												
6	校内における協力体制												
7	専門機関における心理支援と連携												
8	不登校問題の理解と対応												
9	いじめ問題の理解と対応												
10	発達障害の理解												
11	発達障害の対応												
12	自傷行為の理解と対応												
13	摂食障害の理解と対応												
14	保護者への対応												
15	教員のメンタルヘルス												
ラ イ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	毎回授業の終わりに質問や感想を記入したライティングを提出させる。					工 夫 そ の 他 の	専門機関で支援に携わる専門家や第一線で働くスクールカウンセラーによる講義を行い、より具体的な学びを促進する。					
B:意見の表現・交換	次回の授業冒頭でライティングの内容を取り上げて解説を加えること												
C:応用志向	よって、対話型の授業となるよう努めると同時に、学生のさらなる省察												
D:知識の活用・創造	を深める。												
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	ニュースなどから社会的問題、家族の問題、子どもの問題、教育上の問題などについて情報を得るように努める(15h)。											
	事後学修	授業で学習したことを活かし、配布資料や参考文献を用いて復習する(30h)。											
	想定時間合計	45											
教科書	「教育臨床の実際 第2版」武内ら、ナカニシヤ出版(2018年)ISBN 9784779512810												
参考書	「生徒指導提要」文部科学省等												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		毎回のライティング	50%									
	最終テストまたはレポート	50%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	臨床心理士および公認心理師（渡辺亘・溝口剛）											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	支援専門機関における専門職および臨床心理士・公認心理師											
実務経験を いかした教 育内容	事例等を交えて講義することによって、より実践的な理解を促し、省察を深める。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030P514		福祉心理学 (Psychology for Social Welfare)					臨床心理学系		オンライン(同時双方向型、オンデマンド)						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択	2	4	福祉健康科学部	前期	金2	日本語		単独							
担当教員	氏名 志方亮介														
	E-mail r-shikata@oita-u.ac.jp 内線														
授業の概要	本科目では、公認心理師資格に求められる「福祉心理学」について対象者の心理社会的問題や理論を学ぶ。地域の共生社会実現に向けた包括的ケアを念頭に置き、障害者や虐待、高齢者、子育てや介護、災害等に関する諸問題について、対象者の特性や法制度、社会資源の活用を理解し、心理支援を主とする多職種連携に基づく支援を具体的に論じられるようになることを目標とする。なお、本科目においてはWebアンケートや動画教材等を用いたICT教育をはじめ、導入学生間のディスカッション等のアクティブラーニングに取り組む。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 福祉分野における心理支援の理論的背景を理解して説明できる															
目標2 福祉分野における要支援者の心理的背景を理解して説明できる															
目標3 福祉分野における心理支援の方法について理解して説明できる															
目標4 福祉分野において心理職が従事する施設や制度を理解して説明できる															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									5	5					
授業の内容															
1 福祉心理学の概説と本授業のオリエンテーション/学修成果について(評価方法および評価基準)															
2 福祉心理学における基礎知識の整理と法制度の理解															
3 発達障害への理解と支援															
4 身体障害への理解と支援															
5 知的障害および重度重複障害への理解と支援															
6 精神疾患への理解と支援															
7 子育てに関わる諸問題への理解と支援															
8 愛着形成および虐待への理解と支援															
9 社会的養護への理解と支援															
10 地域在住高齢者への理解と支援															
11 認知症高齢者への理解と支援															
12 貧困、ヤングケアラー、ひきこもり等の問題の理解と家族や支援者への支援															
13 災害時における心理学的支援への理解と支援															
14 地域包括支援に向けた多職種協働への理解															
15 福祉心理学における課題と今後の展開															
ラーニング	A:知識の定着・確認		授業内課題を通じた体験的ワークの実施、				工夫 その他	関連動画教材の活用、Webアンケートの利用							
	B:意見の表現・交換		感想アンケートによる疑問の整理、												
	C:応用志向		授業感想等の全体共有、												
	D:知識の活用・創造		授業内容に関するディスカッション												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		配布資料やインターネット、参考文献を用いた自主的な学習(15h)												
	事後学修		感想アンケートによる振り返りとレポート作成(10h) 教科書、インターネット、参考文献等を利用した授業内容に関する疑問点の整理と復習(20h)												
	想定時間合計		45												
教科書	授業の中で資料を配布する														
参考書	その他、各テーマに応じて随時授業時に紹介														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	試験（期末レポート）	60%										
	授業内容に関する小レポート	20%										
	授業に関する振り返りと感想アンケートへの回答	20%										
	授業の双方向性を確保するため毎授業後に感想および質疑のアンケートへの回答を求める											
注意事項	授業時のワークやディスカッションにおいては積極的な学生間の発信や工夫を求める											
備考	公認心理師要件科目											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	公認心理師 臨床心理士 発達相談機関における子育て支援、精神科における認知症病棟やデイケア、地域の療育活動 等での実務経験											
実務経験を いかした教 育内容	臨床経験に基づき、福祉領域に関する事例検討や心理技法による模擬体験を通じた対象者の心理学的理解と支援を学ぶ											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030S703		関係行政論 (Legal and Administrative Systems)					隣接領域系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	2年	福祉健康科学部	前期	水3	日本語			単独						
担当教員	氏名 遠矢 洋平 E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120														
授業の概要	保健医療分野,福祉分野,教育分野,産業・労働分野,司法・犯罪分野において,心理専門職として実務に携わる際に知っておくべき基本的な法制度の基礎知識を学ぶ。講義では,実際の事件を取り扱った番組等の映像を素材にしながら行う。これにより,社会で実際に起きている事柄が,法律によってどのように処理されているのか,法律にはどのような問題があるのか等を考えてもらう場としたい。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	心理専門職として知っておくべき基本的な法律や制度の基礎知識について説明できる														
目標2	司法分野の基本的な理念・手続きについて説明できる。														
目標3	司法分野における心理専門職の役割を理解し,説明できる。														
目標4	社会で実際に起きているトラブルや事件について法的思考ができるようになる。														
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							10								
授業の内容															
1	刑事事件(法律とは何か?刑事裁判と民事裁判の違い)														
2	刑事事件(捜査)														
3	刑事事件(模擬裁判その1)														
4	裁判傍聴														
5	刑事事件(えん罪事件)														
6	少年事件														
7	少年事件														
8	公認心理師法														
9	消費者問題														
10	保健医療分野に関係する法制度(医療法,医師法,精神保健福祉法,医療観察法など)														
11	教育分野に関係する法制度(教育基本法,いじめ防止対策推進法など)														
12	福祉分野に関係する法制度(生活保護法,児童福祉法,児童虐待防止法,離婚問題など)														
13	産業・労働分野に法関係する制度(労働基準法など)														
14	刑事事件(模擬裁判その2)														
15	まとめ														
ラーニング チェック シート グループ	A:知識の定着・確認	(A)講義の初めに,前回の講義の復習と質問に対する回答を行う予定です。				工 夫 そ の 他 の	実際の刑事裁判を傍聴する予定です。								
	B:意見の表現・交換	(B)講義中に随時質問や意見を受け付けます。学生の皆さんと意見交換をしていながら,法制度についての考えを深めていきたいと考えています。													
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	犯罪や裁判に関する新聞記事やニュース,ドラマや映画等に興味を持つ。(30h)													
	事後学修	法制度が何のためにあるのか,どのように使われているのかを考えながら生活する。(15h)													
	想定時間合計	45													
教科書	特にありません。必要に応じて資料を配付します。														
参考書	東野圭吾「手紙」文春文庫(2006)978-4-16-711011-6 東野圭吾「虚ろな十字架」光文社(2014)978-4-334-77466-0 西愛礼「冤罪 なぜ人は間違えるのか」(2024)978-4-797-68151-2														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	平常点		50%									
レポート		50%										
	平常点は、発表時の発言内容や講義に取り組む姿勢、出欠状況を考慮して判断します。											
注意事項	特にありません。											
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	弁護士											
実務経験を いかした教 育内容	弁護士業務における経験や知識をもとにして、各講義を行う（刑事裁判における弁護人の活動内容や、少年事件における付添人の活動内容など。）											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
H030S104		現代社会と福祉Ⅱ (Contemporary Society WelfareⅡ)					隣接領域系	オンライン(同時双方向型)								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択	2	1	福祉健康科学部	後期	木3	日本語		単独								
担当教員	氏名 志賀 信夫															
	E-mail nobu-shiga@oita-u.ac.jp 内線 7727															
授業の概要	本講義の目的は、社会福祉の理念および実践が社会の成熟と人権意識の高まりによって発展し、施策(制度)として形成された社会福祉を学習することにある。また、少子・高齢社会やグローバル化の進展によって、社会構造が大きく変動していきな、現代社会における社会福祉は、あらたな局面に直面している。本講義の第二の目的として、転換期にある日本社会の実態をグローバル化、ローカリズムの視点でとらえ、現代社会に希求される社会福祉の実践や施策を検討する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。								○	○						
目標2	現代社会における社会福祉制度・実践の潮流を説明できる。								○	○					○	
目標3	福祉サービスの供給と利用について理解する。									○	○					
目標4	福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。												○	○		
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							1	2	2	2	1	2				
授業の内容																
1	社会福祉の原理															
2	社会福祉の構成要素と過程① 社会福祉の構成要素															
3	社会福祉の構成要素と過程② 福祉政策の過程															
4	福祉政策の動向と課題① 福祉政策と包括的支援															
5	福祉政策の動向と課題② 多文化共生、多様性、SDGs															
6	福祉政策と関連施策① 保健医療政策、教育政策、住宅政策															
7	福祉政策と関連施策② 労働政策、経済政策															
8	福祉サービスの供給と利用過程① 福祉供給部門															
9	福祉サービスの供給と利用過程② 福祉供給過程 一公私(民)関係、再分配一															
10	福祉サービスの供給と利用過程③ 福祉供給過程 一市場、準市場、自治一															
11	福祉サービスの供給と利用過程④ 福祉供給過程 一社会開発、福祉開発一															
12	福祉サービスの供給と利用過程⑤ 福祉利用過程 一スティグマ、権力・情報の非対称性、シティズンシップ一															
13	福祉政策の国際比較① 国際比較の視点と方法															
14	福祉政策の国際比較② 脱商品化と福祉レジーム															
15	まとめ															
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	ミニッツ・ペーパー				工 夫 そ の 他 の	動画の活用。 時事問題を通じた理解の促進。								
	B:意見の表現・交換	○	グループワーク(議論・討論)													
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造	○														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	テキストや配布資料及び参考文献等から、用語の理解、法・制度、歴史的背景を学修する。(30h)														
	事後学修	テキストや配布資料及び、参考文献などを通じて復習し、学修した内容を深める。(30h)														
	想定時間合計	60														
教科書	適宜指示する。															
参考書	1. 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座4. 社会福祉の原理と政策』中央法規 (ISBN: 978-4-8058-8234-4)															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	期末試験	60%	○	○								
	レポート課題	40%	○	○	○							
注意事項	私語はひかえてください。											
備考	本科目は別府大学の学生も受講可能											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
H030S301		ソーシャルワークの基盤と専門職 (The Foundation of Social Work Profession)					隣接領域系	対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択	2	1年	福祉健康科学部	後期	火4	日本語		単独							
担当教員	氏名 河野洋子 E-mail kawano-youko@oita-u.ac.jp 内線 6098														
授業の概要	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解し、そのジレンマを考える。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ・意義・課題について述べることできる。														
目標2	ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について説明できる。														
目標3	ソーシャルワークの価値規範と倫理について述べ、自分なりの考えを付け加えることができる。														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							2	1	1	4	2				
授業の内容															
1	社会福祉士及び介護福祉士法・精神保健福祉士法、専門性、求められるコンピテンシー														
2	ソーシャルワークの概念														
3	ソーシャルワークの基盤となる考え方(1) 社会正義・人権尊重														
4	ソーシャルワークの基盤となる考え方(2) 多様性の尊重・集団的責任														
5	ソーシャルワークの基盤となる考え方(3) 当事者主権・尊厳の保持														
6	ソーシャルワークの基盤となる考え方(4) 権利擁護・アドボカシー・自立支援														
7	ソーシャルワークの基盤となる考え方(5) ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーション														
8	ソーシャルワークの倫理(1) 専門職倫理の概念														
9	ソーシャルワークの倫理(2) 倫理綱領														
10	ソーシャルワークの倫理(3) 倫理的ジレンマ														
11	ソーシャルワークの倫理(4) 倫理的ジレンマの考察														
12	ソーシャルワークの倫理(5) 倫理的ジレンマの考察														
13	ソーシャルワークの形成過程(1) 口頭発表														
14	ソーシャルワークの形成過程(2) 口頭発表														
15	まとめ														
ラーニング	A:知識の定着・確認	・教員の実務経験を活かした事例、映像教材を提供する。ペアディスカッション・口頭発表を通じて、能動的な学習を目指す。また、学生による資料作成と発表も取り入れ、知識の習得と定着を目指す。				工夫 その他	・学びの到達度を把握するために、毎回の講義終了後にショート・ライティングを課す。								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	次回のトピックについて調べ学習をする(15h) 口頭発表の準備をする(15h)													
	事後学修	ショートライティングを書くことで復習を行う(15h)													
	想定時間合計	45													
教科書	指定しない														
参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(編)『ソーシャルワークの基盤と専門職』(中央法規)2021年 ISBN978-4-8058-8241-2														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	口頭発表	30%										
	レポート	40%										
	試験	30%										
注意事項												
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	社会福祉士 児童相談所長（児童福祉司）											
実務経験を いかした教 育内容	児童相談現場の手法や事例等を用い、将来、実務者として役立つ知見の取得を念頭に授業を行います。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030S205		貧困に対する支援 (Social Support for Poverty)					隣接領域系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	2	福祉健康科学部	前期	木4	日本語			単独						
担当教員	氏名 志賀 信夫 E-mail nobu-shiga@oita-u.ac.jp 内線 7727														
授業の概要	本講義は、現代の貧困問題とそれに対する施策としての公的扶助の原理や、制度について学ぶことを目的とする。また、国民生活の安全網としての生活保護の問題・課題を検討することにある。そのため、まず、2000年代に入って社会的に注目された日本の貧困問題を分析し、その実態を理解する。次いで、救貧対策としての公的扶助の役割や原理を学ぶ。そのうえで、日本の生活保護制度の仕組みを学ぶとともに、運用場面における諸問題について検討を深める。以上、公的扶助の実態を踏まえることから、日本社会が直面する貧困問題を考える。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 「貧困問題」を分析する視点を修得する。															
目標2 公的扶助の実態を理解し、説明できる。															
目標3 生活保護制度の仕組みや実施体制を説明できる。															
目標4 貧困問題をふまえて生活保護の改革課題を提示することができる。															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									1	1	3	2	1	2	
授業の内容															
1 現代日本の貧困問題															
2 貧困の概念															
3 貧困の把握と測定															
4 戦前日本社会における国民生活と貧困問題															
5 戦後日本社会における国民生活の状況と社会保障の役割															
6 高度経済成長と公的扶助の展開															
7 日本の貧困問題と貧困対策の変化															
8 生活保護制度の成立と展開															
9 生活保護の目的と原理															
10 生活保護制度の仕組みと保護基準															
11 生活困窮の実態															
12 生活保護の実施体制と援助の方法															
13 生活保護の動向と特徴															
14 生活保護改革と生活困窮者自立支援制度															
15 まとめ															
ラーニング オブ オブ グ	A:知識の定着・確認		ミニッツ・ペーパー			工 夫 そ の 他 の	動画の活用。 時事問題を通じた理解の促進。								
	B:意見の表現・交換		グループワーク(議論・討論)												
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		参考文献や辞典、配布資料から、用語の理解、法制度、歴史的背景を予習する。(15h)												
	事後学修		配布資料及び、参考文献などを通じて復習し、学習した内容を深める。(30h)												
	想定時間合計		45												
教科書	指定しない。														
参考書	一般財団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)『最新社会福祉士養成講座4 貧困に対する支援』中央法規(ISBN : 978-4-8058-8247-4) 志賀信夫(2022)『貧困理論入門』堀之内出版(ISBN : 978-4-909237-65-1)														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	試験	60%										
	レポート	40%										
注意事項	講義では、ただ漫然と聞いていたり、知識を入れ込むだけでなく、自分の頭で理解し考えるようにしてください。また、受講生も私も講義に集中できる環境を保持するため、講義の迷惑になるような私語や受講態度はしないでください。											
備考												
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030S203		児童・家庭福祉 (Children, Young people and family welfare)					隣接領域系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択	2	2年	福祉健康科学部	前期	火4	日本語			単独							
担当教員	氏名 河野洋子 E-mail kawano-youko@oita-u.ac.jp 内線 6098															
授業の概要	こども・家庭福祉における理念、現状と課題、制度施策について理解を深め知識を学ぶ。一年次に学んだ「こども家庭ソーシャルワーク概論」と密接に関係しており、当該授業の周辺領域を幅広く扱う。特に、こども・家庭福祉の共通理念である「こどもの権利」の理解と権利保障のための実践・具体的方法について事例を通じて考える。この授業は、将来、職業人としてだけでなく、社会人、家庭人としても大切な学びの時間になる。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	こども・家庭福祉の理念、特に「こどもの権利」を理解し、説明できる。															
目標2	こども・家庭福祉の現状と課題、制度施策等について理解する。															
目標3	こども・家庭福祉の専門職として、実践に必要な倫理・知識・技術について理解し、説明できる。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							3	1	1	2	2	1				
授業の内容																
1	こども家庭福祉とは何か こどもの権利の考え方、経緯と歴史、こどもの権利に関する条約、ウェルフェアからウェルビーイングへ 意見表明等支援とアドボカシー															
2	こども家庭福祉の動向、こども家庭福祉の支援と基盤(1) 法体系、実施体制															
3	こども家庭福祉の支援と基盤(2) 関係機関・施設と利用方式、人材と専門職															
4	こども家庭福祉のソーシャルワーク実践(1) 概論、支援の端緒と調査															
5	こども家庭福祉のソーシャルワーク実践(2) アセスメント、支援の展開過程と連携															
6	こども家庭福祉の課題とソーシャルワーク実践(3) 児童虐待															
7	こども家庭福祉の課題とソーシャルワーク実践(4) 児童虐待															
8	こども家庭福祉の課題とソーシャルワーク実践(5) 社会的養護															
9	こども家庭福祉の課題とソーシャルワーク実践(6) 社会的養護、少年非行															
10	こども家庭福祉の課題とソーシャルワーク実践(7) ひとり親															
11	こども家庭福祉の課題とソーシャルワーク実践(8) 女性福祉															
12	こども家庭福祉の課題とソーシャルワーク実践(6) 教育															
13	こどもの福祉課題と支援(1) 口頭発表															
14	こどもの福祉課題と支援(2) 口頭発表															
15	まとめ															
ラーニング	A:知識の定着・確認	教員の児童相談所での実務経験を活かした事例、映像教材を提供する。				工夫その他の	大分県内の実践モデルを紹介する									
	B:意見の表現・交換	ペアディスカッション・口頭発表を通じて、能動的な学習を目指す。また、学生による資料作成と発表も取り入れ、知識の習得と定着を目指す。														
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	教科書に目をとおり、理解が難しい点を事前に調べる(15h) 資料を読み、口頭発表の資料作成等の準備をする(15h)														
	事後学修	学びの到達度を把握するため、毎回の講義終了後にショート・ライティングを課す(15h)														
	想定時間合計	45														
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『児童・家庭福祉(第2版)』中央法規, 2025年 ISBN978-4-8243-0155-0															
参考書	井上登生、河野洋子、相澤仁 「おおいたのこども家庭福祉」明石書店、2022年、ISBN978-4-7503-5435-4(講義中に適宜、関係する箇所(具体的な実践状況等)を紹介する)															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート	30%										
	口頭発表	30%										
	試験	40%										
注意事項	学習を進める中で、自分自身のこども時代に向き合うことが辛くなることもあるかもしれません。その場合は遠慮せず、担当教員に相談してください。											
備考	疑問が生じたら、その都度、質問してください。 【地域創生教育科目】											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	社会福祉士、児童相談所長（児童福祉司）											
実務経験を いかした教 育内容	児童相談現場の事例を活かした授業を行う。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030S204		障害者福祉 (Social work for people with disabilities)					隣接領域系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	2	2	福祉健康科学部	後期	火4	日本語			単独						
担当教員	氏名 滝口 真 E-mail makoto-takiguchi@oita-u.ac.jp 内線 6096														
授業の概要	障がい概念と特性を踏まえ、障がい児・者とその家族の「生活を包括的に支援する」という視点に立ち、障がい児・者を取り巻く社会環境について理解する。また、障がい児・者福祉の歴史と障がい観の変遷に加え、障がい児・者の法制度と「多職種連携による支援の仕組み」について理解する。さらに、障がい児・者に生じる生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる「知識、技能、価値」の修得および適切な支援のあり方を理解できる。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 障がい概念と特性について理解できる。															
目標2 障がい児者とその家族の生活実態とこれを取り巻く社会環境について「生活を包括的に支援する」視点について理解できる。															
目標3 障がい児者福祉の歴史と法制度および「関係機関と専門職」の役割について述べるができる。															
目標4 障がい児者とその家族等に対する支援の実際について、専門職としての「知識・技能・知識」について説明ができる。															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									3	2	2	3			
授業の内容															
1 障がい児者福祉を学ぶ事の意義、国際生活機能分類(ICF)と障害者の定義と特性(ICIDHからICF(構造)へ、身体・知的・精神・発達各障がい等)															
2 障がい児者の生活実態(地域移行、居住、就学・就労、高齢化、介護需要、障がい者の芸術・スポーツ等)															
3 障がい児者を取り巻く社会環境(バリアフリー、コンフリクト、障がい者虐待、親亡き後問題、きょうだいへの支援等)															
4 障がい児者福祉理念と障がい観の変遷及び障がい児者援助の変遷(ソーシャルインクルージョンまでの変遷、偏見と差別、障がい者関係法変遷、障がい児者の処遇史)															
5 障害者の権利条約と障害者基本法及び障がい児者福祉制度の発展過程(障害者権利条約の概要、障害者基本法の概要等)															
6 障害者総合支援法(障害者総合支援法概要、障がい者サービス及び相談支援、障害支援区分、自立支援医療、補装具、地域生活支援事業、障害福祉計画等)															
7 身体障害者福祉法と知的障害者福祉法(身体障害者福祉法と知的障害者福祉法の概要、身体障害者手帳と療育手帳、各福祉法に基づく措置等)															
8 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律と児童福祉法(精神保健福祉法概要・入院形態と処遇、対象手帳、児童福祉法の障害児支援概要、発達・家族・地域支援等)															
9 発達障害者支援法と障害者虐待防止法(発達障害者支援法概要、発達障害者支援センターの役割、障害者虐待防止法概要、障がい者虐待未然防止、通報義務、早期発見等)															
10 障害者差別解消法の概要と高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー法)の概要(合理的配慮、施設設置管理者等の責務)															
11 障害者雇用促進法の概要と国等による障害者就労施設等からの物品等に関する法律(事業主の責務、法定雇用率、障害者優先調達推進法の概要、障害者就労施設等)															
12 障がい児者と家族等の支援における関係機関の役割(国・都道府県・市町村、障害者に対する法制度に基づく施設・事業所、特別支援学校、ハローワーク等)															
13 障がい児者と家族に関連する専門職等の役割(医師・看護師等、相談支援専門員・サービス管理責任者等、ピアサポーター、SSW、住民・ボランティア等)															
14 障がい領域における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割並びに障がい者と家族等に対する支援の実際(多職種連携)(地域相談支援、就労支援、居住支援等)															
15 これからの障がい児・者福祉における全体総括と展望															
ラーニング	A:知識の定着・確認	レポート等の学習成果物を作成して下さい。グループによる意見交換を行います。授業の最後に質問の時間を設けます。疑問に感じた事項や質問内容をノートに記載し質問します。				工夫 その他	講義のポイントについて適宜、意見を求める。 講義のテーマに関する資料を別途配布する。								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	テキストおよび配布資料を精読し、理解が難しい用語を事前に調べておきましょう(20h)。													
	事後学修	授業で学習した内容を振り返るために小テストおよび配布資料を用いて復習を行いましょう(25h)。													
	想定時間合計	45													
教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 共通科目 『障害者福祉』』。<第2版>中央法規出版。2021年。ISBN 978-4-8243-0151-2。(各自で必ず<第2版>の最新版を準備下さい。)														
参考書	渡部昭男。『障害のある子の就学・進学ガイドブック』(改訂新版)。青木書店。2022年(講義中に適宜必要な箇所を単元に応じて紹介します。) 滝口 真・福永良逸共編著。『障害者福祉論 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』,法律文化社,2010年(講義中に適宜必要な箇所を単元に応じて紹介します。)														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート	20%										
	発表報告	10%										
	期末テスト	70%										
注意事項	席は間隔をあけてソーシャルディスタンスに心がけましょう。											
備考	疑問などが生じたら、その都度、質問して下さい。積極的な参加を期待しています。											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030S208		刑事司法と福祉 (Criminal Justice and Welfare)					隣接領域系		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択	2	2	福祉健康科学部	後期	他	日本語			オムニバス							
担当教員	氏名 黒木 晃平、小白川 類、石田 圭、御手洗 和也 E-mail fukusigakumu@oita-u.ac.jp 内線 6120															
授業の概要	かねてより犯罪の社会因子は認識されているが、近年はこれへの着目が強くなり、いわゆる懲罰・矯正だけでなく「支援」が求められている。本講義では、犯罪の社会因子の理解を土台にして、各種の具体的支援について広く取り扱う。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを説明できる。																
目標2 刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について説明できる。																
目標3 刑事司法の制度に関わる関係機関などの役割について説明できる。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									7	3						
授業の内容																
1 刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境「 」(犯罪の動向等について)(黒木)																
2 刑事司法(刑事訴訟法 刑事訴訟外観、刑事手続きの流れ、刑事裁判にかかわる関係機関、刑事施設内での処遇)(小白川)																
3 刑事司法(刑事訴訟法 身体の拘束、接見交通権、自白法則)(小白川)																
4 刑事司法(刑法総論 刑法の基本原則、体系論、犯罪の成立要件・刑罰)(小白川)																
5 刑事司法(刑法総論 実行行為性、未遂犯、因果関係、故意)(小白川)																
6 刑事司法(刑法総論 違法性、責任)(小白川)																
7 刑事司法(刑法総論 共犯、刑法各論 財産犯1)(小白川)																
8 刑事司法(刑法各論 財産犯2、社会的法益に対する罪)(小白川)																
9 刑事司法(刑法各論 国家的法益に対する罪)(小白川)																
10 少年司法(少年法の基本原則、非行少年に対する手続き、少年鑑別所、少年院での処遇、児童福祉法による措置)(小白川)																
11 刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境「 」(地域生活定着促進事業、刑事司法における福祉の役割等について)(石田)																
12 更生保護制度「 」(制度の概要と福祉の役割等について)(石田)																
13 更生保護制度「 」(更生保護施設、自立準備ホーム、保護司等との連携について(事例による説明))(黒木)																
14 犯罪被害者支援/医療観察制度(被害者支援の状況/医療観察の状況について)(御手洗)																
15 刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境「 」(刑事司法と福祉の連携、地域連携等について(事例による説明))(御手洗)																
ラーニングチェックシート	A:知識の定着・確認	講義で扱う事例の多くは、実際の担当ケースに基づくものであり、「自分だったらどのような支援をするのか」について、逐次発言を求める。														
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	刑事司法に関わる参考文献や配布資料等の情報を必要に応じて予習、例えば非行に至った同級生等、触法行為をしたケースをプライバシーに留意しメモ書きを作成(15h)。														
	事後学修	配布資料を用いた復習や犯罪者家族の苦悩等に関する文献学習(講義内で資料を準備します)(30h)														
	想定時間合計	45														
教科書	使用しない。 授業中に配布するプリント等を使用する。															
参考書	なし															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		課題レポート	100%									
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	社会福祉士、精神保健福祉士、弁護士											
実務経験を いかした教 育内容	地域生活定着支援センターでの矯正施設出所者等の自立支援等を通じた知識・経験をいかして授業を行う。 弁護士として刑事弁護に携わった知識・経験を活かして授業を行う。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
H020P701		精神疾患とその治療 (Mental Illness and Its Treatment)					隣接領域系	オンライン(同時双方向型)							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択	2	3年	福	前期	木5	日本語		オムニバス							
担当教員	氏名 河野健太郎、平川博文、井上綾子、泉寿彦、室長祐彰、駄阿優子、佐藤盛暁 E-mail kentarakohno@oita-u.ac.jp 内線 5823														
授業の概要	精神医学では、精神疾患の成因や症状、治療に関する内容を学ぶ。本講では、精神医学の歴史や診断法・症状評価、主たる精神障害をみていくことにする。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	精神医学の総論を理解し、説明することができる。														
目標2	精神症状・状態像の理解と診断法について学び、説明することができる。														
目標3	精神科における代表的な疾患を理解し、説明することができる。														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							8	2							
授業の内容															
1	精神医学概論(精神医学・医療の歴史、精神現象の生物学的基礎)														
2	精神障害の理解(精神障害の概念、精神疾患の診断分類)														
3	精神疾患の症状と診断、検査														
4	代表的な疾患とその症状、経過、予後(器質性精神障害)														
5	代表的な疾患とその症状、経過、予後(精神作用物質による精神および行動の障害)														
6	代表的な疾患とその症状、経過、予後(統合失調症)														
7	代表的な疾患とその症状、経過、予後(気分障害)														
8	代表的な疾患とその症状、経過、予後(神経症性障害・生理的障害・パーソナリティ障害)														
9	代表的な疾患とその症状、経過、予後(知的障害・発達障害)														
10	代表的な疾患とその症状、経過、予後(小児期・青年期の行動および情緒の障害)														
11	精神疾患の治療														
12	精神医療の動向														
13	精神科医療機関における治療														
14	精神科治療における人権擁護、精神保健福祉士の役割														
15	精神医療と保健、福祉の連携の重要性														
ラーニング	A:知識の定着・確認	適宜、質問やミニディスカッションなどを通し積極的に学生が考え学ぶことができるようにする。				工	そ	の	他	の					
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	必要に応じて教科書を読み、予習をする(15h)。													
	事後学修	授業で学習したことを復習する(30h)。													
	想定時間合計	45													
教科書	最新精神保健福祉士養成講座『1 精神医学と精神医療』(中央法規出版、2021年) ISBN 978-4-8058-8252-8														
参考書	太田保之・上野武治編『学生のための精神医学』(医歯薬出版、2014年) ISBN978-4-263-23591-1														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		学期末試験	90%									
	授業への参加の積極度	10%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	附属病院の医師											
実務経験を いかした教 育内容	種々の精神疾患の原因・症状・検査・診断・治療法や、精神疾患にまつわる歴史、法律、仕組みなどについて講義する											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
H040S220		現代の精神保健の課題と支援 (Contemporary Mental Health Issues and Support I)					隣接領域系	オンライン(同時双方向型)							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択	2	3年	福祉健康科学部	前期	火1	日本語		単独							
担当教員	氏名 堤 隆 E-mail tsutsumi@oita-u.ac.jp 内線 7477														
授業の概要	精神保健では、「心の健康の維持」と「心の病気の予防」に関する内容を学ぶ。 本講では、「心の健康」と「心の危機」についての心理社会的側面をみていくことにする。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1 「心の健康」「心の危機」「心の病気」について理解できる															
目標2 ライフサイクルごとの「心の問題」について学ぶことができる															
目標3 家庭や職場などの環境ごとの「心の問題」について学ぶことができる															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							10								
授業の内容															
1 精神保健の概要															
2 精神保健の歴史・課題															
3 乳幼児期・学童期のメンタルヘルス															
4 思春期・青年期のメンタルヘルス															
5 成人期・老年期(高齢者)のメンタルヘルス															
6 ストレスと心の病気															
7 精神の健康															
8 精神の健康への関与と支援															
9 家庭におけるメンタルヘルス(1)															
10 家庭におけるメンタルヘルス(2)															
11 学校におけるメンタルヘルス(1)															
12 学校におけるメンタルヘルス(2)															
13 職場におけるメンタルヘルス(1)															
14 職場におけるメンタルヘルス(2)															
15 まとめ															
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認		学修成果物の作成			工 夫 そ の 他 の									
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		テキストを事前に読んでおく(23h)												
	事後学修		教材を用いて復習する(23h)												
	想定時間合計		46												
教科書		一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟.最新・精神保健福祉士養成講座2「現代の精神保健の課題と支援」(中央法規)2021 ISBN:978-4-8058-8253-5													
参考書		尾崎紀夫 標準精神医学 第9版 (医学書院)2024 ISBN:978-4-260-05334-1													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	学修成果物	70%										
総合的に評価する	30%											
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
H040S221	現代の精神保健の課題と支援 (Contemporary Mental Health Issues and Support II)					隣接領域系	オンライン(同時双方向型)							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択	2	3年	福祉健康科学部	後期	月2	日本語		単独						
担当教員	氏名 堤 隆 E-mail tsutsumi@oita-u.ac.jp 内線 7477													
授業の概要	精神保健では、「心の健康の維持」と「心の病気の予防」に関する内容を学ぶ。 本講では、心の病気の予防やケアについて検討する。													
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	
目標1	「統合失調症」「アルコール依存症」「認知症」などの精神障害について理解できる													
目標2	こうした精神障害の予防やケアについて学ぶことができる													
目標3	国内外の精神医療や精神保健について概観することができる													
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)							10							
授業の内容														
1	統合失調症(1)													
2	統合失調症(2)													
3	発達障害者に対する対策													
4	アルコール問題に対する対策													
5	薬物依存対策													
6	うつ病と自殺防止対策													
7	認知症高齢者に対する対策(1)													
8	認知症高齢者に対する対策(2)													
9	社会的ひきこもり、ニート、ホームレス													
10	災害時の精神保健													
11	精神保健福祉士、性同一性障害													
12	ターミナルケアと精神保健													
13	地域精神保健の概要													
14	世界の精神保健													
15	講義内容全体についての討論													
ラ	A:知識の定着・確認	学修成果物の作成				工	そ	の	他	の				
イ	B:意見の表現・交換													
ク	C:応用志向													
ニ	D:知識の活用・創造													
テ														
ン														
グ														
プ														
授業時間外	準備学修	テキストを事前に読んでおく(23h)												
学修の内容	事後学修	教材を用いて復習する(23h)												
と想定時間	想定時間合計	46												
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟・最新・精神保健福祉士養成講座2「現代の精神保健の課題と支援」(中央法規)2021 ISBN:978-4-8058-8253-5													
参考書	尾崎紀夫 標準精神医学 第9版 (医学書院)2024 ISBN:978-4-260-05334-1													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	学修成果物	70%										
	総合的に評価する	30%										
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
H030P603		臨床実践職能論(公認心理師の職責) (Lecture on professional ability of clinical psychology practice (Professionalism of Licensed Psychologists))					実践職能系		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択	2	3	福祉健康科学部	前期	木3	日本語	英語	単独							
担当教員	氏名 渡辺 亘 E-mail wwata@oita-u.ac.jp 内線 7585														
授業の概要	心理職(公認心理師等)の職能発達の根幹を培うために、職務に関する基礎知識について広く学ぶ。あわせて、現代社会で特に必要となる役割や活動についても考える。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1 心理職の使命や職責、活動のねらい、基本的理念について理解し、説明できる。															
目標2 心理職の具体的な業務や役割、またそれらを遂行するために必要な視点、知識、心構え、技能等について理解し、説明できる。															
目標3 現在の自分と関連づけ、今後必要な学びや取り組むべき課題について明確にできる。															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									2	1	2	2	1	2	
授業の内容															
1 心理職の役割															
2 心理職の専門性と心理支援の独自性															
3 心理職と心理支援の歴史															
4 心理職(公認心理師等)の法的義務・倫理															
5 クライアント/患者等の安全確保															
6 情報の適切な取り扱い															
7 分野・領域ごとの具体的な業務															
8 臨床素材に触れる(1)															
9 臨床素材に触れる(2)															
10 臨床素材に触れる(3)															
11 自己課題発見・解決能力															
12 生涯学習への準備															
13 他職種連携・地域連携															
14 心理支援の課題と心理職の今後の展開															
15 まとめ															
ラーニング	A:知識の定着・確認	・ライティングにより、省察と言語化を促し、学びの深化をはかる。				工夫 その 他の	・視聴覚教材を用いて具体的な学びを進める。								
	B:意見の表現・交換	・討議等により、主体的で共同的な学びを促す。													
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	参考書等により次回の講義でとりあげるテーマについての予習を行う(20h)。													
	事後学修	配布資料等を利用して復習する。文献等により関連する知識を習得する(25h)。													
	想定時間合計	45													
教科書	資料を配布する。														
参考書	公認心理師の基礎と実践 第一巻 公認心理師の職責(野島他 遠見書房)(2018年)ISBN9784866160511 心理臨床家の手引き 第四版(鐘他 誠信書房)(2019年)ISBN978414416435														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	レポート課題	70%										
	討議への積極的参加	30%										
	レポート課題、発表、ディスカッションへの積極的参加を総合して評価を行う。											
注意事項	2020年度以後の入学生は選択、それ以前の入学生は必修となる。											
備考	なし 【地域創生教育科目】											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	公認心理師、臨床心理士											
実務経験を いかした教 育内容	臨床心理学的支援の概要、心理職の職能についてとりあげる。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式				
H030P601		実践領域実習 (心理実習A) (Practical Training in Psychology I (Practical Training in Psychology A)) *大分を創る科目(Oita Development Course)					実践職能系	対面				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態				
選択(2020年度以降の入学学生対象)	1	2	福祉健康科学部	通年	他	日本語		複数(共同)				
担当教員	氏名 渡辺亘・溝口剛・河野伸子・村上裕樹・池永恵美・中里直樹・志方亮介・古長紗恵・増田成美 E-mail m-ikenaga@oita-u.ac.jp 内線 6107											
授業の概要	実際に福祉領域、医療領域における支援の現場に出向き、社会の中でさまざまな背景を抱えている人々の実情および支援の現状を知り、心理学の専門性を学ぶ上での問題意識を育てる。さらに、実習活動を通じて、現実社会の多様なあり方にふれながら、人間性への理解と相互援助について体験的に学ぶ。											
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)					
目標1	さまざまな事情を抱えた人々に関わる福祉現場、医療現場の現状を知り、多様な専門職が連携・協働している姿を説明できる。					1	2	3	4	5	6	7
目標2	実習を通じて、さまざまな事情を抱えた人々についての理解を深め、関わり方についての体験的な学びを表現できる。											
目標3	実習を通じて、多様な人々と共生する意識と能力を磨くとともに、心理学の専門性を深める上での自らの問題意識を説明できる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)							3	4	3			
授業の内容												
1	オリエンテーション											
2	医療領域見学実習1(大分県こころとからだの相談支援センター)											
3	医療領域見学実習2(大分こども療育センター、帆秋病院)											
4	福祉領域実習:事前訪問											
5	福祉領域実習1:入所児童などへのメンタルフレンド活動。福祉施設の実習形態は、各施設により異なる。											
6	福祉領域実習2(児童相談所・児童養護施設・母子生活支援施設・放課後等デイサービス)											
7	福祉領域実習3(児童相談所・児童養護施設・母子生活支援施設・放課後等デイサービス)											
8	福祉領域実習4(児童相談所・児童養護施設・母子生活支援施設・放課後等デイサービス)											
9	福祉領域実習5(児童相談所・児童養護施設・母子生活支援施設・放課後等デイサービス)											
10	福祉領域実習6(児童相談所・児童養護施設・母子生活支援施設・放課後等デイサービス)											
11	福祉領域実習7(児童相談所・児童養護施設・母子生活支援施設・放課後等デイサービス)											
12	福祉領域実習8(児童相談所・児童養護施設・母子生活支援施設・放課後等デイサービス)											
13	福祉領域実習9(児童相談所・児童養護施設・母子生活支援施設・放課後等デイサービス)											
14	福祉領域実習10:施設報告会											
15	最終報告会											
ラック	A:知識の定着・確認	福祉領域 実習では、実際に困りを抱えた子どもたちと直接関わることで、講義等で学んだ知識の体験的理解を深めるとともに、子どもたちへの適切な関わり方や支援の方法についても実践的に学べるよう指導している。					工	そ	実習体験の理解が進むように事前学習(反転学習)を行う。			
クニ	B:意見の表現・交換						夫	の				
ン	C:応用志向											
グ	D:知識の活用・創造											
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	「実践領域実習のしおり」を熟読すること。 各施設実習の前に事前学習を行い、レポートを提出する。(10h)										
	事後学修	福祉領域実習後は、毎回、活動時間、活動内容、かわりや理解などを記載した「活動報告書」を施設と担当教員に提出する。 医療機関見学実習後および福祉領域実習施設報告会終了後1週間以内にレポートを提出する。 最終報告会で実習体験発表を行う。(13h)										
	想定時間合計	23										
教科書	「実践領域実習のしおり」を熟読すること。 その他、必要な文献等は実習において指示する。											
参考書	実習において指示する。											

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		全日程出席および全てのレポート提出	50%									
	活動報告書ならびに最終レポート	50%										
	オリエンテーション、実習への参加、活動報告書などの提出課題、最終報告会での様子などによって、実習先の施設職員と担当教員の複数で評価を行う。											
注意事項	履修には条件があるので、履修の手引きをよく読むこと。実習中に生じた様々な問題に対応する際には、適宜、施設スタッフに報告して指示を仰ぐ、担当教員に相談する、他の実習生に相談するなど、積極的に対応を考えること。											
備考	公認心理師資格要件科目。 全体で45時間以上の活動を目安とする。 2020年度以前の入学生（必修）は「実践領域実習（福祉・医療）」を受講すること											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	臨床心理士（渡辺亘、溝口剛、河野伸子、池永恵美、飯田法子、古長紗恵、増田成美、志方亮介）											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	臨床心理士・公認心理師											
実務経験を いかした教 育内容	医療領域見学実習、福祉領域実習ともに、多様な専門職が連携・協働して支援にあたっている。学生は、実習を通じて、体験的な問題意識を養うことができ、現場の専門職から仕事に対する姿勢や具体的ななかかわりの仕方を学ぶことができる。また、担当教員に臨床心理士有資格者が多いことから、学生が実習体験で見出した困りや疑問に対しても、実務経験に基づいた具体的な考え方や理解、対応の仕方について提案することが可能である。											

ナンバリング	H030P602					実践領域実習 (心理実習B) (Practical Training in Psychology II (Practical Training in Psychology B)) *大分を創る科目(Oita Development Course)	区分・【新主題】/(分野) 実践職能系	授業形式 対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択(2020年度以降の入学 生対象)	1	3	福祉健康科学 部	通年	他	日本語		複数(共同)						
担当 教員	氏名 渡辺亘・溝口剛・河野伸子・村上裕樹・池永恵美・中里直樹・志方亮介・古長紗恵・増田成美 E-mail m-ikenaga@oita-u.ac.jp 内線 6107													
授業 の 概 要	実際に教育領域、司法矯正領域における支援の現場に出向き、さまざまな課題や困難を抱えた人々の現状を知り、問題意識を育てる。さらに施設や関係者の取り組みについて体験的に学びながら、心理学の専門性を学ぶ上での視点を涵養し、実践者としての基本的資質を身につける。													
具体的到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	
目標1	各領域において課題や困難を抱えた人々の現状ならびに支援(指導)の実態について説明できる。													
目標2	各領域において課題や困難を抱えた人々に対する理解を深め、援助的関わりについて体験的に学んだことを説明できる。													
目標3	実習体験を通じて、実践者としての基本的資質を身につけると同時に、それらを説明することができる。													
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)							3	7						
授業の内容														
1 全体オリエンテーション														
2 教育領域実習1(各施設オリエンテーション)														
3 教育領域実習2(不登校児キャンプ,教育支援センター,自立支援施設分校)														
4 教育領域実習3(不登校児キャンプ,教育支援センター,自立支援施設分校)														
5 教育領域実習4(不登校児キャンプ,教育支援センター,自立支援施設分校)														
6 教育領域実習5(不登校児キャンプ,教育支援センター,自立支援施設分校)														
7 教育領域実習6(不登校児キャンプ,教育支援センター)														
8 教育領域実習7(不登校児キャンプ,教育支援センター)														
9 教育領域実習8(不登校児キャンプ,教育支援センター)														
10 教育領域実習9(不登校児キャンプ,教育支援センター)														
11 司法矯正領域実習1(家庭裁判所)														
12 司法矯正領域実習2(少年鑑別所)														
13 司法矯正領域実習3(少年院)														
14 司法矯正領域実習4(保護観察所)														
15 最終報告会														
ラ イ ク ニ テ イ グ ブ	A:知識の定着・確認	教育領域実習では、実際に困りを抱えた子どもたちと直接関わることに よって、講義等で学んだ知識の体験的理解を深めるとともに、子どもた ちへの適切な関わり方や支援の方法についても実践的に学べるよう指導 している。					工 夫 そ の 他 の	実習体験の理解が進むように事前学習(反転学習)を行う。						
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	「実習のしおり」ならびに施設に関連する資料を熟読しておくこと。 各施設実習の前に事前学習を行い、レポートを提出する。(10h)												
	事後学修	実習参加後は、毎回、活動内容、意見・感想などを記載した「活動報告書」を実習先と担当教員に提出する。各施設の実習終了後には最終レポ ートを提出する。最終報告会では実習体験発表を行う。(13h)												
	想定時間合計	23												
教科書	「実践領域実習のしおり」を熟読すること。 その他、必要な文献等は実習において指示する。													
参考書	実習において指示する。													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		定められた時間数以上の実習参加	50%									
	活動報告書ならびに最終レポート	50%										
注意事項	履修には条件があるので、履修の手引きをよく読むこと。実習中に生じた様々な問題に対応する際には、適宜、施設スタッフに報告して指示を仰ぐ、担当教員に相談する、他の実習生に相談するなど、積極的に対応を考えること。											
備考	公認心理師資格要件科目。 全体で45時間以上の活動を目安とする。 【地域創生教育科目】 2020年度以前の入学生は必修科目「実践領域実習（教育・司法）」を登録・受講すること											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	臨床心理士、公認心理師（渡辺亘、溝口剛、河野伸子、池永恵美、飯田法子、古長紗恵、・増田成美・志方亮介）											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	臨床心理士、公認心理師、学校教諭（指導主事、社会教育主事など）、家庭裁判所調査官、法務技官、法務教官、保護観察官											
実務経験を いかした教 育内容	困りを抱えた子どもたちの理解や関わり方について、また、学生たちが実習中に抱いた困りや疑問に対して、有資格者の教員や指導者が専門性や実務経験を活かした助言等を行う。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
H030P801		心理学特別研究 (Advanced Study in Psychology)					基礎研究科目		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	2	3年	福祉健康科学部	後期	他	日本語	英語	複数(共同)								
担当教員	氏名 渡辺亘・溝口剛・河野伸子・村上裕樹・池永恵美・飯田法子・中里直樹・古長紗恵・増田成美・志方亮介 E-mail m-ikenaga@oita-u.ac.jp 内線 6107															
授業の概要	ゼミごとに心理学的研究における問題・目的の構成から、データ収集、データ処理、考察に至る一連のプロセスを体験し、心理学の方法論全般を体系的に理解し、心理学的な課題の解決に主体的に取り組む態度を育成する。この学習を通じて、現代社会やそこに生きる人間の問題を心理学的な視点から理解し、研究へとつなげる基礎を身につける。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	心理学的な問題意識を論理的に構成し、文章化できる。															
目標2	研究目的に合致したデータ収集法・データ処理法を選択し実践できる。															
目標3	得られた結果を適切に考察できる。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							5			5						
授業の内容																
1	心理学研究法の展開編の概論															
2	研究課題のための文献レビュー															
3	研究課題のための文献レビュー															
4	研究課題と仮説設定															
5	方法論全般の設計															
6	測定と数量化の計画															
7	質問紙等の作成															
8	データの収集															
9	データの収集															
10	データ処理の実際 - データファイルの作成															
11	データ処理の実際 - 統計処理															
12	結果の読み取りと図表化															
13	結果の文章化															
14	考察の観点と文章化															
15	まとめ															
ラーニング	A:知識の定着・確認	研究法に関する能動的な調べ学習とグループ・ディスカッションを活用して、学生の動機づけを高め、卒業論文を意識した深い学びに導く。					工夫	その他の								
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	研究法等に関する能動的な調べ学習を行い、発表資料を作成する。(15h)														
	事後学修	発表とグループ・ディスカッションで学んだことを活かし、参考文献等を用いてさらなる課題探究を行う。(30h)														
	想定時間合計	45														
教科書	各ゼミにおいて指示する。															
参考書	各ゼミにおいて指示する。 また、適宜、プリント資料を配布する。															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		調べ学習の成果発表	60%									
	ディスカッションへの参加	40%										
注意事項	令和2年度（2020年度）以降入学生対象科目											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務経験	臨床心理士・公認心理師（渡辺巨・溝口剛・河野伸子・池永恵美・飯田法子・古長紗恵・増田成美・志方亮介）											
実務経験を いかした教 育内容	各教員の専門性や実務経験を活かして、学生の興味関心を活かしたテーマや実践的（臨床的）なテーマを指導できる。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式
H030P802		卒業課題研究 (Graduation Research Project I)					基礎研究科目	対面
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
必修	2	4年	福祉健康科学部	前期	他	日本語	英語	複数(共同)
担当教員	氏名 渡辺亘・溝口剛・河野伸子・村上裕樹・池永恵美・中里直樹・古長紗恵・増田成美・志方亮介 E-mail iida-noriko@oita-u.ac.jp 内線 6114							
授業の概要	卒業論文で取り上げる研究テーマを心理学研究へと具体化していく過程で必要となる知識, 研究手法, 基礎技術の習得を目的とする。ゼミごとに演習形式で行う。							
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7
目標1	文献検索, 資料収集の方法に習熟し, 当該領域の研究動向をまとめることができる。							
目標2	それぞれの問題意識を心理学研究にまで立案することができる。							
目標3	研究目的に応じたデータ収集方法とデータ処理法を選択し, 研究実施計画を提案できる。							
目標4								
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
各DPへの関連度(計10)							5	5
授業の内容								
1	卒業論文にむけたオリエンテーション							
2	卒業論文テーマ設定のための文献レビュー1							
3	卒業論文テーマ設定のための文献レビュー2							
4	卒業論文テーマの設定と仮説の検討							
5	方法論ならびに要因計画等の検討							
6	分析方法の検討							
7	質問紙等の作成							
8	まとめ							
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
ラーニング	A:知識の定着・確認	能動的な調べ学習とゼミでの発表・ディスカッションを通して, 卒業論文における研究テーマを設定し, 研究目的と研究計画を明確化する。					工夫	その他の
	B:意見の表現・交換							
	C:応用志向							
	D:知識の活用・創造							
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	研究テーマに関する能動的な調べ学習を行い, ゼミでの発表資料を作成する。(15h)						
	事後学修	ゼミでの発表ならびにディスカッションをふまえて, さらなる文献レビューを行い, 研究目的と研究計画を精緻化する。(30h)						
	想定時間合計	45						
教科書	教科書は指定しない。 必要な資料・文献は各ゼミにおいて指示する。							
参考書	参考書は指定しない。 必要な資料・文献は各ゼミにおいて指示する。							

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		ゼミでの研究発表	70%									
	ディスカッションへの積極的参加	30%										
注意事項	無し											
備考	無し											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	臨床心理士・公認心理師（渡辺巨・溝口剛・河野伸子・池永恵美・古長紗恵・増田成美・志方亮介）											
実務経験を いかした教 育内容	各教員の専門性や実務経験を活かして、学生の興味関心を活かしたテーマや実践的（臨床的）なテーマを指導できる。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式
H030P803		卒業課題研究 (Graduation Research Project II)					基礎研究科目	対面
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
必修	2	4年	福祉健康科学部	後期	他	日本語	英語	複数(共同)
担当教員	氏名 渡辺亘・溝口剛・河野伸子・村上裕樹・池永恵美・中里直樹・古長紗恵・増田成美・志方亮介 E-mail iida-noriko@oita-u.ac.jp 内線 6114							
授業の概要	卒業論文作成において実施した調査や実験から得られたデータの扱い方(量的検討, 質的検討など), 結果のまとめ方, 考察の仕方など, 論文作成の方法に関する知識と技能を習得することを目的とする。ゼミごとに演習形式で行う。							
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7
目標1	それぞれの研究データに対して適切な処理を実施することができる。							
目標2	研究データの処理から適切に研究結果を導くことができる。							
目標3	研究結果に基づき論理的な考察を行うことができる							
目標4								
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
各DPへの関連度(計10)							5	5
授業の内容								
1	1 卒論作成にむけたオリエンテーション							
2	2 データの収集1							
3	3 データの収集2							
4	4 データの処理の実際 1- データファイルの作成							
5	5 データの処理の実際 2- 統計処理など							
6	6 結果の読み取りと図表化							
7	7 結果の文章化							
8	8 考察の観点と文章化							
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
ラーニング	A:知識の定着・確認	実際に実験・調査等を実施し, データを収集・処理し, 結果をゼミで発表する。ゼミでのディスカッションを通して考察の観点を設定し, 論文化する。					工夫	その他の
	B:意見の表現・交換							
	C:応用志向							
	D:知識の活用・創造							
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	実験・調査等を実施し, データを収集・処理し, ゼミでの発表資料を作成する(15h)。						
	事後学修	ゼミでのディスカッションをふまえて考察の観点を設定し, 論文化の作業を行う(30h)。						
	想定時間合計	45						
教科書	教科書は指定しない。 必要な資料・文献は各ゼミにおいて指示する。							
参考書	参考書は指定しない。 必要な資料・文献は各ゼミにおいて指示する。							

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		ゼミでの研究発表	70%									
	ディスカッションへの積極的参加	30%										
注意事項	無し											
備考	無し											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	臨床心理士・公認心理師（渡辺巨・溝口剛・河野伸子・池永恵美・古長紗恵・増田成美・志方亮介）											
実務経験を いかした教 育内容	各教員の専門性や実務経験を活かして、結果の読み取りや考察の観点の設定について、より実践的に指導できる。											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
H030P804	卒業研究 (Research for Graduation Thesis)					基礎研究科目	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	4	4年	福祉健康科学部	後期	他	日本語	英語	複数(共同)					
担当教員	氏名 渡辺亘・溝口剛・河野伸子・村上裕樹・池永恵美・中里直樹・古長紗恵・増田成美・志方亮介 E-mail iida-noriko@oita-u.ac.jp 内線 6146												
授業の概要	各学生の問題意識が心理学研究として卒業論文に結実するよう、卒業論文執筆計画ならびに進め方に関する指導を中心に行う。具体的には、問題・目的(問題意識、概念定義、先行研究のレビュー、研究仮説を立てるなど)、方法(対象者、材料、手続き、独立変数、従属変数など)、結果、考察等の執筆を通して卒業論文を完成させる。また、全体発表会で研究成果を発表する。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	
目標1	研究結果に基づいて卒業論文を執筆できる。												
目標2	研究によって得られた成果を発表できる。												
目標3													
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						5			5				
授業の内容													
1	卒業論文執筆に向けた概論												
2	問題意識の明確化1												
3	問題意識の明確化2												
4	先行研究の精査1												
5	先行研究の精査2												
6	研究目的の設定1												
7	研究目的の設定2												
8	研究仮説の検討												
9	対象者の検討												
10	手続き・要因計画等の検討1												
11	手続き・要因計画等の検討2												
12	分析方法の検討												
13	倫理的問題の精査												
14	質問紙等の作成1												
15	質問紙等の作成2												
16	データの収集1												
17	データの収集2												
18	データの処理1												
19	データの処理2												
20	結果の読み取りと図表の作成												
21	結果の文章化												
22	考察の観点の検討1												
23	考察の観点の検討2												
24	卒業論文の執筆1												
25	卒業論文の執筆2												
26	卒業論文の執筆3												
27	卒業論文の執筆4												
28	卒業論文発表会1												
29	卒業論文発表会2												
30	卒業論文発表会3												
ラーニング	A:知識の定着・確認	能動的調べ学習、ゼミでのディスカッション、実際の調査、結果の分析等をふまえて卒業論文を執筆し、得られた成果を卒論発表会で発表する。					工	そ	の	他	の		
	B:意見の表現・交換												
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	当初の問題意識にしたがって、先行研究のレビューや問題設定、研究目的・研究計画の立案、調査の実施、結果の分析などを能動的に行う(45h)。										
	事後学修	能動的調べ学習や調査によって得られた成果を文章化し、論文を執筆する(45h)。										
	想定時間合計	90										
教科書	教科書は指定しない。 必要な資料・文献は別途指示する。											
参考書	参考書は指定しない。 必要な資料・文献は別途指示する。											
成績 評価 の 方法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	卒業論文の執筆	60%										
	卒論発表会での発表	40%										
注意事項	なし。											
備考	なし。											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	臨床心理士・公認心理師（渡辺巨・溝口剛・河野伸子・池永恵美・古長紗恵・増田成美・志方亮介）											
実務経験を いかした教 育内容	各教員の専門性や実務経験を活かして、論文執筆や成果発表における助言指導をおこなう。											